秋田県文化財調査報告書第417集

三　ヶ　田　館　跡

－地方道路交付金事業根瀬尾去沢線に係る埋蔵文化財発掘調査報告書－

2007・3

秋 田 県 教 育 委 員 会

シンボルマークは、北秋田市浦田白坂（しろざか）遺跡出土の「岩偶」です。
縄文時代晩期初頭、1992年８月発見、高さ７㎝、凝灰岩。

三ヶ田館跡（みかだたてあと）

－地方道路交付金事業根瀬尾去沢線に係る埋蔵文化財発掘調査報告書－

2007・3

秋田県教育委員会

巻頭図版1　遺跡遠景・花輪方面を望む（南西↓）

巻頭図版2　調査区及び三ヶ田集落を望む（南西↓）

巻頭図版3　調査区全景（西→）

巻頭図版4　遺跡全景（西↓）

調査区近景・Ａ区から（北西→）

調査区近景・Ｅ区から（南西→）

Ａ区ＳＶ80切岸（北東→）

ＳＤ50・68空堀完掘状況（南東→）

B区完掘状況（東→）

A区調査前・テラス状況（東→）

C区北側ＳＤ60－ｃ空堀土層断面（西→）

C区南端土層断面（北西→）

C区ＳＤ77・78空堀完掘状況（東→）

切り通しに現れた空堀断面（西→）

Ｄ区ＳＴ83捨て場土器出土状況（北→）

Ｅ区ＳＤ66空堀土層断面（北西→）

序

本県には、これまでに発見された約4,900か所の遺跡をはじめとして、先人の遺産である埋蔵文化財が豊富に残されています。これらの埋蔵文化財は、地域の歴史や伝統を理解し、未来を展望した彩り豊かな文化を創造していく上で、欠くことのできないものであります。

一方、日本海沿岸東北自動車道をはじめとする高速交通体系の整備や地域に根ざした県道の整備は、地域が活発に交流・連携する秋田の創造をめざす開発事業の根幹をなすものであります。本教育委員会では、これら地域開発との調和を図りながら、埋蔵文化財を保存し、活用することに鋭意取り組んでおります。

本報告書は、地方道路根瀬尾去沢線建設工事に先立って、平成17年度に実施した三ヶ田館跡の発掘調査結果をまとめたものです。調査の結果、中世の館跡に伴う大規模な空堀や掘立柱建物跡の他、中世城館の造成工事による影響を受けなかった区域から縄文時代前期を中心とした土器や石器が大量に発見されました。

最後になりましたが、発掘調査ならびに本報告書の刊行にあたり、協力いただきました秋田県鹿角地域振興局、鹿角市教育委員会など関係各位に対し、厚くお礼申し上げます。

平成19年３月

秋田県教育委員会

教育長　根　岸　　均

例　　言

1　本報告書は、地方道路交付金事業根瀬尾去沢線に係る埋蔵文化財発掘調査報告書であり、平成17年度に行った三ヶ田館跡の発掘調査成果を収めたものである。

2　調査の内容についてはすでにその一部を埋蔵文化財センター年報などによって公表しているが、本報告書を正式のものとする。

3　本報告書の第１章・第２章・第３章・第６章は伊藤誠が、第４章は利部修・伊藤誠が執筆し、編集は利部修・伊藤誠が担当した。

4　第５章の『自然科学的分析』は、株式会社加速器分析研究所に業務委託した分析報告をもとに、伊藤誠が加筆した。

凡　　例

1　本報告書に使用した地形図は、国土地理院発行の１／25,000「湯瀬」および１／50,000「田山」と、秋田県鹿角地域振興局提供の１／1,000工事用図面である。

2　本報告書で使用した土色の色調表現は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帖2003年版』によった。

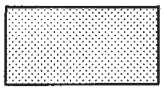
3　遺構については検出順にその種類を示す略記号と通し番号を付けたが、後に遺構ではないと判断したものは欠番とした。遺構に使用した略記号は以下の通りである。

ＳＡ（柱列）　ＳＢ（掘立柱建物跡）　ＳＤ（空堀）　ＳＦ（土塁）　ＳＫ（土坑）
ＳＫＩ（竪穴状遺構）　ＳＫＰ（柱穴様ピット）　ＳＮ（焼土遺構）　ＳＴ（捨て場）
ＳＶ（切岸）

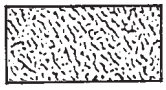
4　遺物については土器（Ｅ:earthenware）、石器（Ｓ:stone implement）と、それぞれに略記号と通し番号を付した。

5　挿図中に使用したスクリーントーンの凡例は、以下の通りである。

遺物



磨　痕



敲打痕

目　　次

巻頭図版
序
例言……ii
凡例……iii
目次……iv
挿図目次……v
図版目次……vii
表目次……x

第1章　はじめに……1
　第1節　調査に至る経過……1
　第2節　調査要項……1

第2章　遺跡の環境……2
　第1節　遺跡の位置と立地……2
　第2節　歴史的環境……3

第3章　発掘調査の概要……11
　第1節　遺跡の概観……11
　第2節　調査の方法……13
　第3節　調査の経過……13

第4章　調査の記録……15
　第1節　基本層序……15
　第2節　検出遺構と遺構内出土遺物……17
　第3節　捨て場及び遺構外出土遺物……38

第5章　自然科学的分析 ……128

第6章　まとめ ……131
報告書抄録

挿 図 目 次

第１図　遺跡位置図……2
第２図　路線工事図……5・6
第３図　地形分類図……7
第４図　表層地質図……8
第５図　周辺の遺跡……9
第６図　遺構配置図……12
第７図　基本土層図……16
第８図　焼土遺構……21
第９図　空堀（１）……22
第10図　空堀（２）……23
第11図　空堀（３）……24
第12図　Ｂ区遺構配置図……25
第13図　掘立柱建物跡（１）……26
第14図　土坑（１）・掘立柱建物跡（２）……27
第15図　柱列……28
第16図　竪穴状遺構……29
第17図　Ｃ区遺構配置図……30
第18図　空堀（４）……31・32
第19図　空堀（５）・土坑（２）……33
第20図　Ｃ～Ｅ区遺構配置図……34
第21図　空堀（６）……35
第22図　空堀（７）・土坑（３）……36
第23図　捨て場出土土器（１）……48
第24図　捨て場出土土器（２）……49
第25図　捨て場出土土器（３）……50
第26図　捨て場出土土器（４）……51
第27図　捨て場出土土器（５）……52
第28図　捨て場出土土器（６）……53
第29図　捨て場出土土器（７）……54
第30図　捨て場出土土器（８）……55
第31図　捨て場出土土器（９）……56
第32図　捨て場出土土器（10）……57
第33図　捨て場出土土器（11）……58
第34図　捨て場出土土器（12）……59
第35図　捨て場出土土器（13）及び捨て場範囲略図……60

第36図　捨て場出土土器（14）……61
第37図　捨て場出土土器（15）……62
第38図　捨て場出土土器（16）……63
第39図　捨て場出土土器（17）……64
第40図　捨て場出土土器（18）……65
第41図　捨て場出土土器（19）……66
第42図　捨て場出土土器（20）……67
第43図　捨て場出土土器（21）……68
第44図　捨て場出土土器（22）……69
第45図　捨て場出土土器（23）……70
第46図　捨て場出土土器（24）……71
第47図　捨て場出土土器（25）……72
第48図　捨て場出土土器（26）……73
第49図　捨て場出土土器（27）……74
第50図　捨て場出土土器（28）……75
第51図　捨て場出土土器（29）……76
第52図　捨て場出土土器（30）……77
第53図　捨て場出土土器（31）……78
第54図　捨て場出土土器（32）……79
第55図　捨て場出土土器（33）……80
第56図　捨て場出土土器（34）……81
第57図　捨て場出土土器（35）……82
第58図　捨て場出土土器（36）……83
第59図　捨て場出土土器（37）……84
第60図　捨て場出土土器（38）……85
第61図　捨て場出土土器（39）……86
第62図　捨て場出土土器（40）……87
第63図　捨て場出土土器（41）……88
第64図　捨て場出土土器（42）……89
第65図　捨て場出土土器（43）……90
第66図　捨て場出土土器（44）……91
第67図　捨て場出土石器（１）……92
第68図　捨て場出土石器（２）……93
第69図　捨て場出土石器（３）……94
第70図　捨て場出土石器（４）……95
第71図　捨て場出土石器（５）……96
第72図　捨て場出土石器（６）……97

第73図　捨て場出土石器（７）……98
第74図　捨て場出土石器（８）……99
第75図　捨て場出土石器（９）……100
第76図　捨て場出土石器（10）……101
第77図　捨て場出土石器（11）……102
第78図　捨て場出土石器（12）……103
第79図　捨て場出土石器（13）……104
第80図　捨て場出土石器（14）……105
第81図　捨て場出土石器（15）……106
第82図　捨て場出土石器（16）……107
第83図　捨て場出土石器（17）……108
第84図　捨て場出土石器（18）……109

図 版 目 次

巻頭図版１　遺跡遠景・花輪方面を望む（南西→）
巻頭図版２　調査区及び三ヶ田集落を望む（南西→）
巻頭図版３　調査区全景（西→）
巻頭図版４　遺跡全景（西→）
巻頭図版５　調査区近景・Ａ区から（北西→）　調査区近景・Ｅ区から（南西→）
巻頭図版６　Ａ区ＳＶ80切岸（北東→）　ＳＤ50・68空堀完掘状況（南東→）
巻頭図版７　Ｂ区完掘状況（東→）　Ａ区調査前・テラス状況（東→）
巻頭図版８　Ｃ区北側ＳＤ60－ｃ空堀土層断面（西→）　Ｃ区南端土層断面（北西→）
巻頭図版９　Ｃ区ＳＤ77・78空堀完掘状況（東→）　切り通しに現れた空堀断面（西→）
巻頭図版10　Ｄ区ＳＴ83捨て場土器出土状況（北→）　Ｅ区ＳＤ66空堀土層断面（北西→）
図版１　Ａ区の調査（１）　１　Ａ区平場と段状部分（北西→）
　２　空堀群確認断面（北西→）……133
図版２　Ａ区の調査（２）　１　ＳＤ48確認状況（北東→）
　２　ＳＤ48・49・50、ＳＮ55確認状況（東→）……134
図版３　Ａ区の調査（３）　１　ＳＤ48・49・50発掘状況（南西→）
　２　ＳＤ50・68完掘状況（南東→）……135
図版４　Ａ区の調査（４）　１　ＳＤ50完掘状況（東→）
　２　ＳＤ50・68西端断面（東→）……136
図版５　Ａ区の調査（５）　１　ＳＤ58東端断面（西→）
　２　ＳＤ58西端断面（東→）……137
図版６　Ａ区の調査（６）　１　ＳＮ55検出状況（北→）
　２　ＳＮ55土層断面（南西→）

3　ＳＮ55土層断面（北東→）……138
図版７　Ｂ区の調査（１）　1　ＳＫＩ19確認状況（北西→）
2　ＳＢ31完掘状況（北西→）……139
図版８　Ｂ区の調査（２）　1　ＳＫ１調査状況（西→）
2　ＳＫＰ16完掘状況（北西→）
3　ＳＫＰ9・38土層断面（南西→）……140
図版９　Ｃ区の調査（１）　1　Ｃ区全景（北→）
2　ＳＤ60土層断面（南→）……141
図版10　Ｃ区の調査（２）　1　ＳＤ60北端土層断面（西→）
2　ＳＤ60北端最下部土層断面（西→）……142
図版11　Ｃ区の調査（３）　1　ＳＤ60東西断面確認状況（南→）
2　ＳＤ60ベルト西側断面（北東→）……143
図版12　Ｃ区の調査（４）　1　Ｃ区南側土層断面（北西→）
2　ＳＫ71完掘（東→）……144
図版13　Ｃ区の調査（５）　1　ＳＤ77・78炭化物出土状況（北東→）
2　ＳＤ77・78炭化物出土状況（北東→）……145
図版14　Ｄ区の調査（１）　1　ＳＦ70土層断面（西→）
2　ＳＦ70頂部土層断面（南西→）……146
図版15　Ｄ区の調査（２）　1　ＳＴ83土器出土状況（北→）
2　ＳＴ83土器出土状況（東→）……147
図版16　Ｅ区の調査　1　ＳＤ66完掘状況（東→）
2　ＳＤ66土層断面（北西→）……148
図版17　捨て場出土土器（１）……149
図版18　捨て場出土土器（２）……150
図版19　捨て場出土土器（３）……151
図版20　捨て場出土土器（４）……152
図版21　捨て場出土土器（５）……153
図版22　捨て場出土土器（６）……154
図版23　捨て場出土土器（７）……155
図版24　捨て場出土土器（８）……156
図版25　捨て場出土土器（９）……157
図版26　捨て場出土土器（10）……158
図版27　捨て場出土土器（11）……159
図版28　捨て場出土土器（12）……160
図版29　捨て場出土土器（13）……161
図版30　捨て場出土土器（14）……162
図版31　捨て場出土土器（15）……163

図版32　捨て場出土土器（16）……164
図版33　捨て場出土土器（17）……165
図版34　捨て場出土土器（18）……166
図版35　捨て場出土土器（19）……167
図版36　捨て場出土土器（20）……168
図版37　捨て場出土土器（21）……169
図版38　捨て場出土土器（22）……170
図版39　捨て場出土土器（23）……171
図版40　捨て場出土土器（24）……172
図版41　捨て場出土土器（25）……173
図版42　捨て場出土土器（26）……174
図版43　捨て場出土土器（27）……175
図版44　捨て場出土土器（28）……176
図版45　捨て場出土土器（29）……177
図版46　捨て場出土土器（30）……178
図版47　捨て場出土土器（31）……179
図版48　捨て場出土土器（32）……180
図版49　捨て場出土土器（33）……181
図版50　捨て場出土土器（34）……182
図版51　捨て場出土土器（35）……183
図版52　捨て場出土土器（36）……184
図版53　捨て場出土土器（37）……185
図版54　捨て場出土土器（38）……186
図版55　捨て場出土土器（39）……187
図版56　捨て場出土土器（40）……188
図版57　捨て場出土石器（１）……189
図版58　捨て場出土石器（２）……190
図版59　捨て場出土石器（３）……191
図版60　捨て場出土石器（４）……192
図版61　捨て場出土石器（５）……193
図版62　捨て場出土石器（６）……194
図版63　捨て場出土石器（７）……195
図版64　捨て場出土石器（８）……196
図版65　捨て場出土石器（９）……197
図版66　捨て場出土石器（10）……198
図版67　分析写真（１）……199
図版68　分析写真（２）……200

表　目　次

第１表　周辺遺跡一覧……10
第２表　柱穴様ピット観察表……37
第３表　土器観察表（１）……110
第４表　土器観察表（２）……111
第５表　土器観察表（３）……112
第６表　土器観察表（４）……113
第７表　土器観察表（５）……114
第８表　土器観察表（６）……115
第９表　土器観察表（７）……116
第10表　土器観察表（８）……117
第11表　土器観察表（９）……118
第12表　土器観察表（10）……119
第13表　土器観察表（11）……120
第14表　土器観察表（12）……121
第15表　土器観察表（13）……122
第16表　土器観察表（14）……123
第17表　土器観察表（15）……124
第18表　石器観察表（１）……125
第19表　石器観察表（２）……126
第20表　石器観察表（３）……127
第21表　分析数値表……130

第１章　はじめに

第１節　調査に至る経過

県道191号根瀬尾去沢線は、鹿角市八幡平根瀬地区で国道341号線と、同市尾去沢で県道十二所花輪大湯線とを連絡する、総延長13.7㎞の生活幹線道路である。国道282号と国道341号を補完し、米代川左岸の南北を結ぶ幹線道路及び周辺の観光地を結ぶ観光道路として機能している。

路線バスが通り、近隣小・中学校の通学路にもなっているが、クランク状の交差点や歩道の未設置、段丘崖を通ることによる急傾斜・急カーブで生じる土砂の崩壊や見通しの悪さなど、交通安全上様々な問題点が指摘されてきた。

このような諸問題を解消するために、平成14（2002）年に地方道路交付金事業として着手され、道路の直線化、車道幅員の拡幅、歩道の確保といったより地元の生活に寄与する生活道路の建設を図るものとして整備が進められた。

これをうけて、周知の遺跡である三ヶ田館跡の西縁部が工事対象区域となることから、鹿角地域振興局と秋田県教育委員会とが埋蔵文化財包蔵地の確認と今後の対応について協議し、平成16（2004）年11月、1,390㎡を対象に三ヶ田館跡の確認調査を行い、遺構・遺物が工事対象区域に在ることを確認し、協議の結果、事業計画との関連から平成17（2005）年度に発掘調査を実施するに至った。

第２節　調査要項

遺　跡　名　三ヶ田館跡（略記号：１MKDTA）
所　在　地　秋田県鹿角市八幡平字浦田43－１外
遺 跡 状 況　山林
調 査 目 的　地方道路交付金事業根瀬尾去沢線
調 査 期 間　平成17年５月24日～８月３日
調 査 面 積　800㎡
調査主体者　秋田県教育委員会
調査担当者　利部　　修（秋田県埋蔵文化財センター南調査課　主任学芸主事）
　　伊藤　　誠（秋田県埋蔵文化財センター南調査課　学芸主事）
　　小松田博嗣（秋田県埋蔵文化財センター南調査課　調査・研究員）
調査総務担当　渡辺　　憲（秋田県埋蔵文化財センター総務課　課長）
　　柴田　卓也（秋田県埋蔵文化財センター総務課　主任）
　　田口　　旭（秋田県埋蔵文化財センター総務課　主事）
　　※担当者・職名は発掘調査時のものである。
調査協力機関　鹿角地域振興局　鹿角市教育委員会

第２章　遺跡の環境

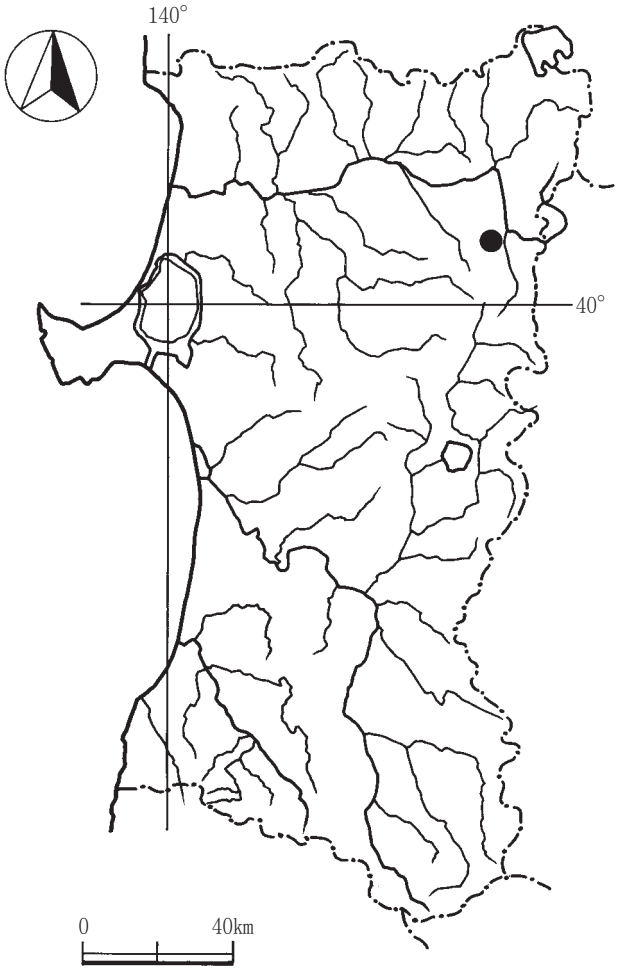
第１節　遺跡の位置と立地（第１・３・４図）

三ヶ田館跡の所在する秋田県鹿角市は、秋田県の北東部、青森岩手両県との県境に位置し、秋田県大館市・北秋田市・仙北市・小坂町、青森県十和田市・田子町・三戸町・新郷村、岩手県八幡平市と接する。市域は南北方向約52.3㎞、東西方向約20.1㎞にわたり、その面積は707.34㎢である。市の中心部を米代川が北流し、ＪＲ十和田南駅の西約800ｍで支流の大湯川と合流する。さらに南西へと流路を変えて日本海へ流入しており、これと並行してＪＲ花輪線が走っている。

鹿角市の地形は、花輪盆地に沖積平野と河岸段丘が発達し、その東西に山地が存在する。遺跡周辺では、東方の山地は標高800ｍを越える険しい地形を示し、五ノ宮嶽（1,115ｍ）、皮投岳（1,122ｍ）などを中心に起伏の大きい山塊が連なる。西側山地は三ノ岳（618ｍ）、水晶山（548ｍ）をはじめとした比較的穏やかな山容を呈している。地質は、新第三系の安山岩類及び安山岩質凝灰岩が広く分布するが、八森（904ｍ）を中心に古生代末期のチャートや粘板岩が見られる。花輪盆地東縁と西側丘陵地内には断層がそれぞれＮ－Ｓ、NNW－SSEに走っており、特に東縁は東側山塊と境を成すように存在する。断層に挟まれた盆地内は沈降して地溝帯を形成し、この範囲では周囲の地層より新しい鮮新世の熔結凝灰岩及び凝灰質砂岩からなる樫内層が広く分布する。河岸段丘は米代川、熊沢川、夜明島川各河川両岸に広く分布する。遺跡周辺では、約32,000年前の十和田火山第Ⅰ期軽石流堆積物（十和田大不動火砕流堆積物：To-Of）を最高面として計４段の段丘が形成されている。

遺跡が所在する舌状台地の主体は樫内層であるが、調査区のある台地先端部では、約13,000年前の十和田火山噴出物である鳥越軽石質火山灰層（十和田八戸火砕流堆積物：To-H）が厚く覆う。この火山灰は米代川、熊沢川、夜明島川両岸に火砕流台地を形成しており、調査区は舌状台地の先端に形成された火砕流台地上に位置する。遺跡の周囲は低位段丘が分布し、県道191号根瀬尾去沢線はこの段丘面上及び段丘崖沿いを走っている。

本遺跡は鹿角市八幡平地区に所在し、北緯40°07′44″、東経140°46′41″、ＪＲ花



第１図　遺跡位置図

輪線八幡平駅の南西約2.8㎞に位置する。遺跡周辺地域の土地利用は、水田及び畑地がその多くを占める。

第２節　歴史的環境（第５図、第１表）

三ヶ田館跡が所在する鹿角市には、平成元年に行った詳細分布調査において416か所の遺跡の存在が確認されている。これらの遺跡のほとんどが縄文から中世にかけての複合遺跡であり、米代川流域に作られた段丘面に多く分布している。1951（昭和26）年から調査が進められている大湯環状列石を始め、1980年代に行われた東北自動車道に係る事前調査などにおいて、数多くの遺跡で発掘調査が行われ、さらに鹿角市により航空写真測量による館跡の調査が行われるなど、多くの成果を得ている。ここでは、三ヶ田館を中心に八幡平～花輪南部にかけての遺跡を中心に見ていくこととする。

現在のところ、鹿角市内で旧石器時代の遺跡は見つかっていない。縄文時代の遺跡で草創～早期の遺跡は、飛鳥平遺跡（32）で草創期と考えられている爪形文土器が４点、大地平遺跡（41）で早期後半の赤御堂式及び早稲田Ⅳ式に比類する土器が出土している。前期の遺跡は駒林（24）、北の林Ⅰ（30）、北の林Ⅱ（31）、小豆沢館（39）、上山田（42）の各遺跡が知られ、発掘調査が行われた。このうち上山田遺跡以外は中期、後期へとつながる遺物が出土している。中期の遺跡では上葛岡Ⅰ（27）、上葛岡Ⅱ（28）、上葛岡Ⅲ（29）、堂の上（40）の各遺跡で発掘調査が行われた。後期の遺跡は鳥居平Ⅰ（35）、鳥居平Ⅱ（36）、歌内（37）、黒沢（14）などが知られ、このうち鳥居平Ⅰ遺跡と歌内遺跡で発掘調査が行われた。晩期の遺跡は、前述の北の林Ⅰ遺跡、飛鳥平遺跡、堂の上遺跡で亀ヶ岡式土器など晩期を示す遺構・遺物が確認されている。

三ヶ田館跡と隣接して三ヶ田遺跡（2）が立地する。三ヶ田遺跡は旧八幡平村が昭和36（1961）年に発掘調査を行い、縄文前～後期にかけての土器（円筒下層式、円筒上層式、大木式、大湯式）や石器、石製品などを出土している。

「かづの」が史料に名を現すのは古く、『日本三代実録』の元慶２（878）年７月10日条で「又秋田城下賊地者上津野火内…」と記されているのが初見である。さらに同８月４日条には「且春風好蔭等取陸奥路入上津野村」と記載されている。元慶２年３月、秋田県北部の夷俘が国司の苛政に対して反乱を起こし、秋田城を焼き払ったいわゆる元慶の乱に際し、反乱側に加わった12か村の内の１つが上津野＝鹿角であり、鎮守将軍小野春風が陸奥路を経て上津野村に入り、ここで夷俘を教喩することで乱を収束したとされている。この頃から鹿角は、陸奥・出羽両国を連絡する交通路として重要視されるようになったと思われる。現在鹿角盆地中央部より北側を中心に古代の墳墓や集落跡などが確認され、発掘調査も行われている。東北縦貫自動車道（当時）建設工事に伴い、駒林、北の林Ⅰ、北の林Ⅱ、鳥居平Ⅰ、歌内、小豆沢館の各遺跡でも発掘調査が実施され、古代に関連した多くの成果が得られている。

中世に至り、文治５（1189）年の奥州合戦の後、鹿角の地は成田、安保、奈良、秋元ら鹿角４氏の支配を受ける。この時期からの鹿角は、一村一館の形態をとっており、多くの館が形成された。いわゆる「鹿角四十二館」である。第５図において館跡は18か所見られるが、『鹿角由来記』に記載された「四十二館」は、尾去館（４）、松館（６）、石鳥谷館（９）、長内館（19）、大里館（33）、小豆沢

館、湯瀬館（43）、長嶺館（47・48）、白懸館（49）、長牛館（50）、夏井館（52）、谷内館（57・58）そして三ヶ田館（１）の13館である。このうち小豆沢館、石鳥谷館、湯瀬館、長牛館の４か所で発掘調査が行われた。三ヶ田館は『鹿角由来記』の中で、「一、三ヶ田村、三ヶ田左近領地本名阿保（ママ）館有」と記されており、館主三ヶ田左近は安保氏の一族であったことがわかる。三ヶ田左近に関する記述は極めて少なく、三ヶ田館北東部に鎮座する古四王神社の再建を貞徳２（1223）年に行ったことが伝えられるのみである。天文５（1536）年に記された『津軽郡中名字』では「鹿角三百町ハ四人ノ国人也。所謂奈良、成田、阿部、秋元等四人也。…成田ハ田内・三ヶ田・夏井・名越・猿尾、五人ニ分ル」とあり、三ヶ田の領主は天文年間以前には阿部氏より同じ鹿角四氏の一氏、成田氏に移っている。三ヶ田が再び現れるのは、『鹿角由来集』における永禄の合戦の記述においてである。永禄９（1566）年から始まったこの合戦において主戦場は長牛館であったが、陣を張った場所として三ヶ田村の名が記されている。この後、城館として三ヶ田館が史料に名を残すことはなく、廃絶の時期は明確ではない。三ヶ田村は天正18（1590）年に花輪村、谷内村などとともに南部方大光寺左衛門佐光親（のち正親）の所領となり、以降南部藩士の知行地としてその名を留めている。

引用・参考文献

青森県　『青森県史』　資料編古代１　2001（平成13）年

青森縣叢書刊行會　『津軽一統志』　青森縣叢書第６編　1953（昭和28）年

秋田県　『土地分類基本調査　田山』　1996（平成８）年

秋田県教育委員会　『秋田県の中世城館』　秋田県文化財調査報告書第86集　1981（昭和56）年

秋田県教育委員会　『東北縦貫自動車道発掘調査報告書Ⅰ－居熊井遺跡・湯瀬館遺跡・大地平遺跡・上山田遺跡・堂の上遺跡・上葛岡Ⅲ遺跡－』　秋田県文化財調査報告書第78集　1981（昭和56）年

秋田県教育委員会　『東北縦貫自動車道発掘調査報告書Ⅲ－鳥居平遺跡・飛鳥平遺跡・北の林Ⅰ遺跡－』　秋田県文化財調査報告書第89集　1982（昭和57）年

秋田県教育委員会　『県道比内大葛鹿角線建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書－石鳥谷館跡－』　秋田県文化財調査報告書第279集　1998（平成10）年

秋田県教育委員会　『主要地方道十二所花輪大湯線緊急地方道路整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書－柴内館跡－』　秋田県文化財調査報告書第355集　2003（平成15）年

秋田県教育委員会　『秋田県遺跡地図（鹿角地区版）』　2000（平成12）年

鹿角市　『鹿角市史』第一巻　1982（昭和52）年

鹿角市教育委員会　『鹿角の館　館跡航空写真測量調査報告書（４）　長嶺館・谷内館・夏井館・三ヶ田館・長内館・尾去館・上山館・茶臼館』　鹿角市文化財調査資料28　1985（昭和60）年

黒板勝美・國史大系編修會　『日本三代実録　下』　吉川弘文館　1974（昭和49）年

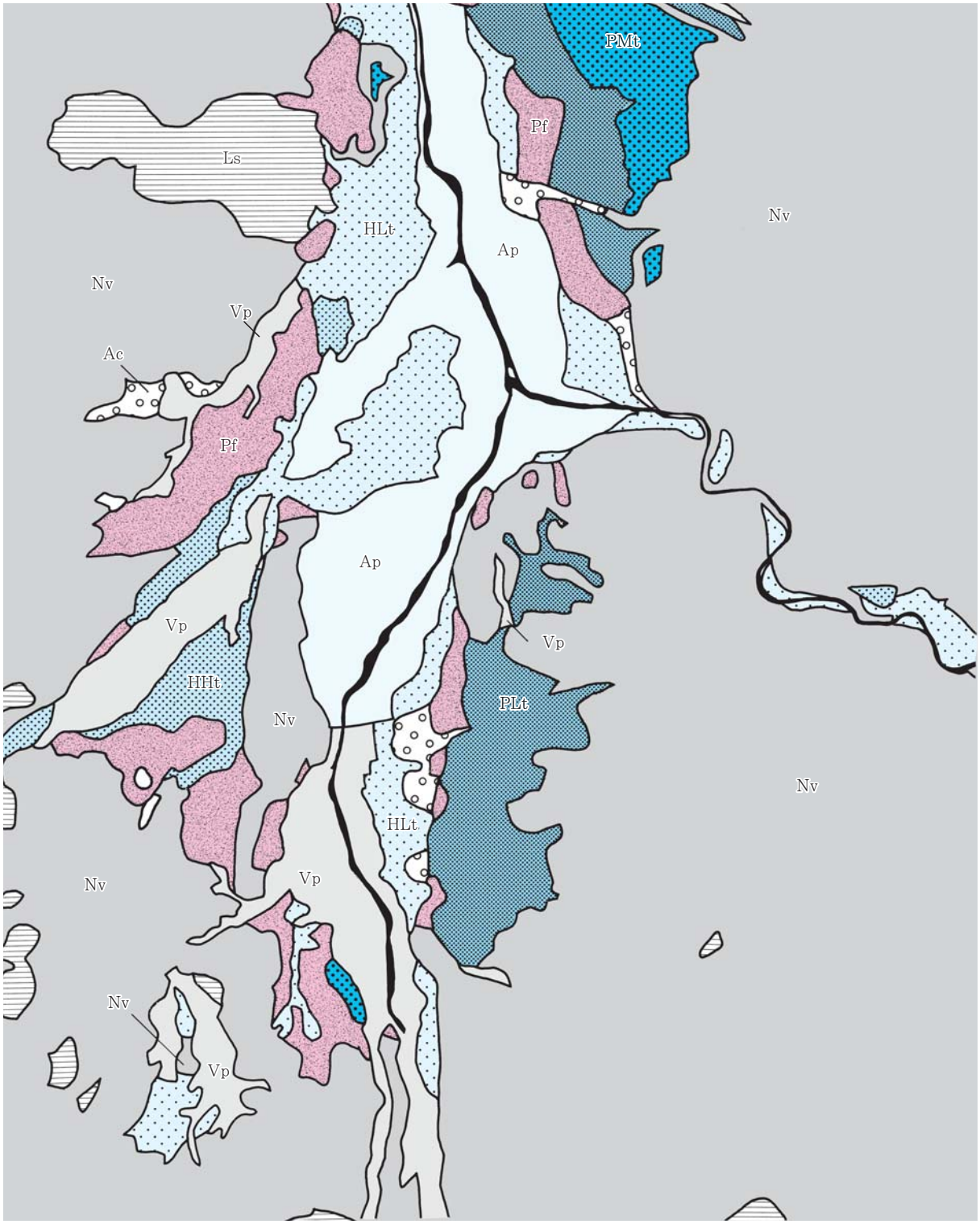
南部叢書刊行会　『南部叢書』第１冊　1927（昭和３）年

日本第四紀学会　『第四期露頭集－日本のテフラ』　1996（平成８）年

能代市　『能代市史』　資料編中世Ⅱ　1998（平成10）年

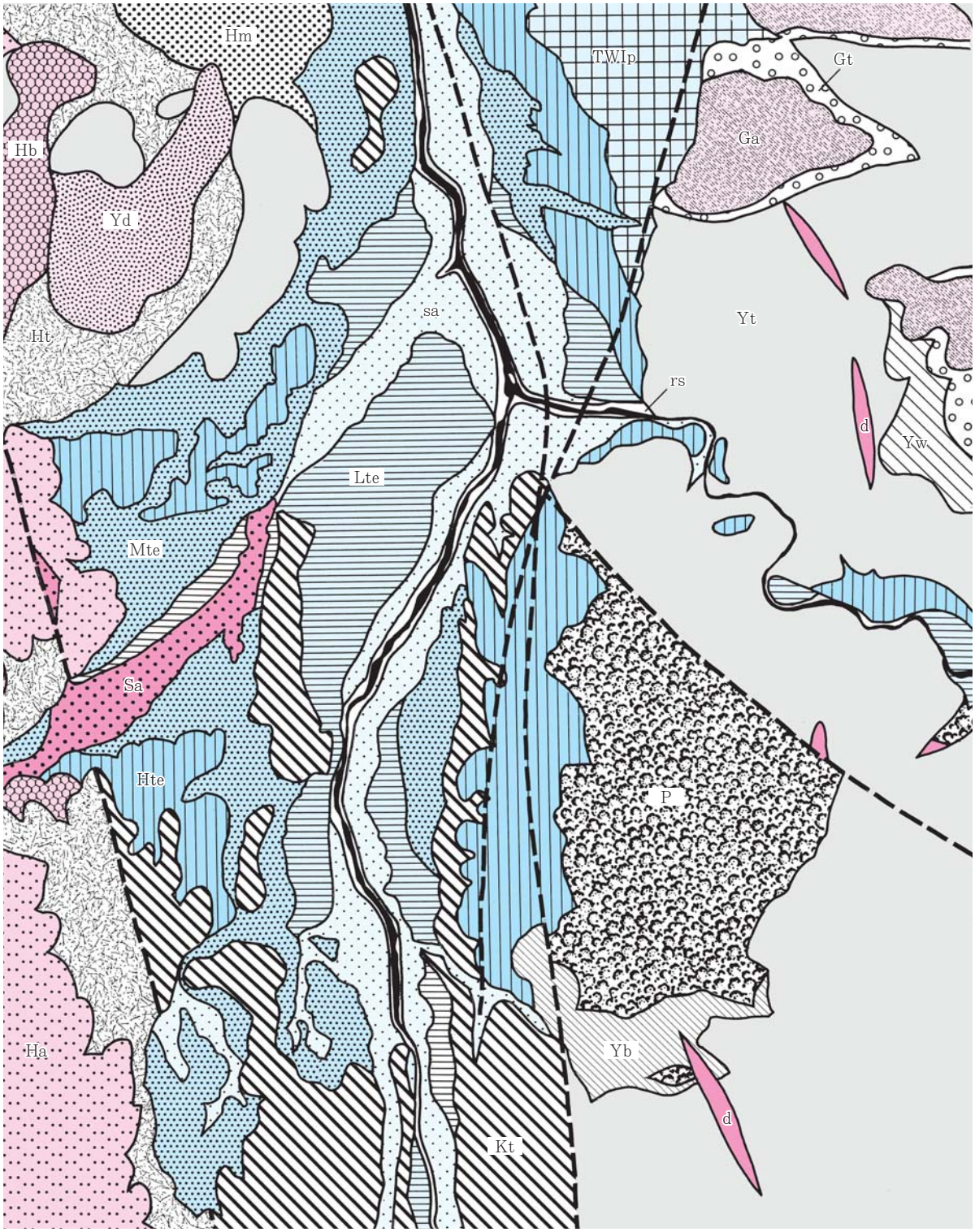
町田　洋・新井房夫　『新編　火山灰アトラス　日本列島とその周辺』　東京大学出版会　2003（平成15）年

第２図　路線工事図



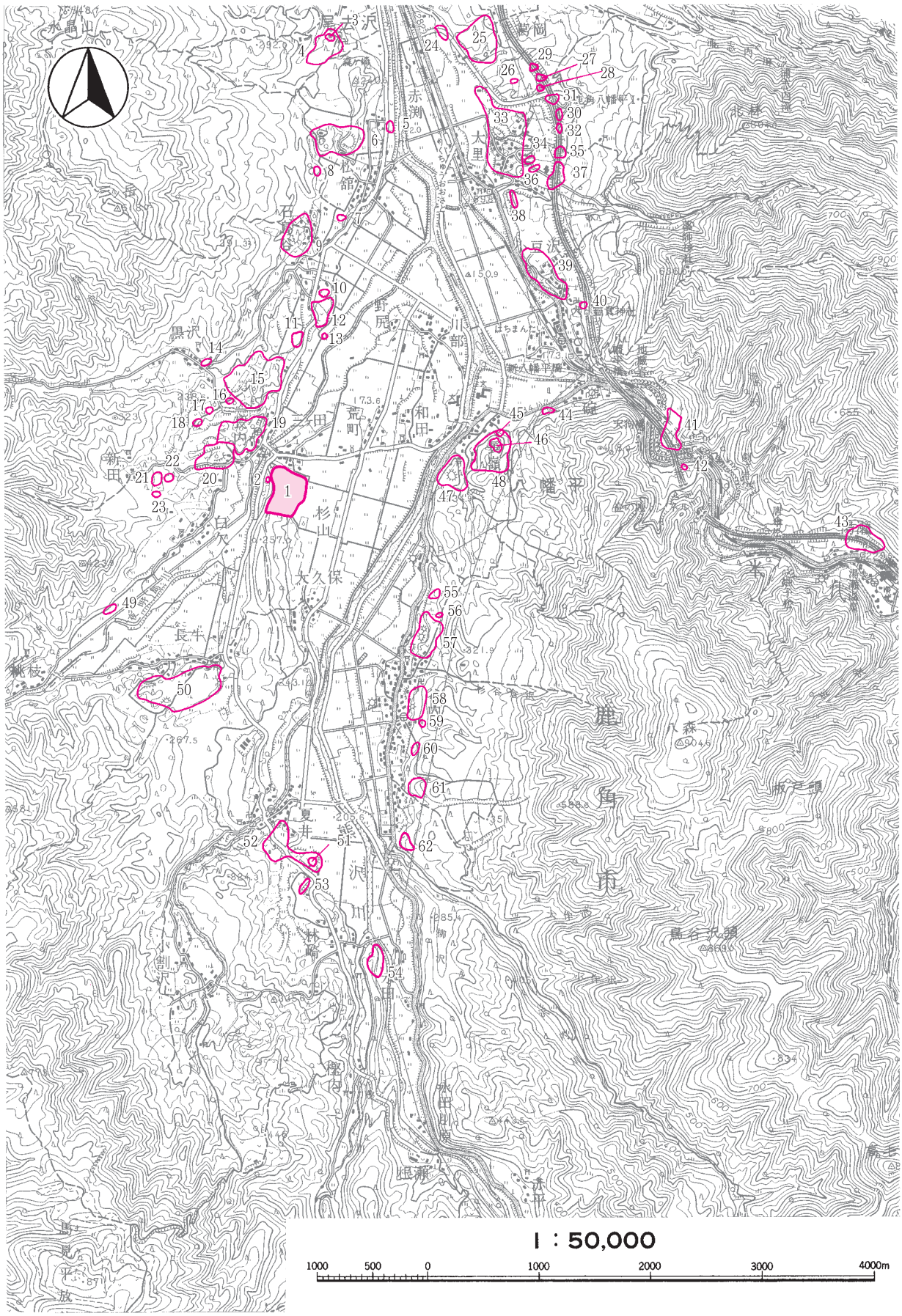
地形分類図
山　地　　Nv：非火山性山地
更新世砂礫段丘　　PMt：中位段丘　PLt：低位段丘
低　地　　Ap：沖積平野　Vp：谷低平地　Ac：沖積錐
更新世火山性台地　　Pf：火砕流台地
完新世砂礫段丘　　HHt：高位段丘　HLt：低位段丘
その他　　Ls：地滑り地

第 3 図　地形分類図



表層地質図
rs：現世河川堆積物　sa：砂がち堆積物　Lte：低位段丘（礫・砂を主とし泥を含む）　Mte：中位段丘（礫・砂を主とし泥を含む）　Hte：高位段丘（軽石及び火山灰を主とし、礫、砂を含む）　TWＩp：十和田火山第Ｉ期軽石流堆積物　Kt：樫内層（安山岩質熔結凝灰岩及び礫質凝灰岩）　五ノ宮嶽層（Gt：礫岩、葉理凝灰岩及び凝灰質砂岩　Ga：輝石安山岩）　湯瀬層（Yw：デイサイト質溶結凝灰岩　Yt：デイサイト質異質火山礫凝灰岩及び角礫凝灰岩　Yd：デイサイト及び真珠岩　Yb：不陶汰角礫岩）　東ノ又沢層（Hm：黒色泥岩、デイサイト質火山礫凝灰岩を伴う　Ht：安山岩質火山礫凝灰岩及び軽石凝灰岩　Hb：玄武岩及び同質火砕岩　Ha：変質安山岩～デイサイト）　Sa：瀬ノ沢層（変質安山岩）　P：古世層（粘板岩及びチャート）　d：貫入岩類

第４図　表層地質図



第５図　周辺の遺跡

地図番号	遺跡名	性　　格	時　期	遺　　構　・　遺　　物
1	三ヶ田館	館跡	中世	空堀
2	三ヶ田	遺物包含地	縄文	縄文土器（前～後期）・石器・石製品
3	尾去Ⅱ	遺物包含地	縄文	縄文土器
4	尾去館	館跡	中世	空堀
5	岩淵	遺物包含地	縄文	縄文土器・石器
6	松館	館跡	中世	空堀
7	後ロ田Ⅰ	遺物包含地	古代	土師器
8	後ロ田Ⅱ	遺物包含地	縄文	縄文土器・石器
9	石鳥谷館	館跡	中世	空堀
10	下モ和志賀Ⅰ	遺物包含地	縄文	縄文土器
11	下モ和志賀Ⅱ	集落跡	縄文	竪穴住居跡・土坑、縄文土器（中～後期）
12	伊勢堂館	館跡	中世	空堀
13	二ツ森	遺物包含地	縄文	縄文土器（晩期）
14	黒沢	遺物包含地	縄文	土坑、縄文土器（後期）
15	上ミ和志賀館	館跡	中世	空堀
16	上ミ和志賀Ⅰ	遺物包含地	古代	土師器
17	上ミ和志賀Ⅱ	遺物包含地	古代	土師器
18	上ミ和志賀Ⅲ	遺物包含地	古代	土師器
19	長内館	館跡	中世	空堀
20	長内古館	館跡	中世	空堀
21	小館Ⅰ	遺物包含地	縄文・古代	縄文土器・土師器
22	小館Ⅱ	遺物包含地	縄文・古代	縄文土器・土師器
23	小館Ⅲ	遺物包含地	縄文・古代	縄文土器・土師器
24	駒林	集落跡	縄文・古代	竪穴住居跡・土坑・掘立柱建物跡、縄文土器（前～後期）・土師器・須恵器・石器
25	下館	館跡	中世	空堀・土塁
26	中ノ沢	遺物包含地	縄文・古代	縄文土器（晩期）・土師器
27	上葛岡Ⅰ	集落跡	縄文	竪穴住居跡、縄文土器（中～後期）・石器
28	上葛岡Ⅱ	集落跡	縄文	竪穴住居跡、縄文土器（中～後期）・石器
29	上葛岡Ⅲ	遺物包含地	縄文	縄文土器（中～後期）
30	北の林Ⅰ	集落跡	縄文・古代	竪穴住居跡・土坑・陥し穴、縄文土器（前～晩期）・土師器・須恵器・石器・石製品
31	北の林Ⅱ	集落跡	縄文	竪穴住居跡・掘立柱建物跡・土坑・陥し穴、縄文土器（前～後期）・石器・土師器
32	飛鳥平	集落跡	縄文	竪穴住居跡・土器埋設遺構・土坑・焼土遺構、縄文土器（中～晩期）・石器
33	大里館	館跡	中世	空堀
34	大里	遺物包含地	縄文	縄文土器
35	鳥居平Ⅰ	集落跡	縄文・古代	竪穴住居跡・土坑、縄文土器（後期）・須恵器
36	鳥居平Ⅱ	遺物包含地	縄文・古代	縄文土器・土師器
37	歌内	集落跡・遺物包含地	縄文・古代	竪穴住居跡・土坑・掘立柱建物跡、縄文土器（後期）・土師器・須恵器・石器
38	下鷲の巣	遺物包含地	縄文・古代	縄文土器（前～中期）・土師器・石器
39	小豆沢館	館跡	縄文・中世	竪穴住居跡・土坑、縄文土器（前～中期）・土師器・須恵器・石器・鉄製品
40	堂の上	遺物包含地	縄文	縄文土器（中～晩期）・石器
41	大地平	遺物包含地	縄文・弥生	縄文土器（前期・後期）・弥生土器
42	上山田	遺物包含地	縄文	縄文土器（前期）
43	湯瀬館	館跡	縄文～中世	掘立柱建物跡・礎石建物・堀、縄弥土須陶磁（青磁・美濃灰釉）・鉄製品・銅銭
44	長畑	遺物包含地	古代	土師器
45	新城Ａ	遺物包含地	縄文	縄文土器（前期）
46	新城Ｂ	遺物包含地	縄文	縄文土器（前～中期）
47	長嶺館Ａ	館跡	中世	空堀
48	長嶺館Ｂ	館跡	中世	空堀
49	白懸館	館跡	中世	空堀
50	長牛館	館跡	中世	空堀、土師器・古銭
51	大館	遺物包含地	縄文	縄文土器（前期）
52	夏井館	館跡	中世	空堀
53	上ミ沢	遺物包含地	縄文・古代	縄文土器（中期）・土師器・石器
54	林崎根瀬	遺物包含地	縄文・古代	縄文土器・土師器・須恵器
55	八舛寺	遺物包含地	縄文・古代	縄文土器（晩期）・土師器
56	谷内下モ平	遺物包含地	縄文・古代	縄文土器・土師器
57	谷内館Ａ	館跡	中世	空堀・石垣
58	谷内館Ｂ	館跡	中世	空堀
59	天照皇御祖神社境内磨崖仏及び板碑	祭祀遺跡	中世	磨崖仏・板碑
60	沼田	遺物包含地	古代	土師器
61	谷内高館	館跡	中世	郭
62	小宮	遺物包含地	縄文・古代	縄文土器・土師器

第１表　周辺遺跡一覧

第３章　発掘調査の概要

第１節　遺跡の概観

三ヶ田館跡は、夜明島川右岸の舌状台地を利用して構築された中世城館とされている。鹿角市教育委員会刊行の『鹿角の館（４）』によると、台地北側先端から、空堀や沢、切岸などにより６区画に分けられるが、明確な郭は４面とされる。第Ⅲ郭には古四王神社が建立されているが、貞応年中（1222－1224）に三ヶ田左近が再建したと伝えられている。三ヶ田館跡の範囲は、台地先端部分の東西400ｍ、南北200ｍと想定されており、根瀬尾去沢線建設工事に伴い調査対象になった箇所は、『鹿角の館（４）』三ヶ田館の項に拠るところの第Ⅰ郭（主郭）北西端及びその南北に位置する腰郭、土塁部分である。

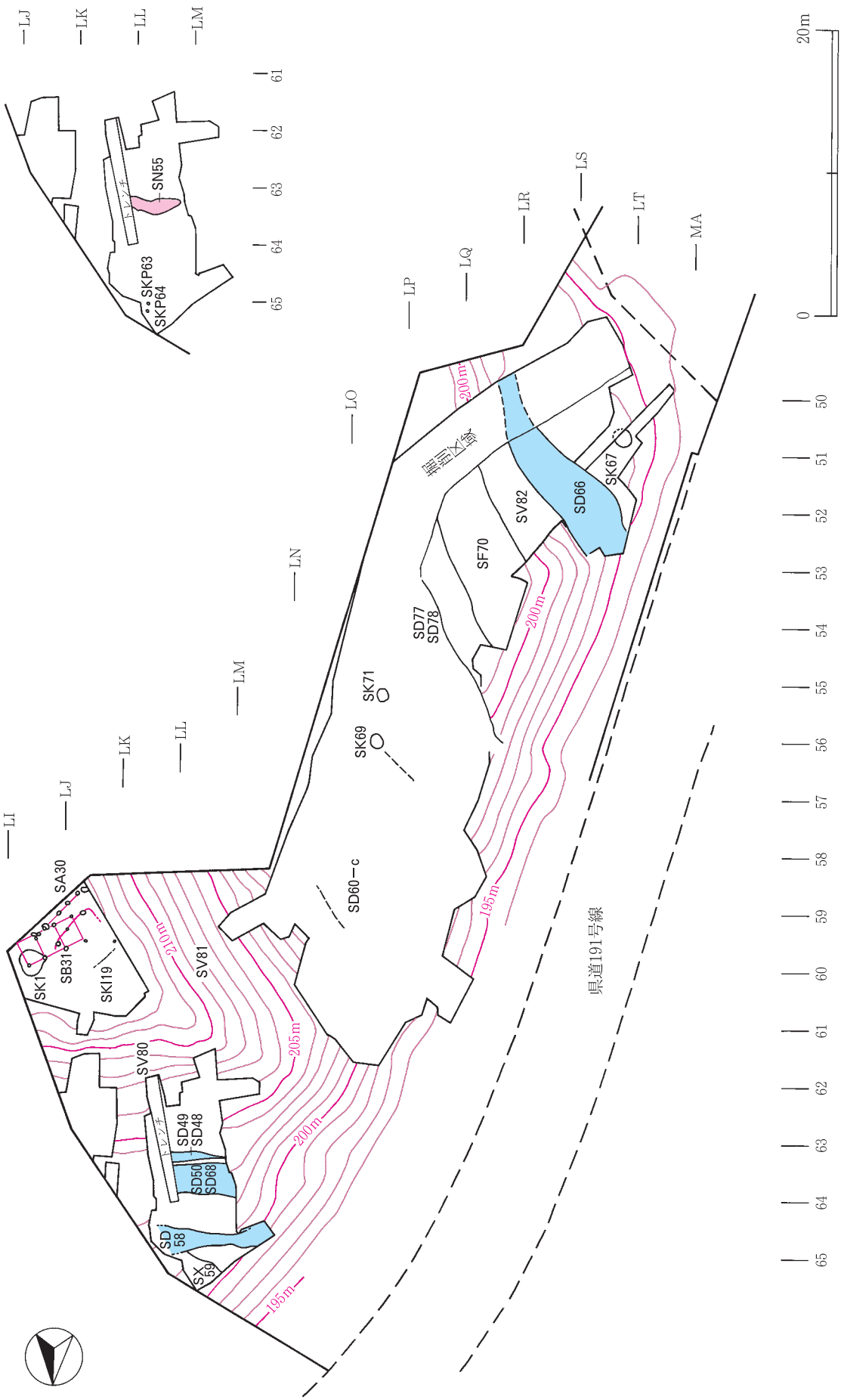
調査区は、主郭部分及び土塁に伴う切岸により分断されており、北側腰郭状平坦部をＡ区、主郭部分をＢ区、主郭南側平坦部をＣ区、土塁及びその南側切岸をＤ区、最南端の上下２段の平坦部をＥ区とした。このＥ区の低位面にＭＡ50グリッドが位置する。Ｂ区の標高は約213ｍあり、隣接するＡ区とは約９ｍ、Ｃ区とは約13ｍの比高差がある。Ｃ区とＤ区頂部の比高差は約２ｍ、Ｄ区と南端Ｅ区低地部（ＭＡ50）との比高差は約９ｍある。Ｂ区とＥ区の比高差は約19ｍである。

今回実施した発掘調査により、遺跡は縄文時代の捨て場、中世の館跡であることが判明し、さらに近世の土坑を確認した。

縄文時代の遺物は縄文時代早期末葉・前期初頭・後期～晩期の土器と、石匙や石錐などの石器、磨石や凹石などの石製品、さらに板状土偶などが、Ｄ区土塁及び隣接するＣ区南端、Ｅ区にかけて大量に出土した。縄文の包含層である黒褐色～褐色土層が土塁頂部に堆積し、南側斜面からＥ区、さらにＥ区内に確認された中世の空堀ＳＤ66の覆土に流れ込んでいる。縄文時代の遺構は、Ｄ区の捨て場以外確認されなかった。

中世に関しては、腰郭状の平坦部であるＡ区、Ｃ区および最南端のＥ区で計12条の空堀を、さらにＤ区と設定した土塁１条を検出した。Ａ区の空堀は、Ｂ区に付随する切岸及び狭小な腰郭に掘られており、堀底部は地山であるシラスが雨水により激しく浸食されており、明確ではない。いずれの堀も幅が狭いが、その急峻な切岸と相まって大きな防御機能を持っていたと考えられる。この空堀のうち１条の底部から、永楽通宝が出土している。南側腰郭Ｃ区では、少なくとも４条の空堀が確認されているが、Ｃ区の変遷の１部分であると考えられる。

近世の遺構は、Ｂ区で確認された土坑１基である。この土坑からは寛永通宝と鉄製品数点が出土した。さらに、時期不明のものとしてＢ区で掘立柱建物跡、柱列、柱穴、竪穴状遺構を検出している。これらの遺構からは遺物は出土していない。掘立柱建物跡は柱間が６尺と狭く、近世のものと考えられるが、重複関係から前述の土坑より旧いことが確認されている。さらに原地形に見られるＡ区・Ｃ区の腰郭は、空堀を埋め戻して作られたものであり、自然科学分析の結果からもこの三ヶ田館が城館として機能していた時期のものとは考えにくい。城館廃絶の後に形成されたものと考えられる。


LJ
LK
LL
LM
LN
LO
LP
LQ
LR
LS
LT
MA
LI
61
62
63
64
65
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
0
20m
SN55
トレンチ
SKP63
SKP64
SA30
SB31
SK1
SKI19
SV81
SV80
SD49
SD48
SD50
SD68
SD
58
SX
59
SD60－c
SK71
SK69
SD77
SD78
SF70
SV82
SD66
SK67
黒沼文衛
210m
205m
200m
195m
県道191号線

第６図　遺構配置図

第２節　調査の方法

調査区は、第１節で述べたとおり大きくＡ～Ｅ区に分けられるが、調査方法はグリッド法によった。しかし、Ｃ区は深掘りが必要であると考えられたため、トータルステーションによる計測を行うこととした。調査区の設定方法は、工事用中心杭№12（国家座標第Ｘ系：Ｘ＝14601.660、Ｙ＝-5052.064）をグリッド原点ＭＡ50とし、この杭から世界測地第Ｘ系座標北を求め、このラインを南北基線として、これに直交するラインを東西基線とし、この東西・南北基線に沿って４ｍ×４ｍのグリッドを設定した。さらに、東から西に向かって東西方向を表すＬＮ・・・ＬＴ・ＭＡ・・・ＭＥという２文字のアルファベットと、南から北に向かって南北方向を表す41・・・49・50・・・60の数字を付し、グリッドの名称は南東隅の交点の算用数字とアルファベットを組み合わせて呼称した。

遺構は、種別を問わず確認した順に１から番号を付し、精査を行った。また、番号を登録した後、遺構と判断されなかったものについては欠番とした。原則として半截または十字に土層断面観察用のベルトを残して、２または４分割法による精査を行った。

調査の記録は図面と写真によった。平面図及び断面図を原則として１/20の縮尺で作成した。作図は、平面図はＡ・Ｅ区検出の空堀及びＣ区全域はトータルステーションを用い、Ｂ区は手実測により作成し、断面図はすべて手実測によって作成した。断面図には、土色・固さ・粘性・土性・混入物やその他の特徴を記入した。

遺物は、遺構内出土のものは、遺跡名・出土遺構・出土層位・遺物番号・出土年月日を記入し、遺構外出土のものは遺跡名・出土グリッド・出土層位・出土年月日を記入した袋に入れ、取り上げた。写真は35㎜カメラを使用し、フィルムはモノクロ、カラーリバーサルを主に使用し、必要に応じてネガカラーを使用した。また、確認などのためデジタルカメラを随時使用した。

第３節　調査の経過

発掘調査は平成17年５月24日～８月３日（全11週）まで実施した。調査経過は以下の通りである。

【第１週】５月24日～５月27日

24日午前、作業員に作業の実際を説明し、機材の搬入、ヤード周りと調査区の整備を行った。さらに、Ａ区への進入路を法面に沿うよう新たに設置した。また、調査区内の調査に先立ち、前年度の確認調査でコンテナハウスヤードとなっていたため未調査であった工事区のトレンチ調査を行った。遺構は確認されず、遺物も土器片が数点出土したのみで、調査対象外とした。

【第２週】５月30日～６月３日

Ｂ区の遺構確認作業・精査を開始する。調査区東側で近世の土坑１基（ＳＫ１）と時期不明の柱穴様ピット30基を検出した。確認調査時にＡ区で設定されたトレンチの掘り下げを開始する。

【第３週】６月６日～６月10日

Ａ区トレンチの掘り下げを継続し、空堀３条を確認する。Ｂ区での遺構確認・精査を継続する。

【第４週】６月13日～６月17日

Ａ区のトレンチ掘り下げと同時に、遺構検出作業及び精査を行う。ＳＤ49の覆土で、萱状炭化物を

伴った遺構（ＳＮ55）を確認した。Ｂ区はわずかな立ち上がりを持った竪穴状遺構（ＳＫＩ19）を確認した。柱穴様ピット全34基から掘立柱建物跡１棟（ＳＢ31）と柱列１条（ＳＡ30）を確認し、精査を行う。Ｃ区北西端切岸部から重機による表土除去を開始、現況よりも急角度の切岸であったことを確認した。

【第５週】６月20日～６月24日

Ａ区全域の遺構検出と精査を継続し、新たに深さ２ｍにも及ぶ空堀１条（ＳＤ58）を検出した。さらにその北側も空堀状の落ち込みが見つかり、遺構検出を継続する。Ｂ区は掘立柱建物跡と柱列の精査を行い、調査を終了した。Ｃ区は調査区中央に幅２ｍの南北ベルトを残し、バックホーによる掘り下げを継続する。北側切岸近くに泥炭層が見つかり、空堀（ＳＤ60）を確認した。

【第６週】６月27日～６月30日

Ａ区・Ｃ区の遺構確認とＡ区の精査を継続する。Ｃ区で確認した泥炭層の下位に、別の泥炭層２層を確認した。Ｃ区では水が湧き出し、その対応に苦慮した。

【第７週】７月４日～７月８日

Ａ区・Ｃ区での調査に加え、南端Ｅ区の表土除去・遺構確認作業を開始した。Ａ区では、既に確認した空堀（ＳＤ50）は２条の空堀が重複していることを断面で確認した。Ｃ区の空堀は計４層の泥炭層を確認し、３層目直下の覆土より微細な漆器片１点を出土した。この空堀の底部は表土より２ｍ以上下位にあり、安全のため空堀全体の掘り上げは断念した。Ｅ区で、縄文包含層を表土直下に確認した。

【第８週】７月11日～７月15日

Ａ区・Ｃ区・Ｅ区で遺構検出作業と精査を継続する。Ａ区空堀（ＳＤ50）底部より永楽通宝１点が出土した。Ｅ区で新たにNW－SEに延びる空堀（ＳＤ66）を確認し、覆土から多量の縄文土器が出土した。

【第９週】７月19日～７月22日

Ａ区は空堀（ＳＤ50・68）の精査を終え、調査を終了した。Ｄ区で遺構確認作業を開始する。Ｄ区土塁は空堀や切岸を掘り下げたことで残された箇所であり、元の層位が残され縄文時代の遺物包含層が存在することを確認した。Ｃ区・Ｅ区は遺構確認と精査を継続する。Ｅ区空堀（ＳＤ66）南側の黒色土から、表裏に文様を施した縄文前期初頭と思われる土器片が出土した。

【第10週】７月25日～７月29日

Ｃ区・Ｄ区の掘り下げと精査を継続する。Ｄ区縄文時代遺物包含層から、岩偶１点が出土した。

【第11週】８月１日～８月３日

Ｃ区・Ｄ区の精査と併せて、調査区内に設置していた安全柵や進入路の撤去作業を行う。１日、鹿角地域振興局佐々木主幹、木村技師来跡。調査区の状況を確認し、引き渡しを行う。３日、機材などをセンターに向け搬出し、調査の全行程を終了した。

参考・引用文献

秋田県教育委員会　『秋田の中世城館』　秋田県文化財調査報告書第86集　1981（昭和56）年

鹿角市教育委員会　『鹿角の館　館跡航空写真測量調査報告書（４）　長嶺館・谷内館・夏井館・三ヶ田館・長内館・尾去館・上山館・茶臼館』　鹿角市文化財調査資料28　1985（昭和60）年

第４章　調査の記録

第１節　基本層序

遺跡の基本層序は、Ｄ区土塁からＥ区平坦部にかけて確認した。層序は、以下の通りである。

Ⅰ層　　表土
Ⅱ層　　黒褐色土（10YR2／2）
Ⅲ層　　褐色土（10YR4／6）＋暗褐色土（10YR3／4）
Ⅳ層　　暗褐色土（10YR3／4）
Ⅴ層　　褐色土（10YR4／6）
Ⅵ層　　灰黄褐色土（10YR5／2）　地山　十和田火山火砕流堆積物（シラス）

このうち、Ⅱ層、Ⅲ層が縄文時代の遺物包含層であり、Ⅳ層にもわずかに縄文土器が混じる。Ａ区、Ｃ区では全域に空堀が形成されており、土層すなわち空堀の覆土となる。

第２節　検出遺構と遺構内出土遺物

１．縄文時代

ＳＴ83捨て場（遺物包含層）（第35図）

ＬＰ51・52・53、ＬＱ50・51・52・53・54、ＬＲ49・50・51・52・53、ＬＳ48・49・50・51、ＬＴ49・50に位置する。当該地区はＤ区から南側切岸、及びＥ区平坦部にあたり、縄文時代前期初頭の土器や石器、土製品が多数出土した。本来はＣ区からＤ区、Ｅ区にかけて、よりなだらかな斜面が存在し、そこに厚く遺物包含層が被覆していたものが、後世において、遅くとも三ヶ田館築城の際のＳＤ66空堀の掘削などの撹乱により地形が変わったものと推測する。また、土塁より北側は空堀掘削の際に広く掘削を受けており、さらに西側は県道建設の際に崖状に削られている。そのため、ＳＴ83は本来、より広い範囲に広がっていたものと推測される。縄文時代の遺物は、ＳＤ66のみならず土塁北側空堀列の覆土にも見られるが、それぞれの空堀を埋め戻す際に遺物包含層をその埋土としたため、共に混入したものと考えられる。

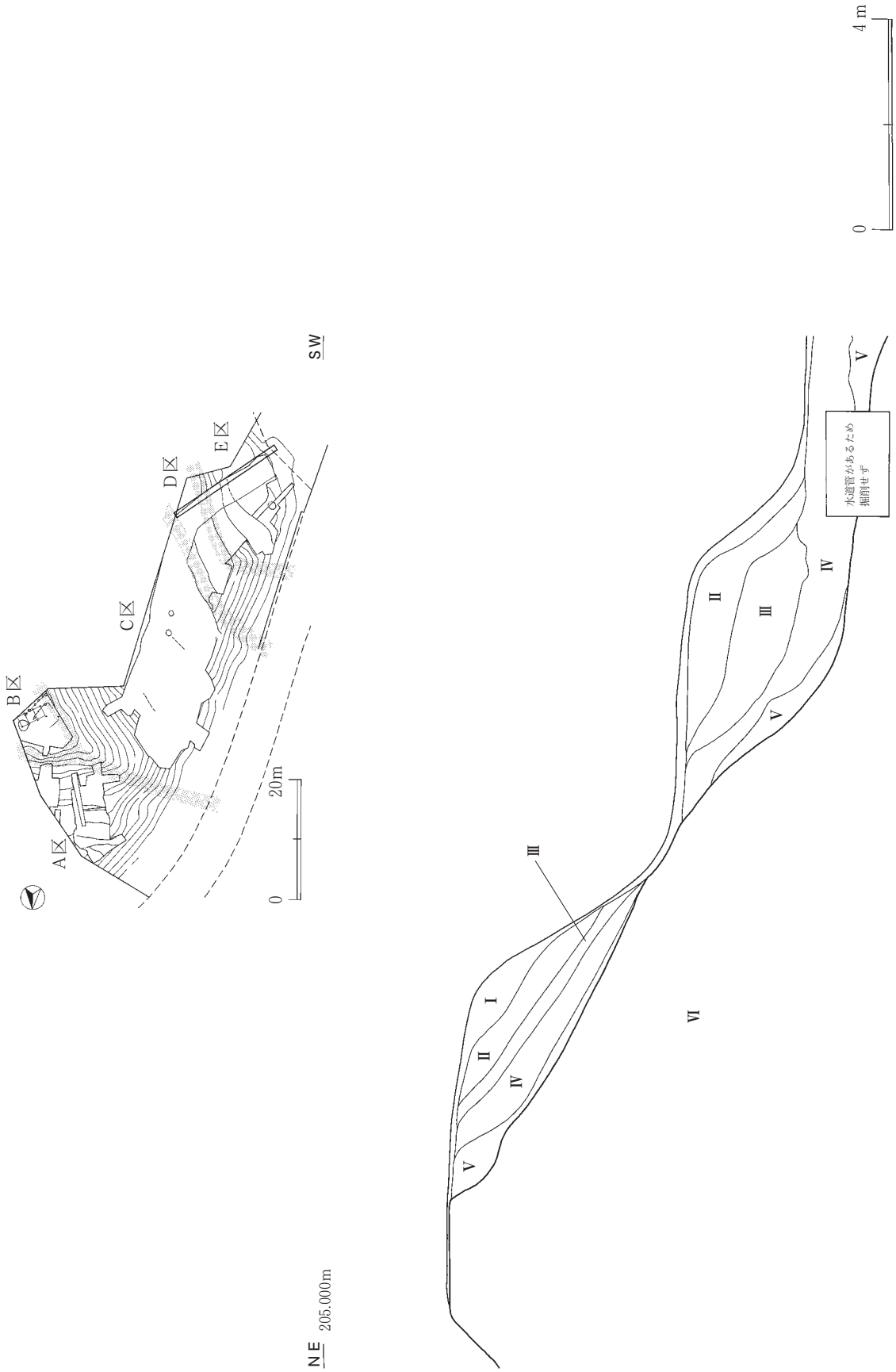
２．中世以降

（１）空堀

空堀は12条あり、Ａ区で５条、Ｃ区で６条、Ｅ区で１条検出した。すべての空堀は東西方向を中心にＢ区郭およびＳＦ70に沿うように延びている。東は調査区外へ延び、西は県道建設当時の削平を受けている。作業及び周辺の安全、さらに調査後の工事を考慮し、道路に面した部分とＢ区への通路となる一部を掘り残して調査を行った。

ＳＤ48空堀（第９・10・11図、図版２・３）

Ａ区のＬＫ62・63、ＬＬ62・63に位置する。確認調査時のトレンチにより断面が確認された。ＳＶ


A区
B区
C区
D区
E区
0
20m
SW
NE
205.000m
I
II
III
IV
V
VI
水道管があるため
掘削せず
0
4 m

第７図　基本土層図

80と連続しており、現況で長さ4.6m、幅1.5mを測る。深さは1.1～1.6m。東側ほど深さが増し、底面標高が下がる傾向にあるが、降雨の際に生じる流水による浸食の影響も考えられる。断面形はU字形を呈する。ＳＤ49と西側で重複関係にあり、ＳＤ49より新しい。

ＳＤ49空堀（第９・10・11図、図版２・３）

Ａ区のＬＫ62・63、ＬＬ62・63に位置する。確認調査時のトレンチにより断面が確認された。現況で長さ4.5mを測るが、東は調査区外に延伸する。深さは 0.9～1.2m。断面形はＶ字形を呈する。ＳＤ48と西側で重複関係にあり、ＳＤ48より旧い。

ＳＤ50空堀（第９・10・11図、図版２・３）

Ａ区のＬＫ63、ＬＬ63に位置する。確認調査時のトレンチにより断面が確認された。現況で長さ4.48m、幅は1.88～2.27mであるが、東は調査区外に延伸する。深さは 1.35～1.80mあり、西側ほど深さが増す傾向がある。断面形はU字形を呈する。ＳＤ68と重複関係にあり、ＳＤ68より新しい。

ＳＤ58空堀（第９・10図、図版５）

Ａ区のＬＫ64、ＬＬ64、ＬＭ64に位置する。確認調査時のトレンチを北に延長して掘り下げた際に断面が確認された。現況で、長さ6.0m、幅は0.7～1.6m、断面形は逆台形を呈する。東は調査区外へ延伸するが、西はＢ区から延びる切岸状の斜面に沿って南へ緩やかに湾曲する。県道191号建設に伴い削平を受けており、法面にその断面を現している。北隣に切岸状のＳＸ59性格不明遺構が掘り込まれており、調査区東端でＳＤ58と重複関係にあり、これより新しい。

ＳＤ60空堀（第17・18図、図版９・10・11）

Ｃ区中央部に設定したベルト断面において確認されたものの、平面的な広がりが確認できなかった空堀状の遺構をＳＤ60とした。１基の空堀の可能性もあるが、その層位から３期に分け、旧いものから60－ａ、ｂ、ｃとした。

●ＳＤ60－ａ

ＳＤ79空堀の覆土を切る形で堀状遺構を確認した。若干色調が異なるシラスの２次堆積物２層からなる。断面での幅約4.2m、深さ約1.4mの逆台形のプランが確認できるが、北側をＳＤ60－ｂに切られる。覆土は２層とも軽石を含むシラスで、時代を示す遺物や縄文土器の流れ込みは見られない。

●ＳＤ60－ｂ

ＳＤ60－ａおよびＳＤ79の覆土を切る形で確認した。覆土は３層に分層したが、うち２層（第18図土層注記35・36）はシラスと砂の葉理構造が確認できる。砂は還元環境にあった青色を呈し、さらにその締まりの強さからＳＤ60－ｂの覆土は主に水成層からなるシラスの２次堆積であり、連続した自然堆積であったと考えることができる。断面で、幅約5.1m、深さ約1.5mを測るが、北側をＳＤ60－ｃに切られる。覆土から時代を示す遺物は確認できなかった。

●ＳＤ60－ｃ

Ｃ区ベルト断面北端部で確認した。北端は掘り込みがＳＶ81切岸の上部層に延び、底部は掘削に伴う湧水と崩落のため確認できなかったが、幅約９ｍ、深さは約1.6m以上と思われる。泥炭層や、葉理構造を呈するシラスと砂の互層など、水中での堆積を示す層が見られるが、層位から、断続した自然堆積によって埋められたものと考える。覆土北端に見られる泥炭含有層（第18図12層）の下位に、さらに３層の薄い泥炭層を確認しており、少なくとも４期、堀の安定した時期が確認できる。13層の

下部より、0.5㎝四方の微細な漆器片を出土した。

Ｃ区空堀群の北端はＳＶ81切岸と接しているが、ＳＶ81切岸から延びる堅固な地山層はＳＤ60－ｃとは接せず、さらに下方に潜り込む。このことから、ＳＤ60－ｃの下位に、さらに１基の空堀が想定可能であるが、南側で確認できる空堀とつながる可能性もあることから、ここでの説明のみに留める。

ＳＤ66空堀（第20・21・22図、図版16）

Ｅ区のＬＱ49・50・51・52、ＬＲ49・50・51・52、ＬＳ49・50・51・52に位置する。東側は後世の削平を受けている。現況で長さ13.6ｍ、幅2.0～3.6ｍ、深さは最大で3.36ｍを測る。西側はＳＦ70に沿うようにNW－SE方向に延びるが、東側でやや南にその向きを変える。覆土は34層に分層したが、自然堆積と考える。覆土全体から縄文時代の遺物が出土したが、ＳＴ83からの流れ込みによるものと考えられる。

ＳＤ68空堀（第９・10・11図、図版４）

Ａ区のＬＫ63、ＬＬ63に位置する。ＳＤ50掘り下げの際、覆土の状況からそれと重複する堀の存在を確認した。現況で長さ4.48ｍを測るが他と同様全体像のごく一部である。幅はＳＤ50により上端南側が切られており、不明である。深さは1.4ｍを測るが、流水による浸食によって生じた浸食穴が深く切っている。

ＳＤ77空堀（第20図）

Ｃ区中央部に設定したベルト断面南端部で、ＳＦ70から延びる地山層に掘り込まれたプランと覆土の堆積状況から空堀と判断した。ＳＤ78、ＳＤ79と重複関係にあり、ＳＤ79より旧くＳＤ78より新しい。ＳＦ70の北に沿う形で検出しており現況で長さは約12ｍを測るが、東は調査区外に延び、西は県道191号建設に伴い削平され、法面に断面を現している。深さ、幅はともに不明である。遺物は、縄文時代前期を中心とする土器片や石器が覆土より出土しているが、ＳＦ70よりの流れ込みと考えられる。また、長さ約1.1ｍの炭化材が底部より出土しているが、放射性炭素による年代測定（ＡＭＳ法）により13,000～14,000年という年代が得られており、地山を形成している十和田八戸テフラ（To-H、鳥越火砕流堆積物）堆積の際に埋没した樹木であると考えられる。

ＳＤ78空堀（第20図）

Ｃ区中央部に設定したベルト断面南端部で確認した。ＳＤ77、ＳＤ79と重複関係にあり、これらより旧い。ＳＤ77の下位にその下端がある。ＳＤ77と同様、ＳＦ70の北側に沿う形で検出しており、現況で長さは約12ｍを測るが、東は調査区外に延び、西は県道191号建設に伴い削平され、法面に断面を現している。深さ、幅はともに不明である。縄文時代前期を中心とする土器片や石器が覆土より出土しているが、ＳＦ70よりの流れ込みと考えられる。

ＳＤ79空堀

Ｃ区中央部に設定したベルト断面南端部で確認した。ＳＤ77、ＳＤ78と重複関係にあり、これらより新しい。ＳＦ70の北側に沿う形で検出しており、現況で長さ約12ｍを測るが、東は調査区外に延び、西は県道191号建設に伴い削平され、法面に断面を現している。深さ、幅はともに不明である。縄文時代前期を中心とする土器片や石器が覆土より出土しているが、ＳＦ70よりの流れ込みと考えられる。

（２）土塁

ＳＦ70土塁（第20図）

Ｃ区平場の南端縁に沿うように構築された土塁である。調査開始時、調査区東端から約2.2ｍの長さで削平され調査区西側に飛び地状に高まりが残っていたが、この削平は現代における重機搬入に伴うものである。調査した範囲は長さ約12ｍ、上幅約4.5ｍである。断面形は台形を呈する。北側斜面はＣ区平坦部に延び、地山はＳＤ77・78空堀へと続く。南側斜面はＳＶ82切岸を介してＳＤ66空堀へと続いている。断面では頂部近くまで地山層が確認でき、覆土は自然堆積によるものと考えられる。したがって、盛り土による土塁ではなく原地形を掘り下げ、空堀と切岸を形成することによって土塁として機能させていたと考えられる。覆土はＳＴ83捨て場を構成する縄文時代遺物包含層であり、縄文早～後期に比定する土器群や石器、石製品、岩偶が出土した。古代から中世以降を示す遺構・遺物は確認されなかった。

（３）切岸

調査区全域で、３か所の切岸を確認した。ＳＶ80とＳＶ81はＢ区北端と南端からそれぞれ延びる急峻な斜面であり、かつてはＢ区周囲をめぐる同一の切岸であったと考えられるが、県道191号建設に伴い西側が削平されており、２か所としてそれぞれについて検証を行った。

ＳＶ80切岸

Ｂ区北辺からＡ区に位置するＳＤ48に続く切岸である。現況で東側調査区外に約400ｍ延びており、そこで北側から郭頂部に延びる進入路に沿って南へ曲がっている。地山シラス土まで掘り下げたところ下位でＳＤ48空堀へと平場を伴わずに延びている。腐食が激しい、詳細不明の銭貨１点が出土した。

ＳＶ81切岸

Ｂ区南側からＣ区に続く切岸である。NW－SE方向でほぼ直線上に切岸面が走り、東側調査区外に100ｍ程延びる。切岸を形成する地山はＳＤ60－ｃ空堀の下位に潜り込んでおり、切岸最低部から最高部の高度差は15ｍ以上となる。

ＳＶ82切岸

ＳＦ70土塁からＳＤ66空堀に延びる切岸である。NW－SE 方向にほぼ直線上に走り、東側調査区外に約50ｍ程延びている。覆土はＳＦ70頂部からの流れ込みやＳＤ66廃棄後の埋め戻しに伴って堆積したものと考えられ、ＳＴ83に伴う縄文時代前期を主体とする土器、石器などが見られる。古代・中世以降の遺物は出土しなかった。

（４）掘立柱建物跡

ＳＢ31掘立柱建物跡（第13・14図）

Ｂ区のＬＩ59、ＬＪ58・59に位置する。ＳＫＰ7・14・34・45・51・56・74で構成され、現況で全長約4.8×1.8ｍ、桁行２間梁行１間の規模を持つ建物で、桁行方位は北から西へ27°偏する。ただし、検出した柱穴は７基で南東端の柱穴は調査区外に位置するため、この建物は南東調査区外に広がる可能性があり、その全体の規模は不明である。柱間寸法は桁行が６尺で梁行が５尺となる。柱穴はすべて地山で確認し、円形平面を基調とする。長径平均値は0.31ｍ、深さの平均は0.19ｍである。ＳＫ１、ＳＫＩ19と重複するが、これらより旧い。遺物は出土しなかった。

（５）柱列

ＳＡ30柱列（第15図）

Ｂ区のＬＩ58・59、ＬＪ58に位置する。全長約4.68ｍ、北から東に44°偏する方位に７基（ＳＫＰ

８・10・39・40・41・42・43）の柱穴が並ぶ。長径平均値は約0.3m、深さの平均値は約0.3mである。柱痕跡や柱抜き取り痕は確認されていない。柱穴から遺物は出土しなかった。ＳＫＩ19竪穴状遺構の南東縁と平行しており、これに付随する柱列の可能性もある。

（６）竪穴状遺構

ＳＫＩ19竪穴状遺構（第12・16図）

Ｂ区のＬＩ59、ＬＪ58・59に位置する。確認調査の埋土を除去後東西に立ち上がりを確認し、竪穴状遺構とした。現況で北西－南東方向に3.26mの規模をもつが、北東－南西方向は削平されており、規模は不明である。カマド、出入り口などの付属施設は確認されなかった。床面はほぼ平坦で、確認面から床面までの深さは0.32mである。壁は東側でやや急に立ち上がり、西側で緩やかに立ち上がる。柱穴は東側の壁中に３基（ＳＫＰ16・27・20)、西側で壁に沿う形で１基（ＳＫＰ54）の計４基が検出された。これらの柱穴の深さの平均値は約0.4mである。竪穴状遺構の覆土は確認調査時にはすでに削平されており、本体、柱穴とも遺物は出土しなかった。

（７）焼土遺構

ＳＮ55焼土遺構（第８図）

Ｂ区のＬＫ63、ＬＬ63に位置する。空堀覆土で確認した。２層の薄い焼土層の上に、萱状植物とシダ植物の炭化物が原形を留めた状態で堆積する。ＳＤ49、ＳＤ50、ＳＤ68の覆土上にあり、これらの遺構より新しい。放射性炭素年代測定（ＡＭＳ法）により、18世紀江戸時代の炭化物であるという結果を得た。

（８）土坑

ＳＫ１土坑（第13・14図、図版８）

Ｂ区のＬＩ59・60に位置する。Ⅱ層上面で確認した。長径1.96m、短径1.86mの楕円形を呈し、長軸方位は北から73°東に偏する。底面はほぼ平坦で、壁は緩やかに立ち上がり、確認面から底面までの深さは0.14mである。覆土は２層に分層した。ＳＢ31を構成する柱穴２基と重複し、これらの遺構より新しい。遺物として銭貨（寛永通宝）１点、微細鉄製品19点、近世陶器片１点が出土した。

ＳＫ67土坑（第20図）

Ｅ区のＬＳ50に位置し、ＳＤ66より南側の緩斜面で確認した。遺構の南東側に電柱支線用アンカーが設置されており、全体像を確認することはできなかった。現況では短径1.1mの楕円形を呈し、長軸方位は北から約47°西に偏するものと思われる。底面は丸く窪み、壁は急に立ち上がるが途中で緩やかに傾斜する。確認面からの深さは0.95mである。覆土は５層に分層したが、自然堆積と考える。遺物は出土しなかった。

ＳＫ69土坑（第17・19図）

Ｃ区のＬＯ55に位置する。径0.87mの円形を呈する。底面はほぼ平坦だが、中央に柱穴状の窪みがある。確認面から土坑底部までの深さは0.25m、土坑底部からの窪みの深さは0.13mである。土坑底面から壁は急激に立ち上がり、垂直を成す。覆土は土坑本体と底部の窪みの２層に分層されるが、その境界に焼土がわずかに挟まるのみで、ほぼ単一の性質を持つ。人為による一括埋め戻しと考えられる。遺物として、底部から鉄製品４点と近～現代のものと思われるガラス片が出土した。

ＳＫ71土坑（第17・19図）

Ｃ区のＬＯ55に位置する。径0.88mの円形を呈する。底面は平坦で、壁は急に立ち上がりほぼ垂直を成す。確認面から底部までの深さは0.3mである。ＳＫ69と形状が酷似しており、同一時期の掘り込みと考える。遺物は出土しなかった。

（９）柱穴様ピット

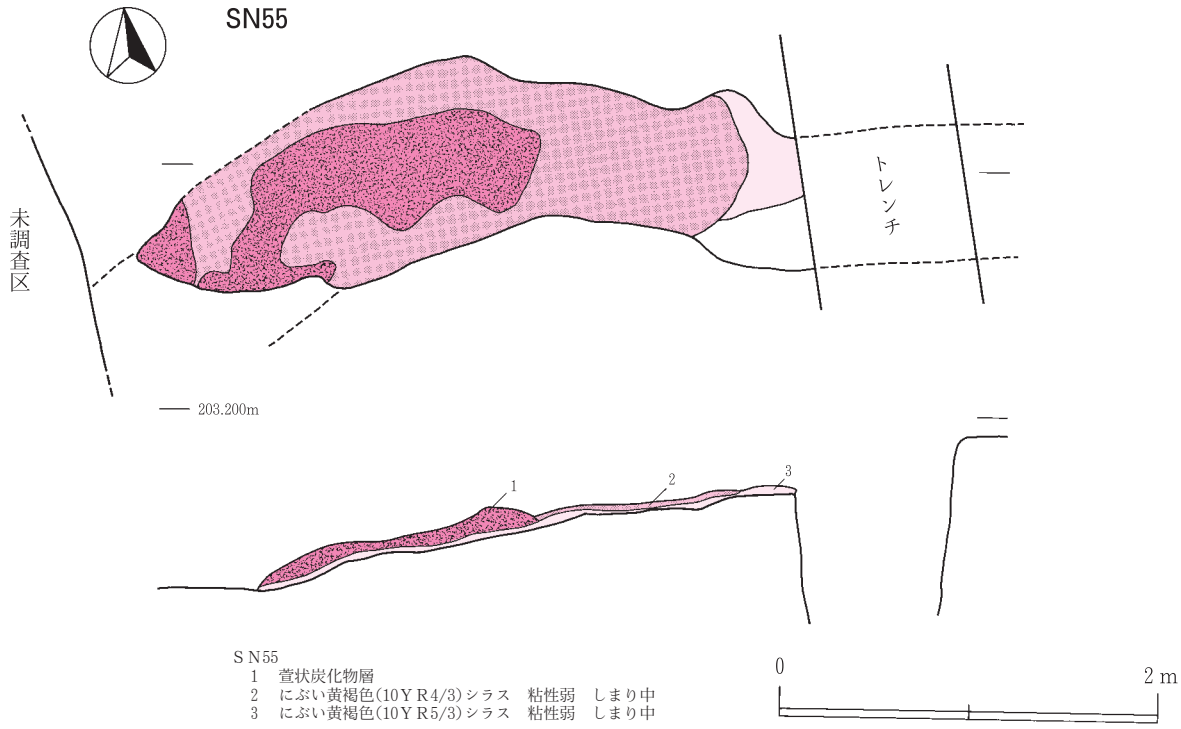
柱穴様ピットは調査区全体で46基検出した。分布状況を見ると、Ａ区北端部で検出した落ち込みの底部に２基検出した以外は、すべてＢ区主郭部分での検出である。いずれの柱穴においても柱痕や抜き取り痕は見られず、柱穴自体の規模も小さい。

個々の柱穴様ピットにおいては、掘立柱建物跡及び柱列もを含め、一覧を掲載した（第２表）。

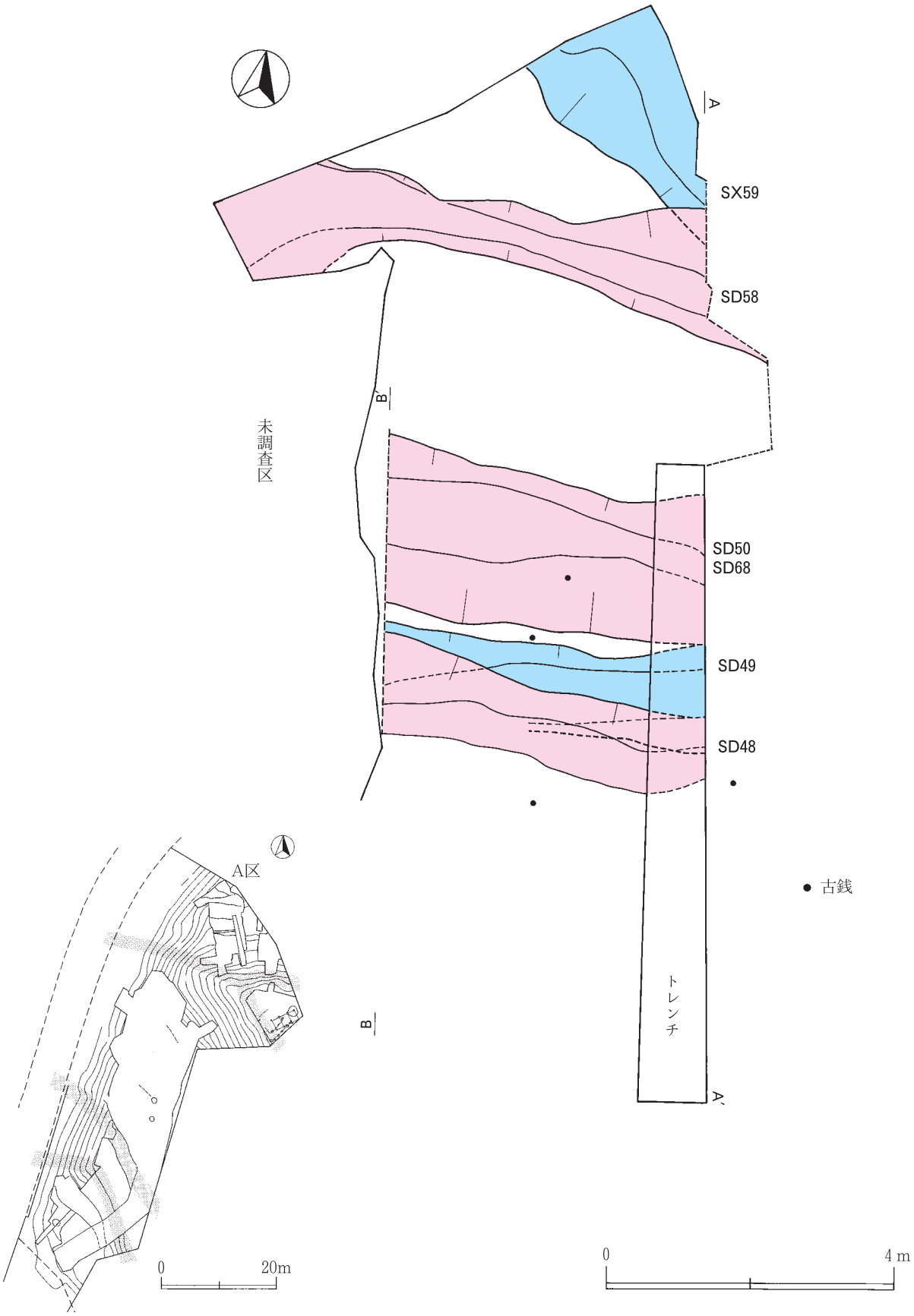
（10）性格不明遺構

ＳＸ59性格不明遺構（第９図）

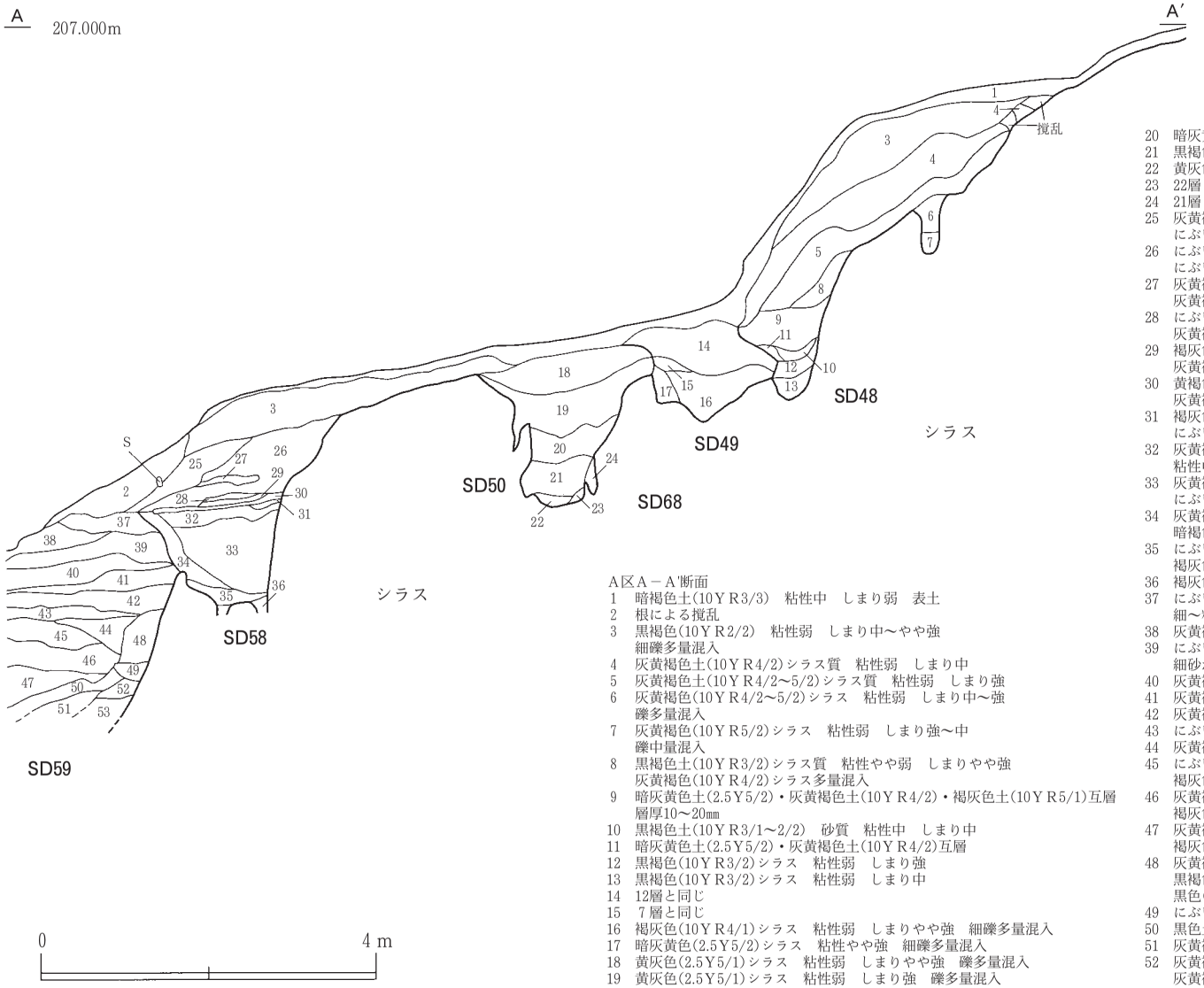
Ａ区のＬＫ64、ＬＬ64・65に位置する。ＳＤ58の北側、Ａ区北端に、空堀群と斜交する切岸状の落ち込みを確認した。ＳＤ58空堀と切り合い、ＳＤ58より旧い。約2.8mの長さを確認したが、調査区端でその一部を検出したため、全容は不明である。覆土は、下位が自然堆積、上位が人為堆積と思われる。底部で、柱穴様ピット２基を確認した。



第８図　焼土遺構



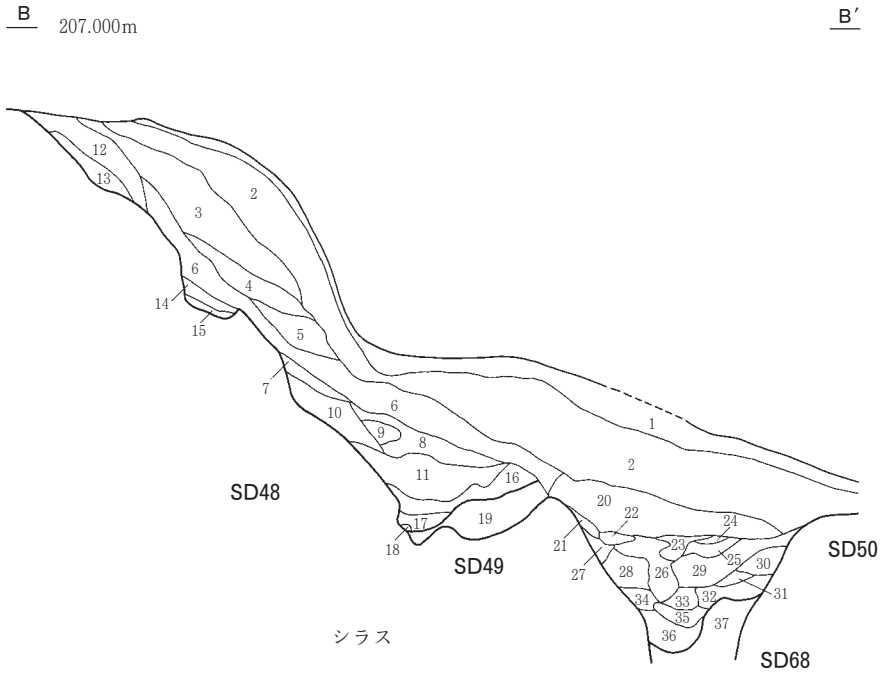
第９図　空堀（１）



A区Ａ－Ａ'断面

1　暗褐色土(10ＹＲ3/3)　粘性中　しまり弱　表土
2　根による撹乱
3　黒褐色(10ＹＲ2/2)　粘性弱　しまり中～やや強
　細礫多量混入
4　灰黄褐色土(10ＹＲ4/2)シラス質　粘性弱　しまり中
5　灰黄褐色土(10ＹＲ4/2～5/2)シラス質　粘性弱　しまり強
6　灰黄褐色(10ＹＲ4/2～5/2)シラス　粘性弱　しまり中～強
　礫多量混入
7　灰黄褐色(10ＹＲ5/2)シラス　粘性弱　しまり強～中
　礫中量混入
8　黒褐色土(10ＹＲ3/2)シラス質　粘性やや弱　しまりやや強
　灰黄褐色(10ＹＲ4/2)シラス多量混入
9　暗灰黄色土(2.5Ｙ5/2)・灰黄褐色土(10ＹＲ4/2)・褐灰色土(10ＹＲ5/1)互層
　層厚10～20㎜
10　黒褐色土(10ＹＲ3/1～2/2)　砂質　粘性中　しまり中
11　暗灰黄色土(2.5Ｙ5/2)・灰黄褐色土(10ＹＲ4/2)互層
12　黒褐色(10ＹＲ3/2)シラス　粘性弱　しまり強
13　黒褐色(10ＹＲ3/2)シラス　粘性弱　しまり中
14　12層と同じ
15　７層と同じ
16　褐灰色(10ＹＲ4/1)シラス　粘性弱　しまりやや強　細礫多量混入
17　暗灰黄色(2.5Ｙ5/2)シラス　粘性やや強　細礫多量混入
18　黄灰色(2.5Ｙ5/1)シラス　粘性弱　しまりやや強　礫多量混入
19　黄灰色(2.5Ｙ5/1)シラス　粘性弱　しまり強　礫多量混入
　18層との間に黄灰色土(2.5Ｙ5/1)層状混入(層厚10㎝)
20　暗灰黄色(2.5Ｙ5/2～4/2)シラス　粘性弱　しまり中
21　黒褐色土(2.5Ｙ3/2)シルト質　粘性やや弱　しまりやや強
22　黄灰色(2.5Ｙ4/1)シラス　粘性弱　しまりやや強　礫が混入
23　22層と同じ
24　21層と同じ
25　灰黄褐色土(10ＹＲ5/2)シラス質　粘性弱　しまり強
　にぶい黄褐色(10ＹＲ5/3)細砂層状に混入
26　にぶい黄褐色土(10ＹＲ5/3)シラス質　粘性弱　しまり中
　にぶい黄褐色(10ＹＲ5/4)シラス粒少量、軽石粒微量混入
27　灰黄褐色土(10ＹＲ5/2)シラス質　粘性弱　しまり中
　灰黄褐色(10ＹＲ4/2)細砂少量、軽石粒少量混入
28　にぶい黄褐色土(10ＹＲ5/3)　砂質　粘性弱　しまり中
　灰黄褐色土(10ＹＲ6/2)シラス質　粘性弱　しまり強　互層
29　褐灰色(10ＹＲ5/1)　細砂　粘性弱　しまり強
　灰黄褐色(10ＹＲ6/2)土粒、炭化物粒微量混入
30　黄褐色(10ＹＲ5/6)シラス・にぶい黄橙(10ＹＲ6/3)細砂・
　灰黄褐色(10ＹＲ5/2)シラスが互層をなす　粘性中　しまり強
31　褐灰色(10ＹＲ5/1)　細砂　粘性弱　しまり中
　にぶい黄褐色(10ＹＲ5/4)シラス層混入
32　灰黄褐色(10ＹＲ5/2)・にぶい黄褐色(10ＹＲ5/4)シルト互層
　粘性中　しまり強
33　灰黄褐色土(10ＹＲ5/2)　粘性やや弱　しまり中
　にぶい黄褐色(10ＹＲ5/4)シルトをラミナ状に混入　炭化物粒微量混入
34　灰黄褐色土(10ＹＲ5/2)　粘性弱　しまり中
　暗褐色(10ＹＲ3/3)土粒少量混入
35　にぶい黄褐色土(10ＹＲ5/3)　粘性やや弱　しまり強
　褐灰色(10ＹＲ5/1)粗砂層状混入(層厚20㎜)　軽石少量混入
36　褐灰色(10ＹＲ5/1)　粗砂　粘性弱　しまりやや弱
37　にぶい黄褐色土(10ＹＲ4/3)　粘性やや弱　しまりやや弱
　細～粗砂多量混入
38　灰黄褐色(10ＹＲ5/2)シラス　粘性やや弱　しまり中
39　にぶい黄褐色(10ＹＲ5/4)シラス　粘性やや弱　しまり中
　細砂がラミナ状に入る
40　灰黄褐色(10ＹＲ5/2)シラス　粘性弱　しまり中　細礫少量混入
41　灰黄褐色(10ＹＲ6/2)シラス　粘性やや弱　しまり中
42　灰黄褐色(10ＹＲ4/2)シラス　粘性やや弱　しまり中　粗砂少量混入
43　にぶい黄褐色(10ＹＲ5/3)シラス　粘性やや弱　しまり中
44　灰黄褐色土(10ＹＲ4/2)粘性弱　しまり中
45　にぶい黄褐色(10ＹＲ5/3)シラス　粘性弱　しまり中
　褐灰色(10ＹＲ5/1)シラス粒中量混入
46　灰黄褐色土(10ＹＲ5/2)　粘性弱　しまり中
　褐灰色(10ＹＲ5/1)シラス粒中量混入
47　灰黄褐色土(10ＹＲ5/2)　粘性弱　しまり中
　褐灰色(10ＹＲ5/1)シラスがラミナ状に入る
48　灰黄褐色(10ＹＲ5/2)シラス　粘性やや弱　しまり中
　黒褐色(10ＹＲ3/2)シラスがラミナ状に入る
　黒色(10ＹＲ2/1)土粒少量混入
49　にぶい黄褐色(10ＹＲ5/3)シラス～砂質　粘性弱　しまりやや弱
50　黒色土(10ＹＲ2/1)　粘性中　しまり中
51　灰黄褐色土(10ＹＲ6/2)シラス質　粘性中　しまり中
52　灰黄褐色土(10ＹＲ4/3)　粘性やや弱　しまりやや弱
　灰黄褐色(10ＹＲ5/2)シラス質土がラミナ状に入る
53　52層と同じだが、混入物無し

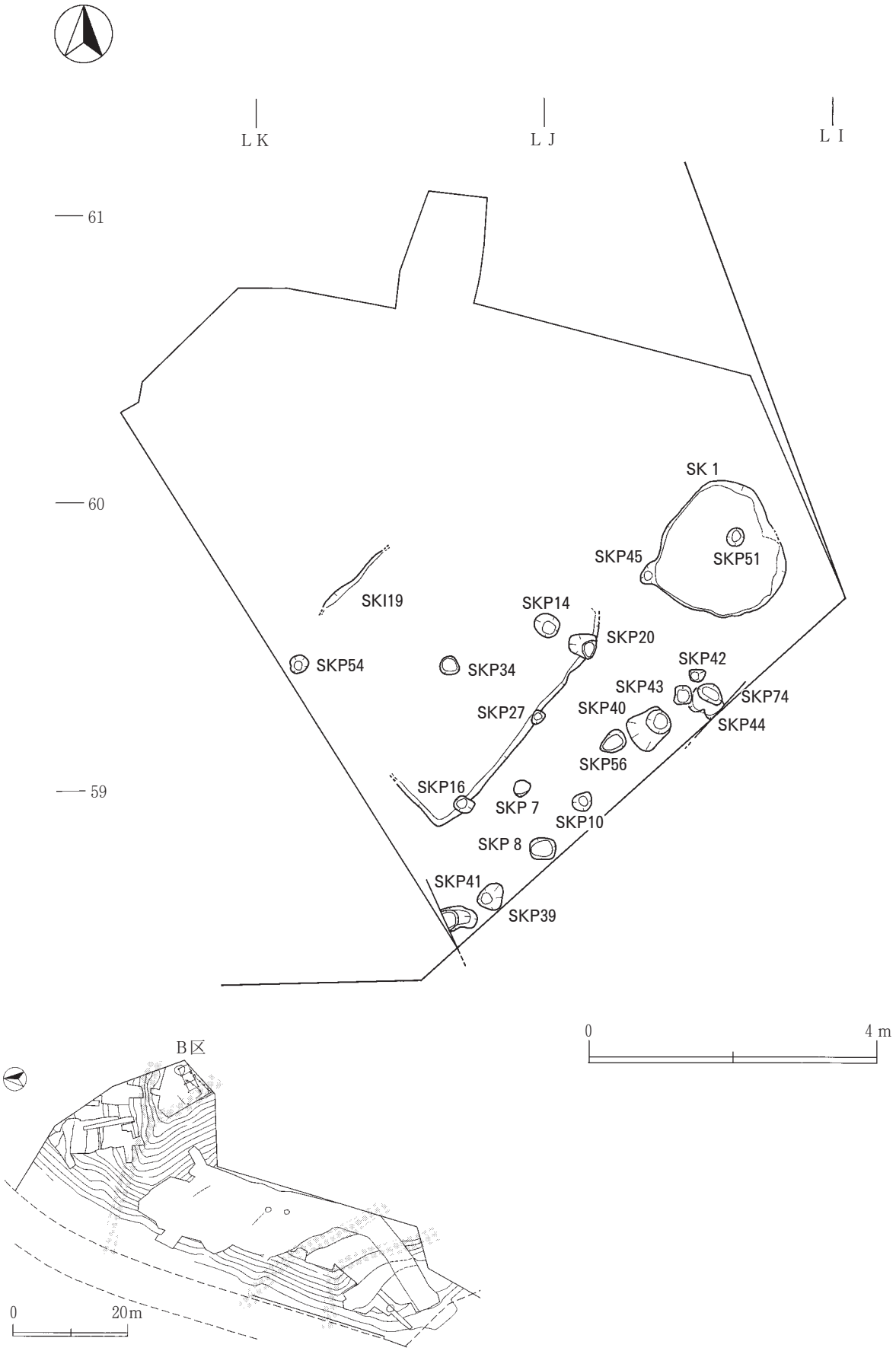
第10図　空堀（２）



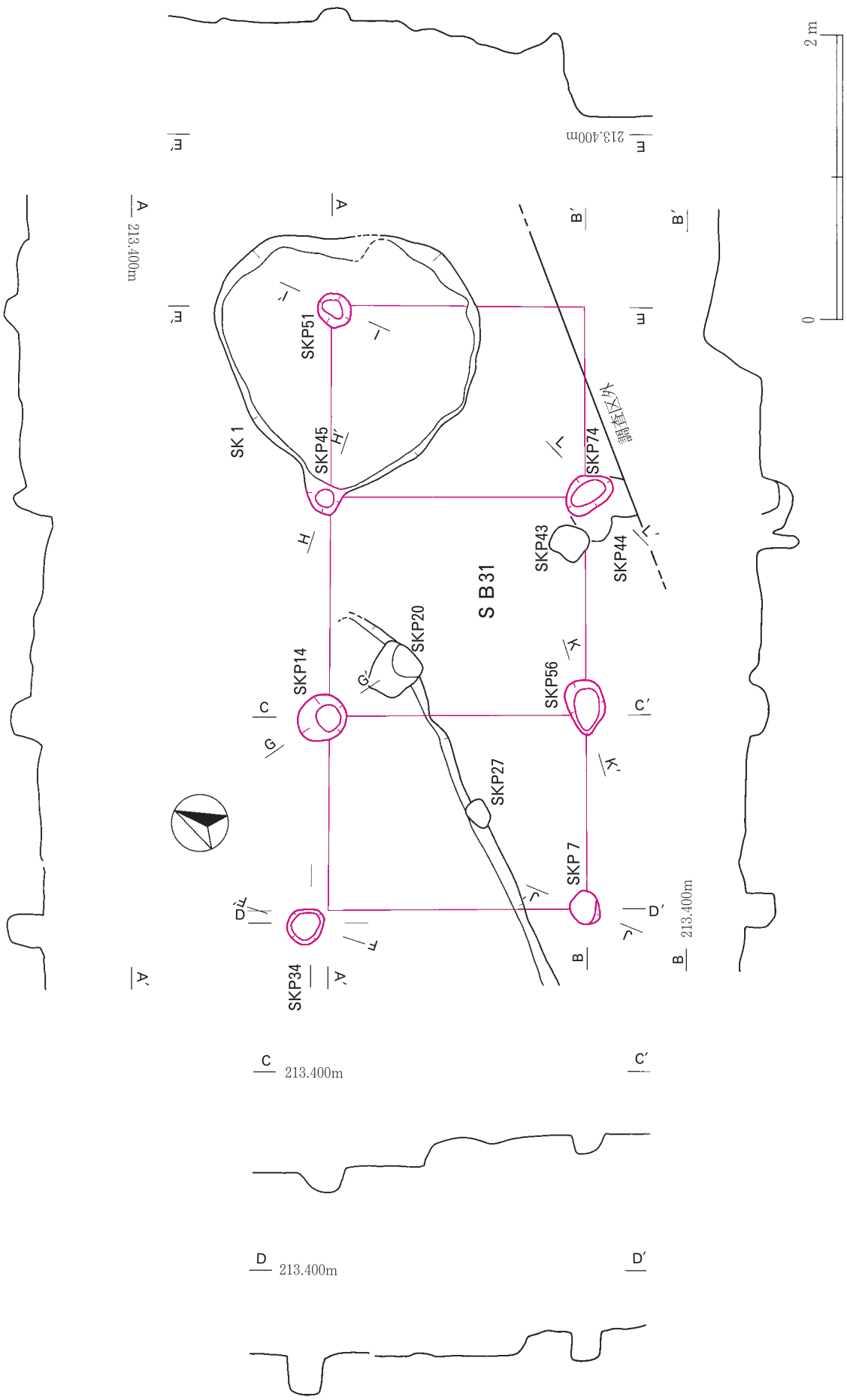
A区Ｂ－Ｂ'断面
1　暗褐色土(10Ｙ R3/3)　粘性弱　しまり弱　表土
2　褐色土(10Ｙ R4/4)　粘性中　しまり弱　火山灰混入
3　にぶい黄褐色土(10Ｙ R4/3)　粘性弱　しまり中
　軽石多量混入
4　灰黄褐色土(10Ｙ R5/2)　粘性弱　しまり中
　軽石多量混入
5　暗褐色土(10Ｙ R3/3)　粘性弱　しまり中
　地山塊状多量混入
6　にぶい黄褐色土(10Ｙ R5/3)　粘性弱　しまり中
　軽石多量混入
7　灰黄褐色土(10Ｙ R5/2)　粘性弱　しまり中
　軽石多量混入
8　明黄褐色土(10Ｙ R6/6)　粘性弱　しまり中
　灰黄褐色土(10Ｙ R5/2)塊混入
9　灰黄褐色土(10Ｙ R4/2)　砂質　粘性弱　しまり弱
10　黒褐色土(10Ｙ R2/3)　粘性弱　しまり中
　シラス斑状に多量混入
11　黒褐色土(10Ｙ R3/2)　粘性弱　しまり弱
　シラス・地山ブロック少量混入
12　にぶい黄褐色土(10Ｙ R4/3)シラス質　粘性弱　しまり弱
　軽石多量混入
13　暗褐色土(10Ｙ R3/3)シラス質　粘性弱　しまり弱
14　黒褐色土(10Ｙ R3/2)　粘性弱　しまり弱
　シラス塊状に少量混入
15　灰黄褐色(10Ｙ R6/2)シラス　粘性弱　しまりやや強
　軽石多量混入　炭化物混入
16　灰黄褐色(10Ｙ R5/2)シラス　粘性弱　しまり強
　褐灰色(10Ｙ R5/1)砂　層状に混入
17　暗灰黄色(2.5Ｙ5/2)シラス・にぶい黄褐色(10Ｙ R5/3)シラス互
　層　粘性弱　しまり強　褐灰色砂(10Ｙ R5/1)斑状に混入
18　褐灰色(10Ｙ R5/1)　粗砂　粘性弱　しまり強
　暗灰黄色(2.5Ｙ5/2)シラス　層状に混入
19　にぶい黄褐色(10Ｙ R5/3)シラス　粘性弱　しまり強
　黒褐色土(10Ｙ R3/2)斑状混入、
　暗灰黄色土(10Ｙ R5/2)
　黒色土(10Ｙ R2/1)層状混入
20　にぶい黄褐色(10Ｙ R5/3)シラス　粘性弱　しまり弱～中
　軽石粒多量混入　炭化物少量混入
21　灰黄色(2.5Ｙ6/2)シラス・黄灰色(2.5Ｙ5/1)砂互層　粘性弱
　しまり強
22　にぶい黄褐色(10Ｙ R4/3)シラス　粘性弱　しまり中
　軽石少量混入、黒色土(10Ｙ R2/1)塊少量混入
23　灰黄褐色土(10Ｙ R4/2)シラス　粘性弱　しまり弱
　軽石粒少量混入　灰黄色(2.5Ｙ6/2)シラス粒混入
24　にぶい黄褐色(10Ｙ R5/3)シラス　粘性弱　しまり中
25　灰黄褐色(10Ｙ R5/2)砂　粘性弱　しまり強
　にぶい黄褐色(10Ｙ R5/3)シラス層・酸化鉄層混入
26　灰黄褐色(10Ｙ R6/2)シラス　粘性弱　しまり中
　黄褐色(10Ｙ R5/6)シラス、灰黄褐色(10Ｙ R5/2)砂　層状に混入
27　26層と同じ
28　灰黄褐色(10Ｙ R6/2)シラス　粘性弱　しまり強
　軽石粒混入　にぶい黄褐色(10Ｙ R5/3)シラス　層状に混入
29　灰黄褐色(10Ｙ R5/2)シラス　粘性弱　しまり強
　軽石粒多量混入　暗灰黄色(2.5Ｙ5/2)砂(一部砂鉄含) 層状に混入
30　灰黄褐色(10Ｙ R6/2)シラス　粘性弱　しまり強
　岩盤由来の微細なシラスが塊状に混入
31　にぶい黄褐色(10Ｙ R4/3)シラス　粘性弱　しまり中
　灰黄褐色(10Ｙ R5/2)土粒少量、黒褐色土(10Ｙ R3/2)塊多量混入
32　灰黄褐色土(10Ｙ R6/2)シラス質　粘性弱　しまり強
　にぶい黄褐色(10Ｙ R5/3)シラス・灰黄褐色(10Ｙ R5/2)粗砂　層状に混入
33　灰黄褐色(10Ｙ R6/2)シラス・灰黄褐色(10Ｙ R5/2)粗砂互層　粘性弱
　しまり強
34　にぶい黄褐色土(10Ｙ R5/3)シラス質　粘性弱　しまり弱～中
　軽石粒多量混入　暗灰黄色(2.5Ｙ5/2)砂　層状に混入
35　灰黄褐色(10Ｙ R5/2)シラス　粘性弱　しまり強
36　灰黄褐色(10Ｙ R5/2)シラス　粘性弱　しまり強
　細礫多量混入
37　にぶい黄橙色(10Ｙ R6/3)シラス　粘性弱　しまり強
　軽石粒少量混入

0　4 m

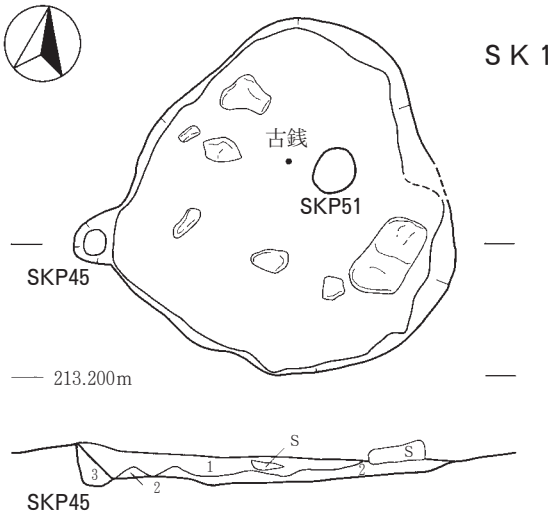
第11図　空堀（３）



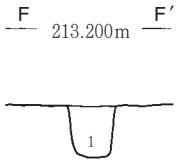
第12図　Ｂ区遺構配置図



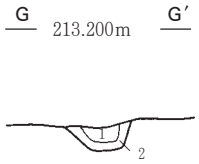
第13図　掘立柱建物跡（１）



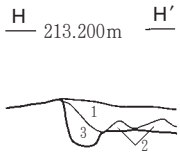
ＳＫ1
1　暗褐色土(10Ｙ R3/3)　粘性弱　しまりやや弱
　にぶい黄褐色(10Ｙ R5/4)土粒少量混入
2　暗褐色土(10Ｙ R3/3)　粘性弱　しまり弱
　にぶい黄褐色(10Ｙ R5/4)土粒多量混入
3　暗褐色土(10Ｙ R3/4)　粘性弱　しまり極弱



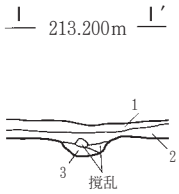
ＳＫＰ34
1　暗褐色土(10Ｙ R3/4)　粘性やや弱
　しまり中　地山土粒微量混入



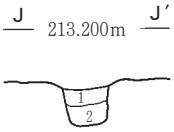
ＳＫＰ14
1　暗褐色土(10Ｙ R3/4)　粘性やや弱
　しまり中
2　灰黄褐色土(10Ｙ R6/2)　粘性やや弱
　しまり中　暗褐色(10Ｙ R3/4)土粒多量混入



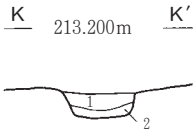
ＳＫＰ45
1　暗褐色土(10Ｙ R3/3)　粘性弱　しまりやや弱
　にぶい黄褐色(10Ｙ R5/4)土粒少量混入
2　暗褐色土(10Ｙ R3/3)　粘性弱　しまり弱
　にぶい黄褐色(10Ｙ R5/4)土粒多量混入
3　暗褐色土(10Ｙ R3/4)　粘性弱　しまり極弱



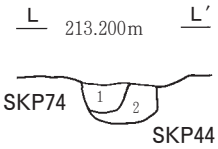
ＳＫＰ51
1　暗褐色土(10Ｙ R3/3)　粘性弱　しまりやや弱
　にぶい黄褐色(10Ｙ R5/4)土粒少量混入
2　暗褐色土(10Ｙ R3/3)　粘性弱　しまり弱
　にぶい黄褐色(10Ｙ R5/4)土粒多量混入
3　黒褐色土(10Ｙ R2/2)　粘性弱　しまり強
　暗褐色(10Ｙ R3/3)土粒少量混入
　褐色(10Ｙ R4/4)土粒微量混入



ＳＫＰ7
1　にぶい黄褐色土(10Ｙ R4/3)　粘性中
　しまり中
2　にぶい黄褐色土(10Ｙ R4/3)　粘性中
　しまりやや強

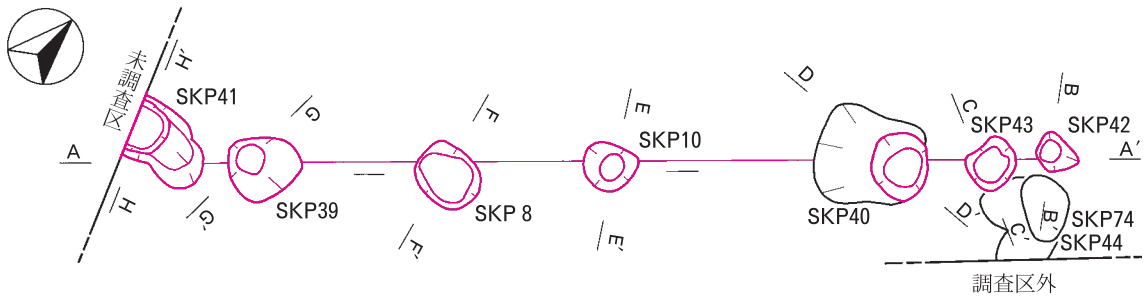


ＳＫＰ56
1　暗褐色土(10Ｙ R3/4)　粘性やや弱
　しまり中
2　灰黄褐色(10Ｙ R6/2)シラス　粘性弱
　しまり中

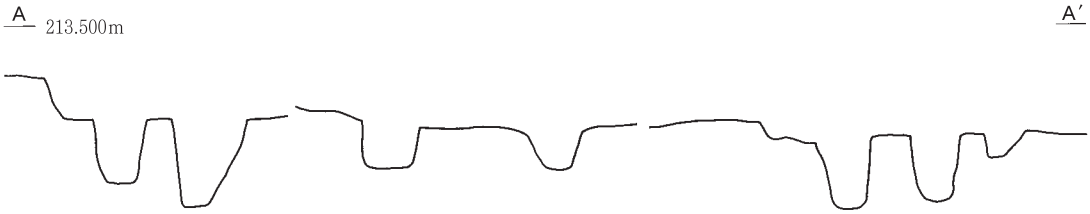


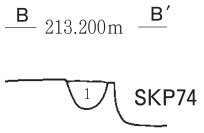
ＳＫＰ44・74
1　暗褐色土(10Ｙ R3/3)　粘性中
　しまり中
2　暗褐色土(10Ｙ R3/4)　粘性やや弱　しまり中
　地山土粒中量混入

第14図　土坑（１）・掘立柱建物跡（２）

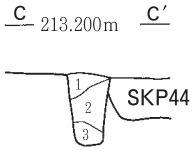


SA30

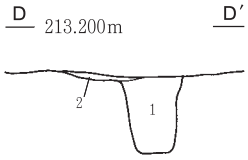




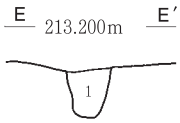
ＳＫＰ42
1　褐色(10Ｙ Ｒ4/4)シラス　粘性やや弱
　　しまりやや弱　地山土粒中量混入



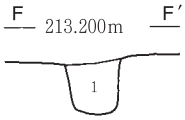
ＳＫＰ43
1　黒褐色(10Ｙ Ｒ2/2)シラス　粘性やや弱
　　しまりやや弱
2　黒色(10Ｙ Ｒ1.7/1)シラス　粘性中
　　しまりやや弱
3　黒色(10Ｙ Ｒ2/1)シラス　粘性やや弱
　　しまり中



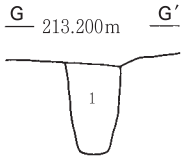
ＳＫＰ40
1　黒褐色土(10Ｙ Ｒ2/3)　粘性中
　　しまりやや弱　地山土粒少量混入
2　黒褐色土(10Ｙ Ｒ2/2)シラス質
　　粘性やや弱　しまりやや弱
　　基本土層Ｉ層



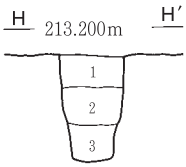
ＳＫＰ10
1　黒褐色土(10Ｙ Ｒ2/2)　粘性やや弱
　　しまりやや弱　地山土粒中量混入



ＳＫＰ8
1　黒褐色土(10Ｙ Ｒ2/2)　粘性やや弱
　　しまり中

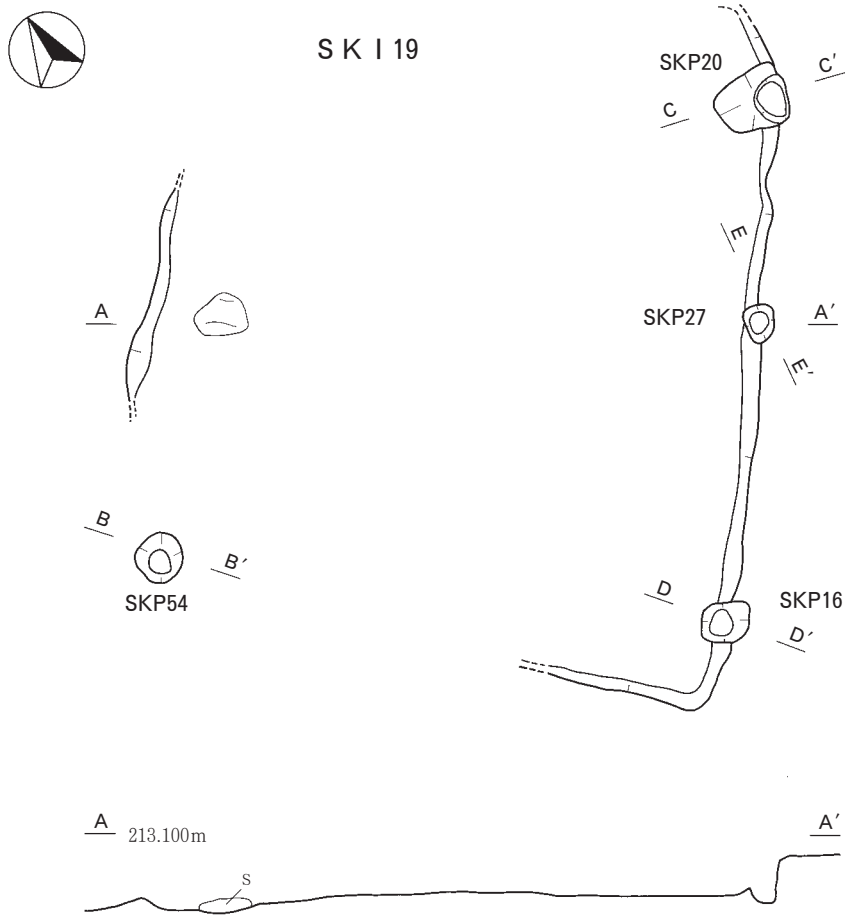


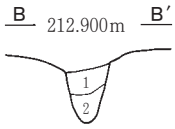
ＳＫＰ39
1　黒褐色土(10Ｙ Ｒ2/3)　粘性中
　　しまり中　地山土粒少量混入



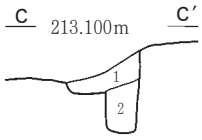
ＳＫＰ41
1　黒褐色土(10Ｙ Ｒ2/2)　粘性中　しまり中
　　地山土粒少量混入
2　黒褐色土(10Ｙ Ｒ2/3)　粘性中　しまりやや弱
　　地山土粒少量混入
3　黒褐色土(10Ｙ Ｒ2/2)　粘性中　しまり中
　　地山土粒少量混入

第15図　柱列

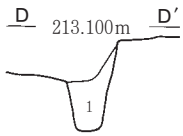




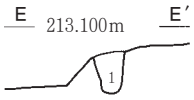
ＳＫＰ54
1　黒褐色土(10ＹＲ2/2)　粘性中
　　しまりやや弱
2　にぶい黄褐色(10ＹＲ5/3)シラス
　　粘性やや弱　しまり中



ＳＫＰ20
1　黒褐色土(10ＹＲ2/2)　粘性やや弱
　　しまり中　地山土粒多量混入
2　にぶい黄褐色(10ＹＲ5/3)シラス
　　粘性やや弱　しまり中

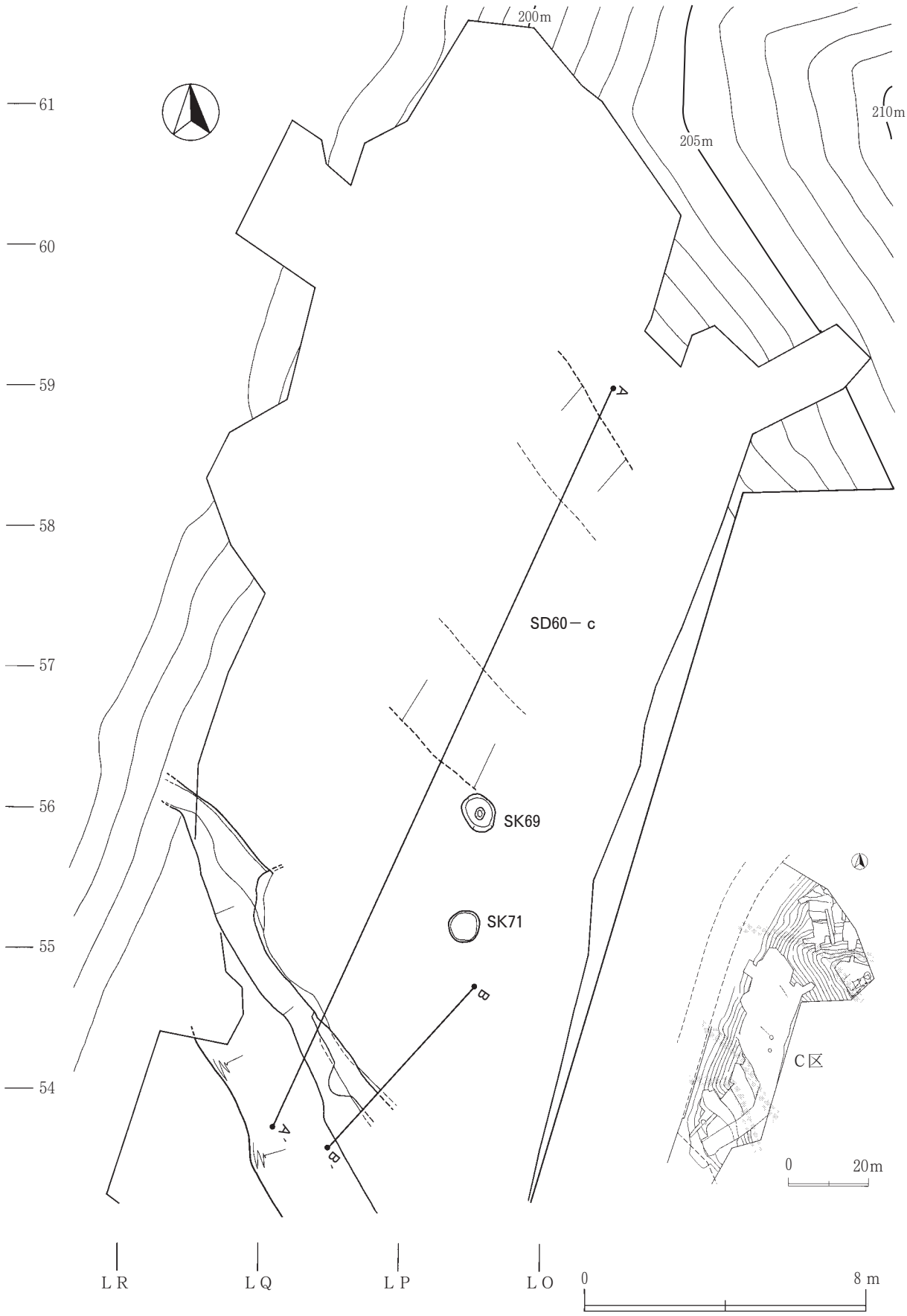


ＳＫＰ16
1　黒褐色土(10ＹＲ2/3)　粘性中
　　しまり中　地山土粒少量混入

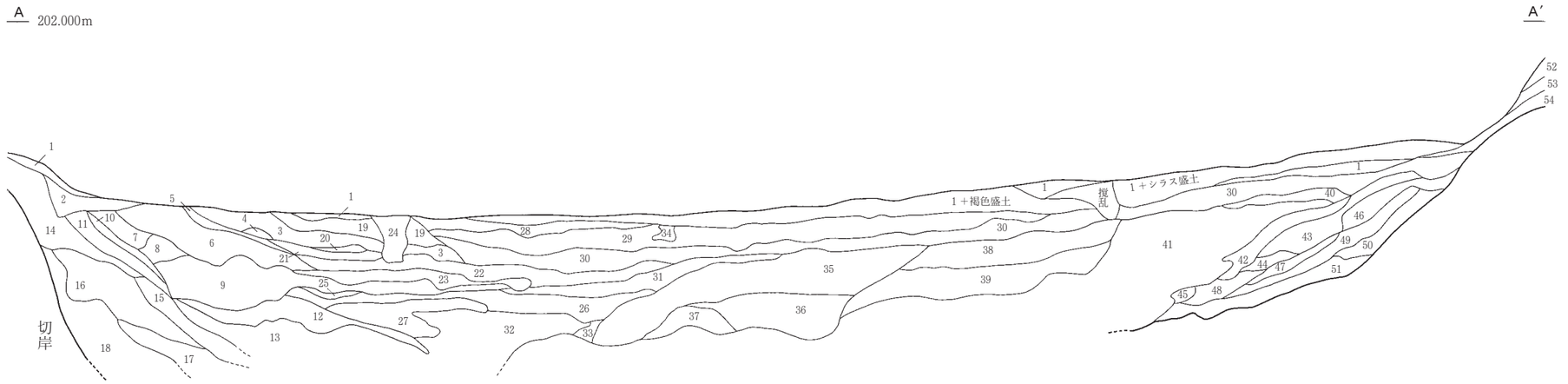


ＳＫＰ27
1　黒褐色土(10ＹＲ2/3)　粘性中
　　しまり中　地山土粒少量混入

第16図　竪穴状遺構



第17図　Ｃ区遺構配置図

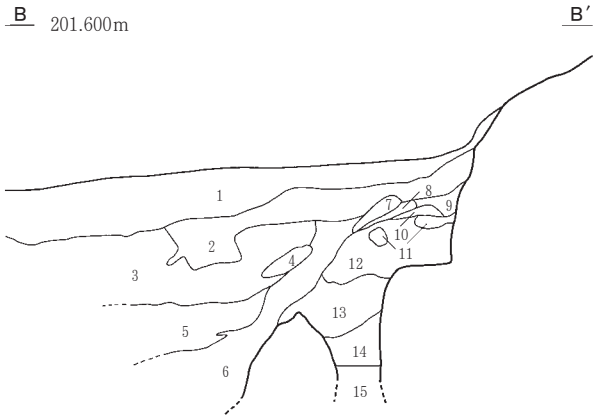


C区大断面

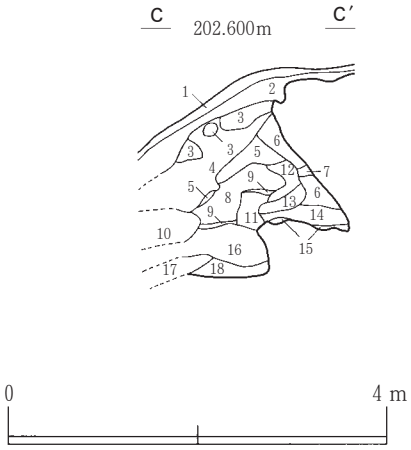
1　黒褐色土(10ＹＲ3/1)　粘性中　しまり弱
　植物根多量混入　表土(基本土層Ⅰ層)
2　黒褐色土(10ＹＲ3/2)　砂質　粘性弱　しまり中
　軽石粒多量混入
3　灰黄褐色(10ＹＲ5/2)シラス　粘性弱　しまり強
　軽石粒多量混入
4　にぶい黄褐色(10ＹＲ5/4)シラス　粘性弱　しまり弱
　軽石粒少量混入
5　灰黄褐色(10ＹＲ5/2)シラス　粘性弱　しまり弱
　軽石細粒少量混入
6　暗灰黄色(2.5Ｙ5/2)シラス　粘性弱　しまり強
　砂層・軽石層混入
7　暗灰黄色(2.5Ｙ5/2)シラス　粘性弱　しまり中
　砂・軽石塊状に含む
8　暗灰黄色(2.5Ｙ5/2)シラス　粘性弱　しまり強
　軽石粒少量混入
9　灰赤色(2.5ＹＲ5/2)シラス　粘性弱　しまり強
　軽石層(層厚３～40㎜)を挟む
10　灰黄褐色土(10ＹＲ4/2)　砂質　粘性弱　しまり弱
　軽石粒少量混入
11　暗灰黄色(2.5Ｙ5/2)シラス　粘性弱　しまり強
　軽石粒少量混入
12　黒褐色(10ＹＲ3/2)シラス　粘性強　しまり中
　軽石細礫少量混入　炭化物粒が塊状に混入
13　暗灰黄色(2.5Ｙ5/2)シラス　粘性弱　しまり強
　軽石礫少量、下位に砂と鉄分を塊状に混入
14　黄褐色(2.5ＹＲ5/3)シラス　粘性弱　しまり中
　軽石礫多量混入
15　黄褐色(2.5ＹＲ5/3)シラス　粘性弱　しまり強
　軽石礫多量混入　下方底面に鉄分が付着
16　オリーブ褐色(2.5Ｙ4/4)シラス　粘性弱　しまり強
　軽石礫多量混入
17　黒褐色(2.5Ｙ3/1)シラス　粘性強　しまり中
　軽石礫多量混入　炭化物粒が塊状に混入
18　暗灰黄色(2.5Ｙ5/2)シラス　粘性弱　しまり強
　軽石礫多量混入
19　オリーブ褐色(2.5Ｙ4/4)シラス　粘性中　しまり弱
　軽石礫多量混入
20　オリーブ褐色(2.5Ｙ4/4)シラス　粘性中　しまり中
　軽石礫少量混入
21　オリーブ褐色土(2.5Ｙ4/4)　粘性中　しまり強
　軽石粒少量混入シラス層と砂層がラミナ状に堆積
22　オリーブ褐色(2.5Ｙ4/4)シラス　粘性中　しまり強
　軽石粒少量混入　シラス層と砂層の互層
23　暗灰黄色土(2.5Ｙ5/2)　粘性中　しまり強
　軽石粒少量混入　シラス層と砂層がラミナ状に堆積
24　暗灰黄色(2.5Ｙ5/2)シラス　粘性弱　しまり中
　軽石粒多量混入　撹乱
25　黄灰色(2.5Ｙ5/1)シラス　粘性中　しまり強
　軽石粒少量混入
26　暗灰黄色(2.5Ｙ5/2)シラス　粘性中　しまり強
　軽石礫少量混入　酸化鉄が斑状にみられる
27　暗灰黄色土(2.5Ｙ5/2)　粘性中　しまり強
　軽石粒多量混入
28　暗灰黄色(2.5Ｙ4/2)シラス　粘性中　しまり中
　軽石粒少量混入
29　暗灰黄色(2.5Ｙ5/2)シラス　粘性弱　しまり強
　軽石礫多量混入
30　暗褐色(10ＹＲ3/3)シラス　粘性弱　しまり中
　軽石粒少量混入
31　灰黄褐色(10ＹＲ4/2)シラス　粘性中　しまり中
　軽石粒少量混入
32　暗灰黄色土(2.5Ｙ5/2)　粘性弱　しまり強
　軽石粒多量混入　シラス層と砂層がラミナ状に堆積
33　黄灰色(2.5Ｙ4/1)シラス　粘性中　しまり中
　軽石粒少量混入
34　黒褐色(2.5Ｙ3/2)シラス　粘性中　しまり中
　軽石粒少量混入　撹乱
35　オリーブ褐色(2.5Ｙ4/4)シラス　粘性弱　しまり強
　軽石細礫多量混入　シラス層と砂層の互層
36　暗灰黄色土(2.5Ｙ5/2)　粘性弱　しまり強
　軽石粒多量混入　砂層とラミナ状に堆積
37　暗灰黄色(2.5Ｙ5/2)シラス　粘性弱　しまり強
　軽石細礫多量混入
38　暗灰黄色(2.5Ｙ5/2)シラス　粘性弱　しまり強
　軽石粒少量、炭化物粒微量混入
39　オリーブ褐色(2.5Ｙ4/4)シラス　粘性弱　しまり強
　軽石粒多量混入
40　灰黄褐色土(10ＹＲ4/2)シラス質　粘性弱　しまり強
　シラス粒多量混入
41　暗灰黄色(2.5Ｙ5/2)シラス　粘性弱　しまり強
　砂層とラミナ状に堆積
42　暗灰黄色(2.5Ｙ4/2)シラス　粘性中　しまり中
　シラス粒多量混入
43　暗灰黄色(2.5ＹＲ4/2)シラス　粘性中　しまり中
　シラス粒多量混入　縄文遺物包含層
44　暗灰黄色土(2.5ＹＲ5/2)　粗砂　粘性弱　しまり弱
45　黒褐色土(2.5Ｙ3/1)シラス質　粘性中　しまり弱
　塊状シラス粒斑状混入
46　暗オリーブ褐色(2.5Ｙ3/3)シラス　粘性中　しまり弱
　軽石多量混入
47　暗オリーブ褐色(2.5Ｙ3/3)シラス　粘性中　しまり中
　シラス塊多量混入
48　暗オリーブ褐色(2.5Ｙ3/3)シラス　粘性中　しまり中
　シラス粒多量混入
49　黒褐色土(10ＹＲ3/2)シラス質　粘性中　しまり中
　軽石粒多量混入
50　暗灰黄色(2.5Ｙ5/2)シラス　粘性弱　しまり強
　軽石粒多量混入
51　暗灰黄色土(2.5Ｙ4/2)シラス質　粘性中　しまり中
　軽石粒多量混入、炭化物多量混入　縄文遺物包含層
52　黒褐色土(10ＹＲ3/1)　粘性中　しまり弱
　植物根多量混入　表土(基本土層Ⅰ層)
53　黒褐色土(10ＹＲ2/2)　粘性中　しまり中
54　30層と同じ

0　4 m

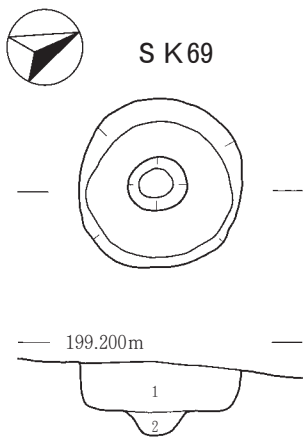
第18図　空堀（４）



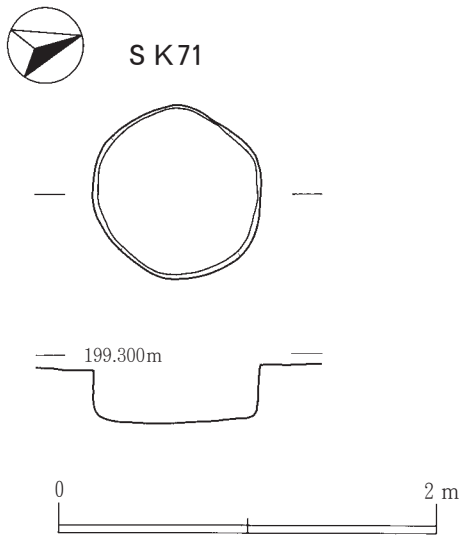
C区Ｂ－Ｂ'断面
1　盛土(範囲確認調査での埋め土)
2　暗褐色土(10Ｙ R3/3)　粘性中　しまり中
　縄文時代遺物多量に包含　上部からの流れ込み
3　にぶい黄橙色(10Ｙ R5/2)シラス　粘性弱　しまりやや強
　砂とラミナ構造を形成
4　黒色土(10Ｙ R2/1)　粘性弱　しまりやや強
　上部からの流れ込み
5　にぶい黄褐色(10Ｙ R4/3)シラス　粘性やや弱　しまり中
　砂とラミナ構造を形成
6　２層と同じ
7　灰黄褐色(10Ｙ R6/2)シラス　粘性弱　しまり強
　地山崩落に由来
8　黒色土(10Ｙ R1.7/1)　粘性弱　しまり中
9　暗褐色土(10Ｙ R3/4)　粘性中　しまり中
10　褐色土(10Ｙ R4/6)　粘性やや弱　しまり中
11　黄褐色土(10Ｙ R5/6)　粘性中　しまりやや強
　下部に砂少量混入
12　にぶい黄褐色(10Ｙ R5/3)シラス　粘性弱　しまりやや強
　暗褐色(10Ｙ R3/4)粒・褐色土(10Ｙ R4/6)粒少量混入
13　にぶい黄褐色(10Ｙ R5/4)シラス　粘性弱　しまり中
　粗砂を少量混入
14　灰黄褐色(10Ｙ R6/2)シラス　粘性弱　しまりやや強
　暗褐色(10Ｙ R3/4)粒・褐色(10Ｙ R4/6)粒少量混入
15　灰黄褐色(10Ｙ R4/2)砂　粘性弱　しまりやや弱



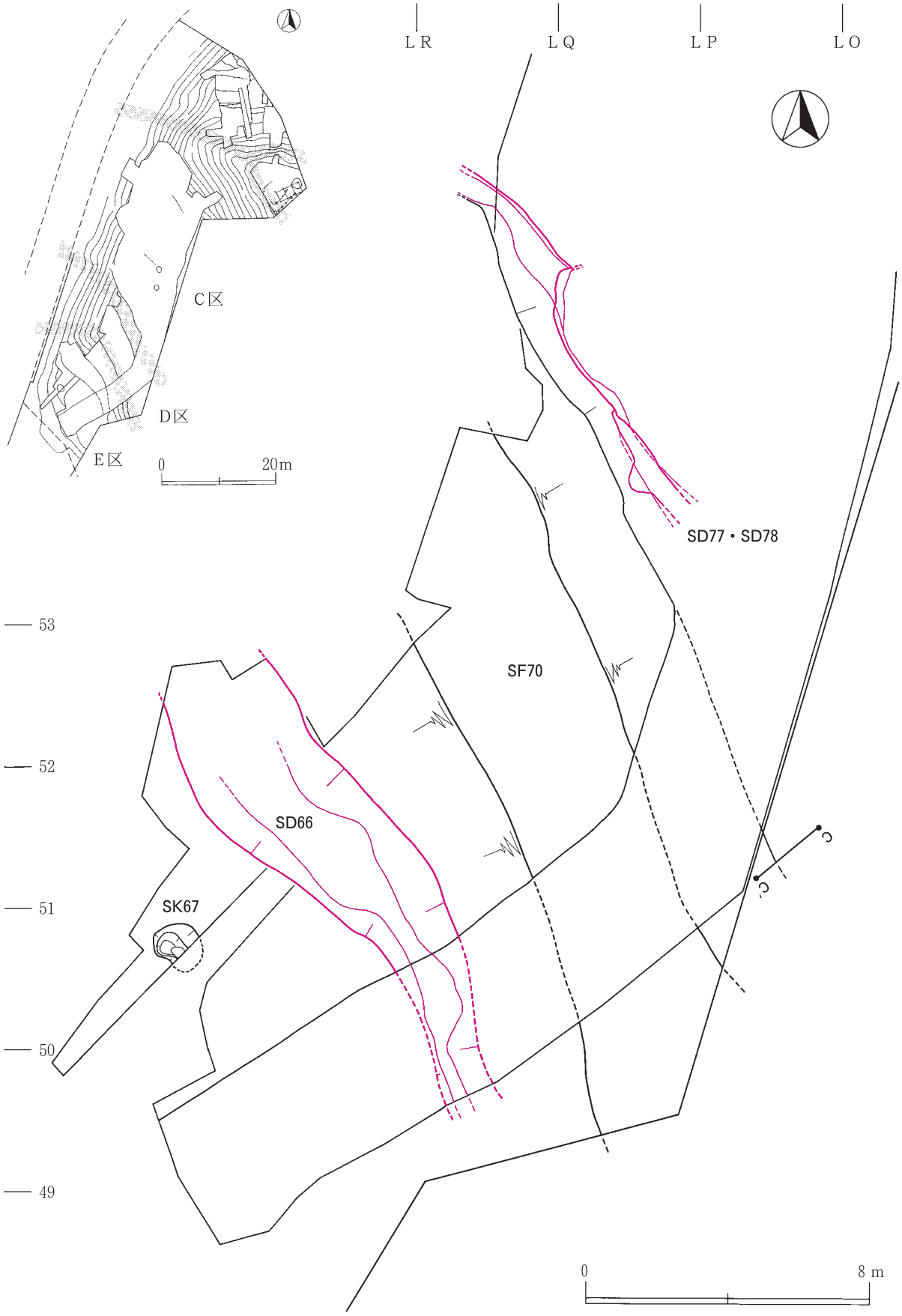
C区Ｃ－Ｃ'断面
1　黒褐色土(10Ｙ R3/1)　粘性中　しまり弱
　表土(基本土層Ｉ層)
2　褐色土(10Ｙ R4/4)　粘性やや弱　しまりやや弱
3　にぶい黄橙色(10Ｙ R6/3)シラス　粘性弱　しまり弱
4　灰黄褐色(10Ｙ R6/2)シラス　粘性やや弱　しまり中
　細礫少量混入
5　にぶい黄橙色(10Ｙ R6/3)シラス　粘性やや弱　しまり強
6　にぶい黄褐色(10Ｙ R5/3)シラス　粘性やや弱　しまり強
7　６層と同じ　粗砂多量混入
8　黒色土(10Ｙ R1.7/1)　粘性中　しまり中
9　黒色土(10Ｙ R1.7/1)　粘性中　しまり中
　黄褐色(10Ｙ R5/6)土多量混入
10　暗灰黄色(10Ｙ R5/2)砂　粘性弱　しまり中
11　灰黄色(10Ｙ R6/2)シラス　粘性やや弱　しまり強
　黒色(10Ｙ R1.7/1)土・軽石粒少量混入
12　にぶい黄褐色(10Ｙ R5/3)シラス　粘性やや弱　しまり強
　粗砂多量混入
13　黄褐色土(10Ｙ R5/6)　粘性中　しまり中
　黒色(10Ｙ R1.7/1)土少量混入
14　にぶい黄褐色(10Ｙ R5/3)シラス　粘性やや弱　しまり強
　砂とラミナ構造を形成
15　10層と同じ
16　灰黄褐色(10Ｙ R6/2)シラス　粘性やや弱　しまり強
　砂とラミナ構造を形成
17　褐灰色(10Ｙ R5/1)粗砂　粘性弱　しまりやや弱
18　灰黄褐色(10Ｙ R5/2)砂　粘性弱　しまり中



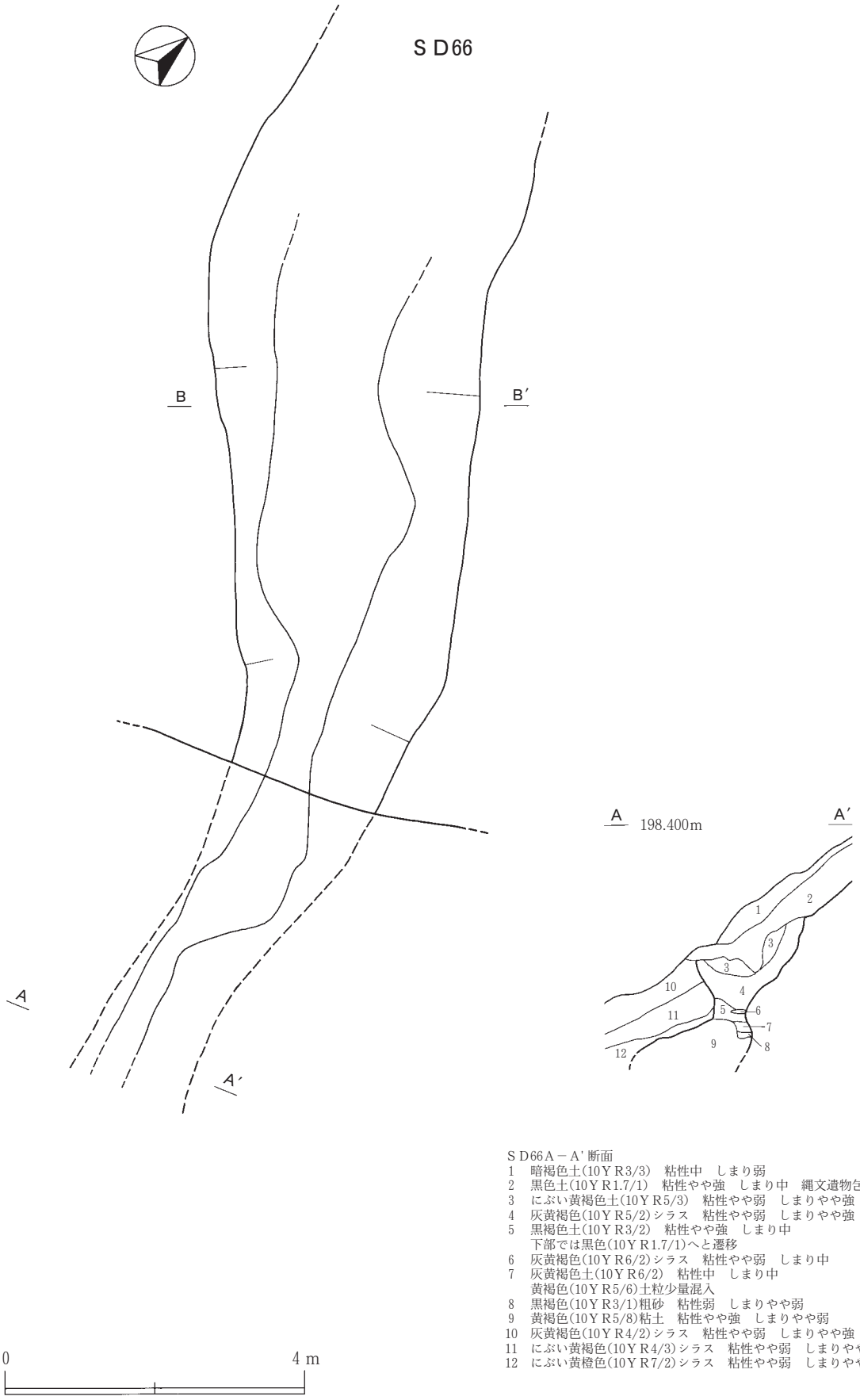
ＳＫ69
1　黒褐色土(10Ｙ R3/2)　粘性中　しまりやや強
　２層との境に焼土が薄く挟まる
2　黒褐色土(10Ｙ R3/1)　粘性中　しまりやや強



第19図　空堀（５）・土坑（２）

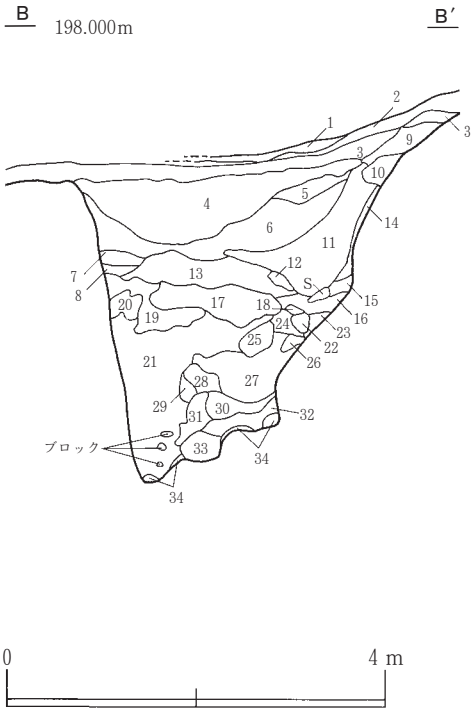


第20図　Ｃ～Ｅ区遺構配置図

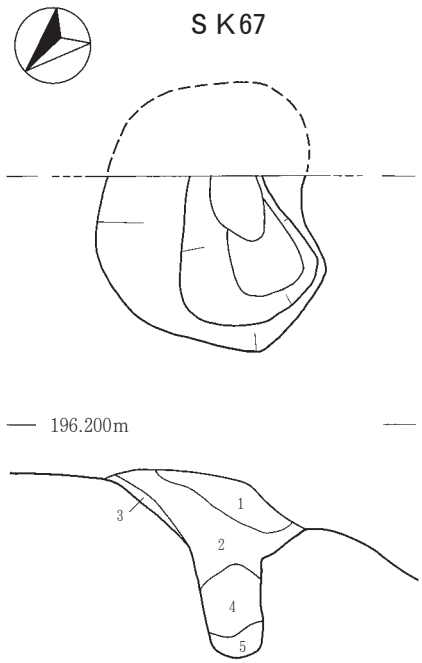


ＳＤ66Ａ－Ａ' 断面
1　暗褐色土(10Ｙ Ｒ3/3)　粘性中　しまり弱
2　黒色土(10Ｙ Ｒ1.7/1)　粘性やや強　しまり中　縄文遺物包含層
3　にぶい黄褐色土(10Ｙ Ｒ5/3)　粘性やや弱　しまりやや強
4　灰黄褐色(10Ｙ Ｒ5/2)シラス　粘性やや弱　しまりやや強
5　黒褐色土(10Ｙ Ｒ3/2)　粘性やや強　しまり中
　下部では黒色(10Ｙ Ｒ1.7/1)へと遷移
6　灰黄褐色(10Ｙ Ｒ6/2)シラス　粘性やや弱　しまり中
7　灰黄褐色土(10Ｙ Ｒ6/2)　粘性中　しまり中
　黄褐色(10Ｙ Ｒ5/6)土粒少量混入
8　黒褐色(10Ｙ Ｒ3/1)粗砂　粘性弱　しまりやや弱
9　黄褐色(10Ｙ Ｒ5/8)粘土　粘性やや強　しまりやや弱
10　灰黄褐色(10Ｙ Ｒ4/2)シラス　粘性やや弱　しまりやや強
11　にぶい黄褐色(10Ｙ Ｒ4/3)シラス　粘性やや弱　しまりやや強
12　にぶい黄橙色(10Ｙ Ｒ7/2)シラス　粘性やや弱　しまりやや強

第21図　空堀（６）



ＳＤ66Ｂ－Ｂ′断面
1　暗褐色土(10Ｙ R3/3)　粘性中　しまり弱
2　黒色土(10Ｙ R2/1)　粘性中　しまりやや弱
3　黒褐色土(10Ｙ R2/2)　粘性中　しまりやや弱
4　黒色土(10Ｙ R1.7/1)　粘性中　しまり中　縄文遺物包含層
5　黒褐色土(10Ｙ R2/3)　粘性やや強　しまりやや弱
　地山土粒多量混入
6　黒褐色土(10Ｙ R2/2)　粘性中　しまり中
　地山土粒混入
7　褐色土(10Ｙ R4/4)シラス質　粘性中　しまりやや強
8　黒褐色土(10Ｙ R2/2)　粘性やや強　しまり中
　上位で細砂が混入
9　６層と同じ
10　明黄褐色(10Ｙ R6/6)シラス　粘性中　しまり中
　黒褐色(10Ｙ R2/2)土粒少量混入
11　黒褐色土(10Ｙ R2/3)　粘性やや強　しまり中
　地山土粒多量混入
12　８層と同じ
13　黒色土(10Ｙ R1.7/1)　粘性中　しまり中
14　黒褐色土(10Ｙ R2/2)　粘性中　しまり中
　地山土粒混入
15　黒褐色土(10Ｙ R2/2)　粘性中　しまりやや弱
　地山土粒少量混入　全体に砂が混入
16　黒褐色土(10Ｙ R3/1)　粘性中　しまり中
　底部に細砂が20～30㎜の厚さで堆積
17　褐色土(10Ｙ R4/4)　粘性やや強　しまりやや強
　軽石粒少量混入
18　黒色土(10Ｙ R2/1)　粘性やや強　しまりやや強
19　黒色土(10Ｙ R2/1)　粘性やや強　しまり中
　下部で細砂と互層をなす
20　17層と同じ
21　にぶい黄褐色(10Ｙ R5/3)シラス　粘性やや弱　しまり中
　褐色(10Ｙ R4/6)土粒少量混入
22　17層と同じ
23　黒色土(10Ｙ R1.7/1)　粘性中　しまりやや強
24　黒褐色土(10Ｙ R3/1)砂質　粘性弱　しまりやや弱
25　17層と同じ
26　褐色(10Ｙ R4/6)シラス　粘性やや弱　しまり中
27　黒色土(10Ｙ R1.7/1)　粘性中　しまり中
28　黒色土(10Ｙ R2/1)　粘性やや強　しまり中
29　18層と同じ
30　黒褐色土(10Ｙ R3/1)　粘性やや強　しまり中
　黄褐色(10Ｙ R5/6)土粒多量混入
31　暗褐色土(10Ｙ R3/3)　粘性やや強　しまりやや強
32　にぶい黄褐色土(10Ｙ R4/3)　粘性中　しまりやや弱
　粗砂混入
33　黒色土(10Ｙ R1.7/1)細砂　粘性弱　しまり中
　にぶい黄橙色(10Ｙ R6/3)土粒少量混入
34　黒色土(10Ｙ R2/1)細砂　粘性弱　しまり中



ＳＫ67
1　黒色土(10Ｙ R1.7/1)　粘性やや弱　しまりやや強
　にぶい黄橙(10Ｙ R7/3)土粒多量混入
2　黒色土(10Ｙ R1.7/1)　粘性やや強　しまりやや弱
　地山土粒少量混入
3　黒褐色土(10Ｙ R2/2)　粘性中　しまり中
4　黒色(10Ｙ R1.7/1)細砂　粘性弱　しまりやや弱
5　にぶい黄橙色(10Ｙ R7/3)粗砂　粘性弱　しまりやや弱

0　2 m

第22図　空堀（７）・土坑（３）

番号	所属	平面形	長径（cm）	短径（cm）	深さ（cm）	底面標高（m）	所属	帰属建物跡等	備考	番号	所属	平面形	長径（cm）	短径（cm）	深さ（cm）	底面標高（m）	所属	帰属建物跡等	備考
SKP 2	LI59	円形	24	21	29	212.663	B区			SKP29	LJ60	円形	26	22	13	212.539	B区		
SKP 3	LI59	円形	26	(15)	21	212.738	B区		SKP 4 より旧	SKP34	LJ59	円形	24	23	27	212.520	B区	SB31	
SKP 4	LI59	楕円形	(40)	23	23	212.726	B区		SKP 3 より新	SKP35	LJ59	方形	17	15	9	212.690	B区		
SKP 6	LI59	方形	20	18	13	212.836	B区			SKP36	LJ59	方形	15	12	31	212.445	B区		
SKP 7	LJ58・59	円形	24	23	21	212.680	B区	SB31		SKP38	LI59	楕円形	(25)	17	17	212.756	B区		SKP 9 より新
SKP 8	LI58LJ58	方形	36	29	29	212.740	B区	SA30		SKP39	LJ58	円形	34	31	47	212.520	B区	SA30	
SKP 9	LI59	円形	(25)	21	20	212.735	B区		SKP38 より旧	SKP40	LI59	円形	32	31	40	212.530	B区	SA30	
SKP10	LI58	楕円形	28	23	27	212.720	B区	SA30		SKP41	LJ58	不整形	(43)	33	56	212.490	B区	SA30	
SKP11	LJ59	円形	27	25	16	212.625	B区			SKP42	LI59	方形	20	16	15	212.770	B区	SA30	
SKP14	LI59LJ59	円形	34	33	15	212.550	B区	SB31		SKP43	LI59	方形	28	22	37	212.560	B区	SA30	SKP44 より新
SKP15	LJ59	楕円形	24	19	16	212.519	B区			SKP44	LI59	不整形	(41)	31	29	212.626	B区		SKP43・74 より旧
SKP16	LJ58	方形	26	12	57	212.540	B区	SKI19		SKP45	LI59	円形	(25)	24	25	212.590	B区	SB31	SK 1 より旧
SKP17	LJ58	円形	28	24	24	212.772	B区			SKP51	LI59	円形	25	23	8	212.510	B区	SB31	SK 1 より旧
SKP18	LJ58	方形	22	17	18	212.770	B区			SKP52	LI58・59	方形	17	16	18	212.786	B区		
SKP20	LI59	方形	37	33	45	212.430	B区	SKI19		SKP53	LI58	楕円形	23	14	13	212.846	B区		
SKP21	LI59	円形	24	23	8	212.828	B区			SKP54	LJ59	円形	28	26	31	212.380	B区	SKI19	
SKP22	LI59	円形	18	17	16	212.732	B区			SKP56	LI59	楕円形	38	28	13	212.730	B区	SB31	
SKP23	LI59	円形	15	14	9	212.786	B区			SKP57	LI60	円形	24	23	26	212.610	B区		
SKP24	LI59	楕円形	18	14	10	212.762	B区			SKP63	LL64・65	円形	24	22	32	200.240	A区		
SKP25	LI59	円形	25	(17)	38	212.448	B区		SKP26 より新	SKP64	LL65	方形	23	18	52	200.020	A区		
SKP26	LI59	円形	(29)	(21)	14	212.700	B区		SKP25 より旧	SKP74	LI59	楕円形	38	27	16	212.750	B区	SB31	SKP44 より新
SKP27	LJ59	方形	18	14	21	212.750	B区	SKI19		SKP75	LJ59	楕円形	19	15	8	212.612	B区	SKI19	
SKP28	LJ60	円形	20	17	10	212.573	B区			SKP76	LJ59	方形	17	15	11	212.662	B区	SKI19	

（　　）は現存長

第２表　柱穴様ピット観察表

第３節　捨て場及び遺構外出土遺物

１．縄文時代の遺物

縄文時代の遺物は土器・石器とも、Ａ区・Ｂ区で数点を出土した他はＳＴ83捨て場（遺物包含層）を中心にＣ区ＳＤ60群、ＳＤ77、ＳＤ78、ＳＤ79、Ｅ区ＳＤ66、ＳＤ72の各空堀覆土及びその周辺で出土した。出土した縄文時代の遺物は遺物包含層および遺構への流れ込みであり、この項で一括する。

（１）土器

出土した土器はすべて破片であり、復元できたものは少ない。該当時期は早期、前期、後期～晩期にわたる。すべての土器がＳＴ83捨て場及びその周辺に流れ込んだ層からの出土のため、器形が判別可能な状態まで復元できたものは少ないが、表裏の施文の特徴によって、次のように分類を行った。

Ⅰ群　縄文時代早期の土器

貝殻腹縁文を施す土器

Ⅱ群　縄文時代前期の土器

１類　非結節原体を用いて非結束羽状縄文を施す土器

２類　押し引き文を施す土器

３類　頸部に隆帯や文様帯をもたず、外面に斜縄文を施す土器

Ａ種　内面に条痕を施す土器

Ｂ種　内面に縄文を施す土器

Ｃ種　内面無文の土器

ａ　胴部に等間隔に綾絡文を施す土器

ｂ　胴部に斜縄文を施す土器

４類　頸部に隆帯や文様帯をもたず、外面に撚糸文を施す土器

Ａ種　内面に条痕を施す土器

Ｂ種　内面に縄文を施す土器

Ｃ種　内面無文の土器

５類　結節原体を用いて非結束羽状縄文を施す土器

６類　口縁から頸部にかけて綾絡文を施す土器

Ａ種　頸部に隆帯が付随する土器

Ｂ種　頸部に隆帯が付随しない土器

７類　口縁部に羽状縄文による文様帯をもつ土器

Ａ種　頸部に隆帯が付随する土器

Ｂ種　頸部に隆帯が付随しない土器

８類　口縁部に縄文または絡条体を側面押圧し、幾何学文を形成する土器

Ａ種　水平位の縄文・絡条体押圧による平行押圧文を施す土器

Ｂ種　多方向に施す縄文・絡条体押圧による幾何学文を施す土器

９類　鋸歯形沈線文を施す土器

10類　口縁部資料
11類　胴部資料
12類　底部資料
Ⅲ群　縄文時代中期末～後期の土器
１類　口縁部資料
２類　沈線文と充填縄文を施す土器
３類　沈線文のみを施す土器
４類　櫛引文を施す土器

以下に、個々の土器群の特徴を記す。

Ⅰ群　縄文時代早期の土器（第23図Ｅ１～Ｅ４、図版17）

全て貝殻文の施された土器片である。Ｅ１は口縁片で、口唇部を箆状の器具で斜めに調整したあと貝殻腹縁文が施文されている。口縁部外面にも斜位に貝殻腹縁文が施文されている。胎土に繊維がわずかに混入しており、石英粒を多く含んだ砂の混入が見られる。早期末葉の寺の沢式～吹切沢式に比定できるものと思われる。Ｅ２は体部片であり、貝殻腹縁文が羽状に施されている。胎土に繊維は確認されなかったが、Ｅ１と同様、石英粒を多く含んだ砂の混入が見られる。Ｅ３は口縁部破片であるが、貝殻表面の肋による腹縁押し引き文であり、口縁部に対しほぼ垂直に施文している。胎土に繊維の混入はなく、砂の混入もほとんど見られない。器肉も前述の２点ほど硬くなく、柔らかい。Ｅ４はＥ３と同様の腹縁押し引き文が施されている。器肉も柔らかく、類似しているが胎土に砂とシラス粒の含有が見られる点で若干の差異がある。

Ⅱ群　縄文時代前期の土器

１類（第23図Ｅ５～Ｅ８、図版17・18）

非結節の異種原体を結束せずに羽状縄文を施しており、４点が出土した。Ｅ６～Ｅ８の３点は口縁部であるが、Ｅ６の内面には口唇部から約５㎝まで条痕が横位に施されており、その下位には指頭圧による調整痕が見られる。Ｅ７は口唇部が外に張り出し、その直下外側に棒状施文具の側面押圧による刻みが巡る。口唇部から約1.5㎝は無文帯となっている。内面は丁寧な磨き調整が施されている。Ｅ８は口唇部から全面に非結束羽状縄文が施される。波状口縁を呈し、内面調整は顕著ではない。

２類（第23図Ｅ９、図版17）

口縁部破片１点を確認した。外面に、棒状の施文具による押し引き文が口縁に対し平行及び垂直に施されている。施文後に指頭圧によって口唇部が成形されている。

３類

胴部一面に斜縄文のみを施す土器を一括した。いずれも繊維及び砂を含み、焼成はやや不良である。内面状態をもとにＡ・Ｂ・Ｃの３種に分類した。Ｃ種は胴部に２条１組の結節回転文が施されるものが顕著に見られ、この種をＣ種ａ、施されないものをＣ種ｂと細分した。

３類Ａ種　内面に条痕文を施す土器（第24図～第26図Ｅ28、図版17～20）

口縁部または胴部破片が出土した。器形が判断できる個体は少ないが、Ｅ10及びＥ18は尖底深鉢形もしくは口径に比し底径が著しく小さい形態の土器であり、Ｅ24及びＥ25はほぼ円筒深鉢形を成すものと考えられる。尖底形と推定されるＥ10・Ｅ18は内面条痕が主に縦横に施されているのに対し、Ｅ24・Ｅ25は斜位の条痕が主に施されている。

３類Ｂ種　内面に縄文を施す土器（第26図Ｅ29、図版20）

口縁部破片１点を確認した。内・外面ともやや太めのＬＲ縄文が施され、口唇部は原体末端と側面の押捺による施文が見られる。

３類Ｃ種ａ（第27図、図版21）

外面に斜縄文を施文した後、１条ないし２条１組の綾絡文が等間隔に複数施された土器である。Ｅ30は尖底深鉢形を成し、２条１組の綾絡文がほぼ等間隔で５組施文されている。外面の地文はＲＬ縄文だが、一部にＲℓ撚糸文が施されている。内面の調整は粗い。

３類Ｃ種ｂ（第28・29図、図版21～23）

器形がわかる土器は３点（Ｅ37・Ｅ38・Ｅ43）あり、Ｅ37・Ｅ38は尖底深鉢形、Ｅ43は円筒深鉢形である。Ｅ37は器高約10㎝の小形の尖底深鉢形である。ＬＲ単節縄文を施した後、縦位に沈線を施している。口縁は微細な波状口縁となっている。胎土には繊維を多めに含むほか、石英、雲母片等の鉱物粒混じりの粗砂を含有する。Ｅ38は内面にナデ痕が見られる。胎土には繊維のみならず細礫を多量に含み、石英、雲母等の鉱物粒も顕著である。口縁に向かい開いた器形が想定できる破片がほとんどであるが、円筒形と想定可能な土器も見られる（Ｅ41・Ｅ43）。Ｅ43は小形・粗製の円筒深鉢形土器で、胴部外面にＲＬ単節縄文が施されている。

４類

全面に撚糸文が施文された土器は、内面施文の有無及び種類により、内面条痕文のＡ種、内面縄文のＢ種、内面無文のＣ種の３項目に分類する。Ａ・Ｂ種は胎土及び焼成等に明確な差異が確認できないが、Ｃ種は胎土及び焼成の違いにより２つに細分した。

４類Ａ種（第30～34図、図版23～27）

内面に条痕文が施された土器を一括した。Ｅ48は本種において唯一復元できた尖底深鉢形土器である。口縁部では細く条間の広いＲℓ撚糸文が施されており、胴部にはＲℓ撚糸文を主に施すとともにＬＲ縄文を口縁直下を中心に部分的に施されている。内面条痕は口縁付近に横位に施されている。

４類Ｂ種（第35図、図版28）

口縁片１点（Ｅ77）、底部片１点（Ｅ84）の他は胴部破片である。Ｅ77は口縁部に沿うように、内面にＲℓ撚糸文が施される。Ｅ83では原体の側面押捺が見られる。

４類Ｃ種（第36～41図、図版28～34）

焼成などによって２つに細分される。

ａ：全体的に茶褐色～黒色を呈し、内面調整はやや粗く凹凸が目立つ。胎土には鉱物粒や粗砂を含有する。絡条体の条間は狭く、比較的多くの方向から施文される土器。

ｂ：全体的に灰白色を呈し、内面調整が丁寧に施されており器厚がほぼ均一である。絡条体の条間が広く、ほぼ同一方向かもしくは格子目状に施文される土器。

三ヶ田館跡で出土した撚糸文土器のほとんどは４類Ｃ種ａの土器であり、４類Ｃ種ｂのものは少な

い。第36図Ｅ85・Ｅ86はともに尖底深鉢形と想定する土器である。Ｅ85はＬｒ絡条体の回転方向が一定せず多方向から施文されているのに対し、Ｅ86は密に巻かれたＬｒ絡条体がほぼ一定方向で施文されている。Ｅ113は尖底深鉢形土器の底部破片である。Ｌｒ撚糸文が多方向から施文されている。Ｅ114は丸底深鉢形土器の底部である。Ｌｒ撚糸文が胴部ではほぼ２方向から回転施文され、底部は多方向から施文調整されている。Ｅ115は条間が広く、Ｒℓ撚糸文が施された４類Ｃ種ｂの土器であるが、土器底部の内外面ともに胴部と同じ絡条体が施文されている。胴部内面は丁寧にナデ調整が行われており、平滑である。

５類（第42・43図、図版34・35）

２種の結節縄文原体による非結束羽状縄文が施文された土器であるが、原体の境界を擦り消し調整している。Ｅ130とＥ131は同一個体と考えられる。口縁部に綾絡文が施されており、６類の特徴を併せもつが、５類とした。Ｅ132は口唇部に刺突文が施されているほか、外面口唇部直下に１条の隆帯が巡る。Ｅ133は波状口縁の一部である。

６類

口縁部文様帯装飾として所謂綾絡文を施した土器を本類とする。隆帯の有無により、付随するＡ種と、付随しないＢ種とに細分する。絡条体を使用したと思われる文様を瓦葺状撚糸文、結節原体を使用した文様を結節回転文として、土器観察表では記載する。

６類Ａ種（第44・45図、図版37・38）

隆帯を貼り付けた土器は、隆帯直下で破損するものが多いため、全体の文様を確認できる個体は少ない。隆帯を挟む状態で口縁部が広く確認できた土器は多くが隆帯の上・下位に瓦葺状撚糸文が施文されており、隆帯の上下の文様が異なるものは少ない。Ｅ138は１条の隆帯を巡らしたあと、上・下位に綾絡文を施文している。綾絡文の下位にはＬｒ撚糸文が縦位に施されている。Ｅ156は口唇部直下に隆帯が貼り付けられ、口唇部と隆帯上に棒状工具による押捺が施されている。隆帯下位には綾絡文が施文されている。ここでの綾絡文はほとんど撚りを伴わない、繊維束に結び目を加えた原体を回転施文している。最下部に地文としてＬＲＬ複節斜縄文が施文されている。

６類Ｂ種（第46・47・54図Ｅ244、図版35～37・46）

本種では、口縁部文様帯と胴部との間に区画帯などは認められないが、Ｅ168では文様帯を上下二分するように絡条体の側面押捺による頸部装飾が施される。口縁部に綾絡文が施文され、胴部の文様には斜縄文（Ｅ159・Ｅ160・Ｅ162・Ｅ163）、羽状縄文（Ｅ161）、撚糸文（Ｅ164～Ｅ170）、組紐文（Ｅ173～Ｅ175）と、各種にわたる。瓦葺状撚糸文は、その条の数が10条以下がほとんどであるが、幅広く施文されるもの（Ｅ159・Ｅ161・Ｅ172）も見られる。Ｅ161では羽状縄文の下位にさらに口縁と同じ綾絡文が施文されている。

７類

口縁部に結束羽状縄文をもつ土器を本類とした。６類と同様、隆帯の有無により、Ａ・Ｂの２種に細分した。

７類Ａ種（第48図Ｅ181、図版39）

隆帯が施された土器を本種としたが、結束羽状縄文が施文される本類で明確な隆帯が確認できたのはＥ181の１点のみである。口縁部には結束した原体で羽状縄文を施文する。２条の隆帯は地文が施

された後で貼り付けられたもので、頂部には棒状施文具先端部で押捺がされている。内面にはナデ調整が施され、平滑である。

７類Ｂ種（第48図Ｅ180・Ｅ182、第49～50図、図版39～42）

隆帯が付随しない本種は、地文が施された後に絡条体の側面押捺や爪形文等により頸部に区画帯が施された土器がほとんどである。最も多く確認された施文形態は、単節もしくは複節羽状縄文施文後に原体、絡条体、刺突等を加えて全体を調整したものである（Ｅ183～Ｅ190）。Ｅ180は口縁部～胴部上半において、結束羽状縄文が回転方向を変えて施されており、原体がＸ字形に施文される箇所が見られる。胴部下半はＬＲＬ複節の斜縄文が施される。Ｅ191は区画帯が無く、地文のみの円筒深鉢形土器である。Ｅ199は単節羽状縄文が縦方向に施文され、頸部にはＬｒとＲℓの縄文原体が側面押捺されている。

８類

縄文原体もしくは絡条体の側面押捺により、口縁部に幾何学文を施す土器を本類とした。文様の構成により、水平位にのみ平行押捺が施されたＡ種、斜位もしくは曲線の押捺により、より複雑な幾何学文が施されたＢ種に細分した。胴部地文が判明したものはほとんどが結束羽状縄文である（Ｅ200・Ｅ206・Ｅ207・Ｅ210・Ｅ216）。

８類Ａ種（第51図Ｅ200～Ｅ202、図版41・43）

本類の形態が推測できる個体が少なく、３点のみ掲載した。Ｅ200・Ｅ201ともに口縁部幾何学文と胴部地文との境に明確な隆帯をもち、隆帯頂部にはＥ200は鋸歯状に、Ｅ201は斜位に原体側面押捺が施されている。Ｅ202は微隆帯が施されており、その上下と頂部にＲＬ縄文原体の側面押捺が施されている。

８類Ｂ種（第51図Ｅ203～第53図Ｅ228、図版41～45）

Ａ種と同様、ほとんどが口縁部破片であるが、器形が推定できる個体を数点掲載した。Ｅ206では口縁部文様帯はＬｒとＲℓの原体２種で幾何学文を構成し、区画帯に絡条体を側面押捺、胴部には縦位に結束羽状縄文を施している。Ｅ207は胴部が膨らみ、頸部で内傾し口縁部は外反する器形をもつ。口縁部の幾何学文はＲℓ左巻単軸絡条体の側面押捺により菱形を充填するように幾重にも押捺されている。胴部地文は単節原体による結束羽状縄文が施される。Ｅ210の口縁部の幾何学文はＬｒ原体側面押捺による山形の施文である。胴部上位には単節羽状縄文が１単位施されるがその下位は多軸絡条体が回転施文される。底部外面に網代痕が残る。Ｅ216の地文は、幾何学文様帯の一部にも見ることができる。Ｅ217では口縁部の幾何学文様では横位にＲＬ原体及び幾何学文、斜位及び頸部微隆帯にＲℓ左巻き単軸絡条体とそれぞれに側面押捺が施される。胴部地文の羽状縄文は１単位のみ横位回転施文され、下半部はＲℓ原体側面押捺により格子目状に施文されている。この土器では４種の原体が使用されている。Ｅ222はＲℓ原体とＬｒ原体を１組として押捺幾何学文を構成している。

９類（第53図Ｅ229、図版45）

ＳＤ72空堀の覆土から１点のみ確認された、平底の浅鉢形土器である。口唇部直下に、棒状施文具による押し引き沈線文が鋸歯状に施文されている。胴部にはＲＬ斜縄文が施文されるが、６㎝程の施文幅を上下２段に分けて施している。大木４類に比定できる。

前述のとおり、調査区の南端部、ＳＦ70土塁及びその周囲は縄文時代の捨て場ＳＴ83と想定されるため、復元できない土器片が大量に出土した。そのほとんどが胎土に繊維を含有する土器である。全体像が推定不可能なもの、もしくは何れの類にも属しない土器片を、部位別に３類にまとめ特徴的なものを以下に記載する。

10類　口縁部（第54図Ｅ230～Ｅ243、図版45～46）

口縁部の施文には、木目状撚糸文を横位に施したもの（Ｅ230・Ｅ242）、付加条縄文によって施文されたもの（Ｅ241）、口唇に刺突等により装飾を施したもの（Ｅ231・Ｅ232・Ｅ234）などが確認できる。Ｅ235は口縁部が外反し、棒状施文具を用いて口唇部に装飾が施される。口縁部にＬＲＬ複節縄文が施されているが、間隔をあけた胴部にはＲＬ単節縄文が施文されている。Ｅ237はＬｒ無節縄文が回転施文され、その回転途中で表面に強く押捺されることで地文が形成される。Ｅ243は全体にやや太めのＬＲ縄文が施文され、原体側面押捺により頂部に装飾が施された隆帯２条が付随する。口縁部は外反するが、隆帯が付された箇所より上位の内面に表面と同一のＬＲ縄文が施されている。

11類　胴部（第55～60図、図版46～53）

胴部は、縄文が施されるもの（Ｅ245～Ｅ258）、羽状縄文が施されるもの（Ｅ264～Ｅ272）、撚糸文が施されるもの（Ｅ274・Ｅ278～Ｅ289・Ｅ291～Ｅ303）が主に確認されたが、組紐文が施されるもの（Ｅ259～Ｅ263）、多軸絡条体が施されるもの（Ｅ273・Ｅ285）、綾杉文が施されるもの（Ｅ305・Ｅ306）、半截竹管による末端押捺文が施されるもの（Ｅ304）などが小数ながら確認された。組紐文は、原体の回転押圧により施文されるもの（Ｅ259・Ｅ260・Ｅ263）と原体押捺により施文されるもの（Ｅ261・Ｅ262）の双方が見てとれる。Ｅ282はＬｒ撚糸文が多方向から回転施文された後に１方向から条痕による調整を受けている。Ｅ290はＬｒ撚糸文が横位に施された後、末端結節のＲＬ単節縄文が４㎝程度の幅で施される。Ｅ295は胴部径が数10㎝に及ぶ大形の深鉢形土器の胴部である。地文としてＬｒ撚糸文が斜位に施されるが、瓦葺状撚糸文が中央及び上端部に帯状に施されている。Ｅ296～Ｅ303の撚糸文は間隔が広く、格子状に施文されている。４類Ｃ種ｂに比定できる。

12類　底部（第61～64図、図版54）

出土した土器の中に、底部内外面に施文や網代痕を残すもの、底部に強い張り出しや上げ底をなすもの、底径が小さく胴部が外に開いていくものなどが数多く見られる。

Ⅲ群　縄文時代中期末～後期の土器

縄文中期末から後期に相当する。胎土に繊維を含まず沈線文が施された土器は38点出土した。全て破片で、復元可能なものや器形が判別できるものは出土しなかった。

１類　口縁部資料（第65図Ｅ364～Ｅ370、図版55）

Ｅ364～Ｅ366の３点は、口縁に対して平行する沈線が施文されているのみである。Ｅ366は、口縁部内面にも外面と同様の平行沈線が２条施されている。Ｅ367～Ｅ370は沈線を用いて曲線文様を施している。

２類　沈線文に、充填縄文が施された土器（第65図Ｅ371～Ｅ384、図版55）

３類　沈線文のみ施された土器（第66図Ｅ385～Ｅ400・Ｅ402、図版56）

４類　櫛引文を施す土器（第66図Ｅ401、図版56）

（２）土製品

円盤状土製品（第66図Ｅ403～Ｅ405、図版56）

土器片の周囲を円盤状に調整した３点が出土した。縄文が表面に施されており、胎土には繊維が含まれている。縄文前期にあたる製品と考えられる。

（３）石器及び石製品

出土した石器及び石製品は、石鏃、石錐、石槍、石匙、削器、掻器、石箆、三日月形石器、石核、岩偶、磨製石斧、半円状扁平打製石器、半円状扁平磨製石器、円盤状石製品、石皿、石錘、凹石、敲石、磨石の他、二次加工が施された不定形石器も多数確認された。土器と同様、捨て場及び空堀など後世の撹乱に伴って出土しており、時代を推測できるものは伴っていない。

①石鏃（第67図Ｓ１～Ｓ７、図版57）

計７点出土した。石質は１点が玉髄（Ｓ３）で、他は頁岩または硬質頁岩である。器形は、有茎のものはなく平基無茎鏃３点（Ｓ４～Ｓ６）、円基鏃２点（Ｓ１・Ｓ２）、尖基鏃１点（Ｓ７）、円基と尖基の両方の要素をあわせもつものが１点（Ｓ３）である。

②石錐（第67図Ｓ８・Ｓ9、図版57）

石錐は２点出土し、石質はいずれも頁岩である。Ｓ８は、一端が細くなる剥片に、両側・両面に二次調整を施して刃部を作り出している。Ｓ９は先端部は破損しているが、細長の剥片に二次調整を両辺・両面から施し、中央の凸部を境に刃部と持ち手を調整した大形の石錐である。

③石槍（第67図Ｓ10～第68図Ｓ14、図版57）

５点出土し、石質は頁岩または硬質頁岩である。ほぼ原形を留めているものが４点、両端を欠いた破片が１点（Ｓ14）である。有舌尖頭器形と木葉形の２種が出土した。

④石匙（第68図Ｓ15～第71図Ｓ41、図版57・58）

28点出土し、石質は頁岩もしくは硬質頁岩、黒色頁岩がほとんどである。本遺跡で出土した石匙はそのほとんどが縦形（Ｓ15～Ｓ30・Ｓ34～Ｓ37）を成し、鎌形（Ｓ31・Ｓ32）、丸形（Ｓ38・Ｓ39）、横型（Ｓ40・Ｓ41）が僅かに混じる。

⑤削器（第71図Ｓ42～第73図Ｓ54、図版59）

長軸に平行な側縁に、連続的な二次調整によって刃部を作り出した石器である。木葉形（Ｓ42）や三角形（Ｓ43、Ｓ44）などの他、本遺跡では抉入形（Ｓ48・Ｓ49・Ｓ50・Ｓ51・Ｓ52）が特徴的に出土する。

⑥掻器（第73図Ｓ55～第74図Ｓ64、図版59・60）

長軸に直交する一辺に主として片面調整による急角度の刃部を作り出した石器であり、多くは、刃部が背面側に反る。縦形のものが多いが、横形（Ｓ61）や鎌形（Ｓ60・Ｓ62）を成すものも見られる。

石質はすべて頁岩である。

⑦石箆（第74図Ｓ65～第76図、図版60・61）

平面形が撥形あるいは短冊形等の、所謂「へら」状を呈し、刃部が作り出された石器であり、断面形は凸レンズ状を呈する。両面とも細かな押圧により調整されているものがほとんどであるが、最初の剥離面を利用し、半円レンズ状の断面形を呈するもの（Ｓ67・Ｓ73・Ｓ75・Ｓ78）も出土した。石質は頁岩、または硬質頁岩である。

⑧三日月形石器（第78図Ｓ80、図版61）

ＳＦ70土塁から南に下る斜面Ⅲ層より、１点出土した。石質は硬質頁岩で、多くの剥離調整を施して意図的に三日月形を形成している。両先端は使用痕と思われる色調の薄い箇所がある。中央部は黒色が強く、さらに黒色の付着物が見られるがこの付着物について成分等は不明である。形状および大きさなどから、刺突具であると考える。

⑨石核（第78図Ｓ81、図版61）

１点出土した。黒色頁岩を母岩とし、多数の剥片が縦横から剥離された痕跡が残っている。

⑩岩偶（第77図、図版61）

ＳＦ70土塁南側斜面頂部で１点出土した。石質はシルト質凝灰岩であり、堆積粒の違いによる縞状構造が見られる。本岩偶は、これに伴う劈開面を利用し、素材の礫から表裏面と側面を研磨・調整し、肩の張った人形を形成している。表裏とも長軸線及び体部側縁に沿って線刻が施されている。体部側縁の研磨の仕方に違いが見られ、一方はやや角張った状態で削り出されているのに対し、他方は丸く研磨を受けている。線刻の方向など、多少の差異はあるが体部の表裏を示す明確な文様はもっていない。頭部は線刻に沿った彫刻が施されていた形跡がわずかながら見られるが、欠損部が多くここでも顔の向き等を決定づける特徴は確認できない。頭部から肩にかけての側面に、筋状の研磨痕が胴体平面と垂直方向に残る。丸く研磨を受けた面の左右側縁には断続した線刻が縁に沿って、これに沿って窪みや線状の刻み目が見られる。体部中央には正中線が掘り込まれているが、両面に見られる。体部下方には脚部を示すためか、横位に線刻が施されいている。その形状や線刻の方法など、所謂「肩パット形岩偶」に酷似する。「肩パット」の形態をとる明確な作り出しはなされていないが、輪郭形成の際に「怒り肩」となるように作り出している。

⑪磨製石斧（第78図Ｓ82～Ｓ84、図版61）

緑色細粒凝灰岩製の磨製石斧が３点出土した。Ｓ82は先端の一部を欠くが、両面凸型の断面形をもつ。Ｓ83は一側縁に磨りだし痕を持つ、所謂磨切磨製石斧である。Ｓ84は石器中軸線において左右非対称な形態であり、一方の縁際に最厚部があり、他片に向かって徐々に薄くなる。刃部の加工痕、使用痕は薄い側に集中して確認できる。柄と刃部とが平行となるように取り付け、斧的な使用をしたものと考えられる。いずれも石斧としては小形のものが出土している。

⑫半円状扁平打製石器（第78図Ｓ85～第79図、図版62・63）

半円状あるいは細長く、扁平もしくは断面逆三角形の礫を素材として全面もしくは一部を打ち欠いて成形し、下辺部に機能面を有している石器で、５点出土している。Ｓ87は平円の葉理凝灰岩礫に磨きをかけて全体の形を作り、その後に刃部を敲打によって形成している。Ｓ85・86・88は扁平な礫に磨きをかけた上ですべての辺縁に敲打を加え全体を成形し、その一辺を刃部として使用している。Ｓ85・86は凝灰岩、Ｓ88は板状節理が顕著に現れた安山岩を素材とする。Ｓ89は短い一側縁に抉りが入った扁平打製石器である。凝灰岩の礫を磨き、全体を粗く成形したうえで、敲打によって刃部及び抉入部を作り出している。

⑬半円状扁平磨製石器（第80図Ｓ90・Ｓ91、図版63）

Ｅ区ＳＤ66空堀の覆土から出土した。長楕円の砂岩礫を素材とし、全面を研磨しているが下縁辺を機能面としている。Ｓ91は下縁部には擦痕が、先端部には打撃痕が見られる。

⑭円盤状石製品（第80図Ｓ92、図版63）

Ｂ区ＬＪ59で出土した。粗質凝灰岩製円盤の破片である。表裏両面に同一方向の擦痕が残されている。その他に装飾を施した痕跡は残っていない。正円を成す形状で、半径約30㎜、厚さ11㎜の円盤状を呈していたと考えられるが、中心部を含めた約６割が欠損している。

⑮石皿（第80図Ｓ93、図版63）

Ｅ区ＳＤ72空堀の覆土から出土した。凝灰岩塊の表面を磨き、縁辺部に立ち上がりを残し皿状に成形している。表面に５か所の窪みが見られるほか、顕著な使用痕は認められない。

⑯石錘（第80図Ｓ94、図版63）

１点のみの出土である。安山岩の礫表面を研磨し、さらに両端に抉りを入れて全体を形成している。表裏両面に擦痕が見られる。

堅果類を加工するために用いられる礫石器は複数の機能を併せもったものが多くみられるため、体部に堅果類を固定するための凹みをもつすべての礫石器を凹石、それ以外で敲痕をもつ礫石器を敲石、磨痕のみをもつ礫石器を磨石として分類した。

⑰凹石（第81図～第82図、図版64・65）

ａ：凹みだけをもつもの（Ｓ95～Ｓ98）

ｂ：凹みと敲痕をもつもの（Ｓ99～Ｓ105）

ｃ：凹み、敲痕、磨痕をもつもの（Ｓ106）

の３類に細分した。凹みと磨痕をもつものが項目上考えることができるが、出土遺物の中に該当するものはなく、本報告では削除した。

⑱敲石（第83図、図版65・66）

体部に凹みをもたず、堅果類加工のための敲痕をもったものを敲石とした。敲石は、以下の２種に分類した。ｂは、全体に磨痕が見られる。

ａ：敲痕のみもつもの（Ｓ107・Ｓ108）

ｂ：敲痕と磨痕をもつもの（Ｓ109～Ｓ112）

⑲磨石（第84図Ｓ113～Ｓ115、図版66）

全体に肉厚な扁平円形をなし、磨痕のみが見られる礫石器を磨石とした。出土した礫石器の中では少数である。Ｓ115は、全面に磨痕が見られる。

⑳その他二次加工のある石器（第84図Ｓ116、図版66）

剥片や礫の中に、二次加工を施した石器が多数見られるが、特徴的な１点を掲載する。ほぼ正三角形の断面をもつよう、それぞれの稜から剥離を加え、先端を刃状に成形している。体部の剥離は器長軸に対し斜めに入れられ、切削面のような微細な調整は行われていない。これらの特徴から、刺突具もしくは彫器のような性格をもつものと思われる。

２．弥生時代（続縄文期）の遺物（第66図Ｅ406、図版56）

この時期に相当する土器片は１点確認した。胎土が密で焼成が良く、他の土器に比して軽い。内・外面とも磨きをかけている。表面に微細な撚糸文が横位に施されている。

３．中世以降

近世～近代と思われる陶器片が数点と銭貨、直径数㎜の漆器片がＣ区・Ｅ区の空堀群の覆土から散発的に出土した。埋め戻しの際に混入したものと思われるが、いずれも状態が良好ではない。

参考・引用文献

青森県教育委員会　『農林漁業用揮発油税財源身替農道整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書－館野遺跡－』　青森県埋蔵文化財報告書第119集　1989（平成元）年

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター　『ほ場整備（飯豊地区）事業関連遺跡発掘調査－権現前遺跡発掘調査報告書－』　岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第384集　2002（平成14）年

秋田県教育委員会　『国道103号道路改良事業に係る埋蔵文化財調査報告書Ⅶ－萩ノ台Ⅱ遺跡－』　秋田県文化財調査報告書第236集　1993（平成５）年

鈴木道之助　『図録　石器入門事典　縄文』　柏書房　1991（平成３）年

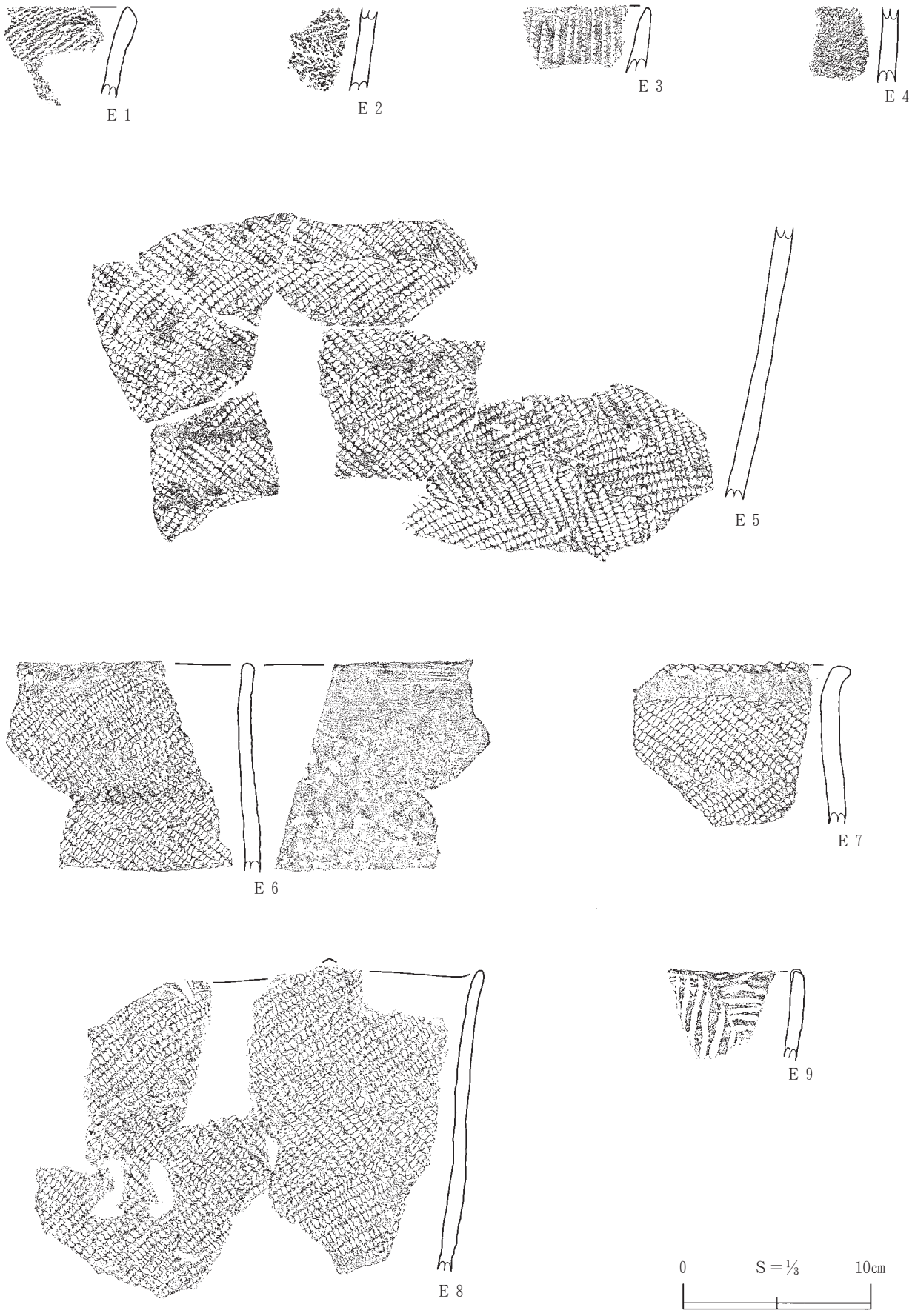
益富壽之助　『原色岩石図鑑』　保育社　1987（昭和62）年

山内清男　『日本先史土器の縄紋』　先史考古学会　1979（昭和54）年

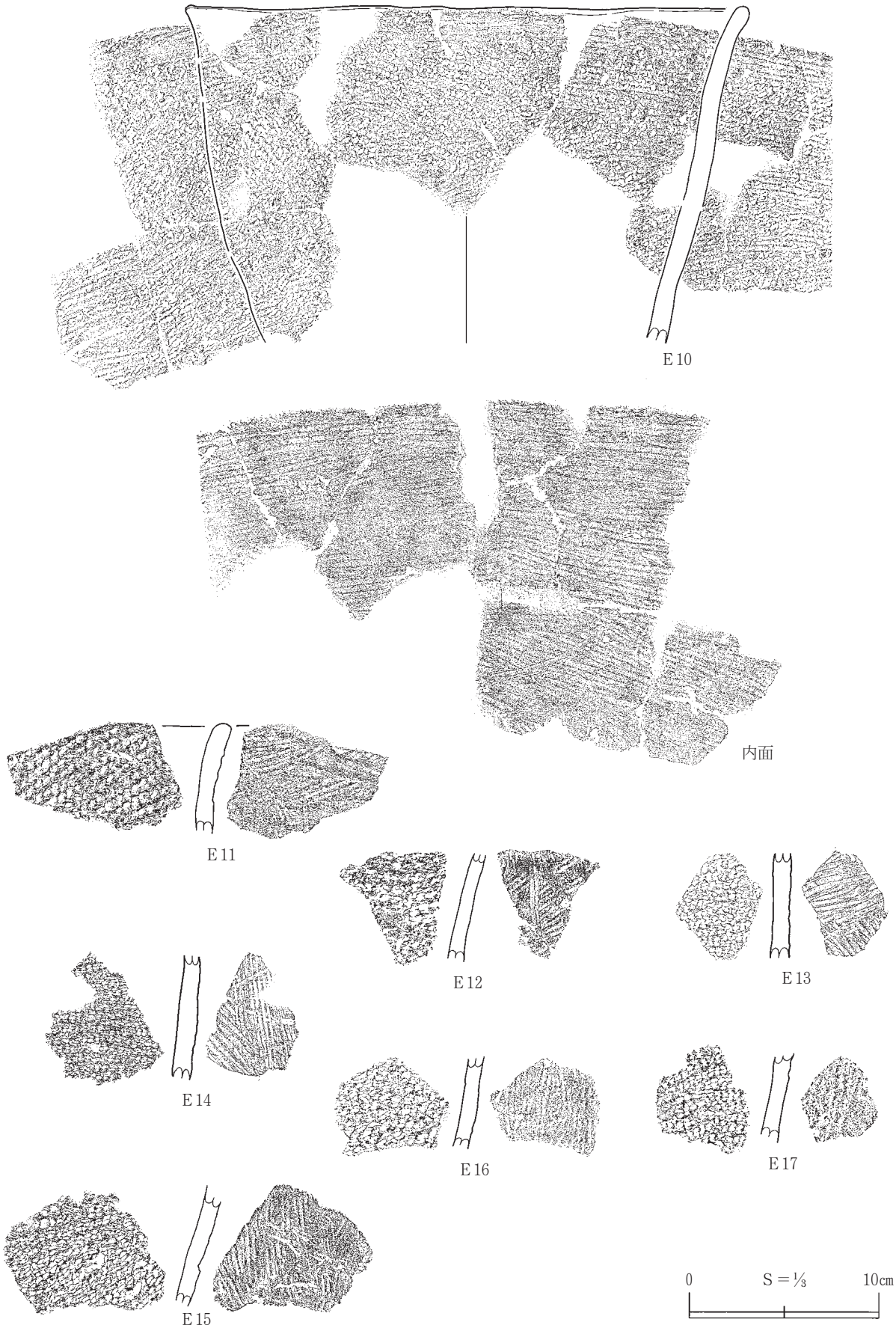
稲野裕介　「円筒土器に伴う岩偶（１）－形態と大きさについて－」　『考古学ジャーナル』№362　ニューサイエンス社　1993（平成５）年

稲野裕介　「円筒土器に伴う岩偶（２）」　『土偶研究の地平 「土偶とその情報」研究論集（１）』　「土偶とその情報」研究会　勉誠社　1997（平成９）年

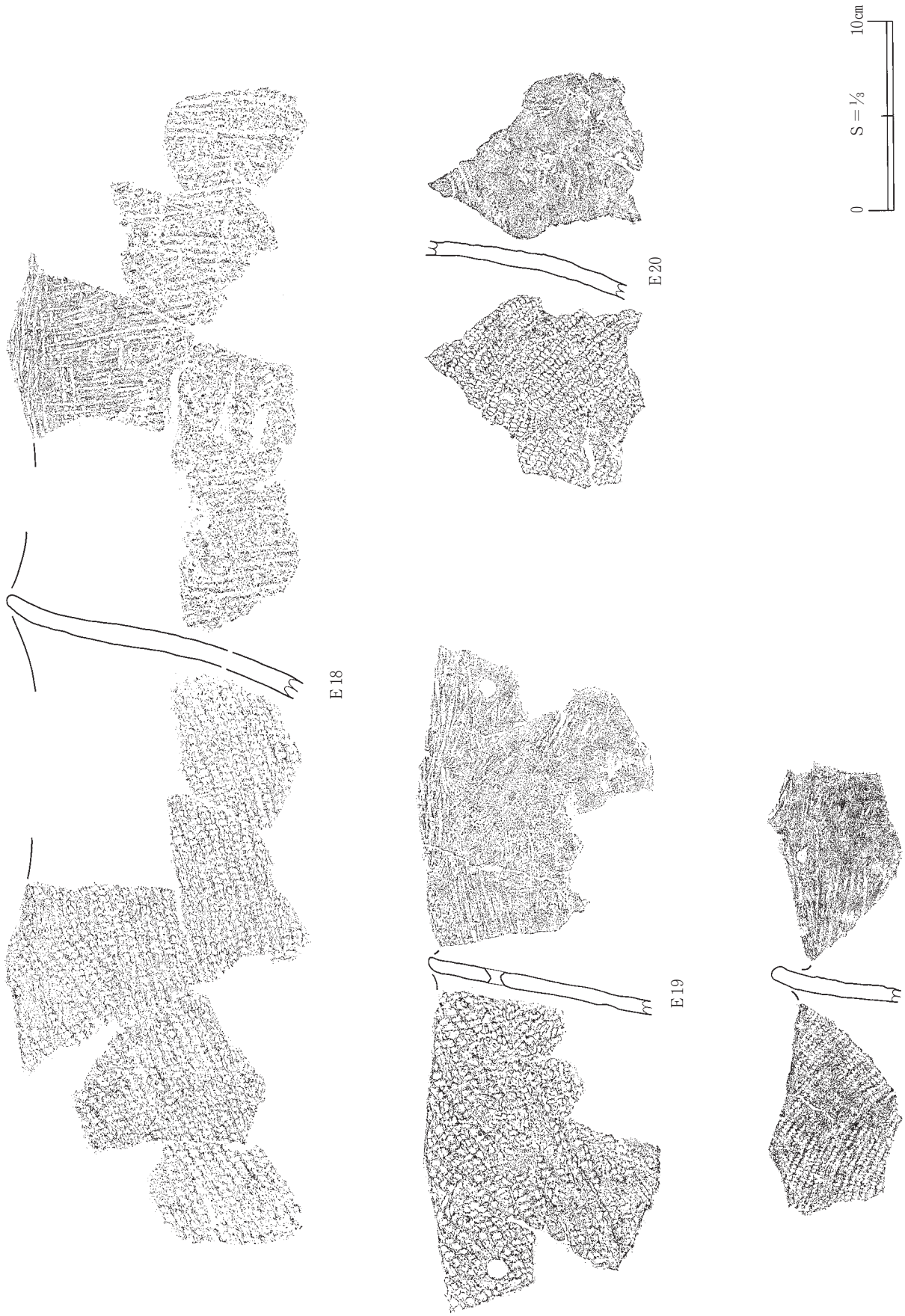
原田昌幸　「発生・出現期の土偶総論」　『土偶研究の地平 「土偶とその情報」研究論集（１）』　「土偶とその情報」研究会　勉誠社　1997（平成９）年



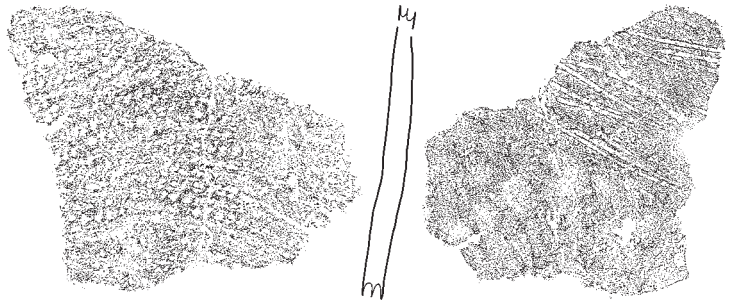
第23図　捨て場出土土器（１）



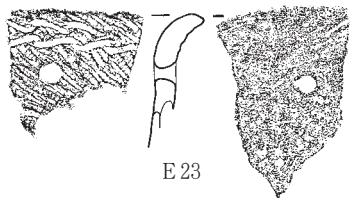
第24図　捨て場出土土器（２）



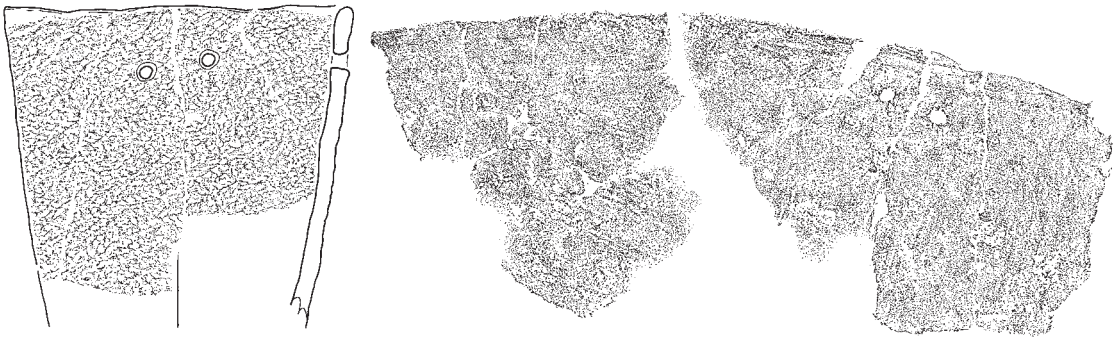
第25図　捨て場出土土器（３）



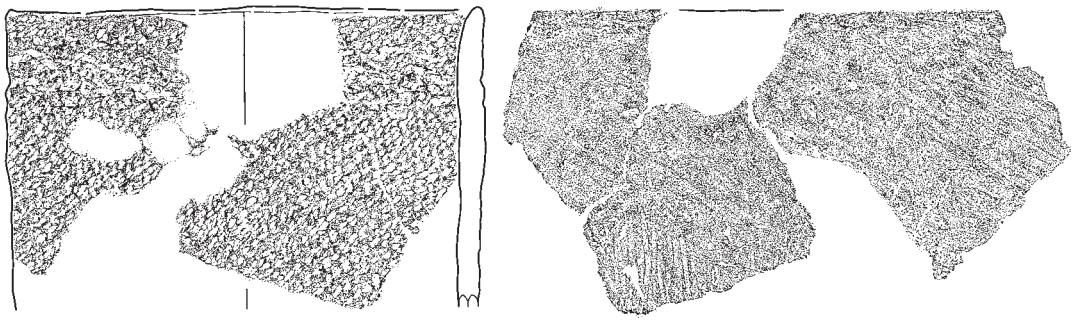
E 22



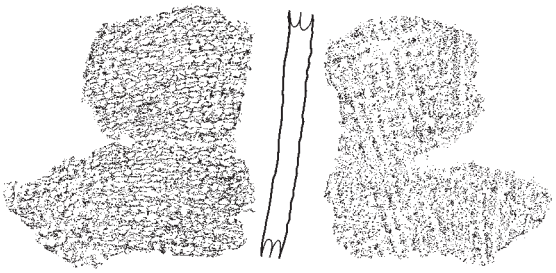
E 23



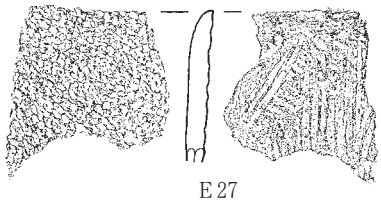
E 24



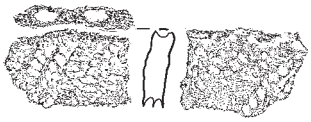
E 25



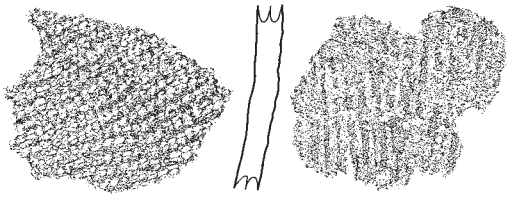
E 26



E 27



E 29

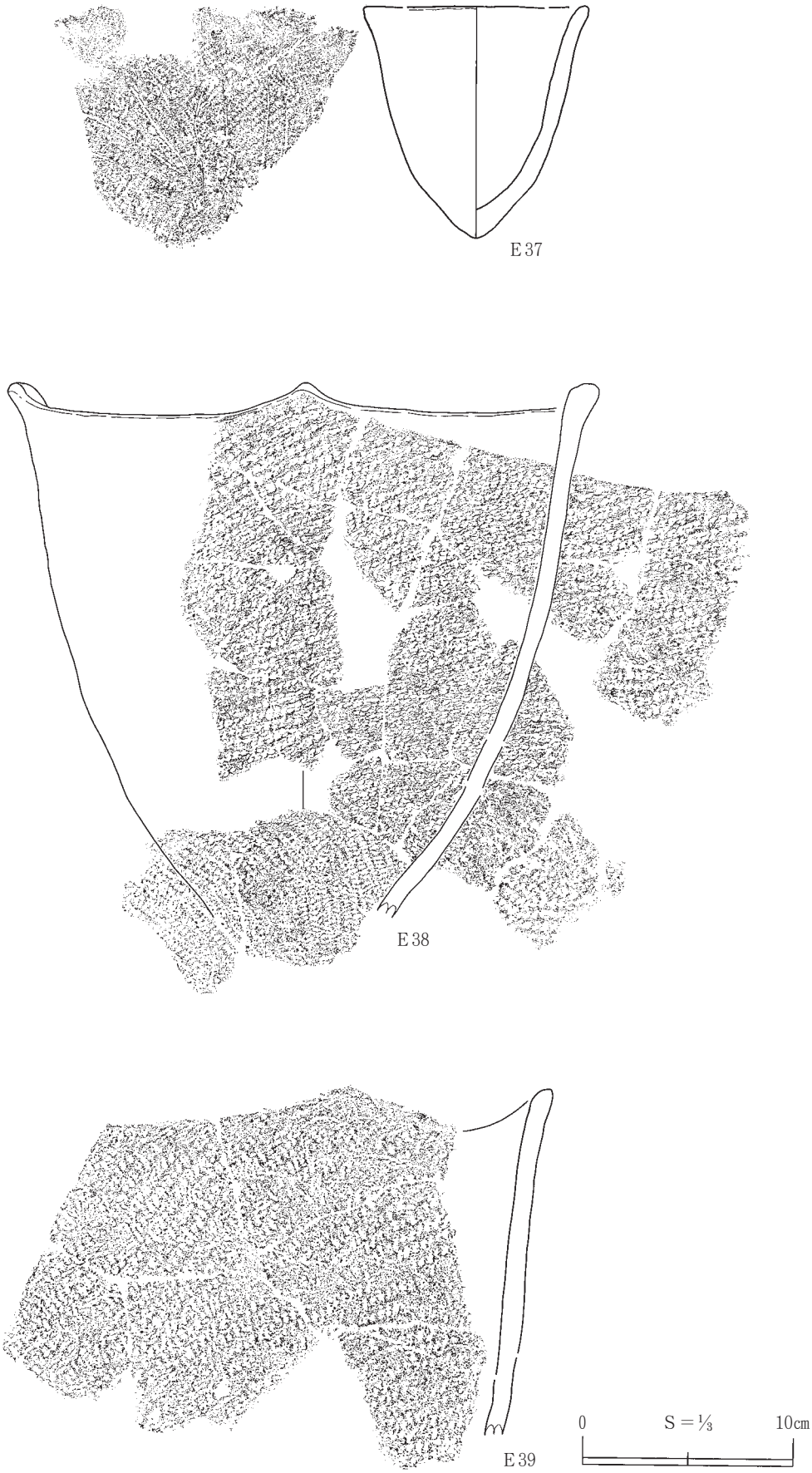


E 28

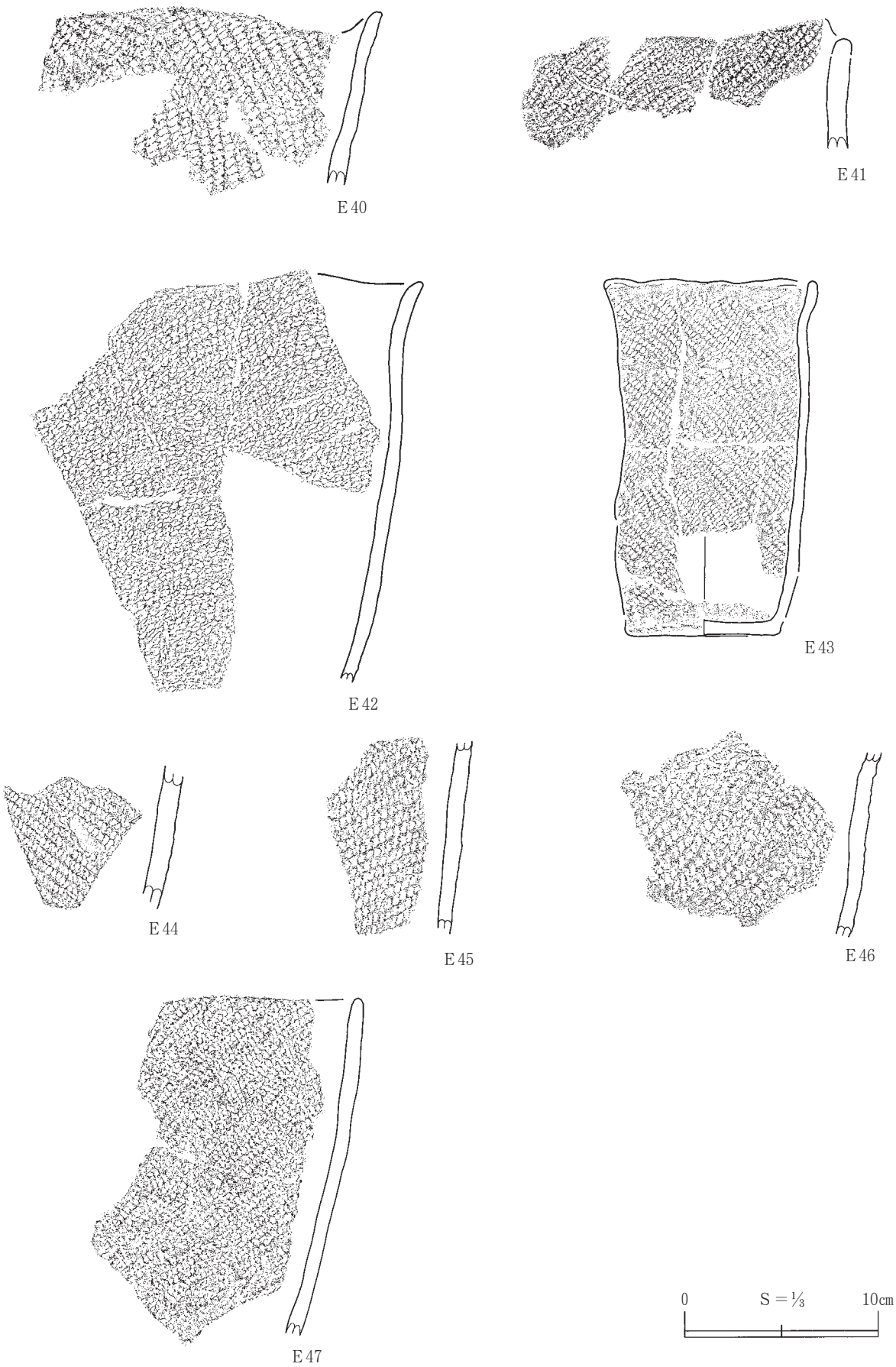
0　S＝⅓　10cm

第26図　捨て場出土土器（４）

第27図　捨て場出土土器（５）



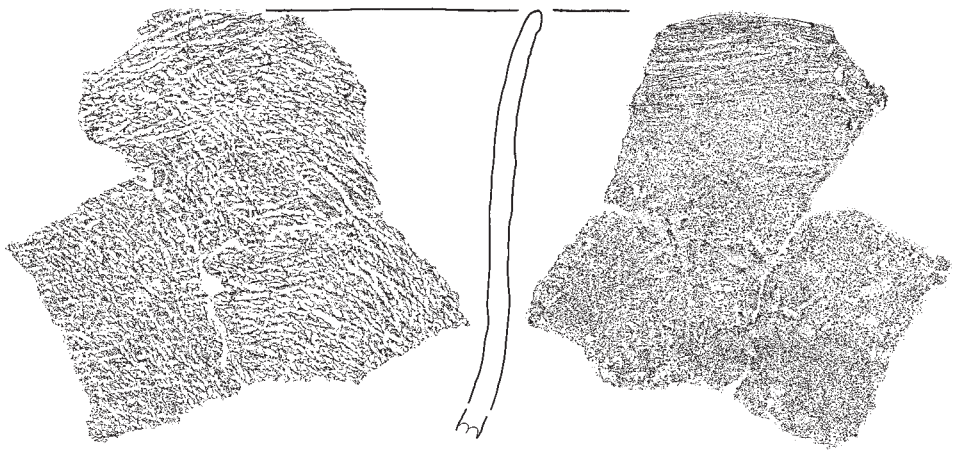
第28図　捨て場出土土器（６）



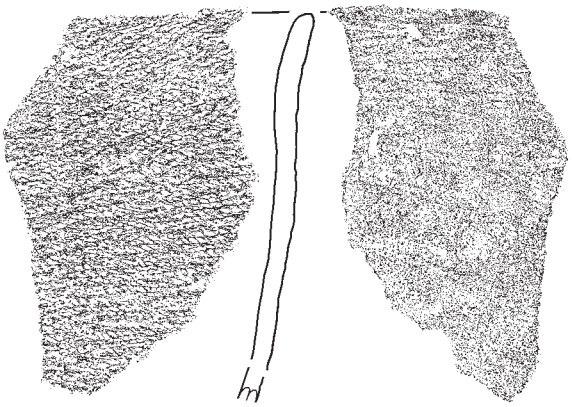
第29図　捨て場出土土器（７）

第30図　捨て場出土土器（８）

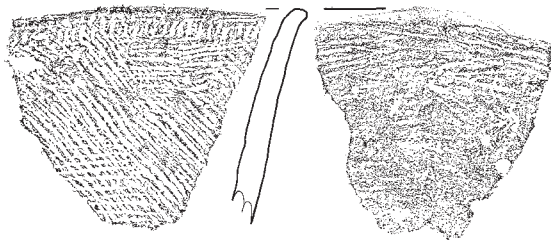
第31図　捨て場出土土器（９）



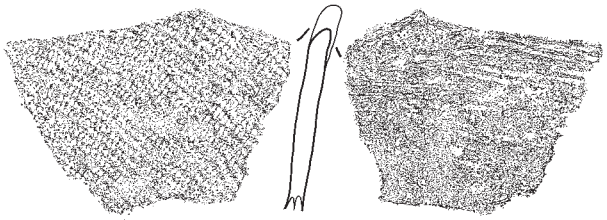
E52



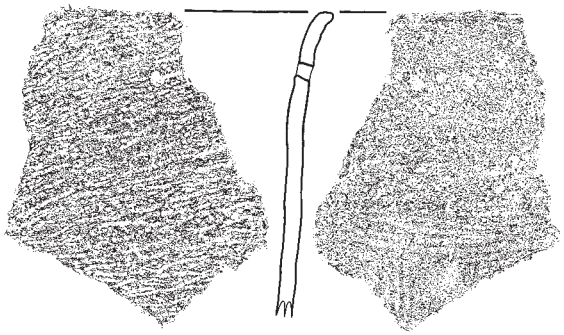
E53



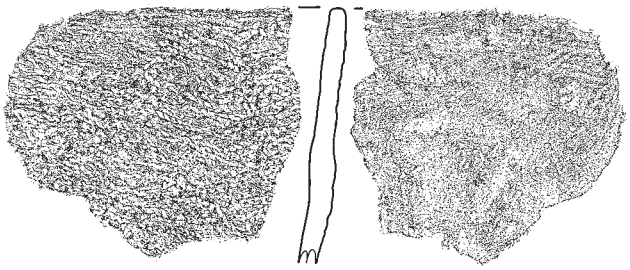
E54



E55



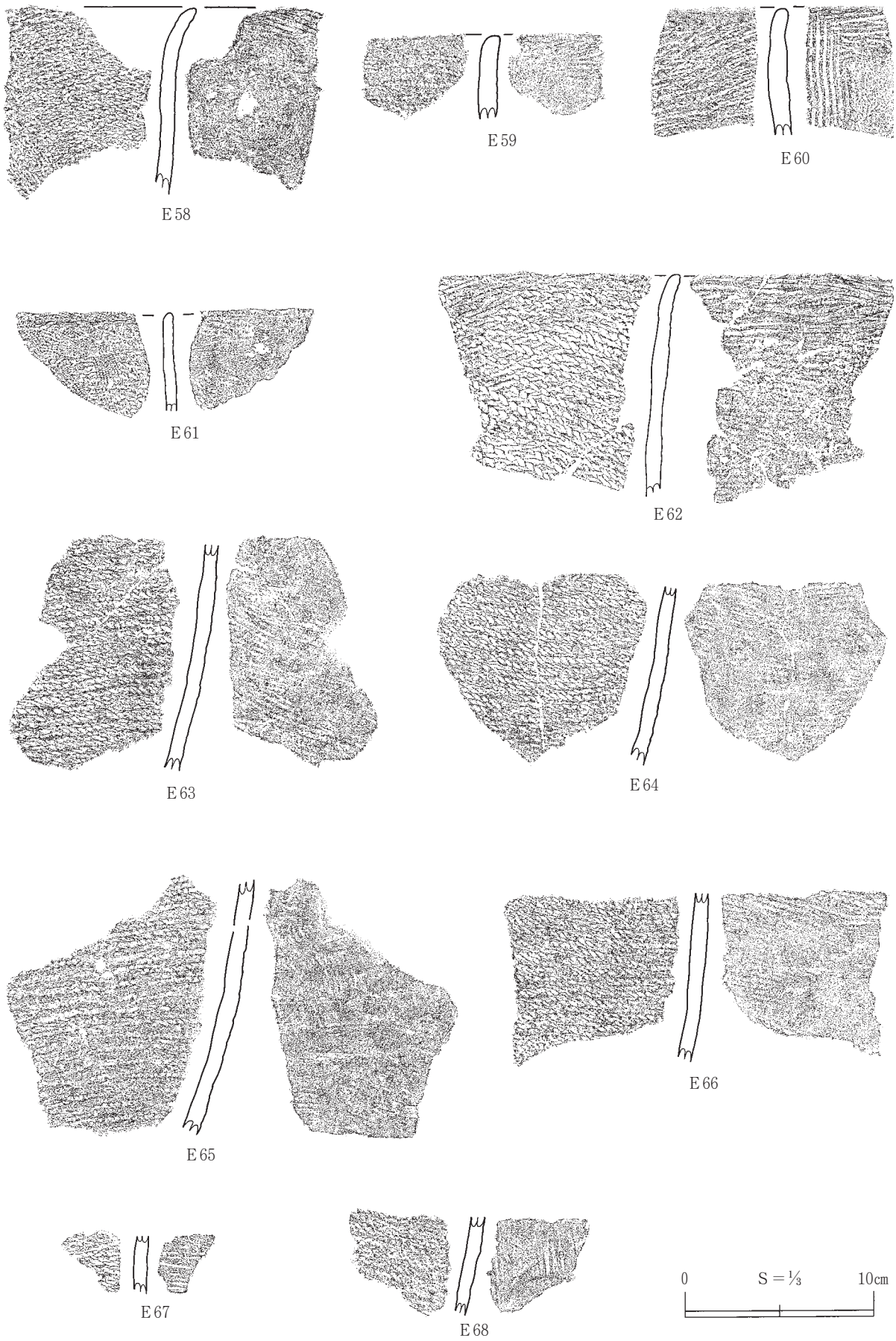
E56



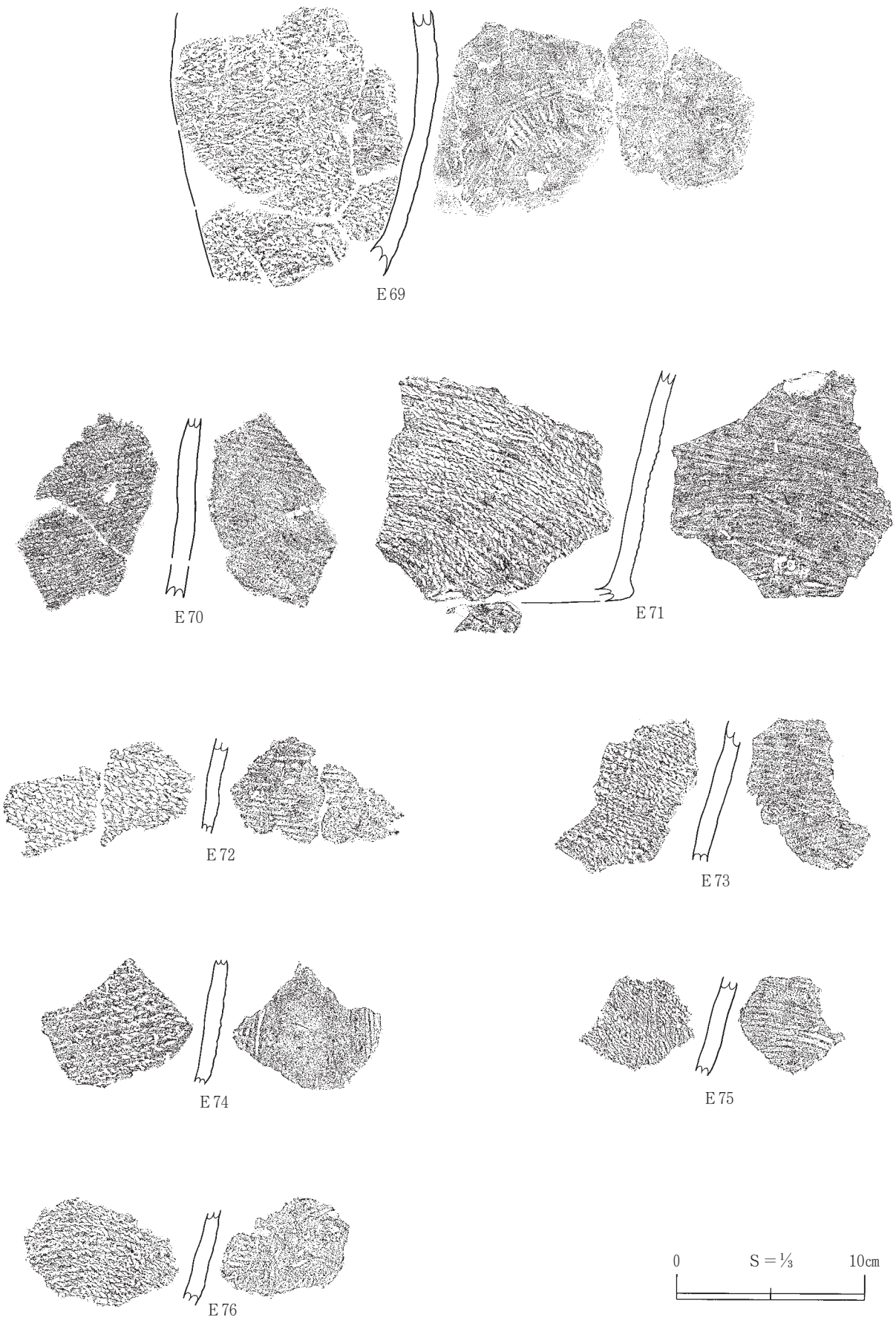
E57

0　S＝⅓　10cm

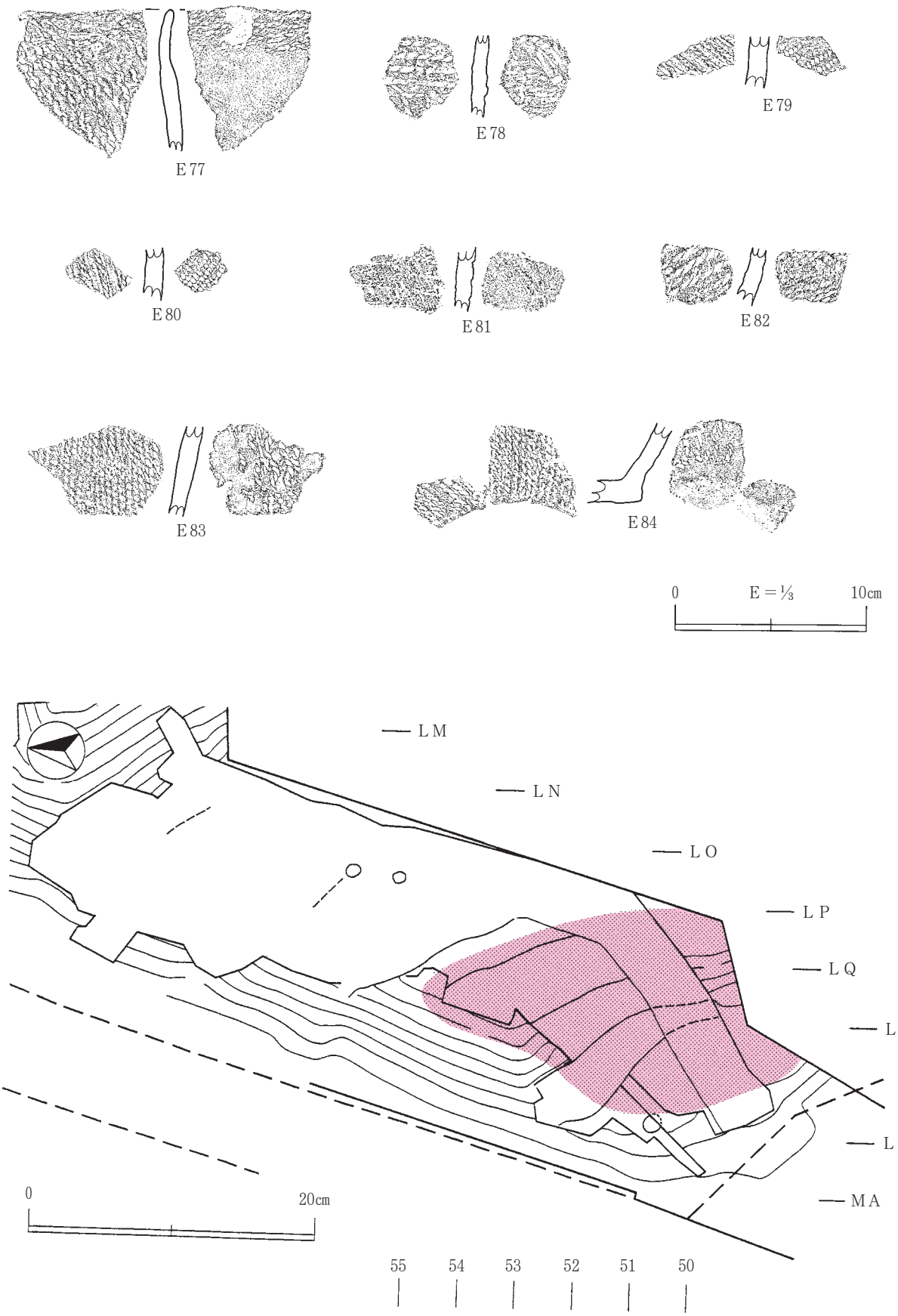
第32図　捨て場出土土器（10）



第33図　捨て場出土土器（11）

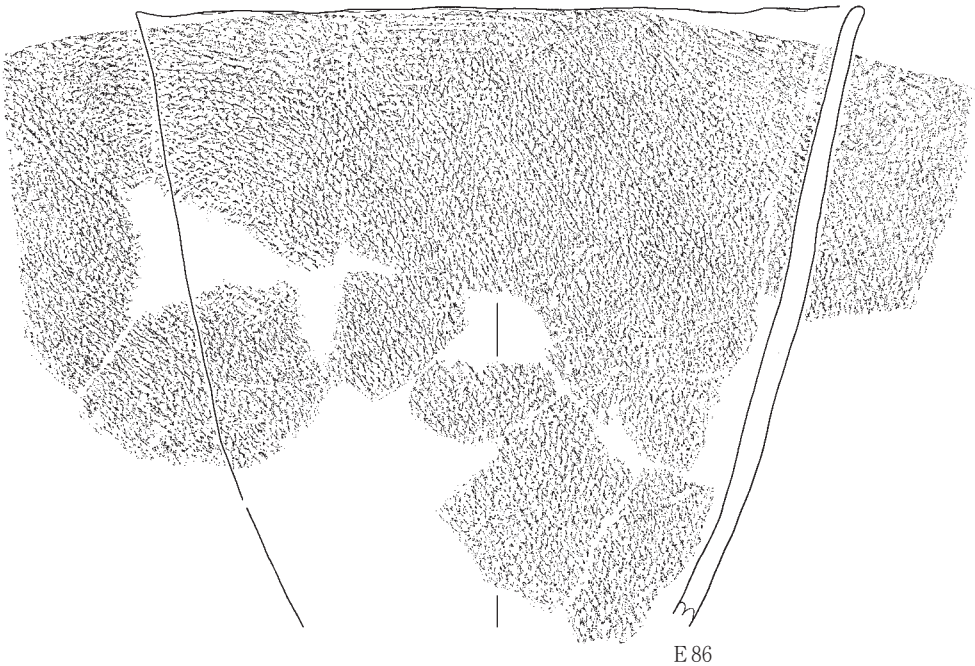


第34図　捨て場出土土器（12）

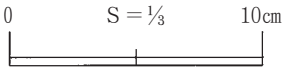


第35図　捨て場出土土器（13）及び捨て場範囲略図

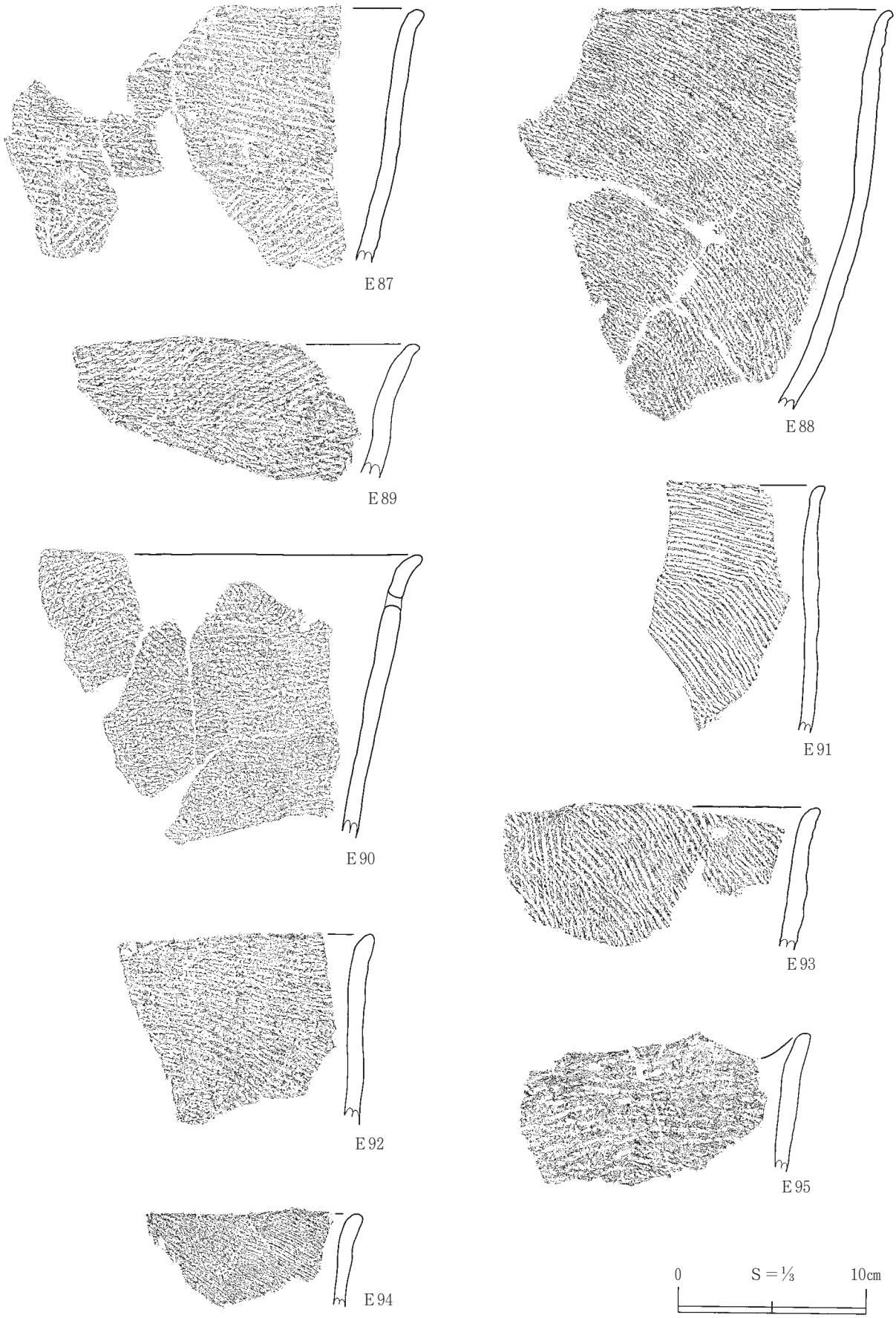
E85



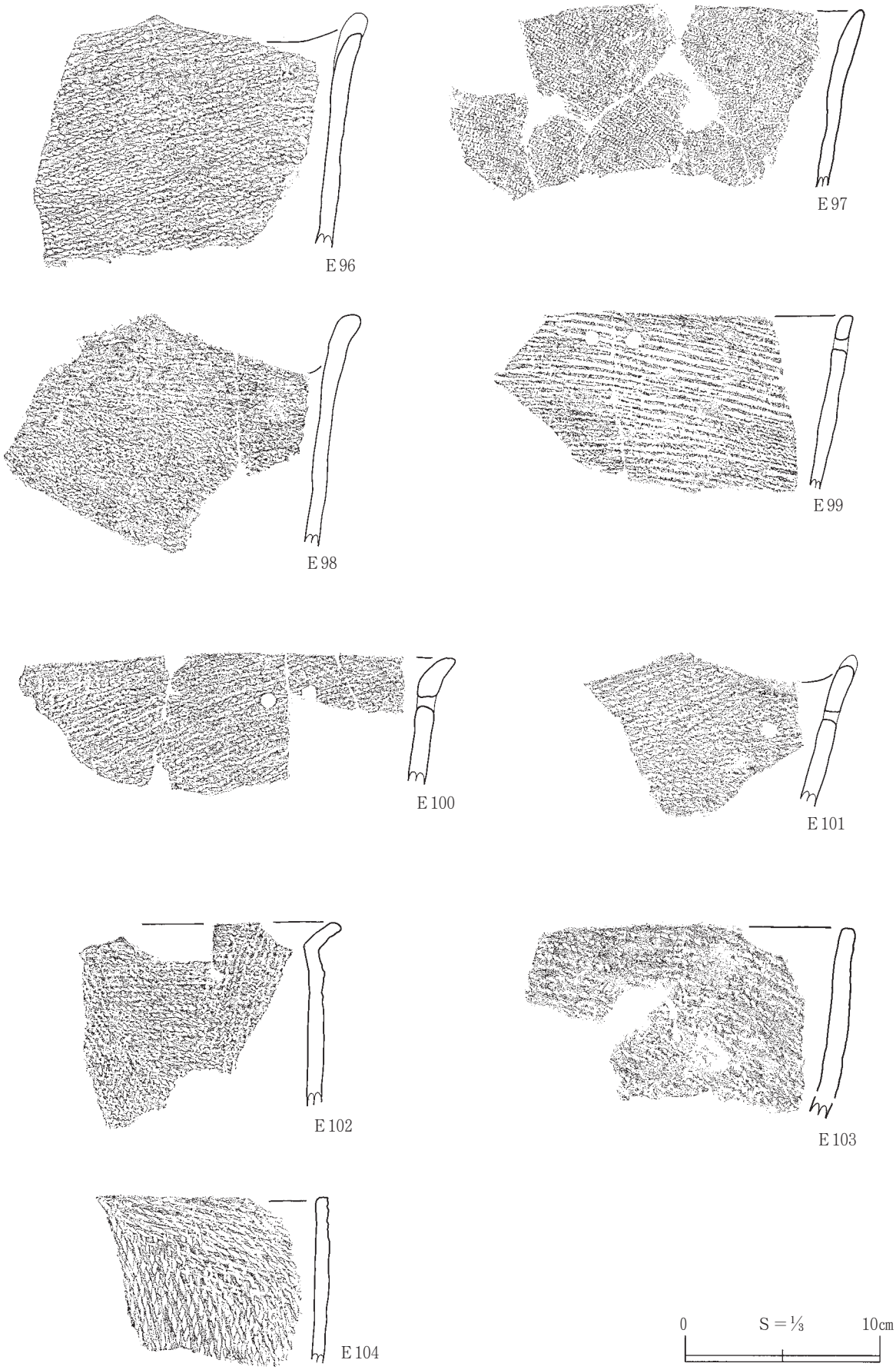
E86



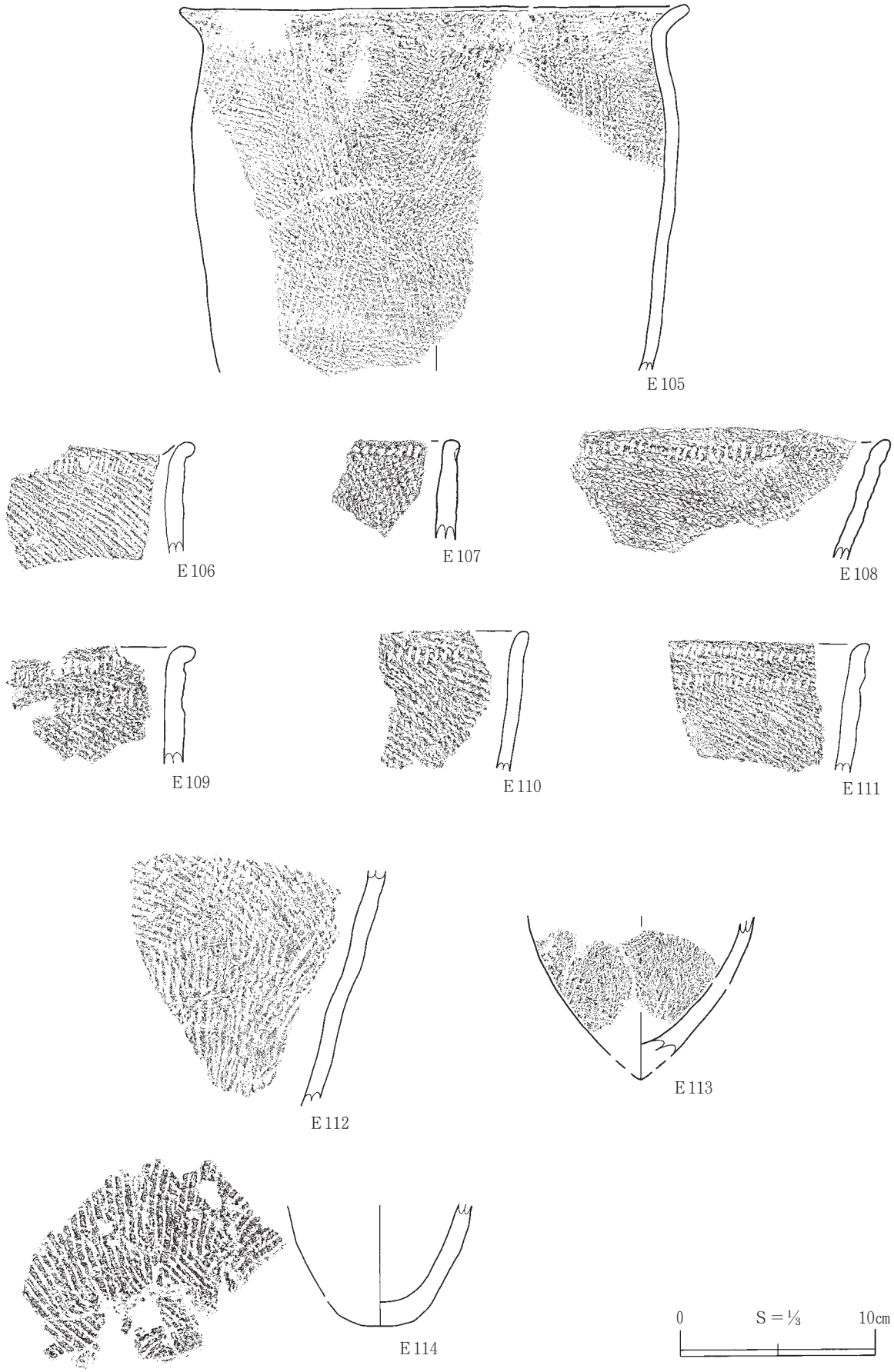
第36図　捨て場出土土器（14）



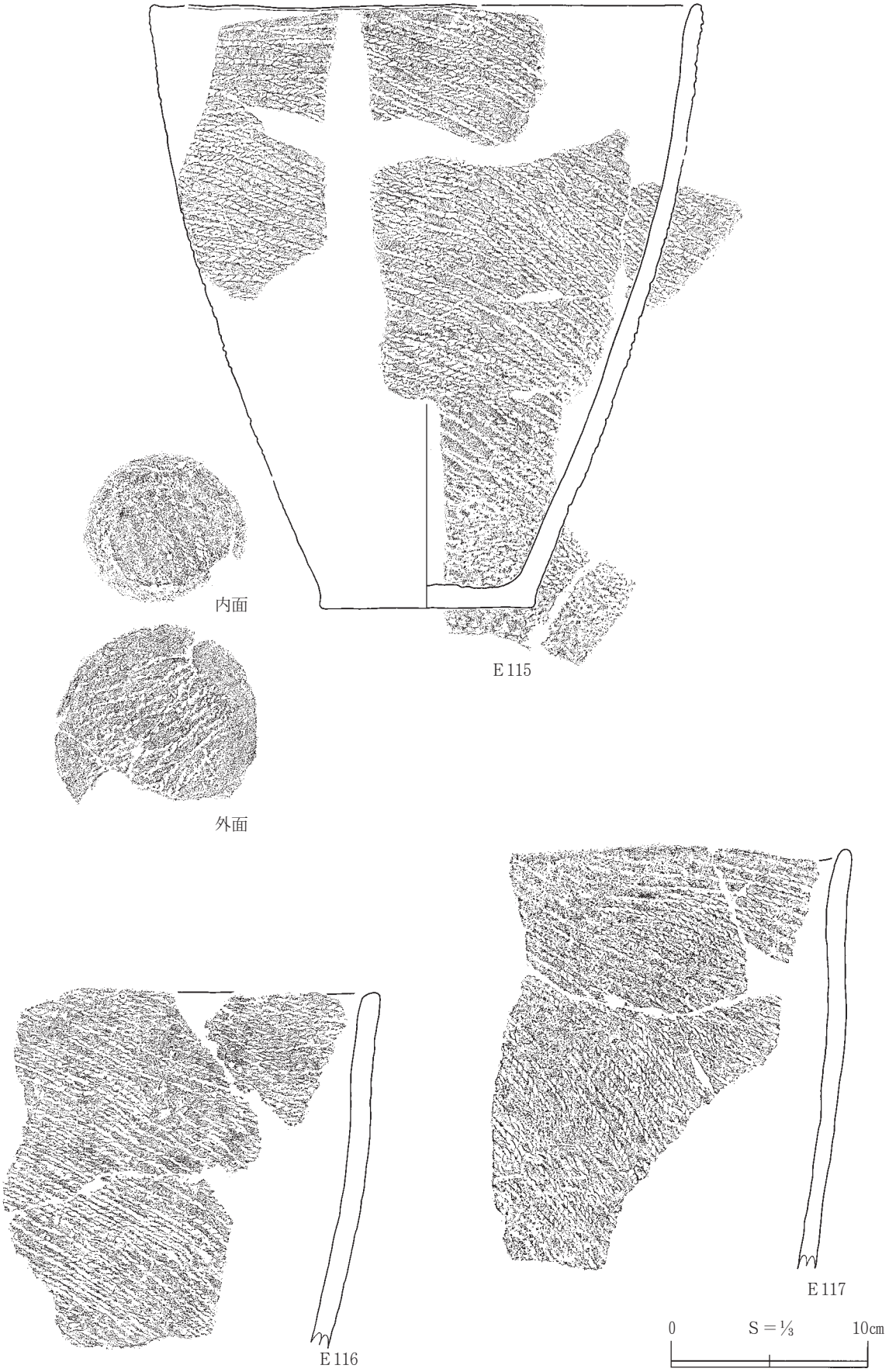
第37図　捨て場出土土器（15）



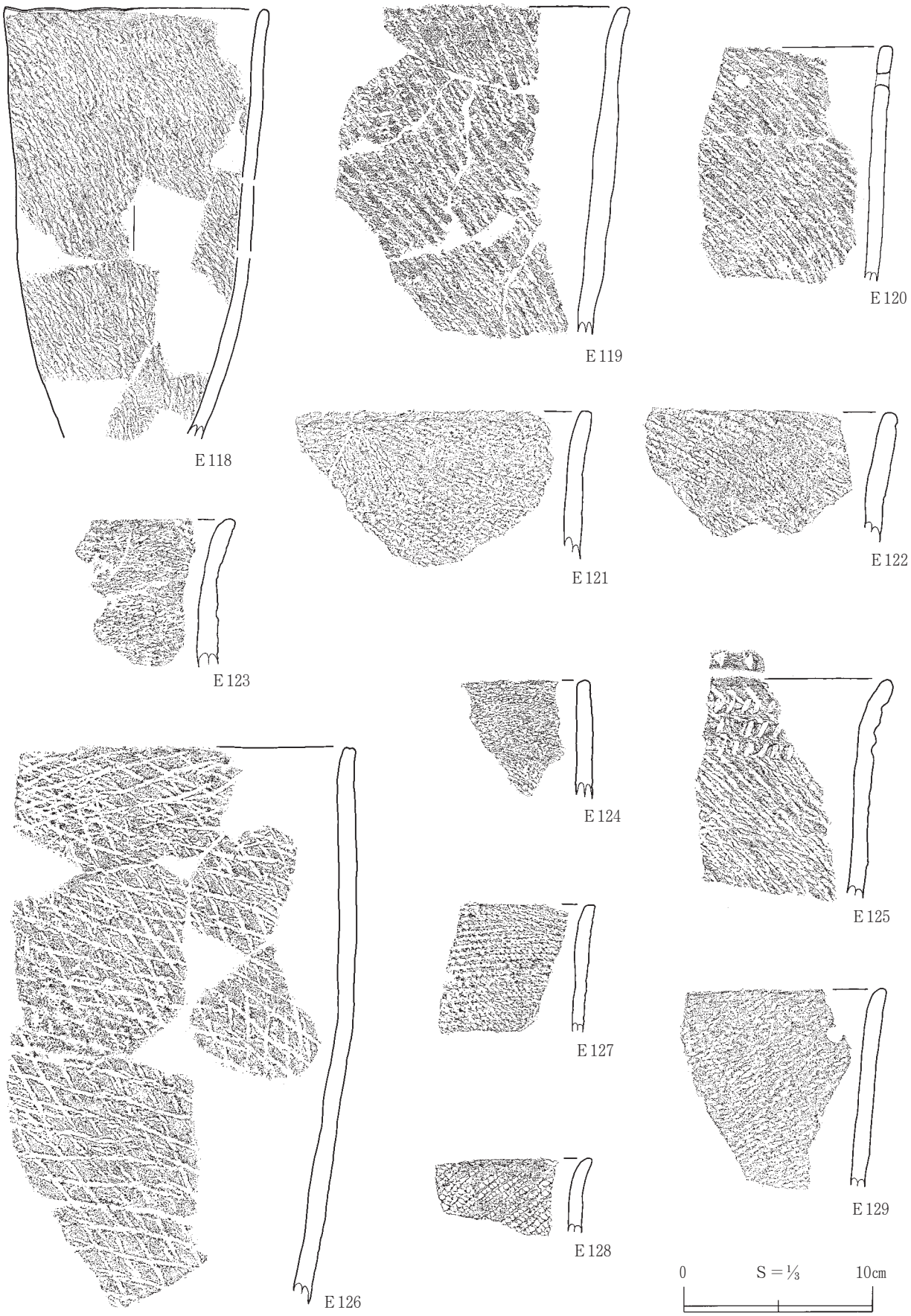
第38図　捨て場出土土器（16）



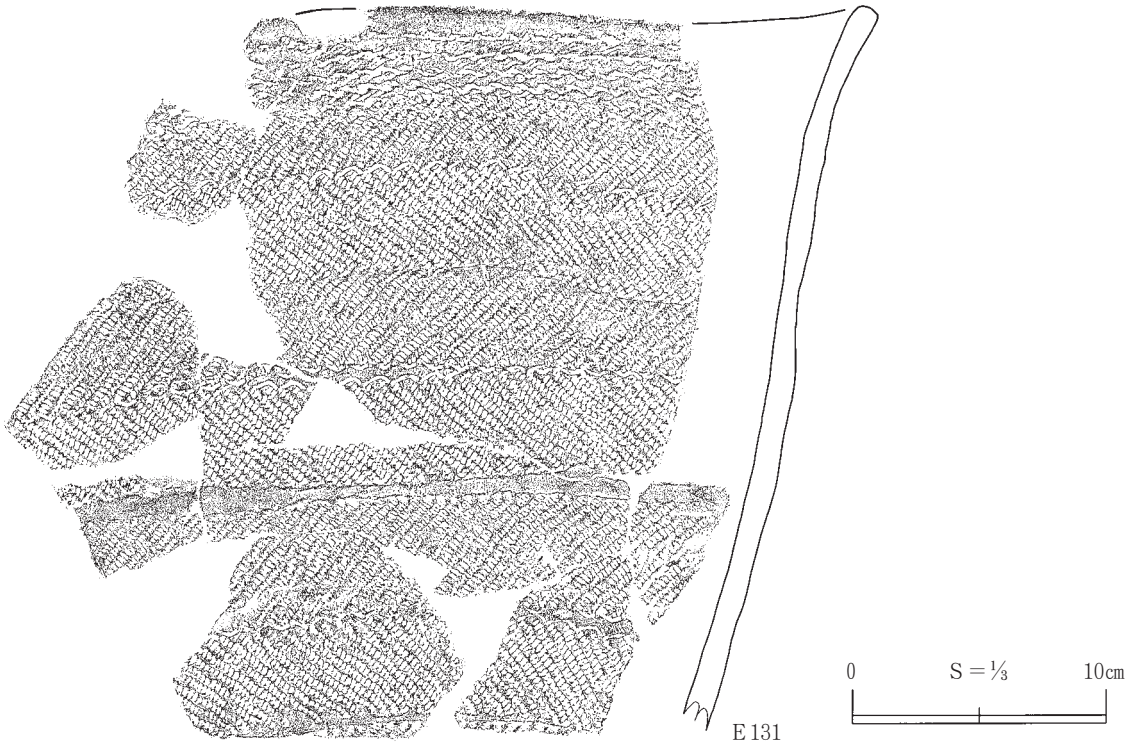
第39図　捨て場出土土器（17）



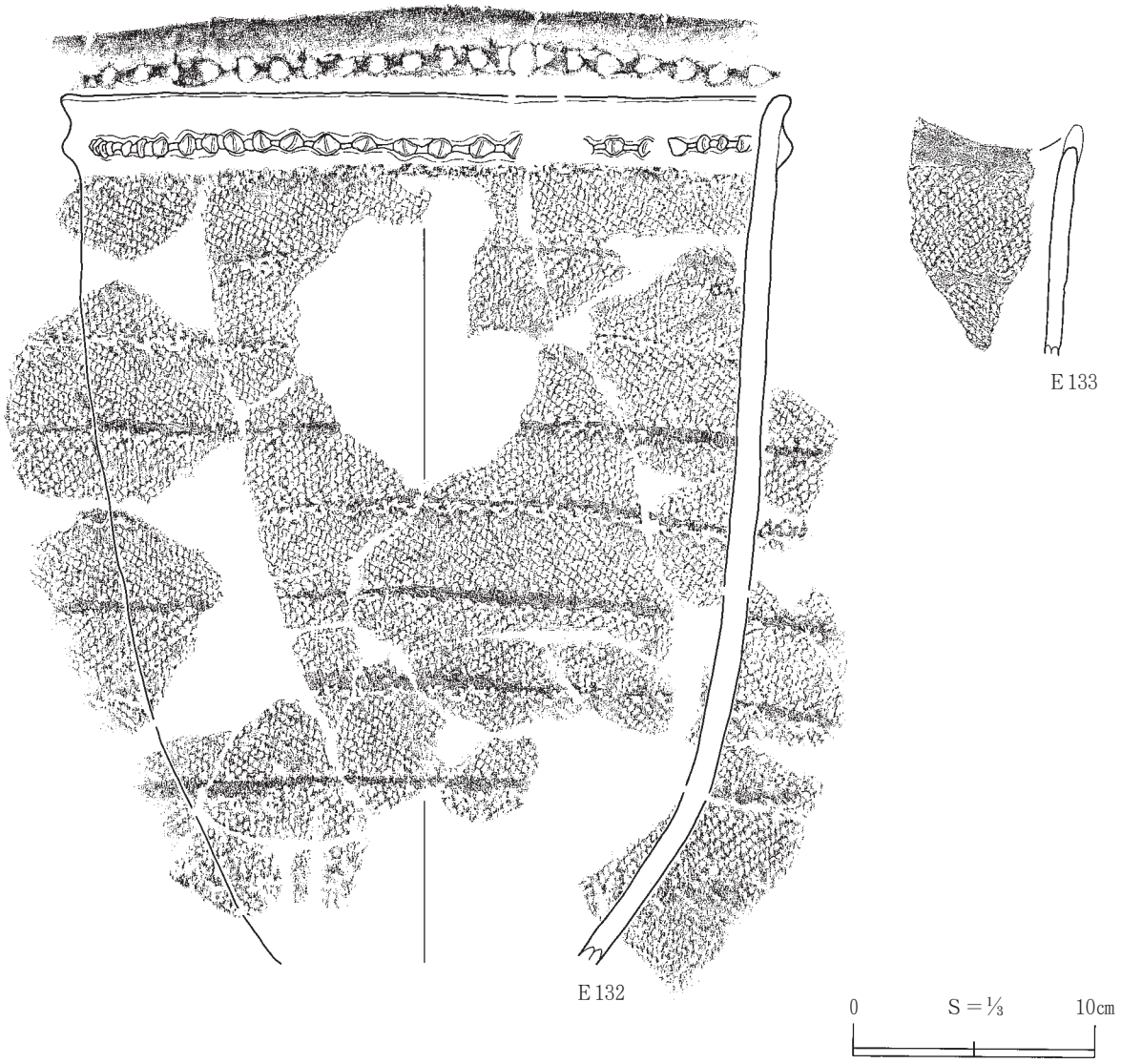
第40図　捨て場出土土器（18）



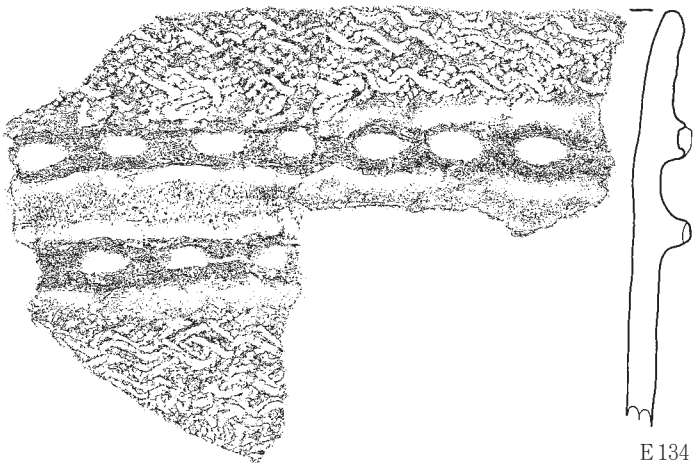
第41図　捨て場出土土器（19）

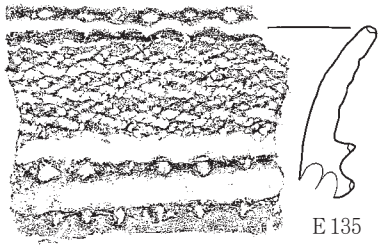


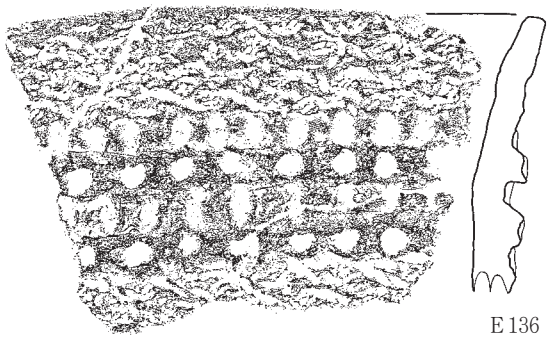
第42図　捨て場出土土器（20）

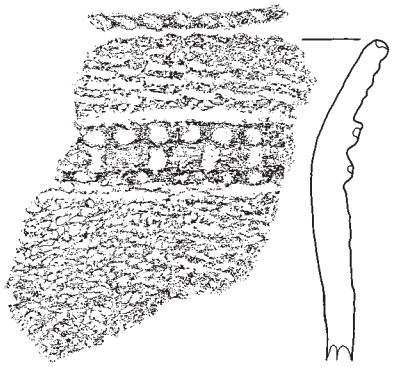


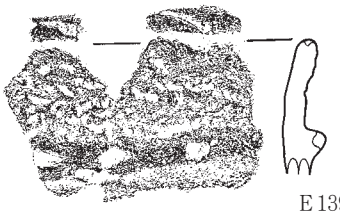
第43図　捨て場出土土器（21）


E 134

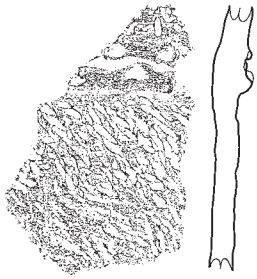

E 135


E 136


E 137

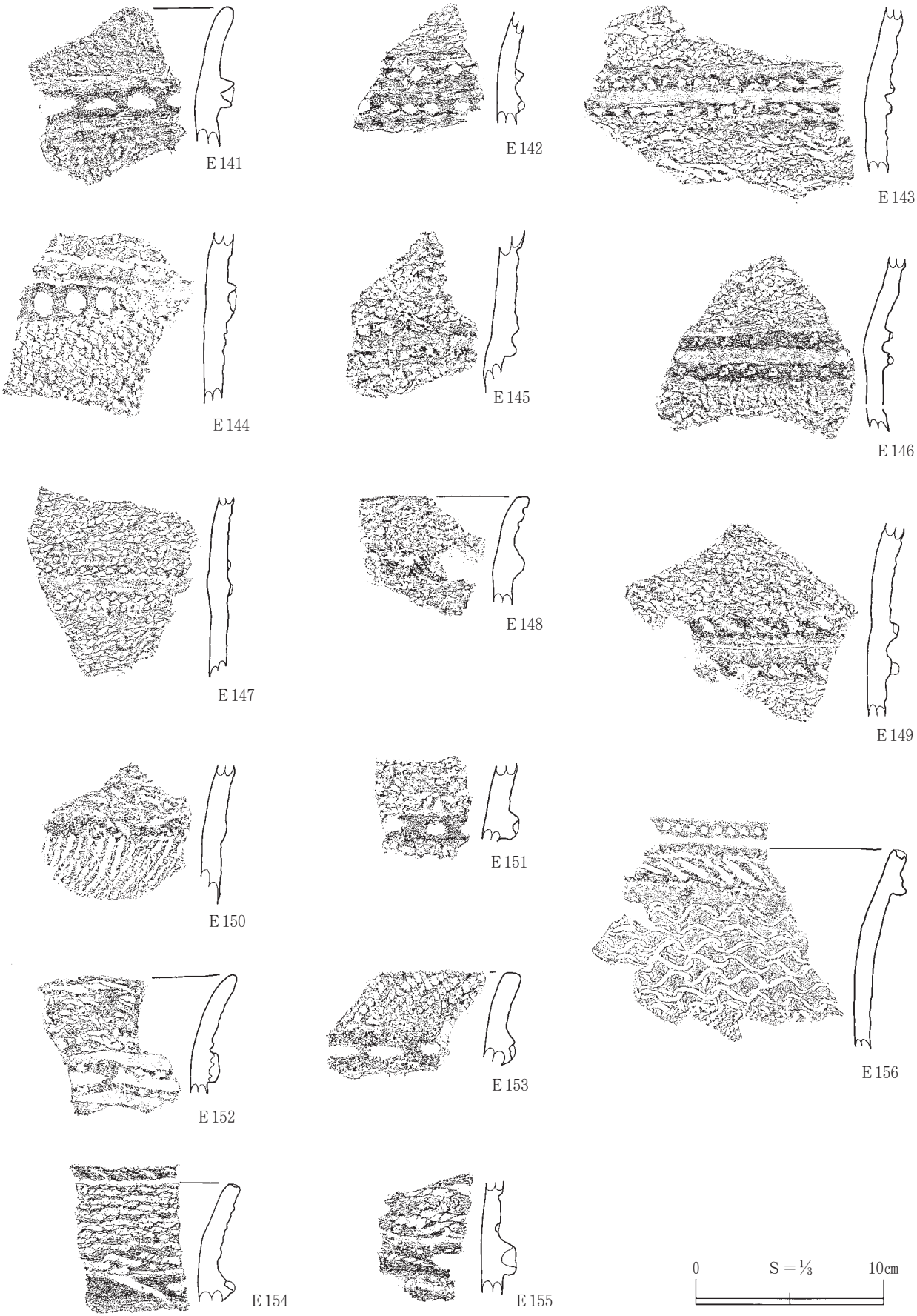

E 139

E 138

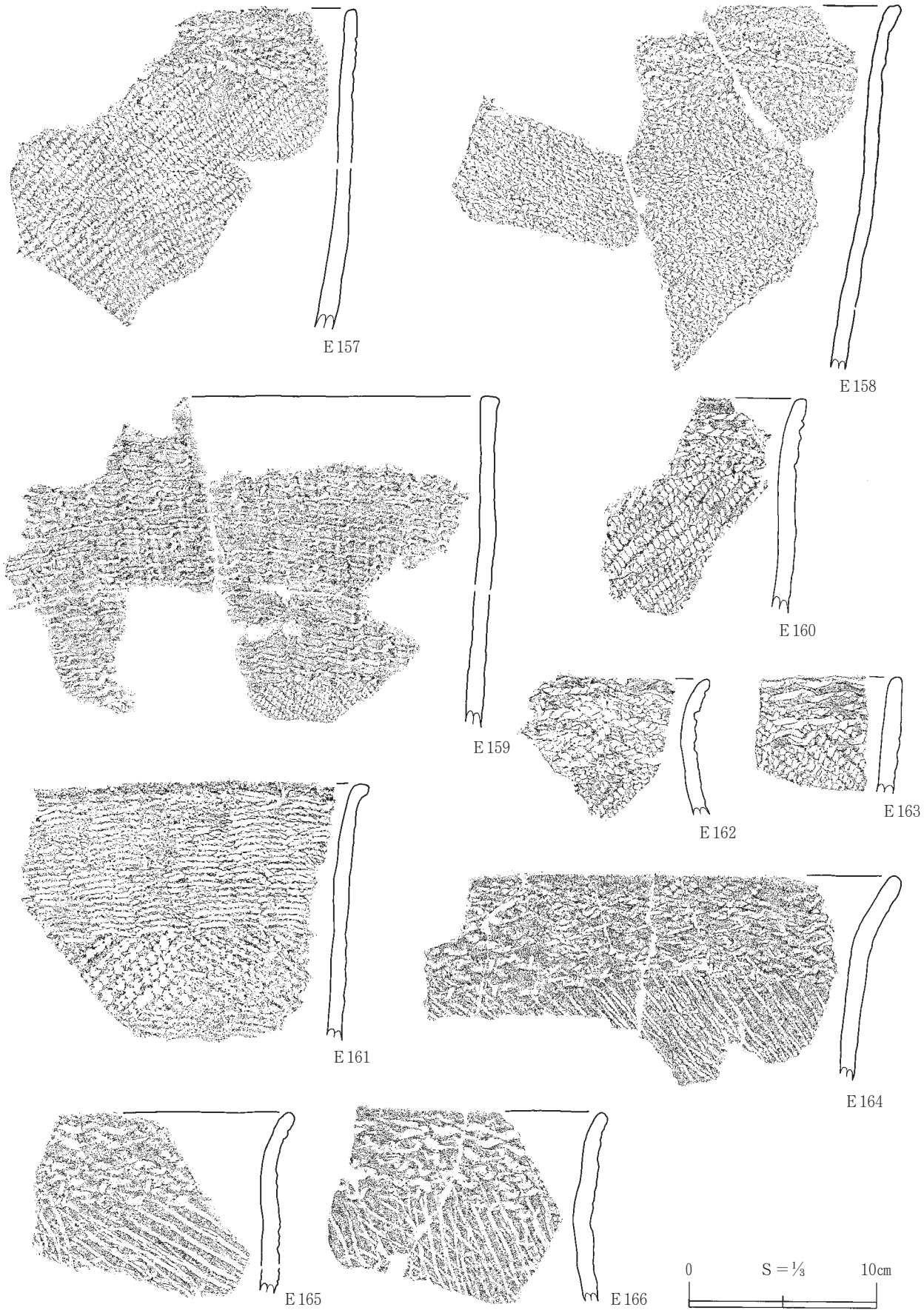

E 140

0　S＝⅓　10cm

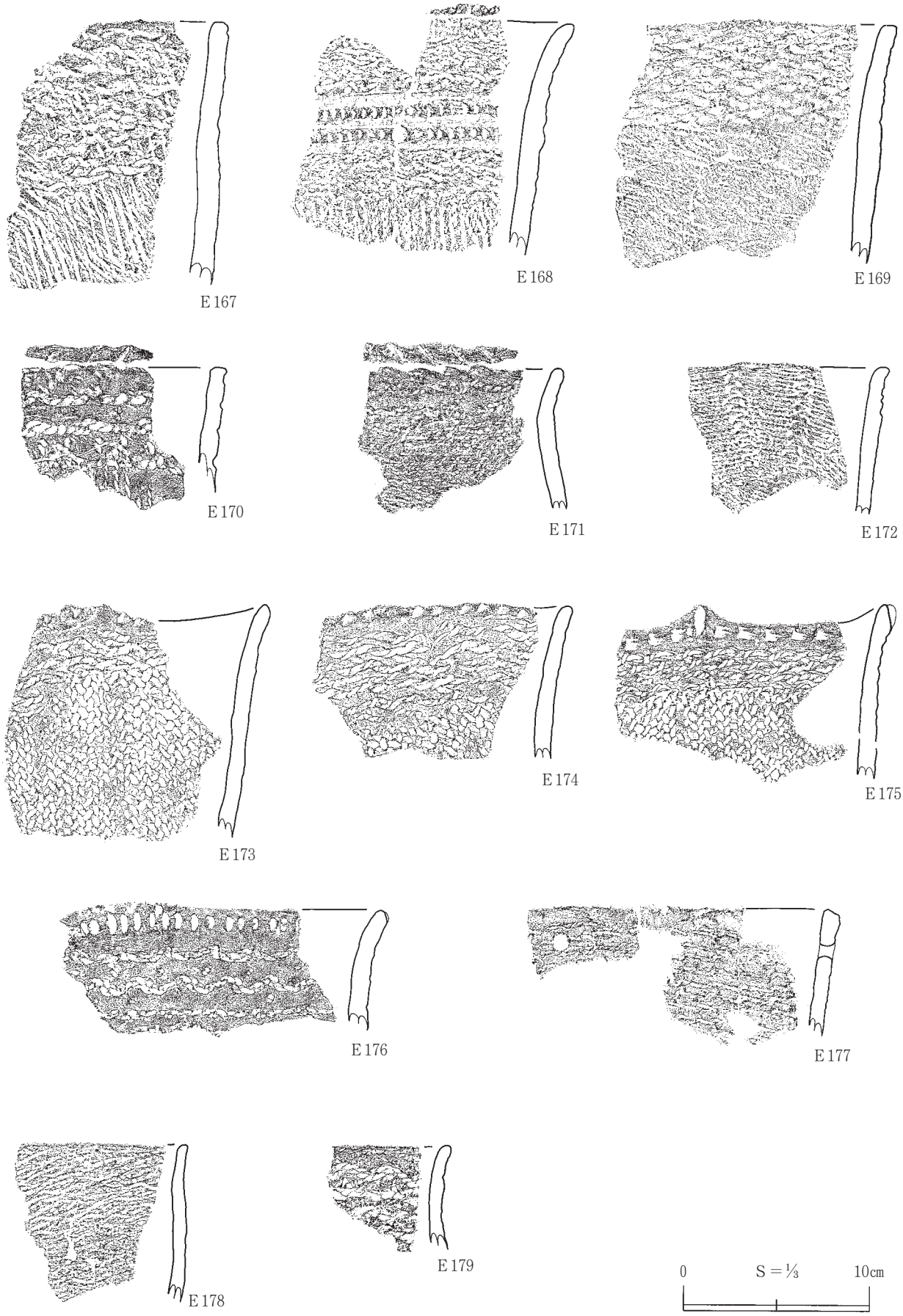
第44図　捨て場出土土器（22）



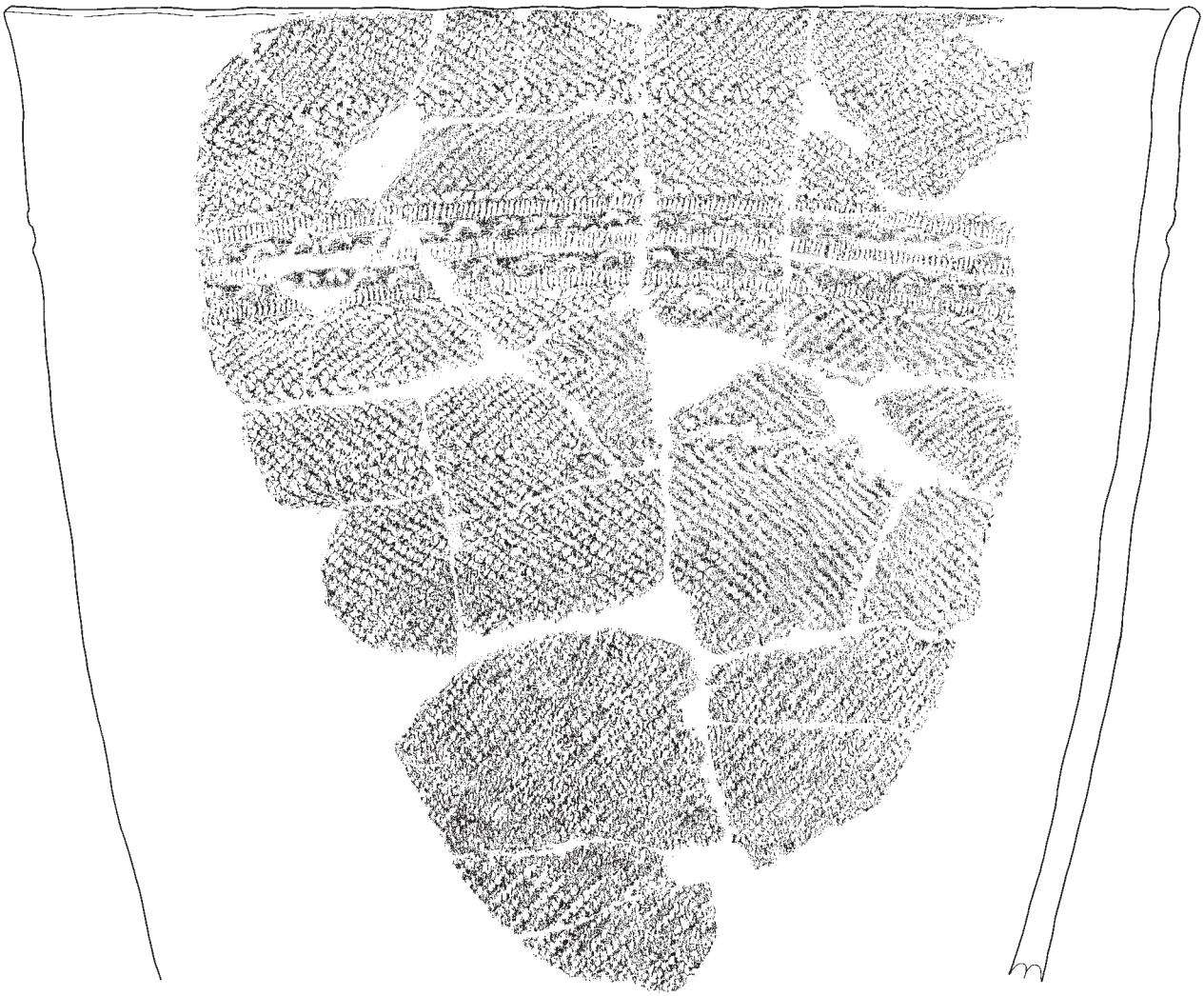
第45図　捨て場出土土器（23）



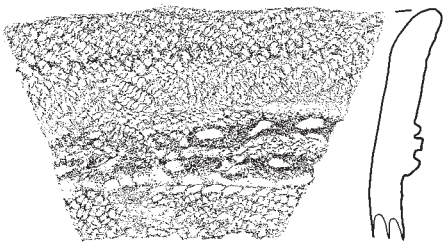
第46図　捨て場出土土器（24）



第47図　捨て場出土土器（25）



E 180

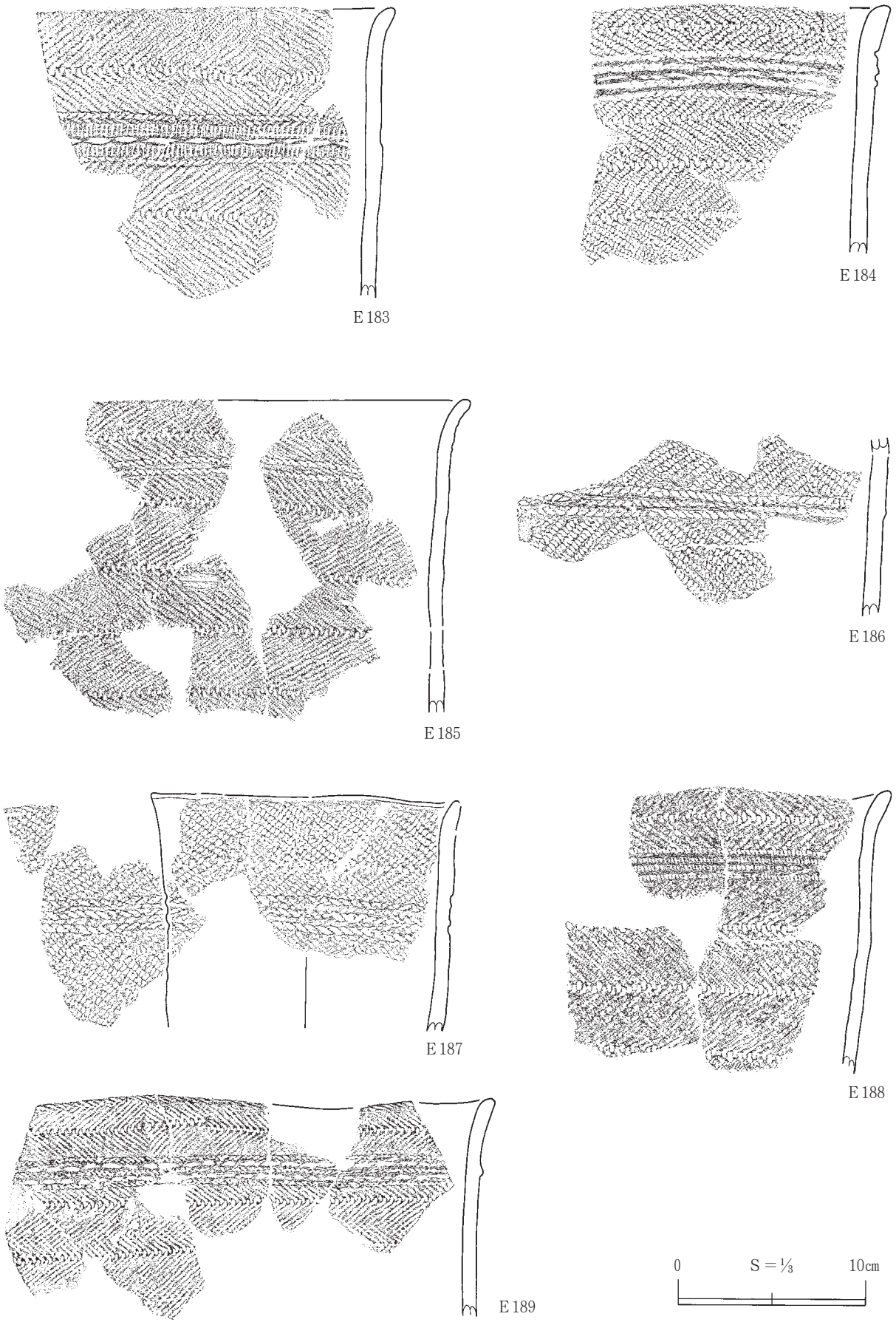


E 181

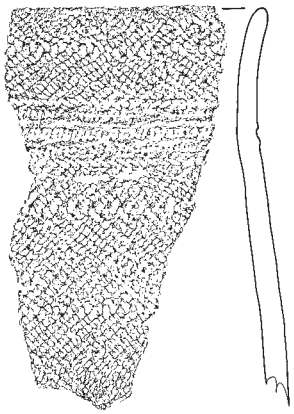
E 182

0　S＝⅓　10cm

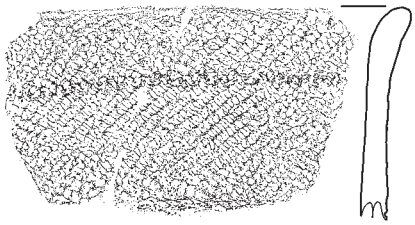
第48図　捨て場出土土器（26）

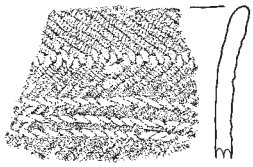


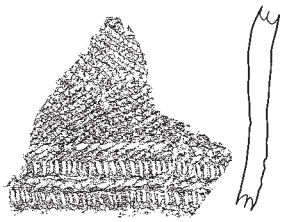
第49図　捨て場出土土器（27）

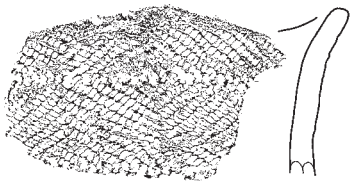

E 190

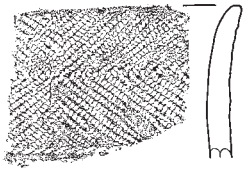
E 191

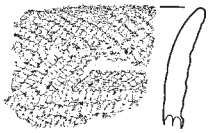

E 192


E 193


E 194

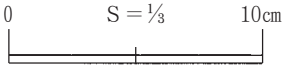

E 195


E 196

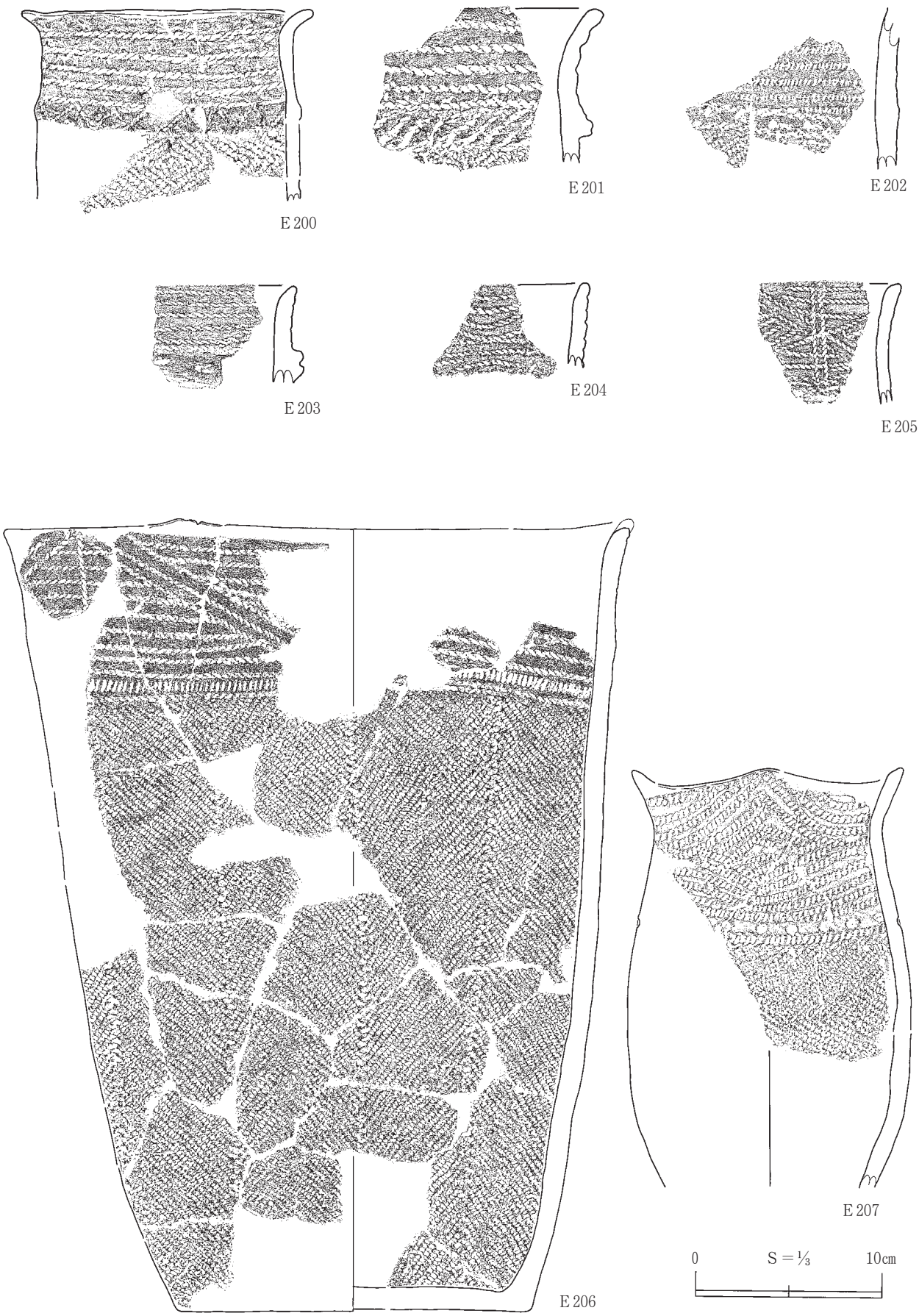

E 197

E 198

E 199

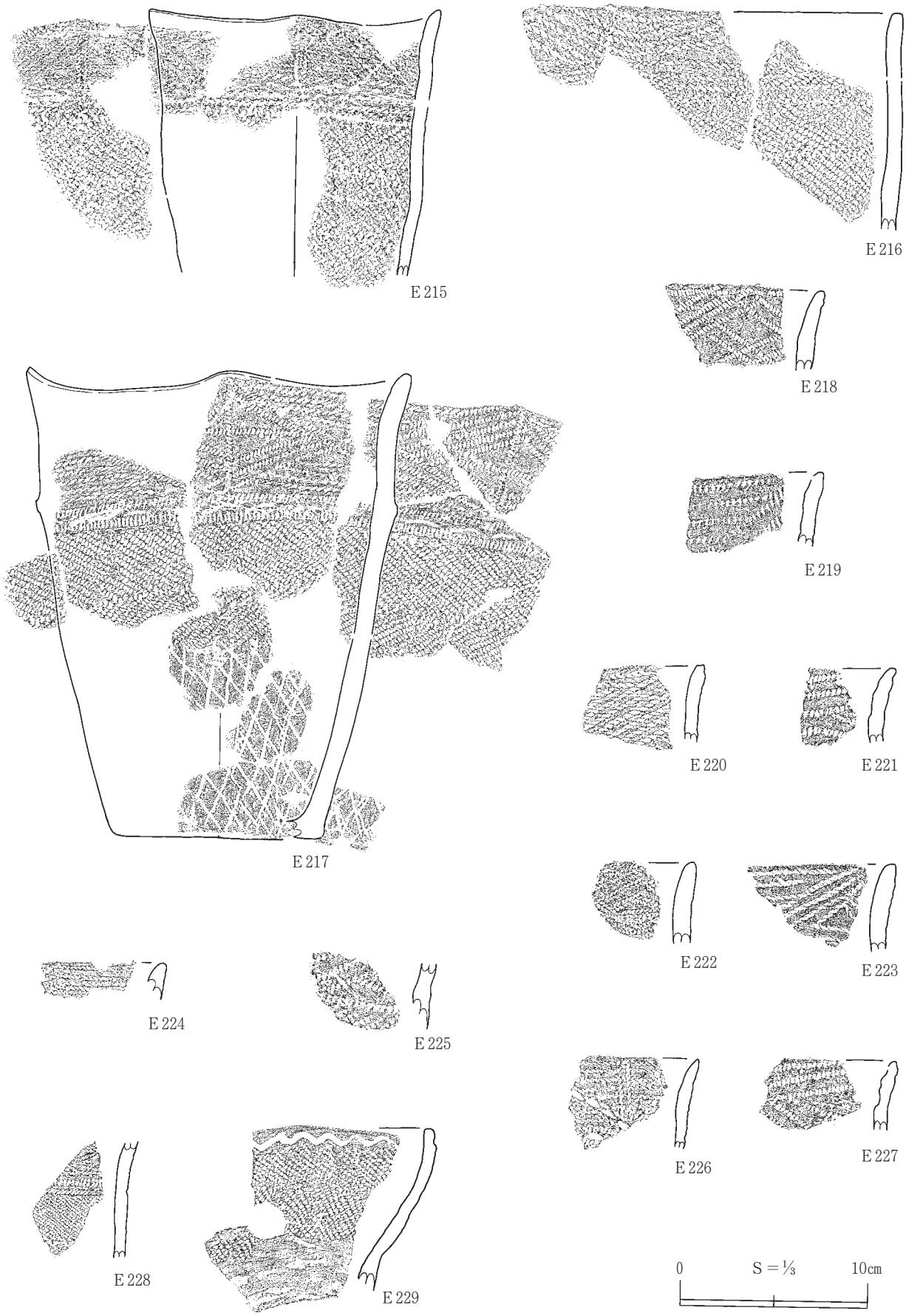


第50図　捨て場出土土器（28）

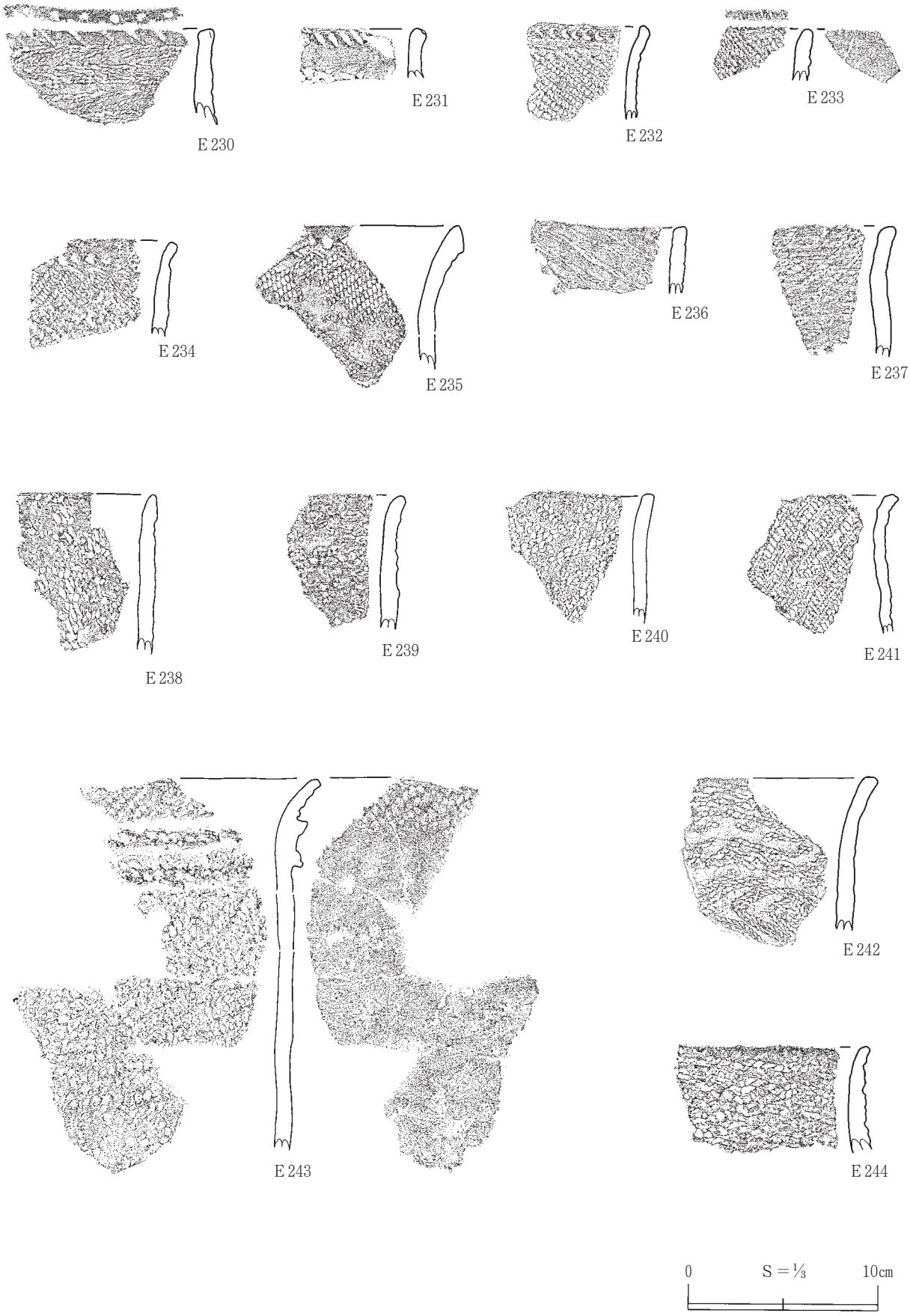


第51図　捨て場出土土器（29）

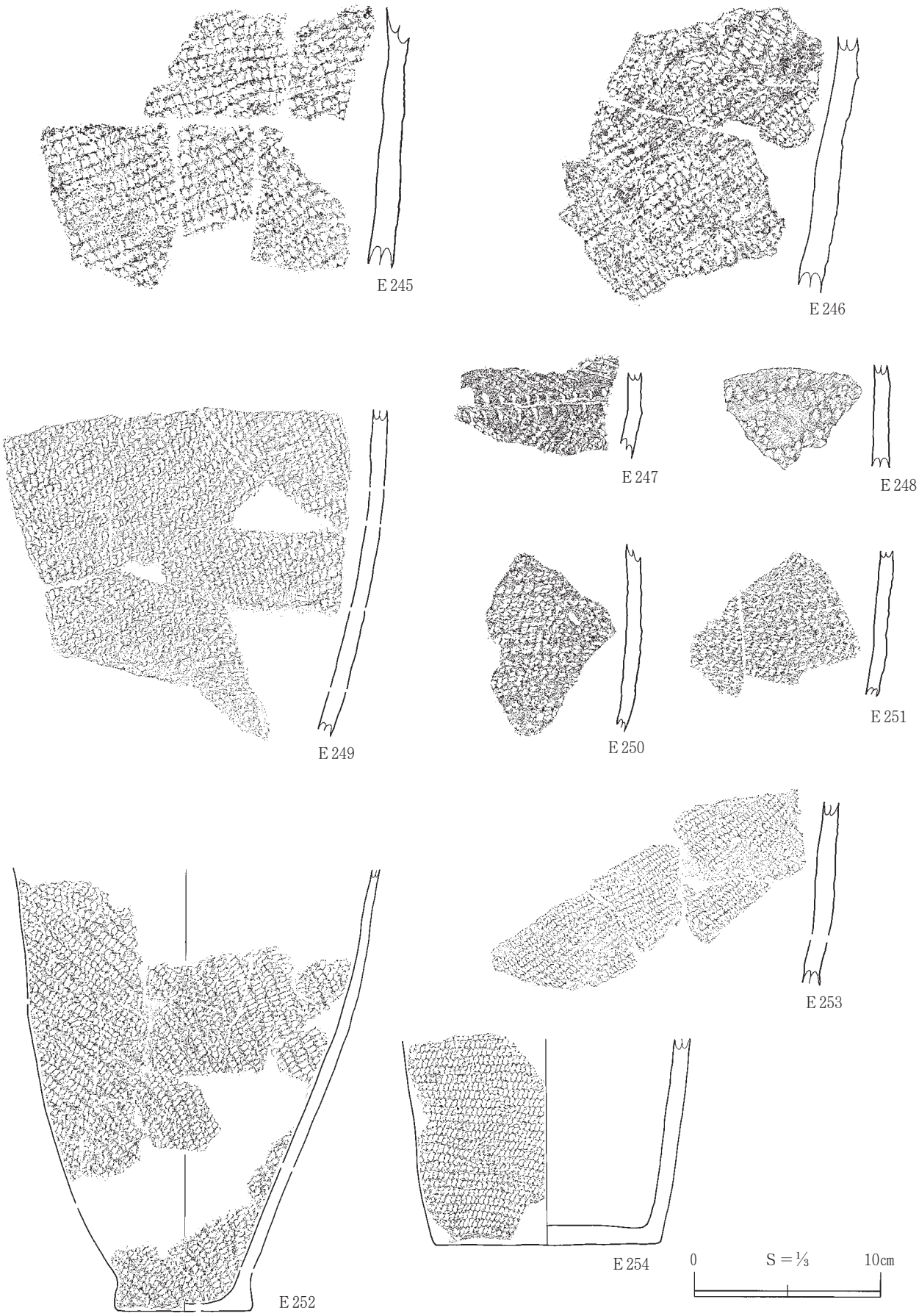
第52図　捨て場出土土器（30）



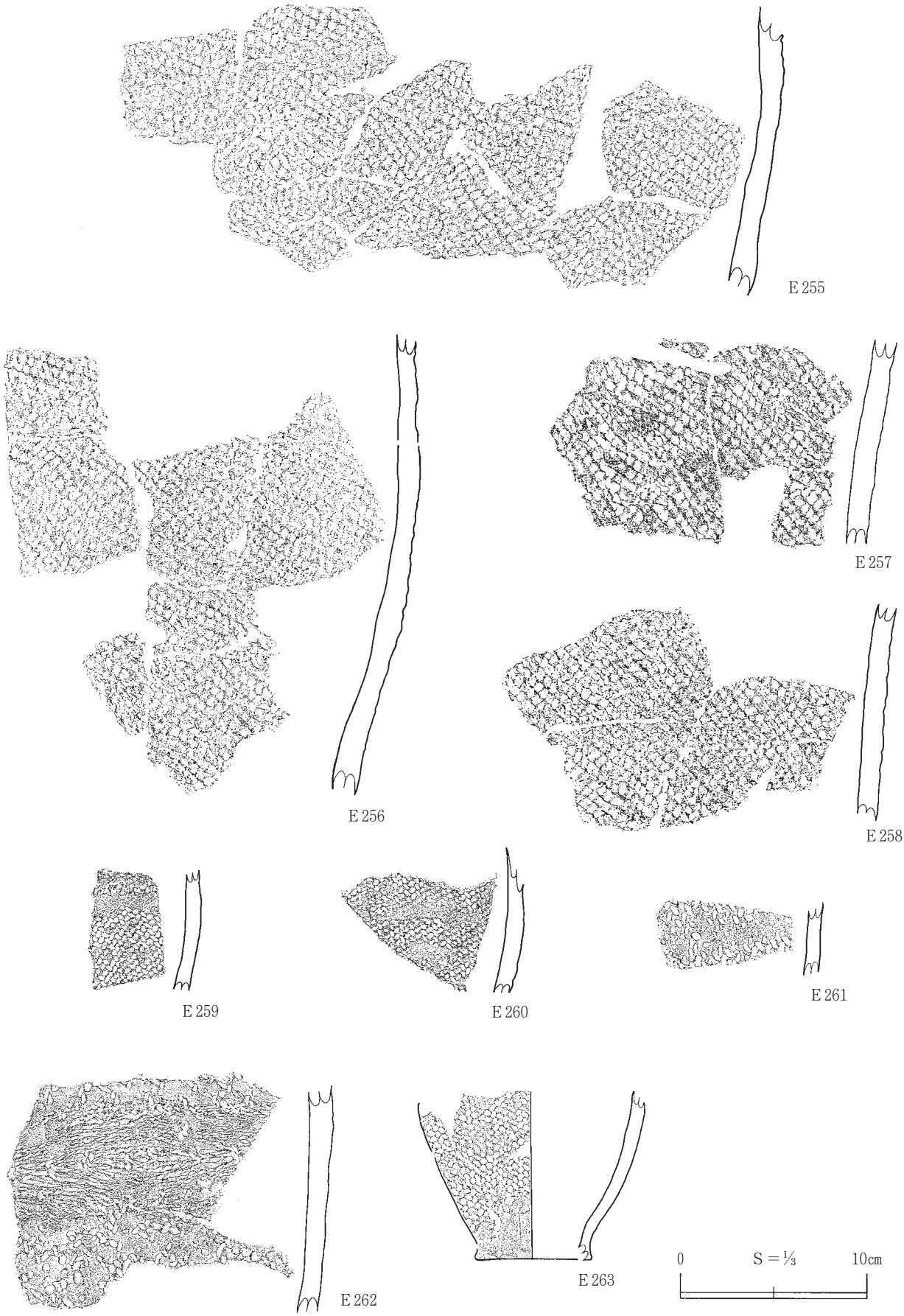
第53図　捨て場出土土器（31）



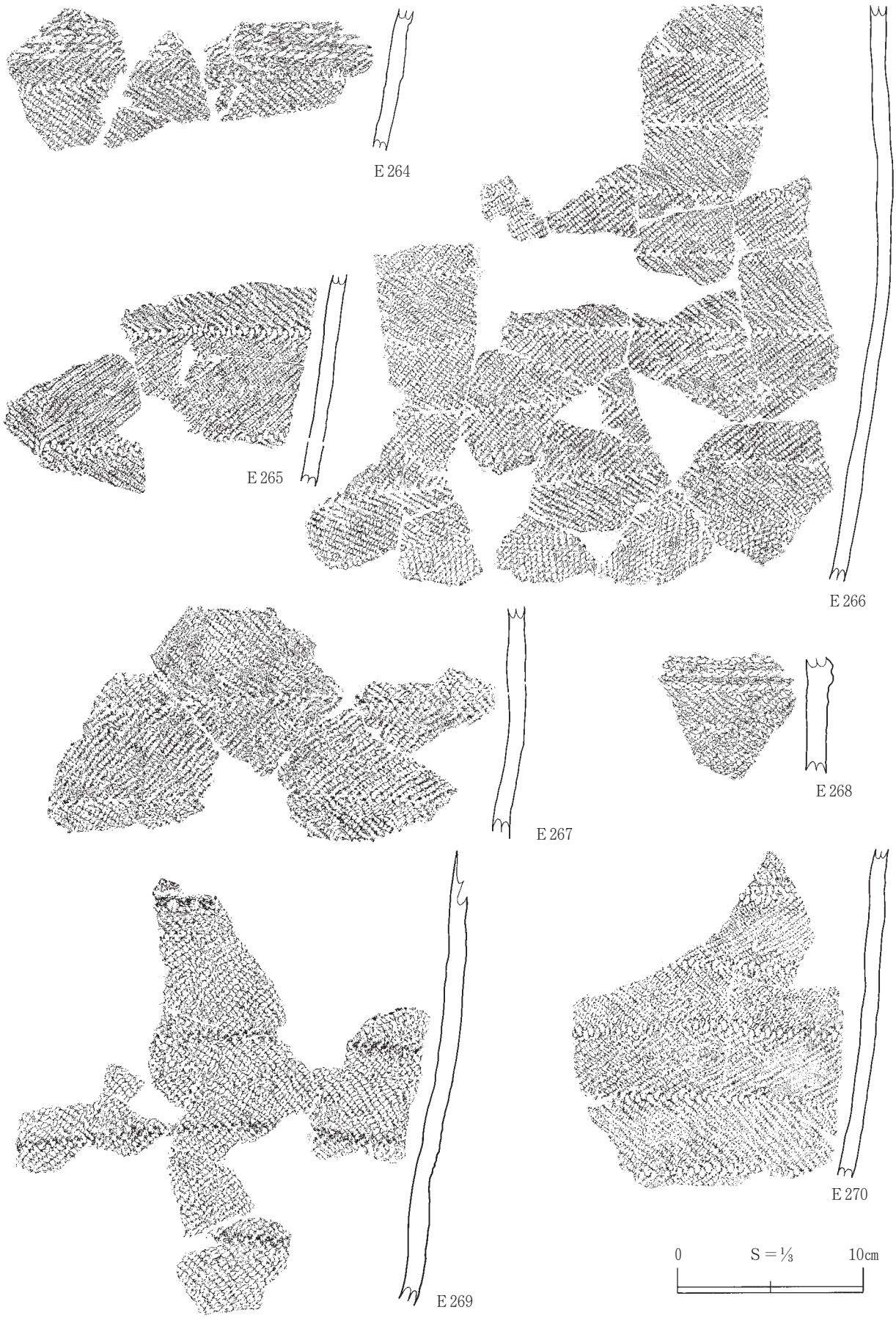
第54図　捨て場出土土器（32）



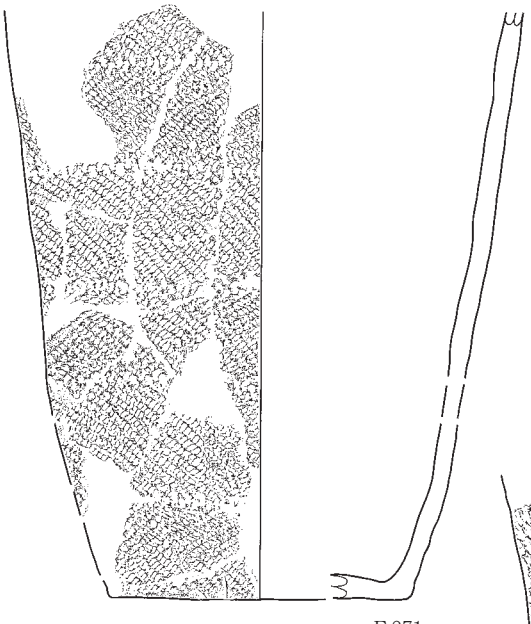
第55図　捨て場出土土器（33）

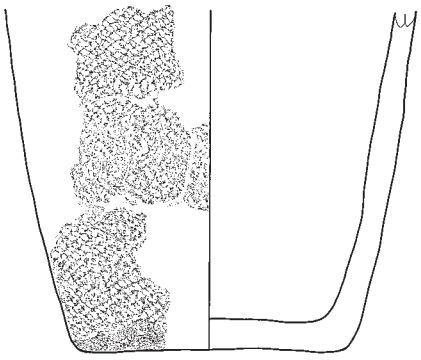


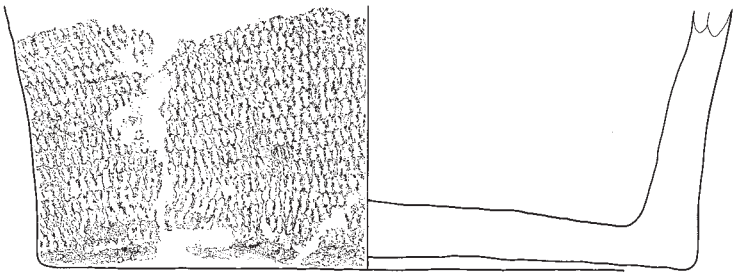
第56図　捨て場出土土器（34）

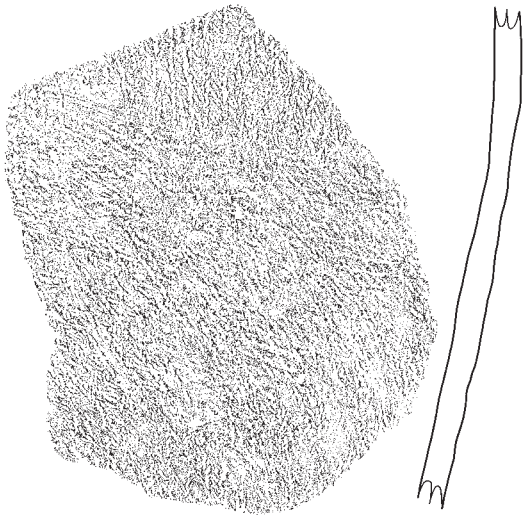


第57図　捨て場出土土器（35）

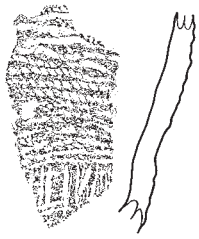

E 271

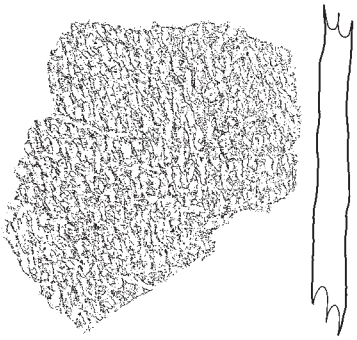

E 272

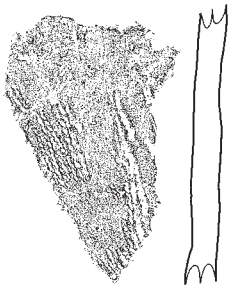

E 273

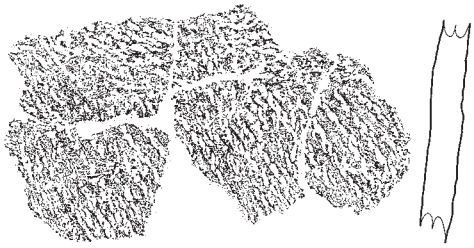

E 274

E 275


E 276

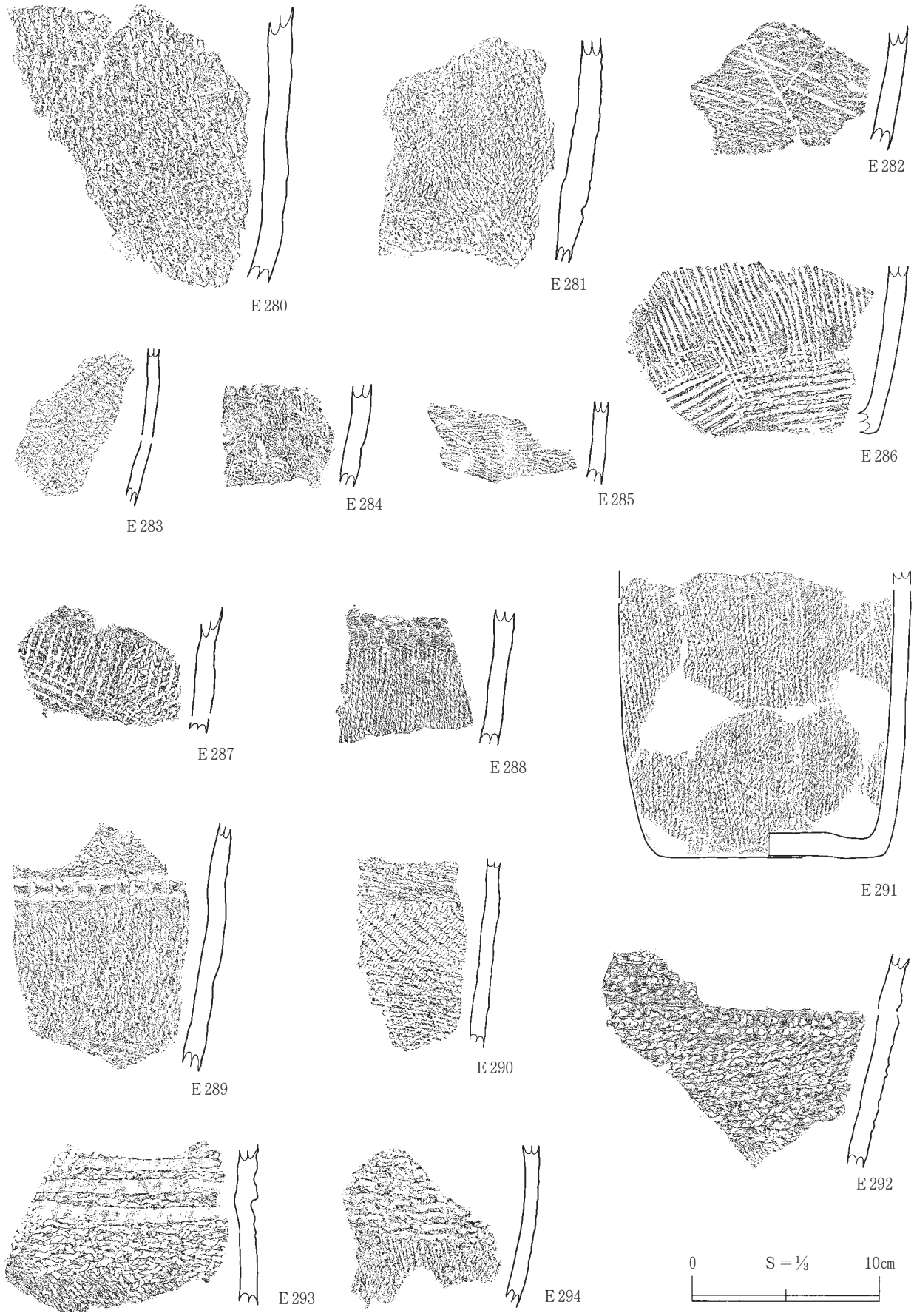

E 277


E 278


E 279

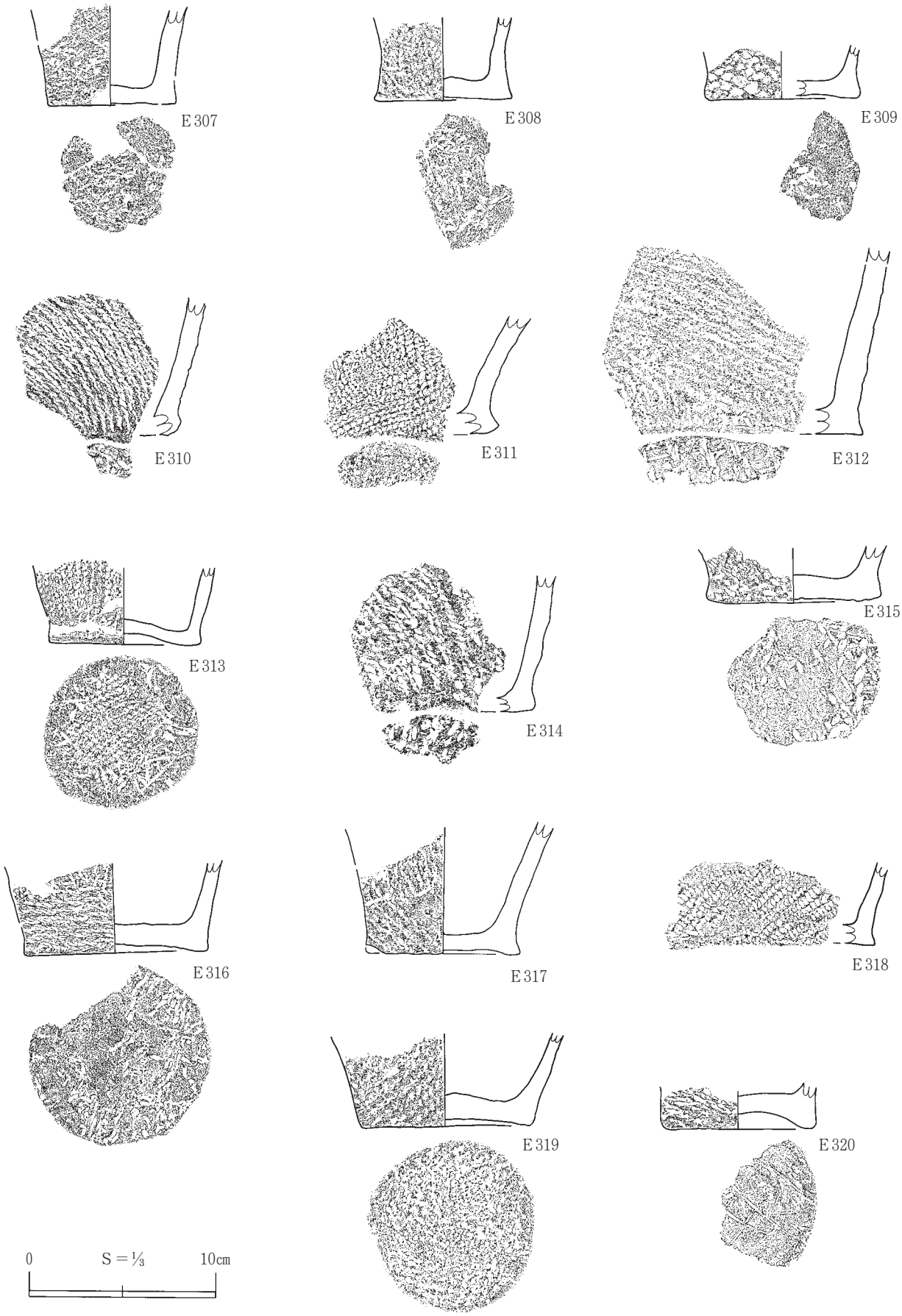
0　S＝⅓　10cm

第58図　捨て場出土土器（36）

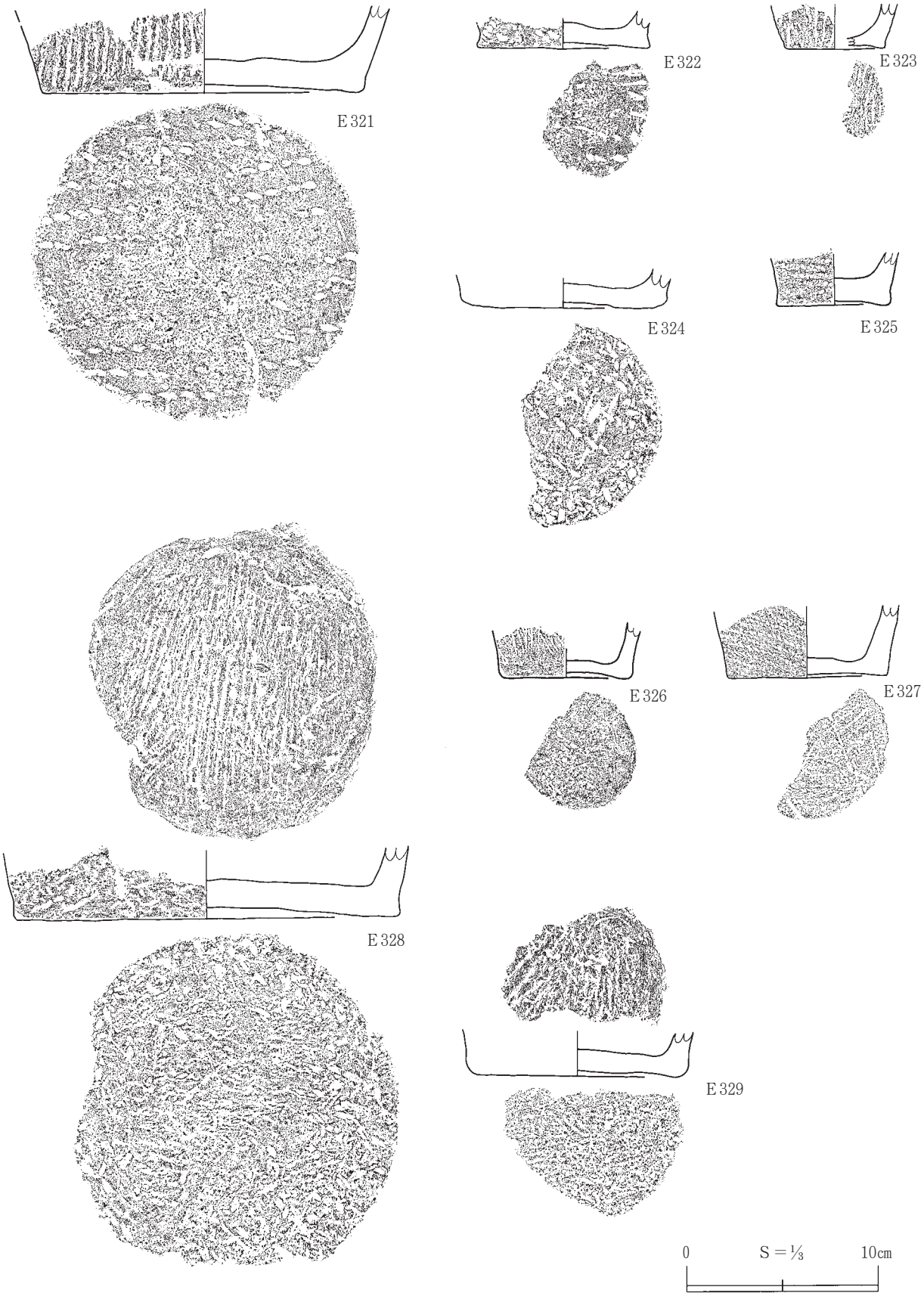


第59図　捨て場出土土器（37）

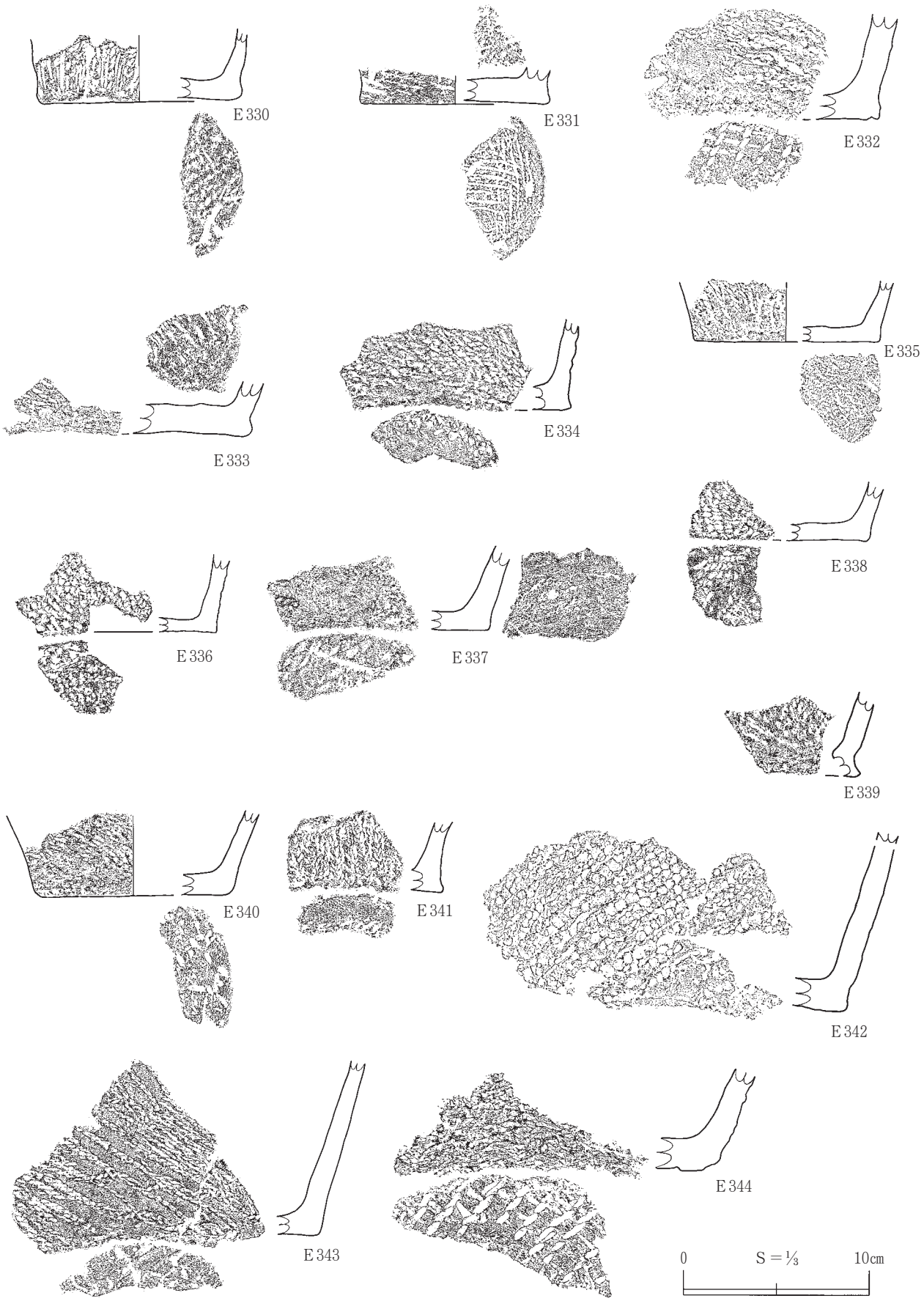
第60図　捨て場出土土器（38）



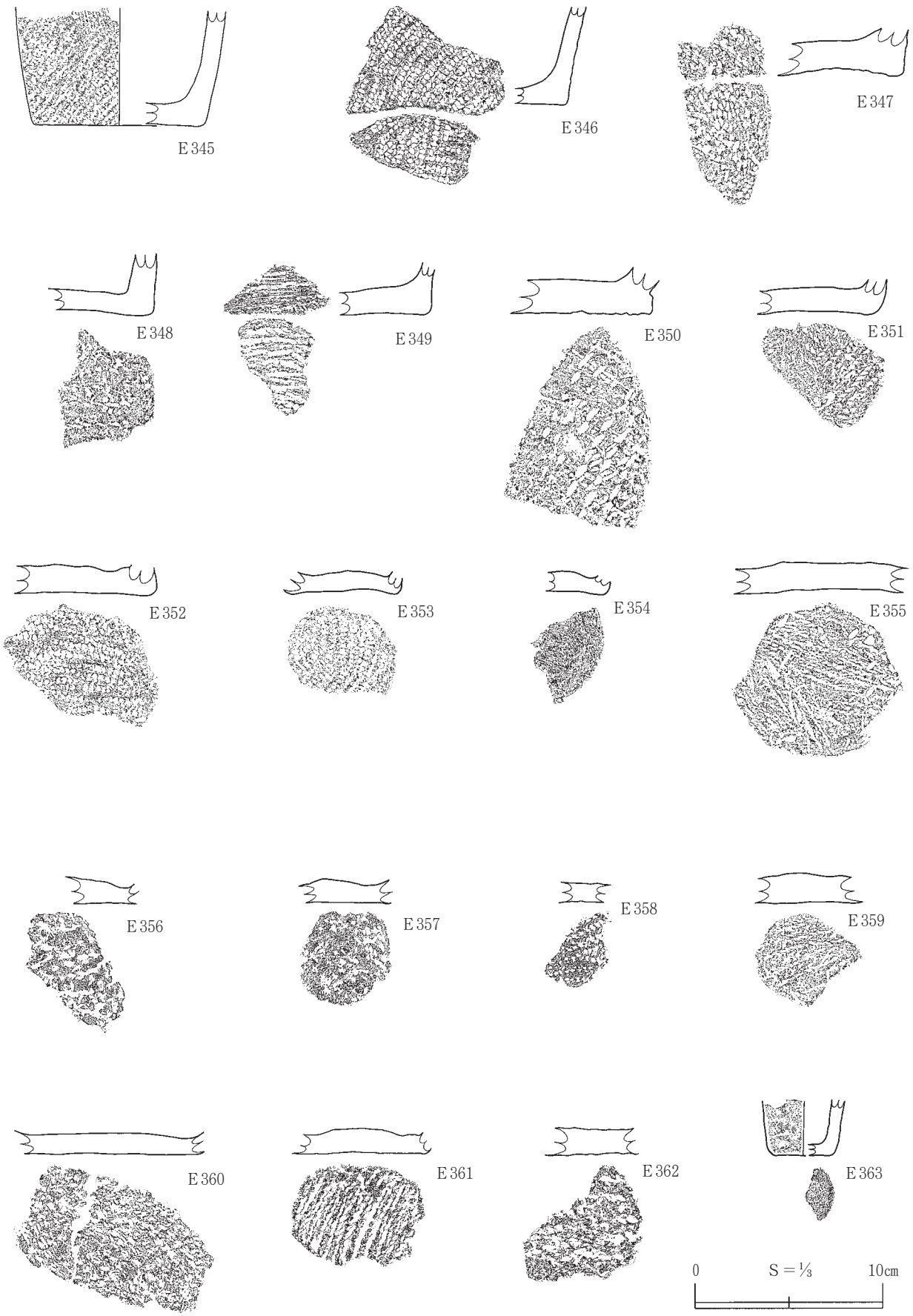
第61図　捨て場出土土器（39）



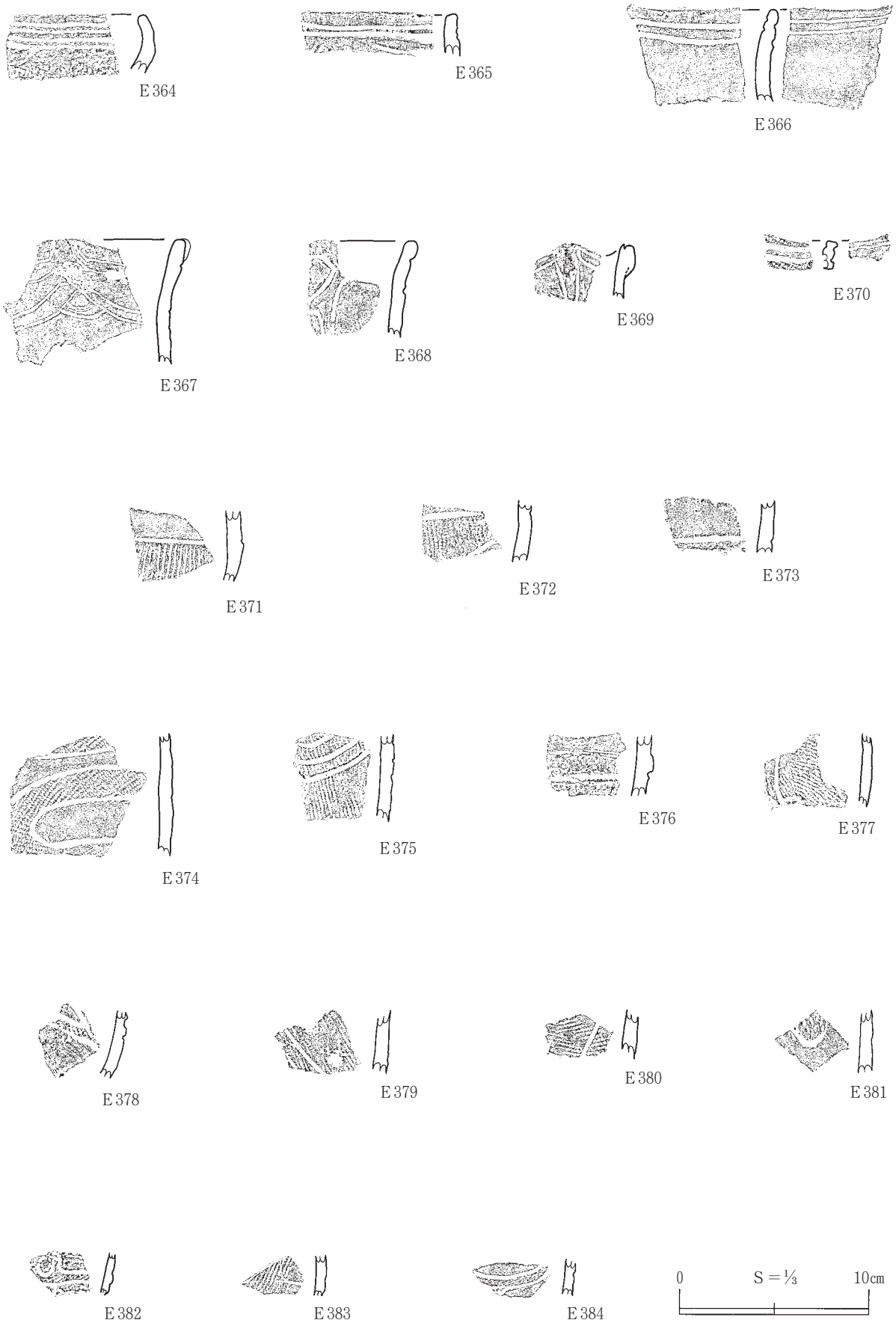
第62図　捨て場出土土器（40）



第63図　捨て場出土土器（41）

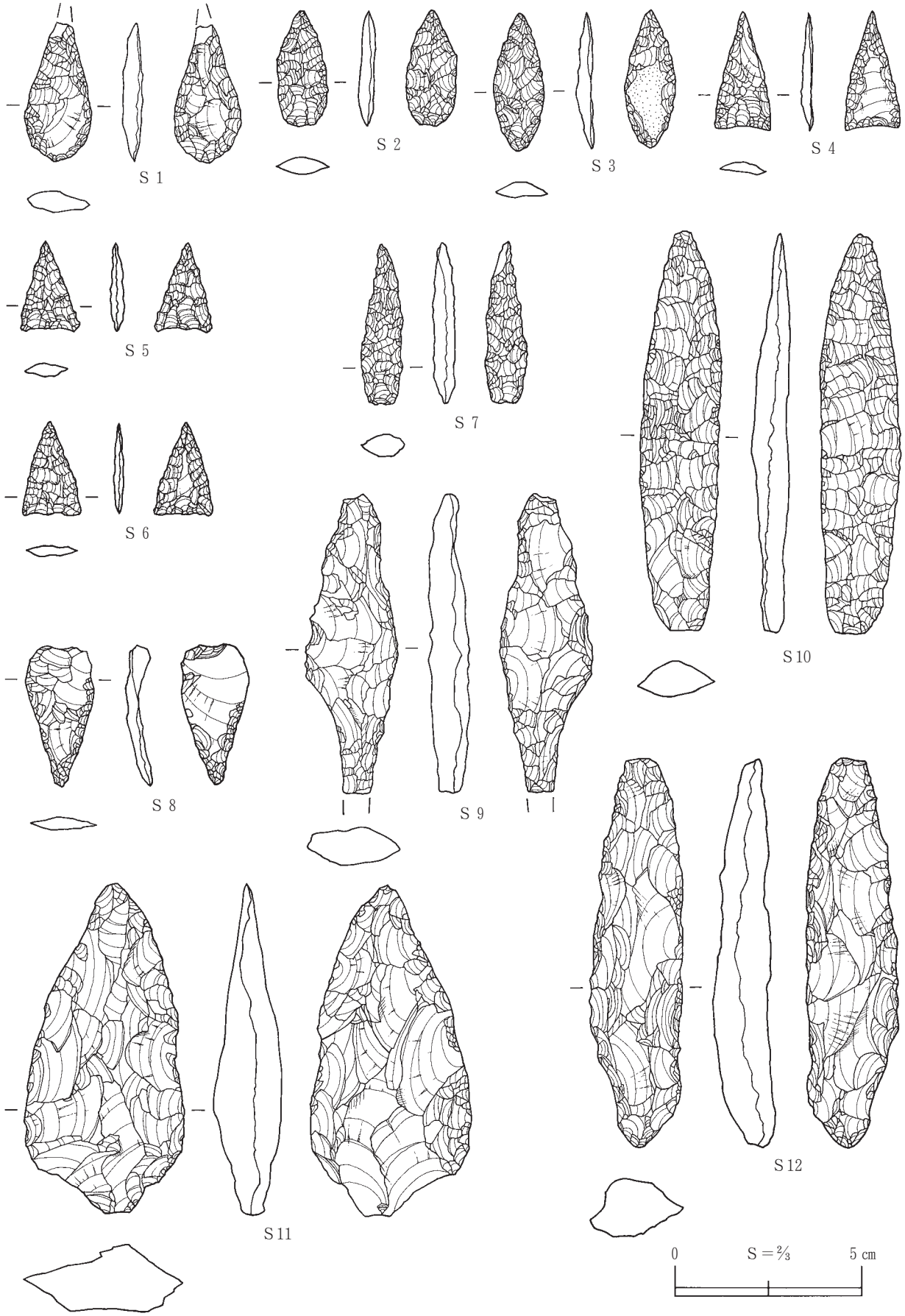


第64図　捨て場出土土器（42）

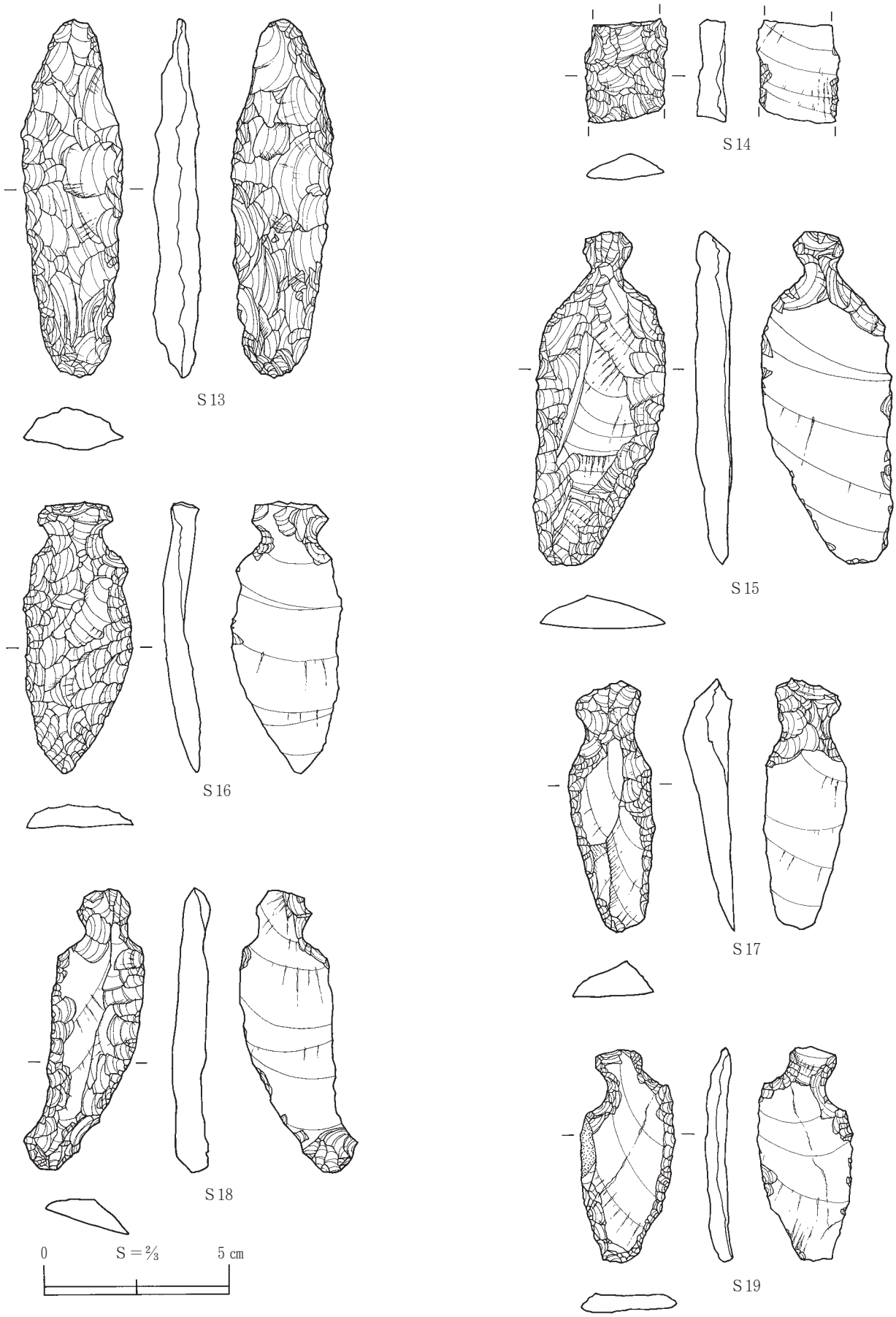


第65図　捨て場出土土器（43）

第66図　捨て場出土土器（44）

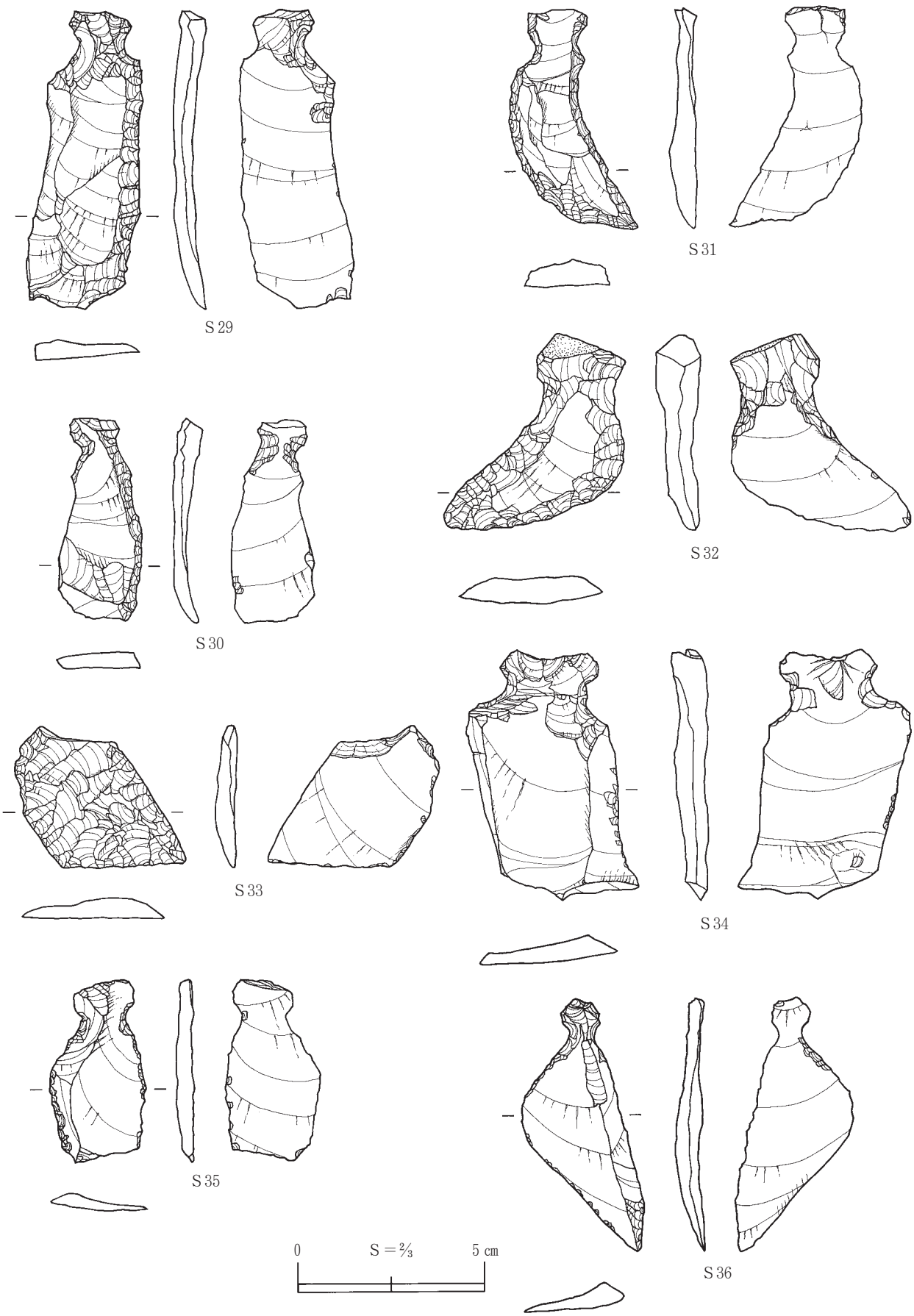


第67図　捨て場出土石器（１）

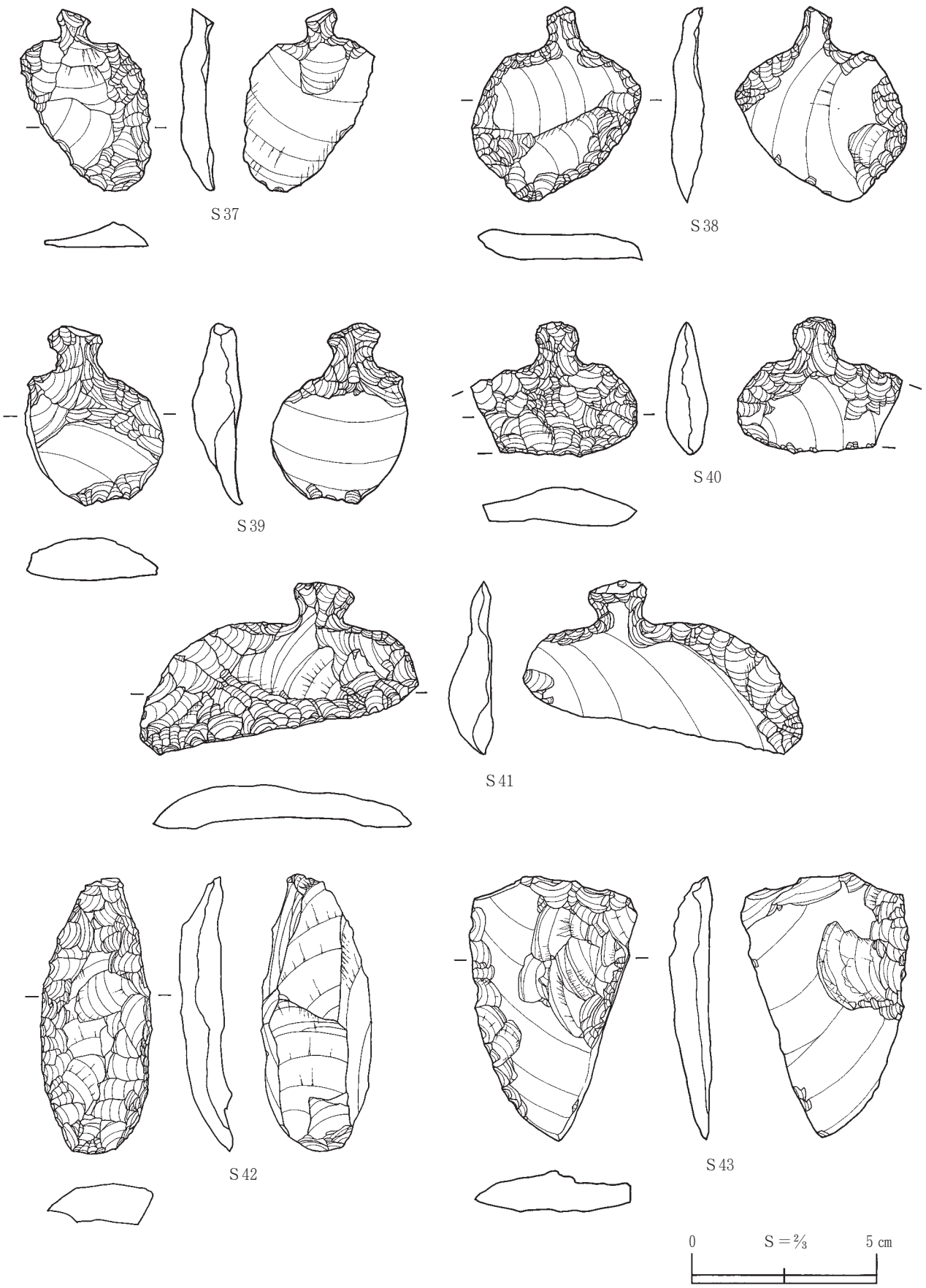


第68図　捨て場出土石器（２）

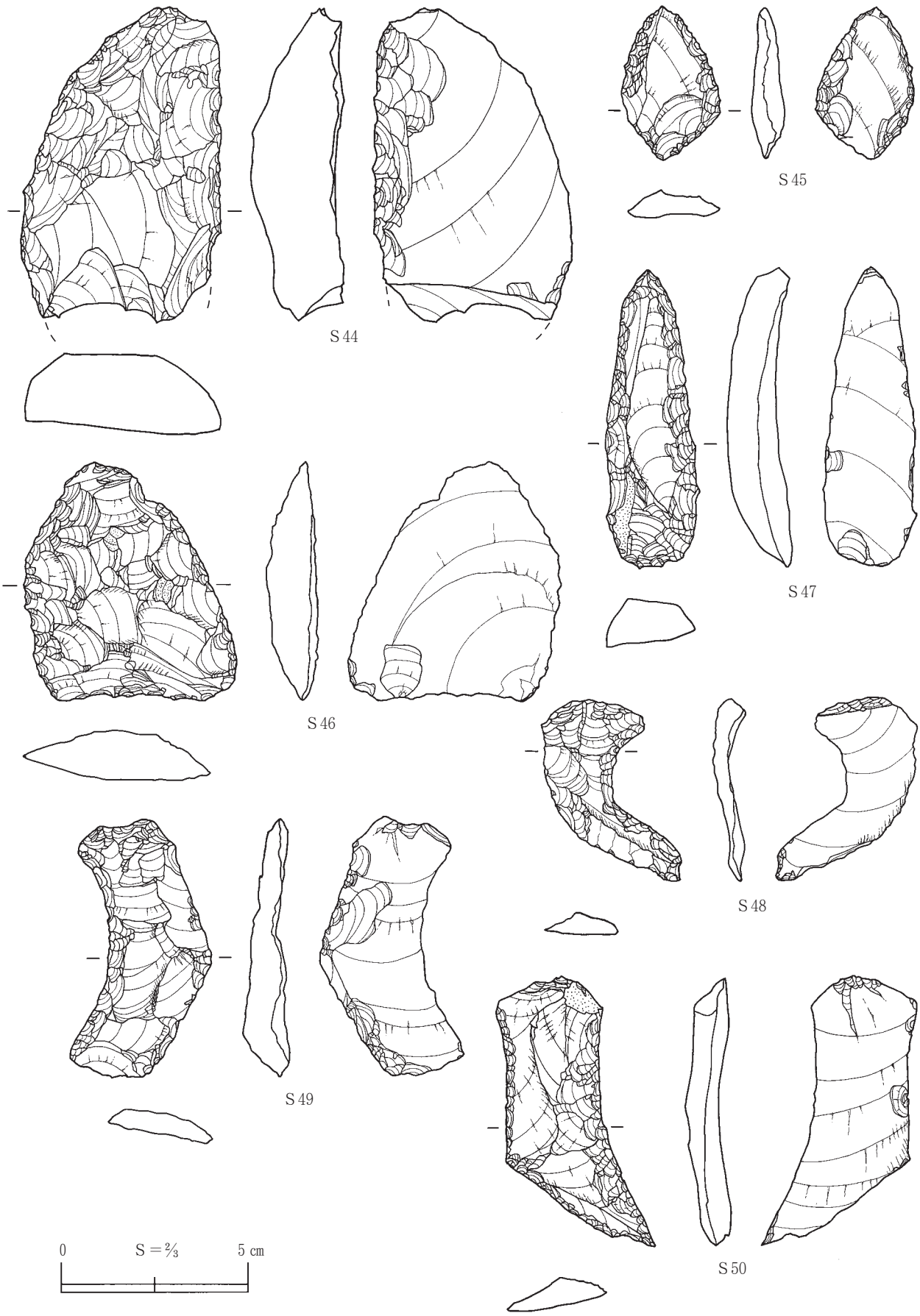
第69図　捨て場出土石器（３）



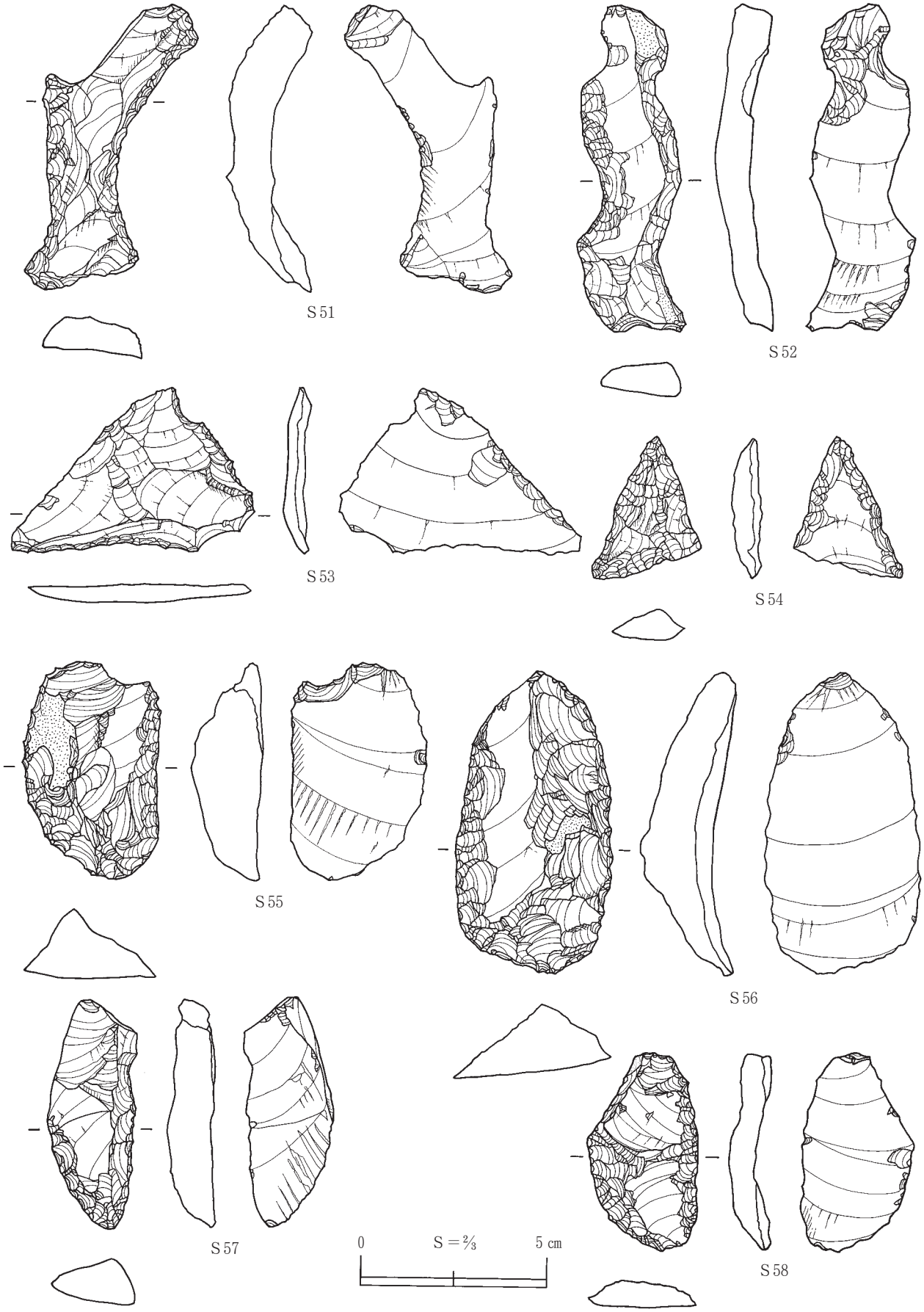
第70図　捨て場出土石器（４）



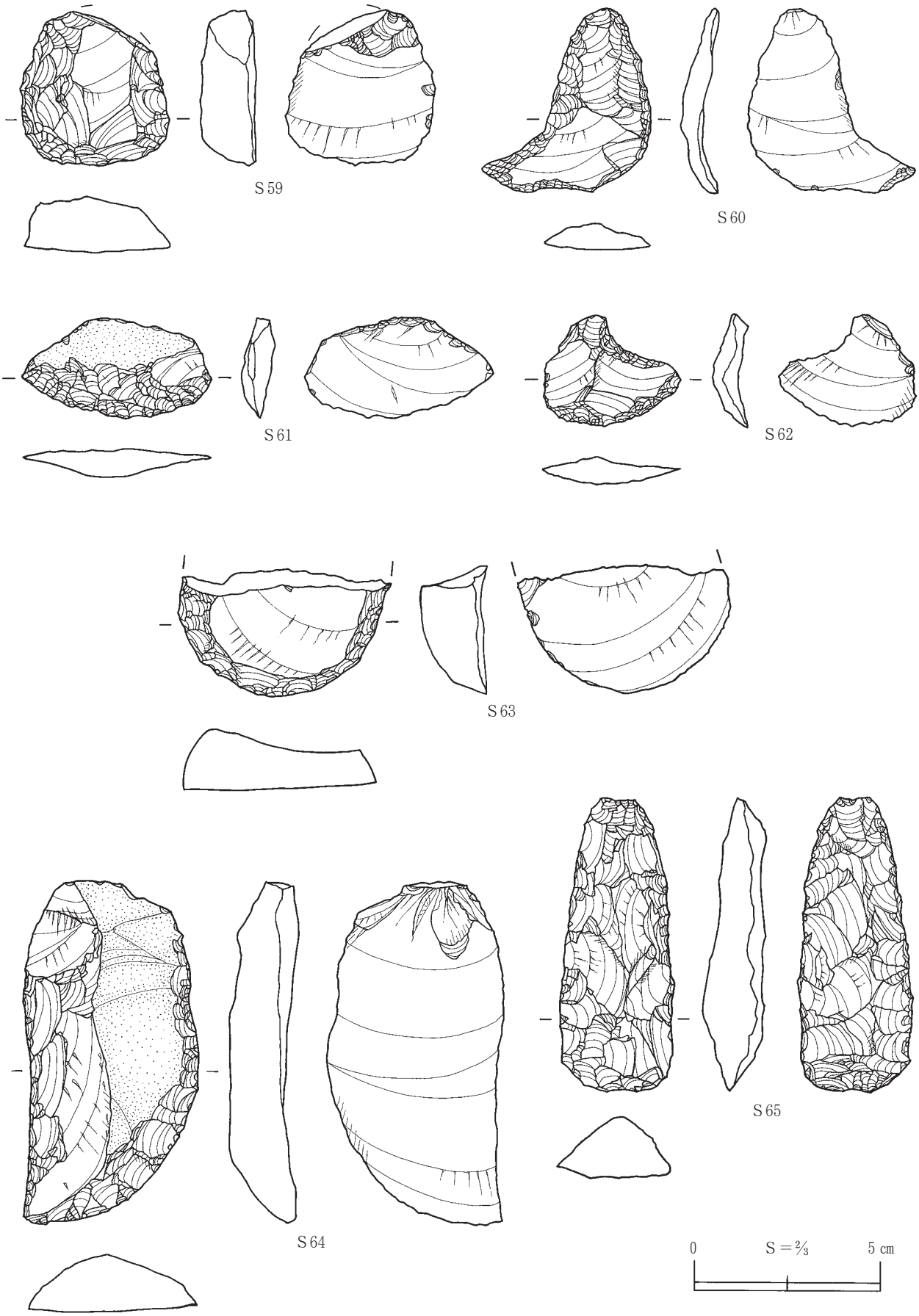
第71図　捨て場出土石器（５）



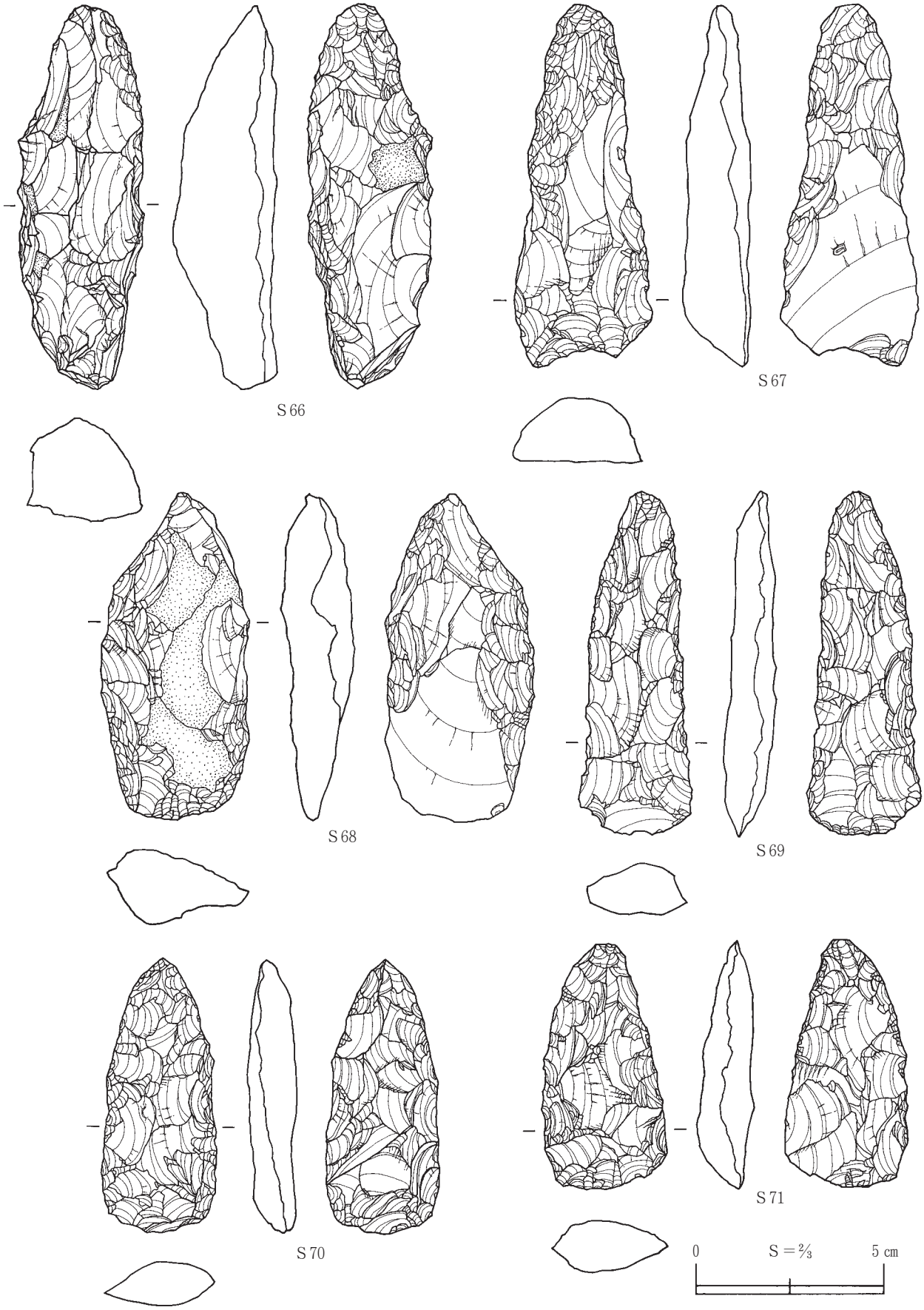
第72図　捨て場出土石器（６）



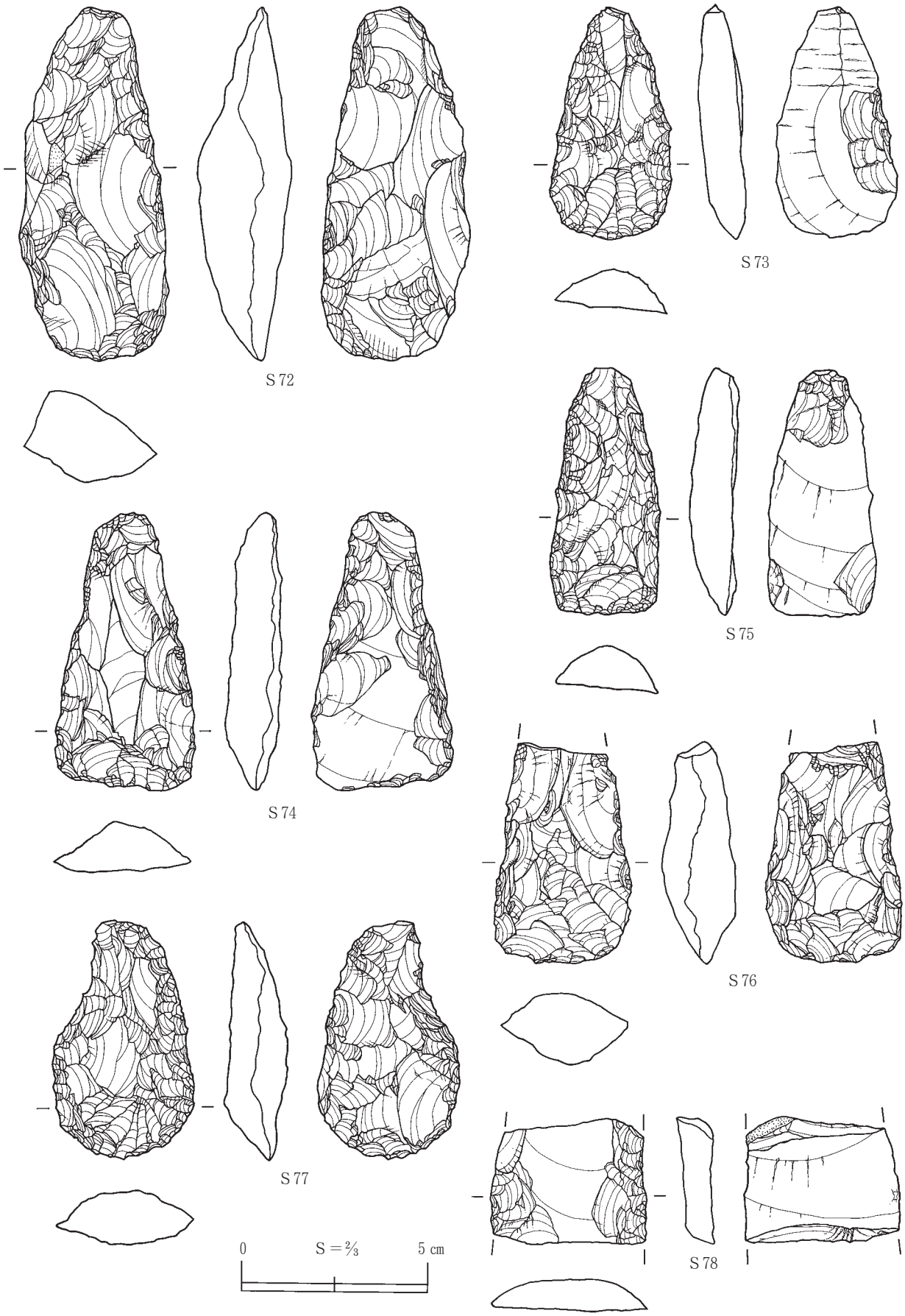
第73図　捨て場出土石器（７）



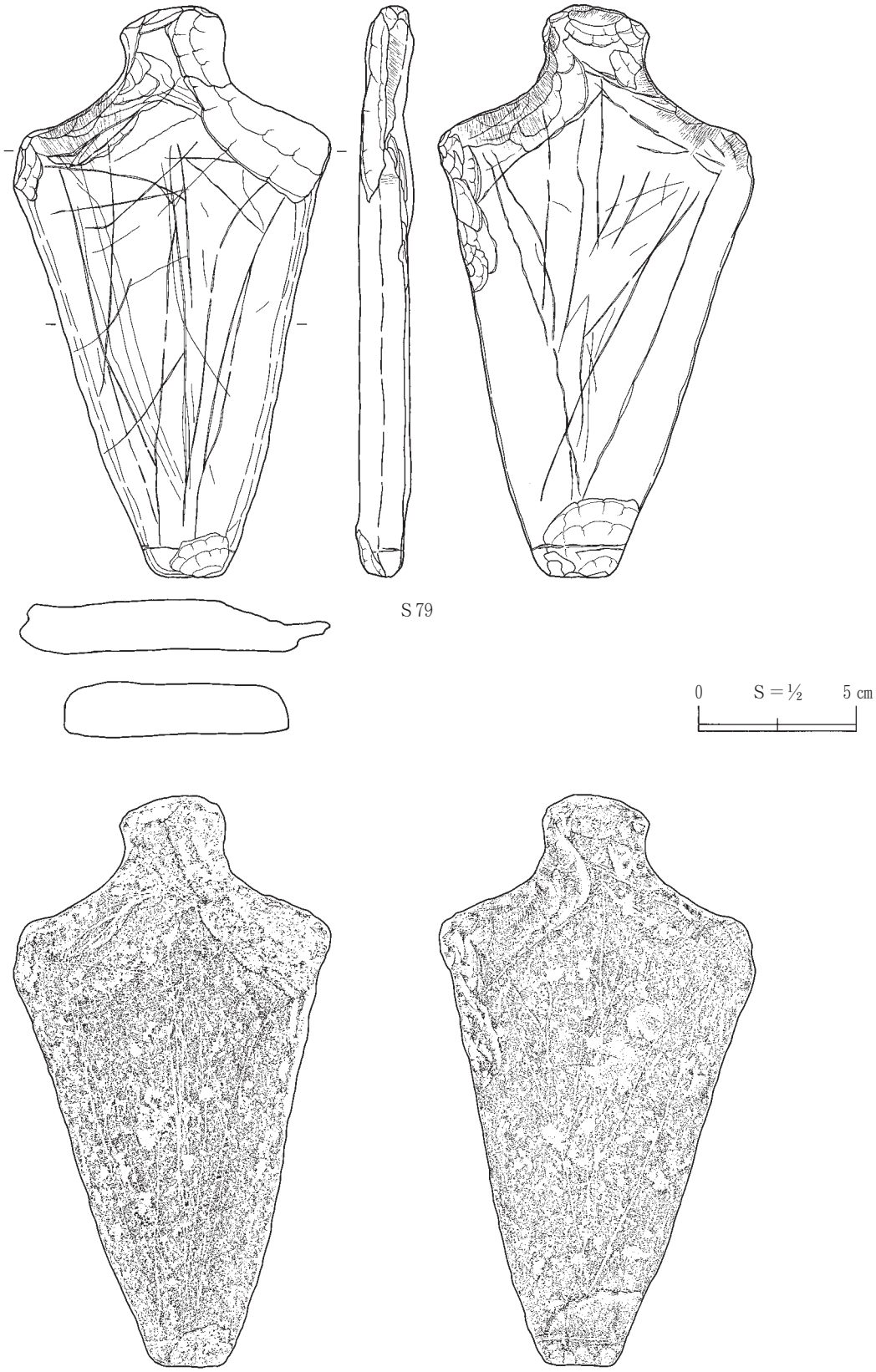
第74図　捨て場出土石器（８）



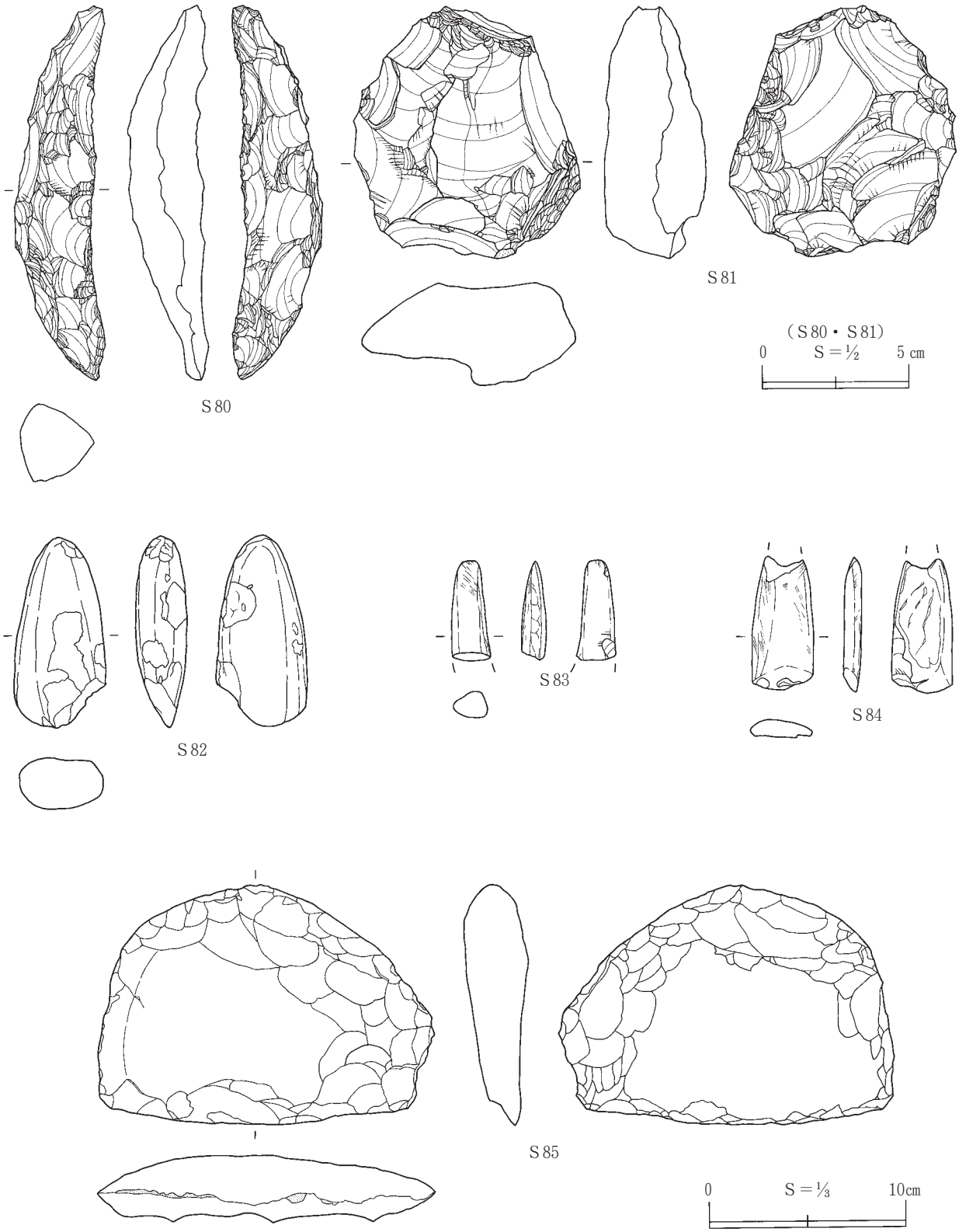
第75図　捨て場出土石器（９）



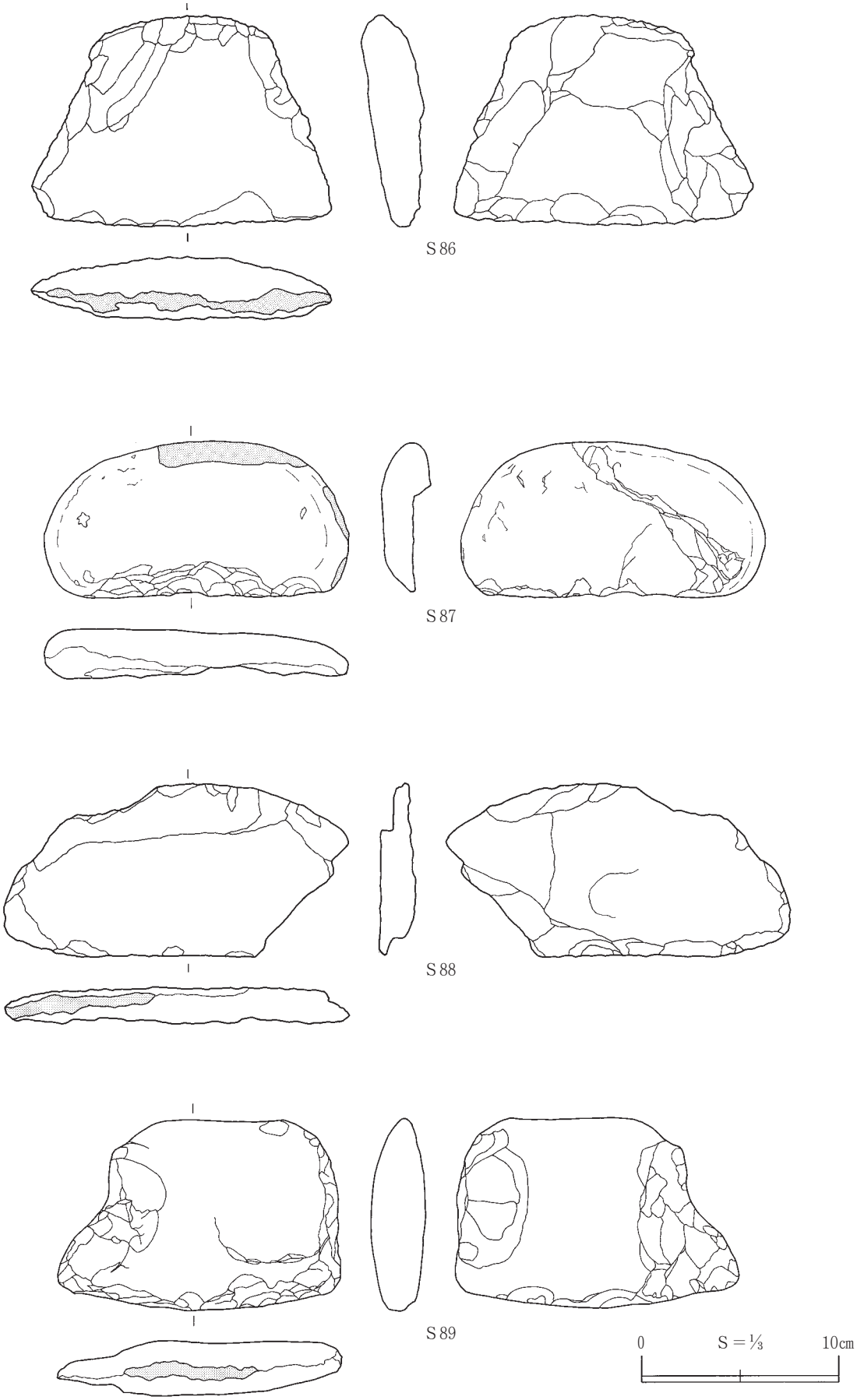
第76図　捨て場出土石器（10）



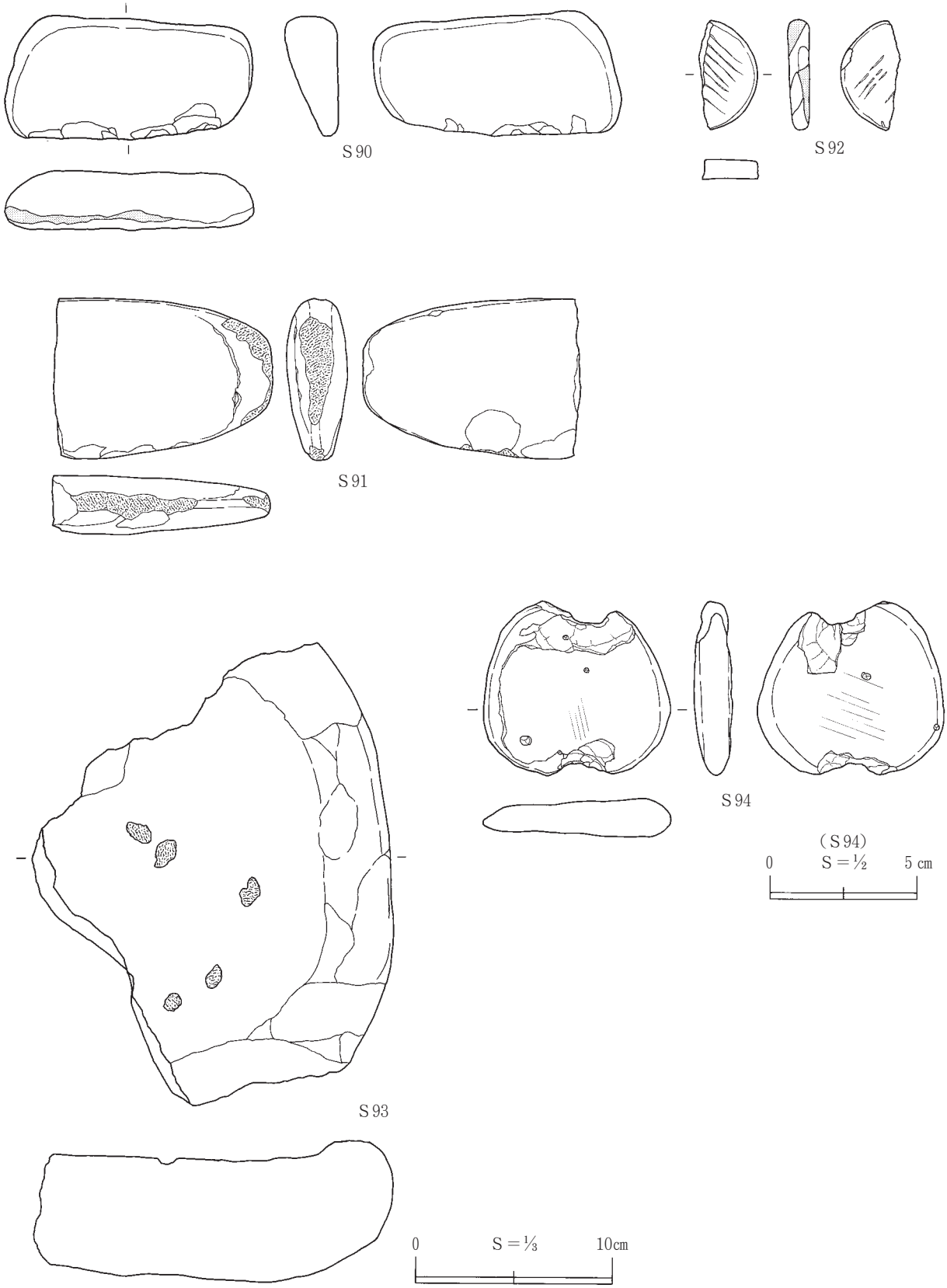
第77図　捨て場出土石器（11）



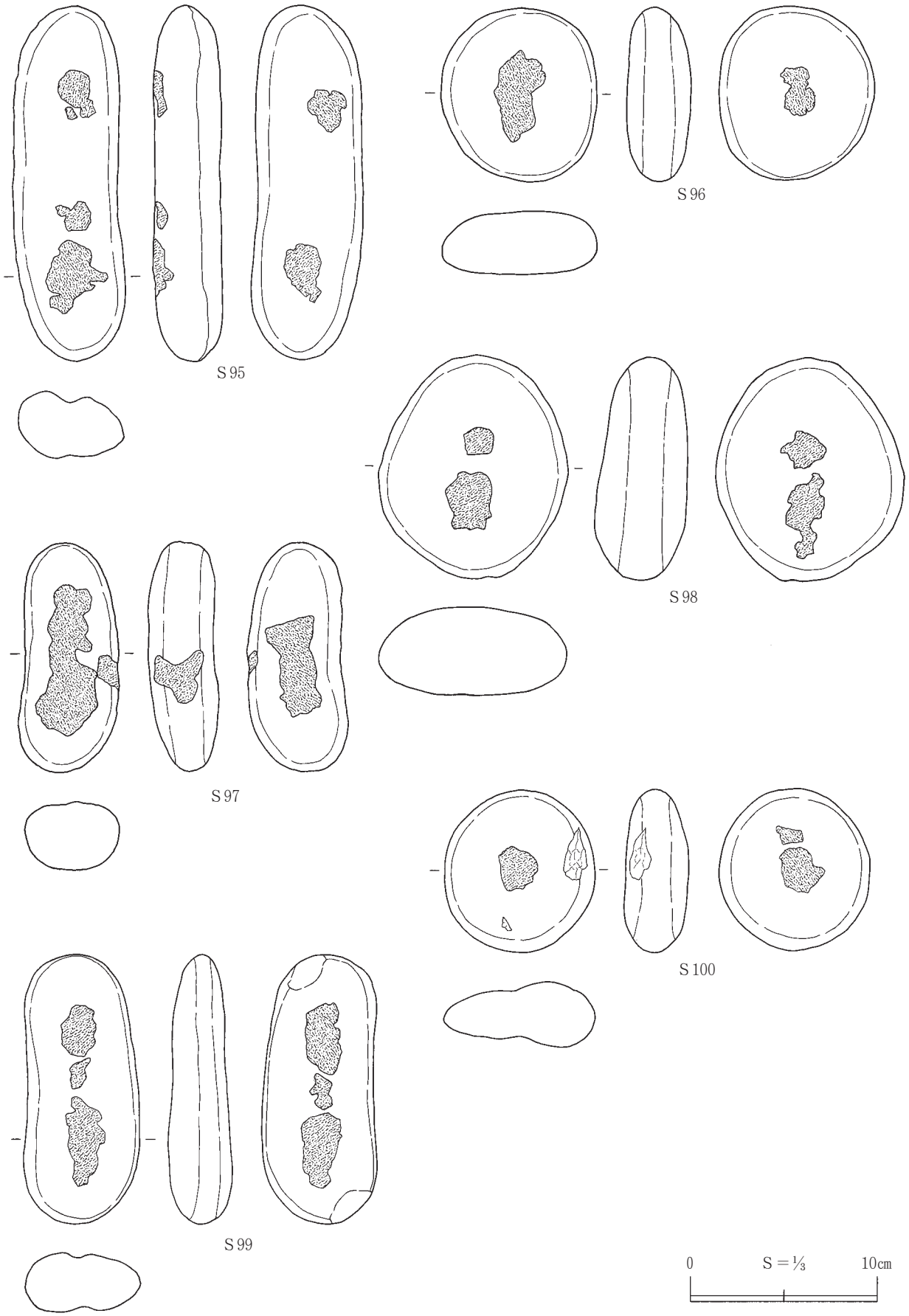
第78図　捨て場出土石器（12）



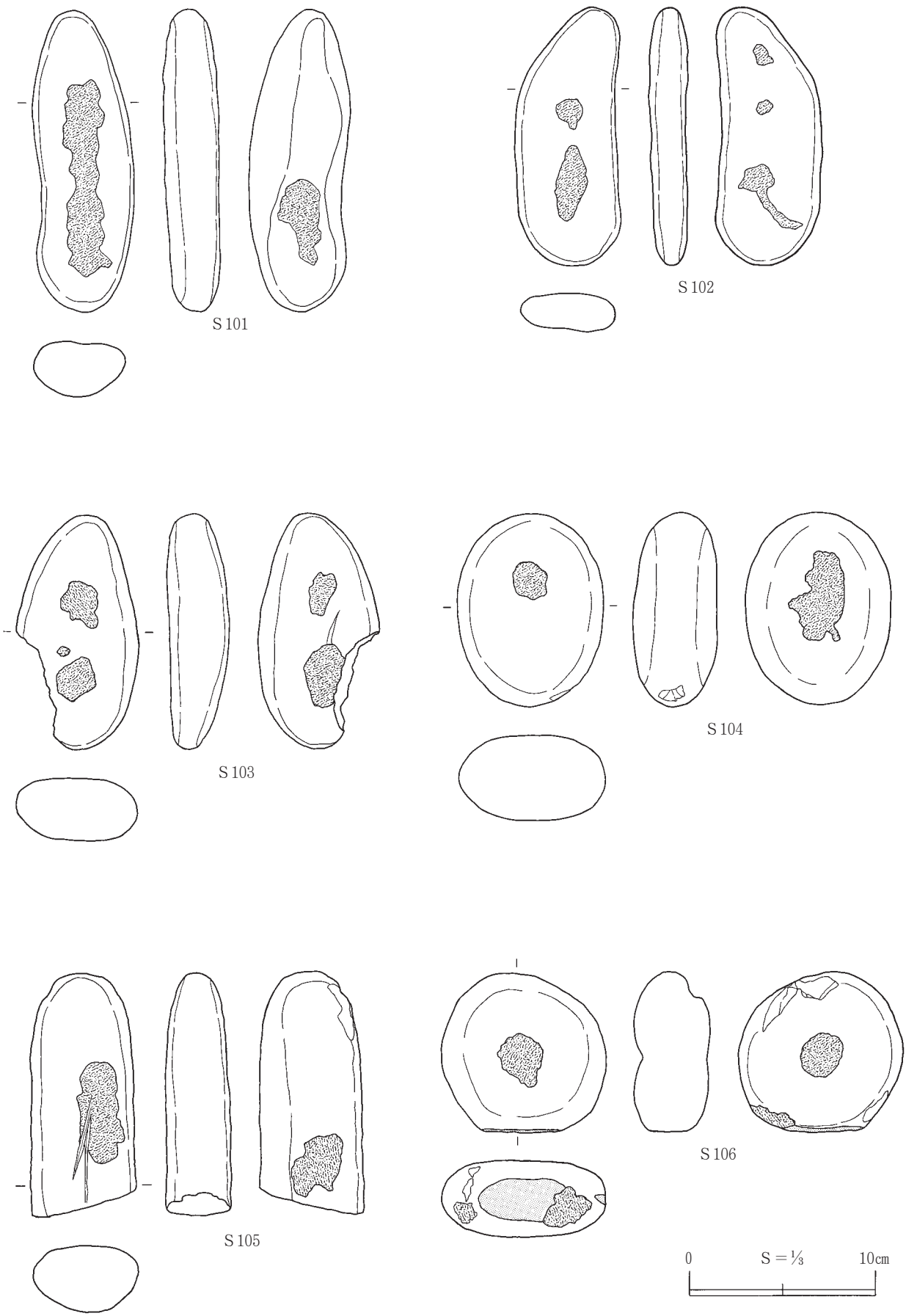
第79図　捨て場出土石器（13）



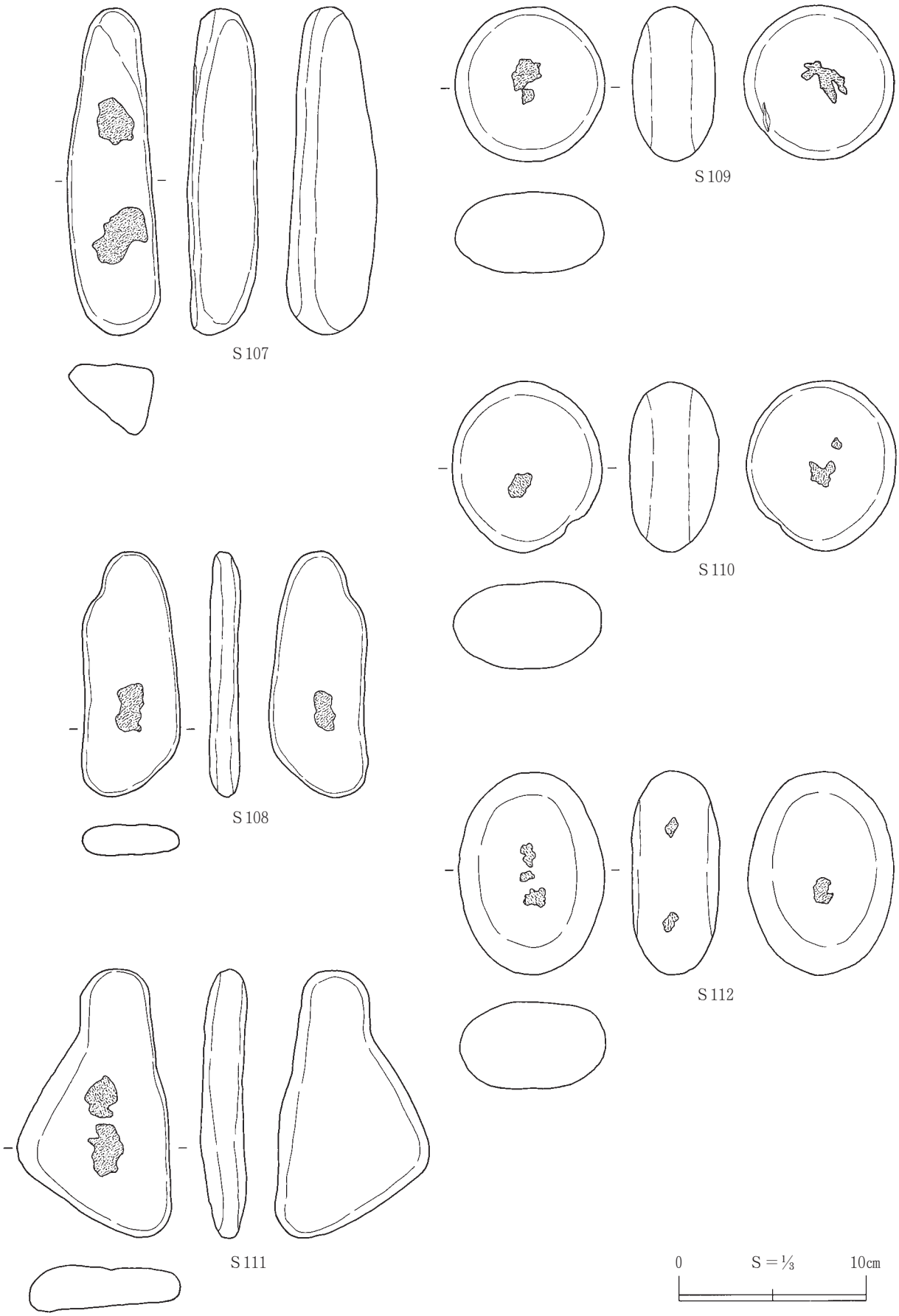
第80図　捨て場出土石器（14）



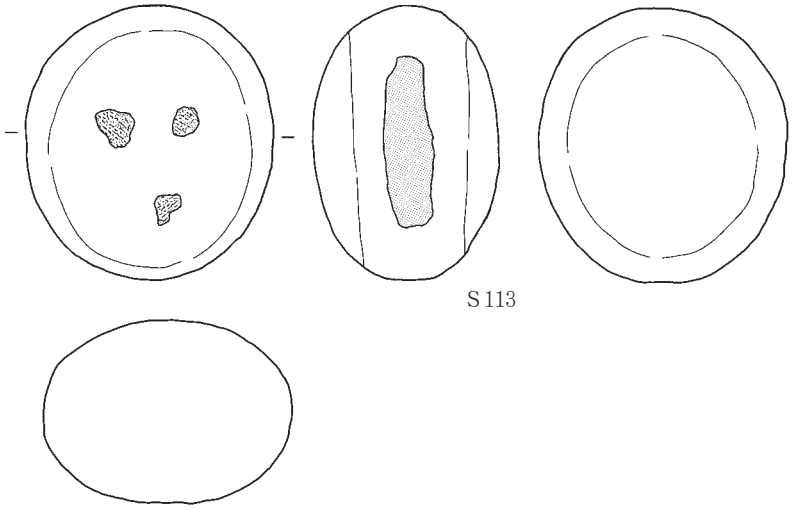
第81図　捨て場出土石器（15）

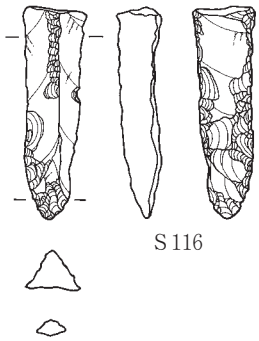


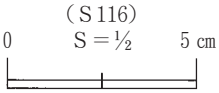
第82図　捨て場出土石器（16）

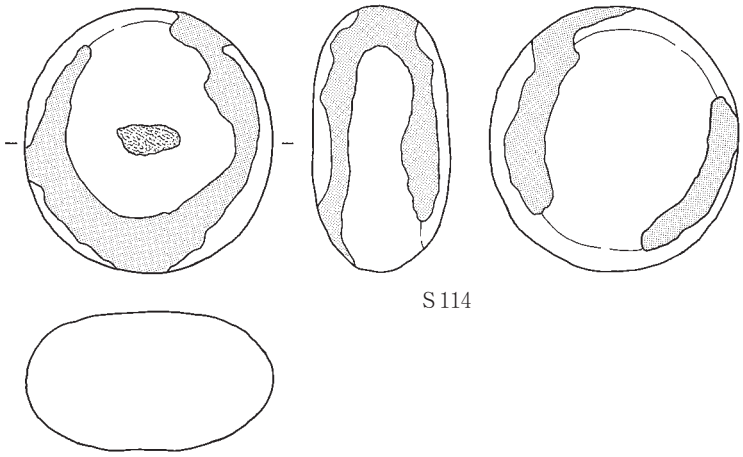


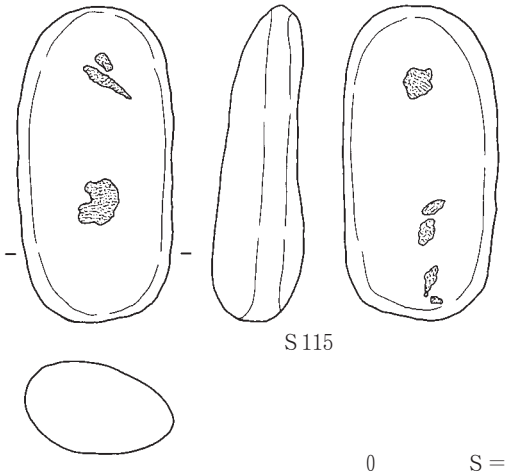
第83図　捨て場出土石器（17）

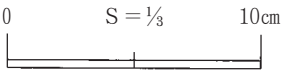












第84図　捨て場出土石器（18）

No.	出　土　地　点	該当区	備　　考	分　類	挿図	図版
E 1	C区空堀南端	C	口縁：貝殻腹縁圧痕文、胎土：繊維含まず	Ⅰ群	23	17
E 2	SD72	E	貝殻腹縁圧痕文、胎土：繊維含まず	Ⅰ群	23	17
E 3	LQ53	D	口縁：貝殻腹縁押引文、胎土：繊維含まず	Ⅰ群	23	17
E 4	SD72	E	貝殻腹縁圧痕文、胎土：繊維含まず	Ⅰ群	23	17
E 5	C区空堀南端	C	胴部：羽状縄文(ＲＬ、ＬＲ、非結束、末端非結節)、内面ナデ、胎土：繊維含む	Ⅱ－１	23	18
E 6	C区空堀南端壁	C	胴部：羽状縄文(ＲＬ、ＬＲ、非結束、末端非結節)、内面条痕、胎土：繊維含む	Ⅱ－１	23	17
E 7	C区空堀南端壁	C	口縁：棒側面押捺による刻み、胴部：羽状縄文(ＲＬ、ＬＲ、非結束、末端非結節)、内面ナデ、胎土：繊維含む	Ⅱ－１	23	17
E 8	C区空堀南端壁	C	胴部：羽状縄文(ＲＬ、ＬＲ、非結束、末端非結節)、胎土：繊維含む	Ⅱ－１	23	18
E 9	C区空堀	C	口縁：押し引き沈線文、胎土：繊維含む	Ⅱ－２	23	17
E10	C区空堀南端	C	胴部：条痕文施文後に多方向に縄文(ＲＬ)、内面条痕、胎土：繊維含む・細礫混入	Ⅱ－３Ａ	24	19
E11	LQ52Ⅲ層	D	口縁：波状、胴部：縄文(ＬＲ)、内面条痕、胎土：繊維含む	Ⅱ－３Ａ	24	17
E12	LQ53	D	胴部：縄文(ＬＲＬ)、内面条痕、胎土：繊維含む	Ⅱ－３Ａ	24	17
E13	SD66	E	胴部：縄文(ＬＲＬ)、内面条痕、胎土：繊維含む	Ⅱ－３Ａ	24	17
E14	LR50Ⅳ層	E	胴部：縄文(ＬＲＬ)、内面条痕、胎土：繊維含む	Ⅱ－３Ａ	24	17
E15	C区空堀	C	胴部：縄文(ＬＲＬ)、内面条痕、胎土：繊維含む	Ⅱ－３Ａ	24	17
E16	LQ53Ⅲ層	D	胴部：縄文(ＬＲＬ)、内面条痕、胎土：繊維含む	Ⅱ－３Ａ	24	17
E17	C区空堀南端	C	胴部：縄文(ＬＲＬ)、内面条痕、胎土：繊維含む	Ⅱ－３Ａ	24	17
E18	C区空堀南端	C	口縁：波状、胴部：縄文(ＬＲＬ)、内面条痕(胴部縦位・口縁横位)、胎土：繊維含む	Ⅱ－３Ａ	25	18
E19	LQ53Ⅲ層	D	口縁：波状、胴部：縄文(ＬＲＬ)、内面条痕文、胎土：繊維含む	Ⅱ－３Ａ	25	20
E20	SD72	E	胴部：縄文(ＲＬ)、内面条痕、胎土：繊維含む	Ⅱ－３Ａ	25	20
E21	LQ53Ⅲ層	D	口縁：波状、胴部：縄文(ＬＲ)、内面条痕、胎土：繊維含む	Ⅱ－３Ａ	25	20
E22	LS50Ⅲ層	E	胴部：縄文(ＬＲＬ)、内面条痕、胎土：繊維多量	Ⅱ－３Ａ	26	20
E23	LQ53Ⅲ層	D	胴部：縄文(ＲＬＲ)、綾絡文、内面条痕、胎土：繊維含む	Ⅱ－３Ａ	26	20
E24	LQ53・54Ⅲ層	D	胴部：撚糸文(Ｌｒ)、内面条痕、胎土：繊維多量	Ⅱ－３Ａ	26	19
E25	LQ52Ⅲ層	D	口縁：綾絡文２条、胴部：縄文(ＬＲＬ)、内面条痕、胎土：繊維含む	Ⅱ－３Ａ	26	19
E26	C区空堀南端	C	胴部：縄文(ＬＲＬ)、内面条痕、胎土：繊維含む・細礫及び白色凝灰岩粒含む	Ⅱ－３Ａ	26	20
E27	C区空端南端壁	C	胴部：縄文(ＲＬＲ)、内面条痕、胎土：繊維含む	Ⅱ－３Ａ	26	20
E28	C区空堀南端	C	胴部：縄文(ＬＲＬ)、内面条痕、胎土：繊維含む・細礫含む	Ⅱ－３Ａ	26	20

第３表　土器観察表（１）

No.	出　土　地　点	該当区	備　　考	分　類	挿図	図版
E29	LQ53Ⅲ層	D	口唇：原体先端刺突、口縁：縄文（ＬＲ）、内面縄文（ＬＲ）、胎土：繊維含む	Ⅱ－３Ｂ	26	20
E30	SD72、Ｃ区空堀南端	Ｃ・Ｅ	胴部：縄文（ＲＬ）、２条１組の綾絡文を等間隔に５組施文、胎土：繊維多量・砂細礫多量	Ⅱ－３Ｃａ	27	21
E31	LS52Ⅱ層	E	胴部：縄文（ＲＬ）、１条綾絡文２条、胎土：繊維含む	Ⅱ－３Ｃａ	27	21
E32	Ｃ区空堀南端	C	胴部：縄文（ＲＬ）、２条組綾絡文３条、胎土：繊維含む	Ⅱ－３Ｃａ	27	21
E33	SD72	E	胴部：縄文（ＲＬ）、２条組綾絡文２条、胎土：繊維含む	Ⅱ－３Ｃａ	27	21
E34	LQ52Ⅲ層	D	胴部：縄文（ＲＬ）、２条組綾絡文２条、胎土：繊維含む	Ⅱ－３Ｃａ	27	21
E35	LQ53Ⅲ層	D	胴部：縄文（ＲＬ）、２条組綾絡文２条、綾絡文１条、胎土：繊維含む	Ⅱ－３Ｃａ	27	21
E36	SD72	E	胴部：縄文（ＲＬ）、２条組綾絡文、胎土：繊維多量	Ⅱ－３Ｃａ	27	21
E37	LQ52Ⅱ層・LQ53Ⅲ層	D	口縁：波状、胴部：縄文（ＲＬ）、縦位に沈線文、胎土：繊維含む	Ⅱ－３Ｃｂ	28	21
E38	SD66	E	口縁：波状・内面にナデ痕、胴部：縄文（ＬＲＬ）、胎土：繊維含む・細礫多量	Ⅱ－３Ｃｂ	28	22
E39	SD72	E	口縁：波状、胴部：縄文（ＬＲ）、胎土：繊維含む・細礫多量	Ⅱ－３Ｃｂ	28	22
E40	LP54Ⅲ層	D	胴部：縄文（ＲＬ）、内面ナデ調整、胎土：繊維含む	Ⅱ－３Ｃｂ	29	22
E41	LQ54Ⅲ層	D	口縁：縄文（ＬＲＬ）、内面ナデ痕、胎土：繊維多量・細礫含む	Ⅱ－３Ｃｂ	29	22
E42	LP52Ⅲ層・LP52Ⅱ層	D	口縁：波状、胴部：縄文（ＬＲＬ）、内面ナデ痕、胎土：繊維含む・細礫含む	Ⅱ－３Ｃｂ	29	22
E43	SD72	E	胴部：縄文（ＲＬ）、胎土：繊維含む	Ⅱ－３Ｃｂ	29	23
E44	Ｃ区空堀南端	C	胴部：縄文（ＲＬ）、胎土：繊維含む・層状構造が顕著	Ⅱ－３Ｃｂ	29	23
E45	LQ53Ⅲ層	D	胴部：縄文（ＬＲＬ）、胎土：繊維含む	Ⅱ－３Ｃｂ	29	23
E46	Ｃ区空堀南西端	C	胴部：縄文（ＬＲＬ）、胎土：繊維含む・細礫多量	Ⅱ－３Ｃｂ	29	23
E47	LQ52Ⅲ層	D	口縁：外反、棒状施文具先端による刺突列、２㎝程無文帯、羽状縄文（ＲＬ、ＬＲ、非結束、末端非結節）、胎土：繊維含む	Ⅱ－３Ｃｂ	29	23
E48	SD72、LQ54Ⅲ層	Ｄ・Ｅ	口縁：撚糸文（Ｒℓ）を帯状に使用、胴部：撚糸文（Ｒℓ）、部分的に縄文（ＲＬ）、内面条痕、胎土：繊維含む	Ⅱ－４Ａ	30	24
E49	LR49Ⅳ層	E	口縁：波状、胴部：撚糸文（Ｌｒ）、内面条痕、胎土：繊維含む・細礫含む	Ⅱ－４Ａ	30	23
E50	LP53Ⅲ層、LQ53Ⅲ層、Ｃ区空堀南端	Ｃ・Ｄ	口縁：波状、胴部：撚糸文（Ｌｒ）、内面条痕、胎土：繊維含む	Ⅱ－４Ａ	31	24
E51	LR49Ⅳ層	E	口縁：波状、胴部：撚糸文（Ｌｒ）、内面条痕、胎土：繊維含む・細礫含む	Ⅱ－４Ａ	31	25
E52	LQ53Ⅲ層	D	胴部：撚糸文（Ｌｒ）、内面条痕、胎土：繊維多量・細礫多量	Ⅱ－４Ａ	32	23
E53	SD72	E	胴部：撚糸文（Ｌｒ）、内面条痕、胎土：繊維含む・粗砂細礫多量	Ⅱ－４Ａ	32	23
E54	LQ53Ⅲ層	D	口縁：横位に原体施文後外反、絡条体側面押捺、胴部：撚糸文（Ｌｒ）、内面条痕、胎土：繊維含む	Ⅱ－４Ａ	32	26
E55	LP52Ⅲ層	D	口縁：波状、胴部：撚糸文（ＲＬ）、内面条痕、胎土：繊維含む	Ⅱ－４Ａ	32	26

第４表　土器観察表（２）

No.	出　土　地　点	該当区	備　　考	分　類	挿図	図版
E56	C区空堀南端	C	胴部：撚糸文（Ｌｒ）、内面条痕、胎土：繊維含む・粗砂細礫含む	Ⅱ－４Ａ	32	26
E57	C区空堀南端	C	胴部：撚糸文（Ｌｒ）、内面条痕、胎土：繊維含む	Ⅱ－４Ａ	32	26
E58	LQ53Ⅲ層	D	胴部：撚糸文（Ｌｒ）、内面条痕、胎土：繊維含む・細礫含む	Ⅱ－４Ａ	33	26
E59	E区２トレⅠ層	E	胴部：撚糸文（ＬＲ）、内面条痕、胎土：繊維含む	Ⅱ－４Ａ	33	26
E60	LQ54Ⅲ層	D	胴部：撚糸文（Ｌｒ）、内面条痕、胎土：繊維微量・砂多量	Ⅱ－４Ａ	33	26
E61	LQ54Ⅲ層	D	胴部：撚糸文（Ｌｒ）施文後、微細縄文（ＲＬ）を部分的に施文、口唇頂部を微細縄文（ＲＬ）で調整、内面条痕、胎土：繊維含む	Ⅱ－４Ａ	33	26
E62	LQ53Ⅲ層	D	胴部：撚糸文（Ｌｒ）、内面条痕、胎土：繊維多量	Ⅱ－４Ａ	33	26
E63	LP53Ⅲ層	D	胴部：撚糸文（Ｌｒ）、内面条痕、胎土：繊維含む	Ⅱ－４Ａ	33	26
E64	LP52Ⅲ層	D	胴部：撚糸文（Ｌｒ）、内面条痕、胎土：繊維含む	Ⅱ－４Ａ	33	27
E65	LQ53Ⅲ層	D	胴部：撚糸文（Ｌｒ）、内面条痕、胎土：繊維含む	Ⅱ－４Ａ	33	27
E66	LP52Ⅲ層	D	胴部：撚糸文（Ｌｒ）、内面条痕、胎土：繊維含む	Ⅱ－４Ａ	33	27
E67	D区表採	D	胴部：撚糸文（Ｌｒ）、内面条痕、胎土：繊維含む	Ⅱ－４Ａ	33	27
E68	LR49Ⅳ層	E	胴部：撚糸文（Ｌｒ）、内面条痕、胎土：繊維含む・細礫含む	Ⅱ－４Ａ	33	27
E69	SD72	E	胴部：撚糸文（Ｌｒ）、内面条痕、胎土：繊維多量・細礫含む	Ⅱ－４Ａ	34	25
E70	LS51　１トレ	E	胴部：撚糸文（Ｌｒ）、内面条痕、胎土：繊維含む・砂多量	Ⅱ－４Ａ	34	27
E71	C区空堀南西端	C	胴部：撚糸文（Ｌｒ）、内面条痕、底部外面：網代痕、胎土：繊維含む	Ⅱ－４Ａ	34	27
E72	LQ53Ⅲ層	D	胴部：撚糸文（Ｌｒ）、内面条痕、胎土：繊維含む	Ⅱ－４Ａ	34	27
E73	C区南側	C	胴部：撚糸文（Ｌｒ）、内面条痕、胎土：繊維含む・鉱物粒含む	Ⅱ－４Ａ	34	27
E74	LR49Ⅳ層	E	胴部：撚糸文（Ｌｒ）、内面条痕、胎土：繊維含む	Ⅱ－４Ａ	34	27
E75	E区１・２トレⅡ層	E	胴部：撚糸文（Ｌｒ）、内面条痕、胎土：繊維含む	Ⅱ－４Ａ	34	27
E76	LQ52Ⅲ層	D	胴部：撚糸文（Ｌｒ）、内面条痕、胎土：繊維含む	Ⅱ－４Ａ	34	27
E77	E区１・２トレⅢ層	E	口縁：ナデ調整後施文、胴部：撚糸文（ＬＲ）、内面撚糸文（ＬＲ）、胎土：繊維含む	Ⅱ－４Ｂ	35	28
E78	E区２トレⅡ層	E	胴部：撚糸文（Ｒℓ）、内面撚糸文（Ｒℓ）、胎土：繊維含む	Ⅱ－４Ｂ	35	28
E79	LP53Ⅲ層	D	胴部：撚糸文（Ｒℓ）、内面縄文（ＬＲ）、胎土：繊維含む	Ⅱ－４Ｂ	35	28
E80	LP52Ⅲ層	D	胴部：撚糸文（Ｒℓ）、内面縄文（ＬＲ）、胎土：繊維含む	Ⅱ－４Ｂ	35	28
E81	LQ52Ⅱ層	D	胴部：撚糸文（Ｒℓ）、内面撚糸文（Ｒℓ）、胎土：繊維含む	Ⅱ－４Ｂ	35	28
E82	SD66	E	胴部：撚糸文（Ｒℓ）、内面撚糸文（Ｒℓ）、胎土：繊維含む・砂多量	Ⅱ－４Ｂ	35	28
E83	LQ53Ⅲ層	D	胴部：撚糸文（Ｒℓ）、内面瓦葺状撚糸文、胎土：繊維含む	Ⅱ－４Ｂ	35	28

第５表　土器観察表（３）

No.	出　土　地　点	該当区	備　　考	分　類	挿図	図版
E 84	LP52Ⅲ層	D	胴部：撚糸文（Ｒℓ）、内面撚糸文（Ｒℓ）、底部外面ナデ痕、胎土：繊維含む	Ⅱ－４Ｂ	35	28
E 85	LR50Ⅳ層、Ｅ区土器集中区Ⅱ層	E	口縁：波状、胴部：撚糸文（Ｌｒ）、口縁内面にナデ痕、胎土：繊維多量・細礫多量	Ⅱ－４Ｃａ	36	29
E 86	LP52・53Ⅲ層、LQ53Ⅲ層	D	胴部：撚糸文（Ｌｒ）、胎土：繊維多量	Ⅱ－４Ｃａ	36	29
E 87	SD72	E	胴部：撚糸文（Ｌｒ）、胎土：繊維含む	Ⅱ－４Ｃａ	37	28
E 88	SD72	E	胴部：撚糸文（Ｌｒ）、胎土：繊維含む	Ⅱ－４Ｃａ	37	28
E 89	SD72	E	口縁：波状、胴部：撚糸文（Ｌｒ）、胎土：繊維含む・細礫含む	Ⅱ－４Ｃａ	37	30
E 90	LQ53Ⅲ層	D	胴部：撚糸文（Ｌｒ）、口縁内面ナデ痕、胴部内面粗、胎土：繊維含む・細礫含む	Ⅱ－４Ｃａ	37	30
E 91	LQ53Ⅲ層	D	胴部：撚糸文（Ｌｒ）、胎土：繊維含む	Ⅱ－４Ｃａ	37	30
E 92	Ｃ区空堀南端	C	胴部：撚糸文（Ｌｒ）、口縁内面ナデ痕、胎土：繊維含む	Ⅱ－４Ｃａ	37	30
E 93	Ｃ区空堀南端	C	口縁：波状、胴部：撚糸文（Ｌｒ）、胎土：繊維含む	Ⅱ－４Ｃａ	37	30
E 94	SD72	E	胴部：撚糸文（Ｌｒ）、内面ナデ痕、胎土：繊維含む	Ⅱ－４Ｃａ	37	30
E 95	LQ53Ⅲ層	D	口縁：波状、胴部：撚糸文（Ｌｒ）、胎土：繊維多量・細礫含む	Ⅱ－４Ｃａ	37	30
E 96	LQ53Ⅲ層	D	口縁：波状、胴部：撚糸文（Ｌｒ）、胎土：繊維含む	Ⅱ－４Ｃａ	38	30
E 97	LQ53Ⅲ層	D	胴部：付加条縄文（ＲＬ＋Ｒℓ）、胎土：繊維含む	Ⅱ－３Ｃｂ	38	30
E 98	LQ53Ⅲ層	D	口縁：波状、胴部：撚糸文（Ｌｒ）、胎土：繊維含む・粗砂多量	Ⅱ－４Ｃａ	38	30
E 99	LP54Ⅲ層・LQ52Ⅲ層	D	胴部：撚糸文（Ｌｒ）、胎土：繊維含む	Ⅱ－４Ｃａ	38	30
E 100	LP52Ⅲ層	D	胴部：撚糸文（Ｌｒ）、胎土：繊維含む・粗砂多量	Ⅱ－４Ｃａ	38	30
E 101	Ｃ区空堀南端	C	口縁：波状、胴部：撚糸文（Ｌｒ）、胎土：繊維多量・粗砂・鉱物粒含む	Ⅱ－４Ｃａ	38	30
E 102	SF70 北斜面	D	胴部：撚糸文（Ｌｒ）、胎土：繊維含む	Ⅱ－４Ｃａ	38	31
E 103	LQ53Ⅲ層	D	胴部：撚糸文（Ｌｒ）、内面ナデ痕、胎土：繊維多量	Ⅱ－４Ｃａ	38	31
E 104	Ｃ区空堀南端	C	撚糸文（Ｌｒ）、胎土：繊維含む	Ⅱ－４Ｃａ	38	31
E 105	SD72、LP53Ⅲ層、LQ53Ⅲ層	D・E	胴部：撚糸文（Ｌｒ）、胎土：繊維含む	Ⅱ－４Ｃａ	39	31
E 106	SD66	E	口縁：波状、絡条体押捺、胴部：撚糸文（Ｌｒ）、内面ナデ痕、胎土：繊維含む	Ⅱ－４Ｃａ	39	31
E 107	LR49Ⅳ層	E	口縁：絡条体押捺、胴部：撚糸文（Ｌｒ）、胎土：繊維含む	Ⅱ－４Ｃａ	39	31
E 108	SD72	E	口縁：波状、絡条体押捺、胴部：撚糸文（Ｌｒ）、胎土：繊維含む	Ⅱ－４Ｃａ	39	31
E 109	LP53Ⅲ層	D	口縁：絡条体押捺２条、胴部：撚糸文（Ｌｒ）、胎土：繊維含む	Ⅱ－４Ｃａ	39	31
E 110	Ｃ区空堀南西端	C	口縁：絡条体押捺、胴部：撚糸文（Ｒℓ）、胎土：繊維含む	Ⅱ－４Ｃａ	39	31
E 111	Ｃ区空堀南端	C	口縁：絡条体押捺２条、胴部：撚糸文（Ｌｒ）、胎土：繊維含む	Ⅱ－４Ｃａ	39	31

第６表　土器観察表（４）

No.	出　土　地　点	該当区	備　　考	分　類	挿図	図版
E112	LQ52Ⅲ層	D	胴部：撚糸文（Ｌｒ）、胎土：繊維含む	Ⅱ－４Ｃａ	39	31
E113	LQ52Ⅲ層	D	胴部：撚糸文（Ｌｒ）、胎土：繊維含む	Ⅱ－４Ｃａ	39	31
E114	SD72	E	胴部：撚糸文（Ｌｒ）、胎土：繊維多量	Ⅱ－４Ｃａ	39	31
E115	Ｃ区空堀南端	C	胴部：撚糸文（Ｒℓ）、底部：内外面撚糸文（Ｒℓ）、胎土：繊維微量・細礫混入	Ⅱ－４Ｃｂ	40	32
E116	Ｃ区空堀南端壁	C	胴部：撚糸文（Ｒℓ）、胎土：繊維含む・鉱物粒多量混入	Ⅱ－４Ｃｂ	40	31
E117	SD66、LP52Ⅲ層、LQ52Ⅲ層	D・E	胴部：撚糸文（Ｌｒ）、胎土：繊維含む・鉱物粒混入	Ⅱ－４Ｃｂ	40	31
E118	SD66、LP52、LQ52・53、Ｅ区１トレⅢ層	D・E	胴部：撚糸文（Ｒℓ）、内面ナデ痕、胎土：繊維含む	Ⅱ－４Ｃｂ	41	32
E119	Ｃ区空堀南端壁	C	胴部：撚糸文（Ｒℓ）、内面ナデ痕、胎土：繊維含む	Ⅱ－４Ｃｂ	41	33
E120	Ｃ区空堀南西端	C	胴部：撚糸文（Ｒℓ）、胎土：繊維含む・鉱物粒混入	Ⅱ－４Ｃｂ	41	33
E121	Ｃ区空堀南端	C	胴部：撚糸文（Ｒℓ）、胎土：繊維含む	Ⅱ－４Ｃｂ	41	33
E122	LQ52Ⅲ層	D	胴部：撚糸文（Ｌｒ）、胎土：繊維含む・細礫含む	Ⅱ－４Ｃｂ	41	33
E123	Ｃ区空堀南西端	C	胴部：撚糸文（Ｒℓ）、胎土：繊維含む	Ⅱ－４Ｃｂ	41	33
E124	Ｃ区空堀南西端	C	胴部：撚糸文（Ｒℓ）、胎土：繊維含む・細砂多量・鉱物粒混入	Ⅱ－４Ｃａ	41	33
E125	Ｃ区空堀南西端	C	口縁：絡条体押捺３条、胴部：撚糸文（Ｒℓ）、内面ナデ痕、胎土：繊維含む	Ⅱ－４Ｃａ	41	33
E126	LR50Ⅲ層、Ｅ区Ⅲ層	E	胴部：撚糸文（Ｒℓ）、胎土：繊維多量・細砂多量・石英粒多量混入	Ⅱ－４Ｃｂ	41	34
E127	LQ53Ⅲ層	D	胴部：撚糸文（Ｌｒ）、胎土：繊維含む	Ⅱ－４Ｃａ	41	33
E128	LQ52Ⅱ層	D	胴部：撚糸文（Ｒℓ）・一部縄文（ＲＬ）、内面ナデ痕、胎土：繊維含む	Ⅱ－４Ｃａ	41	33
E129	Ｃ区空堀南西端	C	胴部：撚糸文（Ｌｒ）、胎土：繊維含む	Ⅱ－４Ｃａ	41	33
E130	SD72、LQ53・54Ⅲ層	D・E	口縁：綾絡文、胴部：羽状縄文（ＲＬ、ＬＲ、結節原体、非結束）、施文単位間をナデ調整、内面ナデ痕、胎土：繊維含む	Ⅱ－５	42	34
E131	LQ53Ⅲ層	D	口縁：綾絡文、胴部：羽状縄文（ＲＬ、ＬＲ、結節原体、非結束）、施文単位間をナデ調整、内面ナデ痕、胎土：繊維含む	Ⅱ－５	42	34
E132	LP52・53Ⅲ層、LQ53Ⅲ層	D	口縁：隆帯１条、胴部：羽状縄文（ＲＬＲ、ＬＲＬ、結節原体、非結束）、内面ナデ痕、胎土：繊維含む	Ⅱ－５	43	35
E133	LQ53Ⅲ層	D	口縁：波状、無文帯、胴部：羽状縄文（ＬＲＬ、ＲＬＲ、結節原体、非結束）、施文単位間をナデ調整、胎土：繊維含む	Ⅱ－５	43	35
E134	Ｃ区空堀南端	C	口縁：結節回転文（ＬＲ）、隆帯２条（刺突列）、胴部：結節回転文（ＬＲ）、胎土：繊維含む・鉱物粒多量	Ⅱ－６Ａ	44	37
E135	Ｃ区空堀南西端	C	口唇：刺突により波状、口縁：結節回転文（ＬＲ）、隆帯２条（爪形圧痕文列）、胎土：繊維含む・細礫含む	Ⅱ－６Ａ	44	37
E136	LS49Ⅳ層	E	口縁：結節回転文、隆帯２条（刺突列）、胎土：繊維含む・細礫含む	Ⅱ－６Ａ	44	37

第７表　土器観察表（５）

No.	出　土　地　点	該当区	備　　考	分　類	挿図	図版
E137	SD66	E	口唇：棒側面押捺により波状、口縁：結節回転文（ＬＲ）、隆帯２条（刺突列）、胴部：結節回転文（ＲＬ）、胎土：繊維含む	Ⅱ－６Ａ	44	37
E138	LR50Ⅲ層、Ｄ区表採	Ｄ・Ｅ	口縁：結節回転文、隆帯１条、胴部：結節回転文、撚糸文（Ｌｒ）、胎土：繊維含む・粗砂多量	Ⅱ－６Ａ	44	37
E139	Ｃ区	C	口唇：棒側面押捺による刻み、口縁：結節回転文（ＲＬ）、隆帯（刺突列）、胎土：繊維含む・細礫含む	Ⅱ－６Ａ	44	37
E140	SD66	E	口縁：結節回転文、隆帯１条（沈線文＋刺突文）、胴部：撚糸文（Ｌｒ）、胎土：繊維含む・粗砂多量	Ⅱ－６Ａ	44	37
E141	Ｃ区空堀南西端	C	口縁：結節回転文、隆帯１条（刺突文）、胴部：原体不明、胎土：繊維含む	Ⅱ－６Ａ	45	37
E142	Ｃ区空堀南西端	C	口縁：結節回転文、隆帯２条（刺突列）、胎土：繊維含む	Ⅱ－６Ａ	45	37
E143	LQ52Ⅲ層	D	口縁：結節回転文、隆帯２条（刺突列）、胴部：結節回転文（原体２条）、胎土：繊維含む・細礫含む	Ⅱ－６Ａ	45	37
E144	LQ53Ⅲ層	D	口縁：瓦葺状撚糸文（Ｒℓ）、隆帯１条（刺突列）、胴部：縄文（ＲＬＲ）、胎土：繊維含む	Ⅱ－６Ａ	45	38
E145	Ｃ区空堀南端	C	口縁：瓦葺状撚糸文、隆帯２条（刺突列）、胴部：瓦葺状撚糸文、胎土：繊維含む	Ⅱ－６Ａ	45	38
E146	LQ52Ⅲ層	D	口縁：結節回転文（Ｒℓ）、隆帯２条（刺突列）、胴部：瓦葺状撚糸文、胎土：繊維含む	Ⅱ－６Ａ	45	38
E147	Ｃ区空堀南端	C	隆帯２条（刺突列）、胴部：瓦葺状撚糸文、胎土：繊維含む・細礫含む	Ⅱ－６Ａ	45	38
E148	LQ53Ⅱ層	D	口縁：瓦葺状撚糸文、隆帯１条、胴部：原体不明、内面ナデ痕、胎土：繊維含む	Ⅱ－６Ａ	45	38
E149	LP52Ⅱ層	D	口縁：瓦葺状撚糸文、隆帯２条（棒側面押捺）、胎土：繊維含む・細礫多量	Ⅱ－６Ａ	45	38
E150	Ｃ区空堀南西端	C	口縁：瓦葺状撚糸文、隆帯１条、胴部：撚糸文（Ｒℓ）、胎土：繊維含む	Ⅱ－６Ａ	45	38
E151	LQ53Ⅲ層	D	口縁：結節回転文、隆帯１条（刺突列）、胎土：繊維含む	Ⅱ－６Ａ	45	38
E152	Ｅ区平坦部	E	口縁：結節回転文、隆帯２条（刺突列）、胎土：繊維含む・粗砂多量	Ⅱ－６Ａ	45	38
E153	Ｃ区南端壁	C	口縁：結節回転文、隆帯１条（刺突列）、胎土：繊維含む	Ⅱ－６Ａ	45	38
E154	LQ52Ⅱ層	D	口縁：瓦葺状撚糸文、隆帯１条（棒側面圧痕）、胎土：繊維含む・細礫含む	Ⅱ－６Ａ	45	38
E155	Ｅ区１トレ	E	口縁：瓦葺状撚糸文、隆帯１条（原体側面圧痕）、胎土：繊維含む	Ⅱ－６Ａ	45	38
E156	LQ53Ⅲ層	D	口唇：刺突列、隆帯１条（棒側面押捺）、瓦葺状撚糸文、胴部：縄文（ＬＲＬ）、胎土：繊維含む	Ⅱ－６Ａ	45	39
E157	Ｃ区空堀南端	C	口縁：瓦葺状撚糸文（Ｒℓ）、胴部：縄文（ＬＲ）、胎土：繊維含む	Ⅱ－６Ｂ	46	35
E158	Ｃ区空堀南端	C	口縁：瓦葺状撚糸文（Ｒℓ）、胴部：縄文（ＲＬＲ）、胎土：繊維含む	Ⅱ－６Ｂ	46	35
E159	SD72、LQ53Ⅲ層	Ｄ・Ｅ	口縁：瓦葺状撚糸文（Ｒℓ）、胴部：縄文（ＲＬ）、胎土：繊維多量	Ⅱ－６Ｂ	46	36
E160	Ｃ区空堀南側	C	口縁：瓦葺状撚糸文（Ｒℓ）、胴部：縄文（ＬＲ）、胎土：繊維含む	Ⅱ－６Ｂ	46	39
E161	SD72	E	口縁：瓦葺状撚糸文（Ｌｒ）、胴部：羽状縄文（ＬＲＬ＋ＲＬＲ）、瓦葺状撚糸文（Ｌｒ）、胎土：繊維含む・粗砂多量	Ⅱ－６Ｂ	46	36
E162	Ｃ区空堀南端	C	口縁：瓦葺状撚糸文、胴部：縄文（ＬＲ）、胎土：繊維含む	Ⅱ－６Ｂ	46	35
E163	SD72	E	口縁：瓦葺状撚糸文、胴部：撚糸文（Ｒℓ）、胎土：繊維多量	Ⅱ－６Ｂ	46	35

第８表　土器観察表（６）

No.	出　土　地　点	該当区	備　　考	分　類	挿図	図版
E164	LQ53Ⅲ層	D	口縁：結節回転文(ＬＲ)、胴部：撚糸文(Ｌｒ)、胎土：繊維含む・粗砂多量	Ⅱ－６Ｂ	46	36
E165	LQ53Ⅲ層	D	口縁：瓦葺状撚糸文、胴部：撚糸文(Ｒℓ)、胎土：繊維含む・粗砂多量	Ⅱ－６Ｂ	46	35
E166	LQ53Ⅲ層	D	口縁：瓦葺状撚糸文、胴部：撚糸文(Ｒℓ)、胎土：繊維含む・粗砂多量	Ⅱ－６Ｂ	46	35
E167	LR49Ⅲ層	E	口縁：瓦葺状撚糸文、胴部：撚糸文(Ｒℓ)、内面指頭圧・後ナデ調整、胎土：繊維含む	Ⅱ－６Ｂ	47	35
E168	SD66、Ｅ区１トレⅡ・Ⅲ層	E	口縁：結節回転文、微隆帯状の整形、胴部：撚糸文(Ｌｒ)、胎土：繊維含む・細礫多量	Ⅱ－６Ｂ	47	36
E169	Ｃ区空堀南端壁	C	口縁：瓦葺状撚糸文、胴部：撚糸文(Ｌｒ)、胎土：繊維含む・細礫多量	Ⅱ－６Ｂ	47	36
E170	Ｃ区空堀南端	C	口唇：爪形刺突による波状、口縁：瓦葺状撚糸文(Ｒℓ)、胴部：撚糸文(Ｒℓ)、内面平滑、胎土：繊維含む	Ⅱ－６Ｂ	47	36
E171	LQ52Ⅲ層	D	口唇：棒側面押捺により波状、口縁：瓦葺状撚糸文、胴部：撚糸文(Ｒℓ)、胎土：繊維含む・砂多量(鉱物粒多い)	Ⅱ－６Ｂ	47	36
E172	Ｃ区表採	C	口縁：瓦葺状撚糸文(Ｌｒ)、　胴部：内面平滑、胎土：繊維含む	Ⅱ－６Ｂ	47	36
E173	Ｃ区空堀南西端	C	口唇：刺突による刻み、口縁：波状、瓦葺状撚糸文、胴部：組み紐縄文、胎土：繊維含む・粗砂多量	Ⅱ－６Ｂ	47	36
E174	Ｃ区空堀南西端	C	口唇：刺突による刻み、口縁：瓦葺状撚糸文、胴部：組み紐縄文、胎土：繊維含む・粗砂多量	Ⅱ－６Ｂ	47	36
E175	LR49Ⅳ層	E	口縁：波状、半截竹管刺突、結節回転文、胴部：組み紐縄文、内面ナデ痕、胎土：繊維含む	Ⅱ－６Ｂ	47	36
E176	Ｃ区空堀南端	C	口唇：棒側面押捺による刻み、口縁：瓦葺状撚糸文、胴部：内面ナデ痕、胎土：繊維含む	Ⅱ－６Ｂ	47	37
E177	Ｃ区空堀南端	C	口縁：瓦葺状撚糸文(Ｒℓ)、胎土：繊維多量・細砂多量(鉱物粒多い)	Ⅱ－６Ｂ	47	37
E178	SD72	E	口縁：瓦葺状撚糸文、胎土：繊維含む	Ⅱ－６Ｂ	47	37
E179	Ｃ区空堀南端	C	口縁：結節回転文、胎土：繊維含む	Ⅱ－６Ｂ	47	37
E180	SD66、LQ52Ⅲ層、Ｄ区南東、Ｅ区斜面	D・E	頸部：区画帯(Ｒℓ絡条体及びループ文押捺)、口縁・胴部：羽状縄文(ＲＬ＋ＬＲ)、胎土：繊維含む	Ⅱ－７Ｂ	48	40
E181	SF70表採	D	頸部：隆帯２条(刺突列)、口縁・胴部：羽状縄文(ＲＬ＋ＬＲ)、内面ナデ痕、胎土：繊維含む	Ⅱ－７Ａ	48	39
E182	LQ53Ⅲ層	D	頸部：区画帯(原体押捺)、口縁：羽状縄文(ＲＬ＋ＬＲ)、内面ナデ痕、胎土：繊維多量	Ⅱ－７Ｂ	48	39
E183	LQ53Ⅲ層	D	頸部：区画帯(絡条体、結束原体押捺、刺突列)、口縁・胴部：羽状縄文(ＲＬ＋ＬＲ)、胎土：繊維含む	Ⅱ－７Ｂ	49	39
E184	LQ52Ⅱ層	D	頸部：区画帯(爪形文と結束原体押捺)、口縁・胴部：羽状縄文(ＲＬ＋ＬＲ)、内面平滑、胎土：繊維含む	Ⅱ－７Ｂ	49	39
E185	Ｅ区１トレⅡ・Ⅲ層	E	頸部：区画帯(ＬＲ原体押捺)、口縁・胴部：羽状縄文(ＲＬ＋ＬＲ)、内面平滑、胎土：繊維含む	Ⅱ－７Ｂ	49	39
E186	LQ52Ⅲ層	D	頸部：区画帯(結束原体３条押捺)、口縁・胴部：羽状口縁(ＲＬ＋ＬＲ)、内面平滑、胎土：繊維含む	Ⅱ－７Ｂ	49	39
E187	LQ52Ⅲ層	D	頸部：区画帯(結束原体押捺)、口縁・胴部：羽状縄文(ＲＬ＋ＬＲ)、内面平滑、胎土：繊維含む	Ⅱ－７Ｂ	49	40
E188	SD66、Ｅ区斜面Ⅱ・Ⅲ層	E	頸部：区画帯(絡条体押捺)、口縁・胴部：羽状縄文(ＲＬ＋ＬＲ)、内面平滑、胎土：繊維含む	Ⅱ－７Ｂ	49	39
E189	SD66、SF70、Ｅ区斜面	D・E	口縁：波状、頸部：区画帯(結束原体押捺、棒刺突)、口縁・胴部：羽状縄文(ＲＬ＋ＬＲ)、内面平滑、胎土：繊維含む	Ⅱ－７Ｂ	49	39

第９表　土器観察表（７）

No.	出　土　地　点	該当区	備　　考	分　類	挿図	図版
E190	LQ53Ⅲ層	D	頸部：区画帯(絡条体・結束原体押捺、爪形文)、口縁・胴部：羽状縄文(ＲＬ＋ＬＲ)、内面平滑、胎土：繊維含む・粗砂多量	Ⅱ－７Ｂ	50	41
E191	LQ53Ⅱ・Ⅲ層	D	口縁・胴部：羽状縄文(ＲＬ＋ＬＲ)、内面ナデ痕、胎土：繊維含む	Ⅱ－７Ｂ	50	40
E192	LR50Ⅳ層	E	頸部：区画帯(結束原体押捺)、口縁：羽状縄文(ＲＬ＋ＬＲ)、内面平滑、胎土：繊維含む・細礫含む	Ⅱ－７Ｂ	50	41
E193	LQ52Ⅲ層	D	頸部：区画帯(結束原体押捺)、口縁：羽状縄文(ＲＬ＋ＬＲ)、口縁内面ナデ痕、胎土：繊維含む・粗砂(軽石含む）多量	Ⅱ－７Ｂ	50	41
E194	LQ52Ⅱ層	D	頸部：区画帯(絡条体・結束原体押捺)、胴部：羽状縄文(ＲＬ＋ＬＲ)、内面平滑、胎土：繊維含む・細礫含む	Ⅱ－７Ｂ	50	41
E195	Ｃ区空堀南西端	C	口縁：波状、羽状縄文(ＲＬ＋ＬＲ)、内面平滑、胎土：繊維含む・粗砂多量	Ⅱ－７Ｂ	50	41
E196	Ｅ区１・２トレⅡ層	E	頸部：区画帯(ＲＬ原体押捺)、口縁：羽状縄文(ＲＬ＋ＬＲ)、内面平滑、胎土：繊維含む	Ⅱ－７Ｂ	50	41
E197	SD66	D	頸部：区画帯(絡条体押捺)、口縁：羽状縄文(ＲＬ＋ＬＲ)、胎土：繊維含む	Ⅱ－７Ｂ	50	41
E198	SF70表採	D	頸部：区画帯(絡条体押捺)、口縁：羽状縄文(ＲＬ＋ＬＲ)、内面平滑、胎土：繊維含む	Ⅱ－７Ｂ	50	41
E199	LQ53Ⅱ層	D	頸部：区画帯(結束原体押捺)、口縁・胴部：羽状縄文(ＲＬ＋ＬＲ)を縦に回転、胎土：繊維含む・細礫多量	Ⅱ－７Ｂ	50	42
E200	LQ52・53Ⅲ層	D	口縁：ＲＬ原体押捺平行文、隆帯１条(鋸歯状にＲＬ原体を施文)、胴部：羽状縄文(ＲＬ＋ＬＲ)、内面平滑、胎土：繊維含む	Ⅱ－８Ａ	51	43
E201	確認２トレ	E	口縁：ＬＲ原体押捺平行文、隆帯１条(斜位にＬＲ原体押捺)、内面平滑、胎土：繊維含む	Ⅱ－８Ａ	51	41
E202	SD66、Ｅ区１・２トレⅡ層	E	口縁：絡条体押捺平行文、胴部：縄文(ＬＲ?)、内面平滑、胎土：繊維含む	Ⅱ－８Ａ	51	41
E203	SD66	E	口縁：ＬＲ原体押捺幾何学文、隆帯１条(刺突列)、内面平滑、胎土：繊維含む	Ⅱ－８Ｂ	51	41
E204	SD66	E	口縁：ＬＲ原体押捺幾何学文、内面ナデ痕、胎土：繊維含む	Ⅱ－８Ｂ	51	41
E205	LQ53Ⅲ層	D	口縁：ＬＲ原体押捺幾何学文、内面平滑、胎土：繊維含む	Ⅱ－８Ｂ	51	41
E206	SD66、LP52、LQ52・53	D	口縁：波状、絡条体・ＬＲＬ原体押捺幾何学文、胴部：羽状縄文(ＲＬ＋ＬＲ)、内面平滑、胎土：繊維含む	Ⅱ－８Ｂ	51	42
E207	LP52Ⅲ層、LQ52Ⅲ層、LQ53Ⅱ層	D	口縁：波状、絡条体押捺幾何学文、胴部：羽状縄文(ＲＬ＋ＬＲ)、胎土：繊維含む	Ⅱ－８Ｂ	51	43
E208	Ｃ区空堀南端	C	口縁：波状、ＬＲ原体押捺幾何学文、隆帯１条(頂部原体押捺)、胎土：繊維多量	Ⅱ－８Ｂ	52	43
E209	LQ52・53Ⅲ層、Ｅ区１トレⅡ・Ⅲ層	D・E	口縁：波状、ＬＲ原体押捺幾何学文、頸部：区画帯(半截竹管刺突)、胴部：縄文(ＲＬ)、内面平滑、胎土：繊維含む	Ⅱ－８Ｂ	52	43
E210	LQ53Ⅱ・Ⅲ層、Ｅ区１トレⅡ層	D・E	口縁：ＬＲ原体押捺幾何学文、頸部：区画帯(原体押捺・爪形文)、胴部：上位羽状縄文(ＲＬ＋ＬＲ)・下位多軸絡条体、胎土：繊維多量・細礫含む	Ⅱ－８Ｂ	52	43
E211	LS52Ⅱ層	D	口縁：絡条体押捺幾何学文、内面平滑、胎土：繊維含む	Ⅱ－８Ｂ	52	43
E212	Ｅ区斜面	E	口縁：Ｒℓ原体押捺幾何学文、頸部：区画帯(ＬＲ・ＬＲＬ横位押捺)、胴部：縄文(ＬＲＬ)、内面平滑、胎土：繊維含む	Ⅱ－８Ｂ	52	43

第10表　土器観察表（８）

No.	出　土　地　点	該当区	備　　考	分　類	挿図	図版
E 213	E区１トレⅡ層	E	口縁：ＬＲ原体押捺幾何学文、頸部：隆帯１条(頂部原体押捺)、内面平滑、胎土：繊維含む	Ⅱ－８Ｂ	52	43
E 214	LQ52Ⅲ層	D	口縁：波状、絡条体押捺幾何学文、内面平滑、胎土：繊維多量	Ⅱ－８Ｂ	52	43
E 215	E区斜面	E	口縁：波状、ＬＲ原体押捺幾何学文、胴部：羽状縄文(ＲＬ＋ＬＲ)、内面平滑、胎土：繊維多量	Ⅱ－８Ｂ	53	44
E 216	LQ52Ⅲ層	D	口縁：ＬＲ原体押捺幾何学文、胴部：羽状縄文(ＲＬ＋ＬＲ)、内面ナデ痕、胎土：繊維含む	Ⅱ－８Ｂ	53	45
E 217	SD66、LS52、E区１トレ	D・E	口縁：波状、絡条体圧痕幾何学文、微隆帯(絡条体押捺・爪形文)、胴部：上部羽状縄文(ＲＬ＋ＬＲ)、下部ＲＬ原体側面押捺、内面平滑、胎土：繊維含む・細礫含む	Ⅱ－８Ｂ	53	44
E 218	E区１・２トレⅡ層	E	口縁：絡条体押捺幾何学文、内面平滑、胎土：繊維含む	Ⅱ－８Ｂ	53	45
E 219	LQ52Ⅲ層	D	口縁：絡条体押捺幾何学文、胎土：繊維多量	Ⅱ－８Ｂ	53	45
E 220	E区１トレⅡ層	E	口縁：ＬＲ原体押捺幾何学文、内面平滑、胎土：繊維含む	Ⅱ－８Ｂ	53	45
E 221	LQ53Ⅲ層	D	口縁：絡条体押捺幾何学文、胎土：繊維多量	Ⅱ－８Ｂ	53	45
E 222	SD66	E	口縁：Ｒℓ・Ｌｒ２条１組原体押捺幾何学文、胎土：繊維多量	Ⅱ－８Ｂ	53	45
E 223	E区１トレⅡ層	E	口縁：ＬＲ原体押捺幾何学文、内面平滑、胎土：繊維含む	Ⅱ－８Ｂ	53	45
E 224	LQ53Ⅱ層	D	口縁：Ｌｒ原体押捺幾何学文、内面平滑、胎土：繊維含む	Ⅱ－８Ｂ	53	45
E 225	LQ52Ⅲ層	D	口縁：絡条体押捺幾何学文、胎土：繊維多量	Ⅱ－８Ｂ	53	45
E 226	LQ52Ⅱ層	D	口縁：ＬＲ原体押捺幾何学文、内面平滑、胎土：繊維含む・細礫含む	Ⅱ－８Ｂ	53	45
E 227	LQ53Ⅲ層	D	口縁：絡条体押捺幾何学文、胎土：繊維多量	Ⅱ－８Ｂ	53	45
E 228	確認２トレ	E	口縁：Ｒℓ原体押捺幾何学文、胴部：縄文(ＲＬ)、内面平滑、胎土：繊維含む	Ⅱ－８Ｂ	53	45
E 229	SD72	E	口縁：押し引き沈線による鋸歯状文、胴部：縄文(ＲＬ)、胎土：繊維含む・鉱物粒多い	Ⅱ－９	53	45
E 230	LQ53Ⅲ層	D	口唇：棒先端刺突、口縁：棒側面押捺による刻み、胴部：木目状撚糸文横位回転、胎土：繊維含む・砂多量(鉱物粒多い)	Ⅱ－10	54	45
E 231	LQ53Ⅲ層	D	口唇：棒側面押捺による刻み、ループ文、胎土：繊維含む	Ⅱ－10	54	45
E 232	LP53Ⅲ層	D	口唇：半截竹管文、胴部：縄文(ＬＲ)、胎土：繊維含む・鉱物粒多い	Ⅱ－10	54	45
E 233	C区空堀南西端	C	口唇：微細沈線、胴部：縄文(ＲＬＲ)、胎土：繊維含む	Ⅱ－10	54	45
E 234	確認２トレ	E	口唇：竹管文、胴部：羽状縄文(ＲＬ＋ＬＲ)、内面ナデ痕、胎土：繊維含む	Ⅱ－10	54	45
E 235	SF70北斜面	D	口唇：突起頂部に棒押捺、口縁：縄文(ＬＲＬ)、胴部：不明、内面平滑、胎土：繊維含む	Ⅱ－10	54	45
E 236	LQ52Ⅲ層	D	口縁：撚糸文(Ｌｒ)、胎土：繊維含む	Ⅱ－10	54	46
E 237	LQ53Ⅱ層	D	口唇：ナデ調整、撚糸文(Ｌｒ)、胎土：繊維多量	Ⅱ－10	54	46
E 238	確認２トレ	E	胴部：縄文？、胎土：繊維含む	Ⅱ－10	54	46
E 239	C区空堀南端壁	C	胴部：半截竹管による刺突文、胎土：繊維含む・粗砂多量	Ⅱ－10	54	46

第11表　土器観察表（９）

No.	出　土　地　点	該当区	備　　考	分　類	挿図	図版
E 240	C区空堀南端	C	胴部：組紐文、胎土：繊維含む	Ⅱ－10	54	46
E 241	LQ52Ⅲ層	D	胴部：縄文(直前段合撚)、胎土：繊維含む	Ⅱ－10	54	46
E 242	C区空堀南端壁	C	口縁：撚糸文(Ｒℓ)、胴部：木目状撚糸文横位回転、胎土：繊維含む・鉱物粒多い	Ⅱ－10	54	46
E 243	C区空堀南端壁	C	口縁：縄文(ＬＲ)、内面縄文（ＬＲ)、隆帯２条（頂部にＬＲ原体押捺)、胎土：繊維含む・細礫含む	Ⅱ－10	54	46
E 244	C区空堀南端壁	C	口縁：瓦葺状撚糸文、胎土：繊維含む	Ⅱ－６Ｂ	54	46
E 245	C区空堀南端	C	胴部：縄文(ＬＲ)、胎土：繊維含む	Ⅱ－11	55	47
E 246	LQ52Ⅲ層	D	胴部：縄文(ＬＲ)、胎土：繊維含む・細礫多量	Ⅱ－11	55	47
E 247	LQ52Ⅲ層	D	頸部：区画帯(爪形文)を挟み、ＲＬとＬＲ縄文を施文、胎土：繊維含む	Ⅱ－11	55	46
E 248	C区空堀南西端	C	胴部：組紐文、胎土：繊維含む、緻密	Ⅱ－11	55	46
E 249	SD72、C区確認２トレ	C・E	胴部：縄文(ＬＲＬ)、内面ナデ痕、胎土：繊維含む・粗砂多量	Ⅱ－11	55	47
E 250	SD72	E	胴部：縄文(ＬＲＬ)、胎土：繊維含む・軽石粒含む・鉱物粒多量	Ⅱ－11	55	46
E 251	LQ54Ⅲ層	D	胴部：縄文(ＬＲＬ)、胎土繊維含む	Ⅱ－11	55	46
E 252	LQ54Ⅲ層、C区	C・D	胴部：縄文(ＲＬ)、底部：外面施文(縄文ＲＬ)、胎土：繊維含む・粗砂多量	Ⅱ－11	55	48
E 253	LQ52Ⅱ層	D	胴部：縄文(ＬＲ)、胎土：細礫多量・鉱物粒多量	Ⅱ－11	55	47
E 254	SD66、LQ52Ⅱ・Ⅲ層	D・E	胴部：縄文(ＬＲＬ)、内面平滑、胎土：繊維含む	Ⅱ－11	55	－
E 255	C区空堀南西端	C	胴部：縄文(ＲＬ)、胎土：繊維含む	Ⅱ－11	56	47
E 256	C区空堀南西端	C	胴部：縄文(ＲＬ)、胎土：繊維含む	Ⅱ－11	56	－
E 257	C区空堀南西端	C	胴部：縄文(ＲＬ)、胎土：繊維多量・細礫含む	Ⅱ－11	56	47
E 258	C区空堀南西端	C	胴部：縄文(ＲＬ)、胎土：繊維含む・粗砂多量	Ⅱ－11	56	47
E 259	LQ53Ⅲ層	D	胴部：組紐文、内面平滑、胎土：繊維微量	Ⅱ－11	56	47
E 260	LQ53Ⅲ層	D	胴部：組紐文、胎土：繊維微量・微細軽石粒含む	Ⅱ－11	56	47
E 261	C区空堀南端	C	胴部：組紐文、胎土：繊維微量・微細軽石粒含む	Ⅱ－11	56	47
E 262	C区空堀南端壁	C	胴部：上部木目状撚糸文横位回転、下部組紐文、内面平滑、胎土：繊維含む	Ⅱ－11	56	51
E 263	SD66、E区斜面	E	胴部：組紐文、胎土：繊維含む	Ⅱ－11	56	49
E 264	E区斜面Ⅱ・Ⅲ層	E	頸部：区画帯(棒刺突・ＲＬ原体押捺)、胴部：羽状縄文(ＲＬ＋ＬＲ)、内面平滑、胎土：繊維含む	Ⅱ－11	57	51
E 265	LQ53Ⅲ層	D	胴部：結束羽状縄文(ＲＬ＋ＬＲ)、胎土：繊維含む	Ⅱ－11	57	51
E 266	LS51、LT50Ⅱ層	E	胴部：結束羽状縄文(ＲＬ＋ＬＲ)、一部縦位に縄文(ＲＬ)、内面平滑、胎土：繊維含む	Ⅱ－11	57	49
E 267	SF70、E区１トレ斜面Ⅲ層、LQ53	D・E	胴部：結束羽状縄文(ＲＬ＋ＬＲ)、内面平滑、胎土：繊維含む・細礫含む	Ⅱ－11	57	51

第12表　土器観察表（10）

No.	出　土　地　点	該当区	備　　考	分　類	挿図	図版
E 268	C区空堀南西端	C	隆帯１条(ＲＬ原体押捺)、胴部：縄文(ＲＬ原体を２方向に回転)、胎土：繊維多量	Ⅱ－11	57	51
E 269	LQ52Ⅲ層、LQ53Ⅱ・Ⅲ層	D	隆帯１条(爪形文)、胴部：結束羽状縄文(ＲＬ＋ＬＲ)、内面平滑、胎土：繊維含む・軽石粒含む	Ⅱ－11	57	－
E 270	LQ52Ⅲ層	D	胴部：結束羽状縄文(ＲＬ＋ＬＲ)、内面平滑、胎土：繊維含む	Ⅱ－11	57	51
E 271	E区斜面	E	胴部：結束羽状縄文(ＲＬ＋ＬＲ)、内面平滑、胎土：繊維含む	Ⅱ－11	58	50
E 272	SF70表採、LQ52Ⅱ・Ⅲ層	D	胴部：結束羽状縄文(ＲＬ＋ＬＲ)、内面平滑、胎土：繊維含む・粗砂含む	Ⅱ－11	58	－
E 273	LQ53Ⅲ層	D	胴部：多軸絡条体、胎土：繊維多量・細礫多量	Ⅱ－11	58	49
E 274	LQ53Ⅲ層	D	胴部：撚糸文(Ｌｒ)、内面ナデ痕、胎土：繊維含む・粗砂含む	Ⅱ－11	58	51
E 275	LQ52Ⅲ層	D	胴部：上部撚糸文(Ｌｒ)、下部多軸絡条体、内面平滑、胎土：繊維含む	Ⅱ－11	58	50
E 276	SD72	E	胴部：撚糸文(Ｌｒ)、胎土：繊維含む	Ⅱ－11	58	52
E 277	LQ53南東部Ⅱ層	D	胴部：撚糸文(Ｒℓ)、胎土：繊維含む・粗砂細礫極めて多量	Ⅱ－11	58	51
E 278	LQ52Ⅲ層	D	胴部：撚糸文(Ｒℓ)、内面平滑、胎土：繊維含む	Ⅱ－11	58	51
E 279	C区空堀南西端	C	胴部：撚糸文(Ｒℓ)、胎土：繊維含む・粗砂多量	Ⅱ－11	58	51
E 280	LQ53Ⅲ層	D	胴部：撚糸文(Ｒℓ)、胎土：繊維含む・粗砂細礫極めて多量	Ⅱ－11	59	51
E 281	SF70北斜面	D	胴部：撚糸文(Ｌｒ)、胎土：繊維含む・軽石粒含む	Ⅱ－11	59	51
E 282	LP52Ⅲ層	D	胴部：撚糸文(Ｌｒ)施文後条痕、胎土：繊維含む	Ⅱ－11	59	52
E 283	LP53Ⅲ層	D	胴部：羽状縄文(ＲＬ、ＬＲ　間隙あり)、内面ナデ痕、胎土：繊維含む	Ⅱ－11	59	52
E 284	LQ53Ⅲ層	D	胴部：撚糸文(Ｒℓ)、胎土：繊維含む	Ⅱ－11	59	52
E 285	C区空堀南端	C	胴部：木目状撚糸文横位回転、一部擦り消し、胎土：繊維含む	Ⅱ－11	59	52
E 286	LQ52Ⅲ層	D	胴部：撚糸文(Ｒℓ)、胎土：繊維含む	Ⅱ－11	59	52
E 287	E区２トレⅡ層	E	胴部：撚糸文(Ｒℓ)、胎土：繊維含む	Ⅱ－11	59	52
E 288	LP52Ⅲ層	D	区画帯：爪形文、胴部：撚糸文(Ｒℓ)、内面平滑、胎土：繊維含む	Ⅱ－11	59	52
E 289	C区空堀南端	C	区画帯：爪形文、胴部：瓦葺状撚糸文、撚糸文(Ｒℓ)、下位に瓦葺状撚糸文、胎土：繊維多量・粗砂多量	Ⅱ－11	59	52
E 290	LP54Ⅲ層	D	胴部：撚糸文(Ｌｒ)施文後、ループ文(Ｒℓ)を重ねて施文、胎土：繊維含む	Ⅱ－11	59	52
E 291	E区斜面Ⅱ層	E	胴部：撚糸文(Ｌｒ)、胎土：繊維含む	Ⅱ－11	59	50
E 292	C区空堀南端	C	隆帯２条(刺突列)、胴部：瓦葺状撚糸文、胎土：繊維含む	Ⅱ－11	59	52
E 293	LQ52Ⅱ層	D	瓦葺状撚糸文施文後、沈線２条、胴部：撚糸文(Ｒℓ)、胎土：繊維含む・細礫多量	Ⅱ－11	59	52
E 294	LQ52Ⅲ層	D	瓦葺状撚糸文、下位に撚糸文(Ｌｒ)、胎土：繊維含む・粗砂多量	Ⅱ－11	59	52
E 295	LR49Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ層	E	胴部：撚糸文(Ｌｒ)施文後瓦葺状撚糸文、胎土：繊維含む	Ⅱ－11	60	48

第13表　土器観察表（11）

No.	出　土　地　点	該当区	備　　考	分　類	挿図	図版
E296	E区１・２トレⅢ層	E	胴部：撚糸文（Ｒℓ）、胎土：繊維含む	Ⅱ－11	60	53
E297	SD66	E	胴部：撚糸文（Ｒℓ）、胎土：繊維含む	Ⅱ－11	60	53
E298	C区空堀南西端	C	胴部：撚糸文（Ｌｒ）、胎土：繊維含む	Ⅱ－11	60	53
E299	LQ52Ⅲ層	D	胴部：撚糸文（Ｒℓ）、胎土：繊維含む・粗砂含む	Ⅱ－11	60	53
E300	LQ52Ⅱ層	D	胴部：撚糸文（Ｒℓ）、胎土：繊維含む	Ⅱ－11	60	53
E301	LQ53Ⅱ層	D	胴部：撚糸文（Ｒℓ）、胎土：繊維含む・粗砂含む	Ⅱ－11	60	53
E302	LQ53Ⅲ層	D	胴部：撚糸文（Ｒℓ）、内面ナデ痕、胎土：繊維含む・軽石粒含む	Ⅱ－11	60	53
E303	E区１トレⅡ層	E	胴部：撚糸文（Ｒℓ）、胎土：繊維含む・粗砂含む	Ⅱ－11	60	53
E304	C区空堀南端壁	C	胴部：半截竹管文による刺突文、胎土：繊維含む・粗砂含む	Ⅱ－11	60	53
E305	LQ52Ⅲ層	D	胴部：木目状撚糸文縦位回転、内面平滑、胎土：繊維含む	Ⅱ－11	60	53
E306	LQ52Ⅲ層、D区表採	D	胴部：木目状撚糸文縦位回転、胎土：繊維含む	Ⅱ－11	60	53
E307	LQ53Ⅲ層	D	胴部：撚糸文（Ｌｒ）、底部：外面網代痕、胎土：繊維含む	Ⅱ－12	61	－
E308	C区空堀南西端	C	胴部：撚糸文（Ｌｒ）、底部：外面撚糸文（Ｌｒ）、胎土：繊維含む	Ⅱ－12	61	－
E309	SD72	E	胴部：斜縄文（ＲＬＲ）、底部外面：原体（ＲＬＲ）側面押捺、胎土：繊維含む	Ⅱ－12	61	－
E310	SD66	E	胴部：撚糸文（Ｒℓ）、底部外面：網代痕、胎土：繊維含む	Ⅱ－12	61	－
E311	C区空堀南西端	C	胴部：撚糸文（ＲＬＲ）施文後同原体（ＲＬＲ）回転施文、底部：外面縄文（ＬＲＬ）、張り出し、胎土：繊維多量・砂微量	Ⅱ－12	61	－
E312	SD66	E	胴部：撚糸文（Ｒℓ）、底部：網代痕、胎土：繊維含む・細礫多い	Ⅱ－12	61	－
E313	C区空堀南西端	C	胴部：撚糸文（Ｒℓ）後縄文（ＲＬＲ）、底部：外面縄文（ＲＬＲ）、内面ナデ痕、上げ底、胎土：繊維含む	Ⅱ－12	61	54
E314	LR49Ⅲ層	E	胴部：撚糸文（Ｒℓ）、底部外面：網代痕、胎土：繊維含む	Ⅱ－12	61	－
E315	C区空堀南西端	C	底部：網代痕、胎土：繊維含む・細礫多量	Ⅱ－12	61	54
E316	LQ53Ⅲ層	D	胴部：結節回転文（Ｌｒ）、底部：外面網代痕、胎土：繊維多量	Ⅱ－12	61	54
E317	LQ53Ⅲ層	D	胴部撚糸文（Ｌｒ）、内面：ナデ痕、胎土：繊維多量	Ⅱ－12	61	－
E318	E区斜面	E	胴部：縄文（ＲＬ）、胎土：繊維含む	Ⅱ－12	61	－
E319	LQ53Ⅲ層	D	胴部：撚糸文（Ｒℓ）、底部：外面撚糸文（Ｒℓ）、胎土：繊維多量・微細軽石粒含む	Ⅱ－12	61	54
E320	E区Ⅲ層	E	胴部：撚糸文（Ｒℓ）、底部：外面縁辺部枝等によるナデ痕、あげ底、胎土：繊維多量	Ⅱ－12	61	－
E321	LQ53Ⅲ層	D	胴部：撚糸文（Ｌｒ）、底部外面網代痕、胎土：繊維多量	Ⅱ－12	62	54
E322	LQ53Ⅲ層	D	底部：縁辺に棒状施文具側面押捺、胎土：繊維多量	Ⅱ－12	62	－
E323	LQ52Ⅲ層	D	胴部：撚糸文（Ｌｒ）、底部：外面撚糸文（Ｌｒ）、胎土：繊維多量	Ⅱ－12	62	－

第14表　土器観察表（12）

No.	出　土　地　点	該当区	備　　考	分　類	挿図	図版
E324	SD66	E	底部：網代痕、胎土：繊維含む	Ⅱ－12	62	－
E325	SD66	E	胴部：無節縄文（Ｌｒ）、底部：外面ナデ痕、上げ底、胎土：繊維含む	Ⅱ－12	62	－
E326	LP52Ⅱ層	D	胴部：撚糸文（Ｒℓ）、底部：網代痕、胎土：繊維含む	Ⅱ－12	62	－
E327	Ｄ区排土	D	胴部：撚糸文（Ｌｒ）、底部：外面撚糸文（Ｌｒ）、胎土：繊維含む	Ⅱ－12	62	－
E328	Ｅ区土器集中区Ⅱ層	E	底部：外面網代痕・内面撚糸文（Ｒℓ）、胎土：繊維多量・細礫多量	Ⅱ－12	62	54
E329	Ｃ区空堀南端	C	底部：外面網代痕・内面撚糸文（Ｒℓ）、胎土：繊維多量・細礫含む	Ⅱ－12	62	－
E330	LP52Ⅲ層	D	胴部：斜縄文（ＬＲ）施文後条痕、底部：外面縄文（ＬＲ）、胎土：繊維含む	Ⅱ－12	63	－
E331	LQ52Ⅲ層	D	胴部：撚糸文（Ｌｒ）、底部：外面撚糸文（Ｌｒ）、胎土：繊維多量	Ⅱ－12	63	－
E332	Ｃ区空堀南端壁	C	胴部：瓦葺状撚糸文底部：網代痕、胎土：繊維含む	Ⅱ－12	63	－
E333	LQ52Ⅲ層	D	胴部：撚糸文（Ｒℓ）、底部：ナデ痕、胎土：繊維含む	Ⅱ－12	63	－
E334	LQ53Ⅱ層	D	胴部：撚糸文（Ｒℓ）、底部：周縁部網代痕、胎土：繊維含む	Ⅱ－12	63	－
E335	Ｃ区空堀南端	C	胴部：撚糸文（Ｒℓ）、底部：撚糸文（Ｒℓ）、胎土：繊維含む・鉱物粒多い	Ⅱ－12	63	－
E336	LQ52Ⅲ層	D	胴部：斜縄文（ＬＲＬ）、底部：外面原体（ＬＲＬ）側面押捺、胎土：繊維含む	Ⅱ－12	63	－
E337	SD66	E	底部：網代痕、胎土：繊維含む	Ⅱ－12	63	－
E338	Ｃ区空堀南端	C	胴部：縄文（ＬＲ）、底部：外面原体（ＲＬ）側面押捺、胎土：繊維含む	Ⅱ－12	63	－
E339	SD66	E	胴部：縄文(?)、底部：張り出し、胎土：繊維含む	Ⅱ－12	63	－
E340	LQ52Ⅲ層	D	胴部：撚糸文（Ｒℓ）、底部：網代痕、胎土：繊維含む・鉱物粒（石英）多い	Ⅱ－12	63	－
E341	Ｅ区１トレⅡ層	E	胴部：斜位に条痕施文後撚糸文（Ｌｒ）、底部外面：撚糸文（Ｌｒ）、胎土：繊維含む	Ⅱ－12	63	－
E342	Ｃ区空堀南端	C	胴部：撚糸文、内面ナデ痕、胎土：繊維多量・細礫多量	Ⅱ－12	63	－
E343	LQ52Ⅲ層・Ｅ区斜面	D・E	胴部：撚糸文（Ｒℓ）、底部：網代痕、胎土：繊維含む・鉱物粒（石英）多い	Ⅱ－12	63	－
E344	LQ53Ⅲ層	D	胴部：綾絡文、底部：網代痕、胎土：繊維含む、礫多量	Ⅱ－12	63	－
E345	LQ53Ⅱ・Ⅲ層	D	胴部：縄文（ＬＲ・部分的にＲＬを施文）、胎土：繊維含む・細礫含む	Ⅱ－12	64	－
E346	Ｃ区空堀南端壁	C	胴部：斜縄文（ＬＲ）、底部：外面原体（ＬＲ）側面押捺、胎土：繊維含む	Ⅱ－12	64	－
E347	Ｃ区空堀南西端	C	胴部：縄文（ＲＬＲ）、底部：外面縄文（ＲＬＲ）、胎土：繊維含む	Ⅱ－12	64	－
E348	LR50Ⅳ層	E	底部：撚糸文（Ｌｒ）、胎土：繊維含む	Ⅱ－12	64	－
E349	LQ53Ⅲ層	D	胴部：撚糸文（Ｒℓ）、底部：外面撚糸文（Ｌｒ）、胎土：繊維多量	Ⅱ－12	64	－
E350	LR49Ⅲ層	E	底部外面：網代痕、胎土：繊維含む・細礫多量	Ⅱ－12	64	－
E351	Ｃ区空堀南西端	C	底部：外面撚糸文（Ｌｒ）、胎土：繊維含む	Ⅱ－12	64	－

第15表　土器観察表（13）

No.	出　土　地　点	該当区	備　　考	分　類	挿図	図版
E352	LP52Ⅲ層	D	底部:外面縄文(ＲＬ)、胎土：繊維含む・粗砂多量	Ⅱ－12	64	－
E353	LQ53Ⅲ層	D	底部：外面縄文(ＲＬ)、胎土：繊維含む	Ⅱ－12	64	－
E354	LQ52Ⅲ層	D	底部：微少上げ底、中央ナデ痕、胎土：繊維含む	Ⅱ－12	64	－
E355	LQ52Ⅲ層	D	底部：外面撚糸文(Ｒℓ)、胎土：繊維多量・鉱物粒多量	Ⅱ－12	64	－
E356	Ｃ区空堀南端	C	底部：外面撚糸文(Ｌｒ)、胎土：繊維含む・細礫多量	Ⅱ－12	64	－
E357	LQ52Ⅲ層	D	底部：外面原体末端刺突、胎土：繊維含む	Ⅱ－12	64	－
E358	LP53Ⅲ層	D	底部：外面縄文(Ｒℓ)、胎土：繊維含む	Ⅱ－12	64	－
E359	Ｄ区排土	D	底部：外面撚糸文(Ｌｒ)、胎土：繊維含む・鉱物粒含む	Ⅱ－12	64	－
E360	SD72	E	底部：外面縄文(ＬＲＬ)、胎土：繊維含む	Ⅱ－12	64	－
E361	LQ53Ⅲ層	D	底部：外面撚糸文(Ｌｒ)、胎土：繊維多量	Ⅱ－12	64	－
E362	Ｃ区空堀南側	C	底部：外面撚糸文(Ｌｒ)、胎土：繊維多量	Ⅱ－12	64	－
E363	Ｃ区空堀南西端	C	ミニチュア土器、胎土：繊維含む	Ⅱ－12	64	－
E364	SD72	E	口縁：平行沈線文４条、内反、胎土：繊維含まず	Ⅲ－１	65	55
E365	Ｃ区空堀南端	C	口縁：平行沈線文２条、胎土：繊維含まず	Ⅲ－１	65	55
E366	Ｃ区空堀南西端	C	口縁：波状、外面平行沈線文２条・内面平行沈線文２条、胎土：繊維含まず	Ⅲ－１	65	55
E367	Ｃ区空堀南西端	C	口縁：波状、沈線による装飾、胎土：繊維含まず	Ⅲ－１	65	55
E368	Ｃ区空堀南端	C	口縁：波状、沈線及び一部篦削りによる装飾、胎土：繊維含まず	Ⅲ－１	65	55
E369	Ｅ区１トレⅡ層	E	口縁：波状、突起装飾を中心に沈線施文、胎土：繊維含まず	Ⅲ－１	65	55
E370	Ｅ区１・２トレⅡ層	E	口縁：波状、平行沈線文２条、内面沈線文１条、胎土：繊維含まず	Ⅲ－１	65	55
E371	Ｃ区	C	胴部：沈線及び撚糸文(Ｒℓ)による充填施文、胎土：繊維含まず	Ⅲ－２	65	55
E372	Ｅ区Ⅲ層	E	胴部：沈線施文後、縄文(ＬＲ)充填、胎土：繊維含まず・粗砂多い	Ⅲ－２	65	55
E373	SD66	E	胴部：沈線文１条、胎土：繊維含まず	Ⅲ－２	65	55
E374	Ｃ区空堀南西端	C	胴部：沈線施文後、縄文(ＬＲ)充填、胎土：繊維含まず	Ⅲ－２	65	55
E375	SF70Ⅰ層	D	胴部：撚糸文(Ｒℓ)施文後、沈線施文、胎土：繊維含まず	Ⅲ－２	65	55
E376	LQ52Ⅱ層	D	胴部：平行沈線、縄文(Ｒℓ)充填施文、胎土：繊維含まず	Ⅲ－２	65	55
E377	LQ53Ⅲ層	D	胴部：沈線施文後、撚糸文(Ｌｒ)充填、胎土：繊維含まず	Ⅲ－２	65	55
E378	LQ53Ⅱ層	D	胴部：沈線施文後、縄文(ＲＬ)充填、胎土：繊維含まず	Ⅲ－２	65	55
E379	Ｅ区１トレⅡ層	E	胴部：条痕施文後沈線、胎土：繊維含まず	Ⅲ－２	65	55

第16表　土器観察表（14）

No.	出　土　地　点	該当区	備　　考	分　類	挿図	図版
E380	E区１トレ斜面Ⅰ層	E	胴部：縄文(ＲＬ)施文後、沈線、胎土：繊維含まず	Ⅲ－２	65	55
E381	SD66	E	胴部：沈線施文後、撚糸文(Ｌｒ)、胎土：繊維含まず	Ⅲ－２	65	55
E382	E区１トレⅡ層	E	胴部：沈線・縄文(ＬＲ)、表面削り取りによる文様、胎土：繊維含まず	Ⅲ－２	65	55
E383	SF70Ⅰ層	D	胴部：沈線施文後縄文(ＲＬ)、胎土：繊維含まず	Ⅲ－２	65	55
E384	E区１トレ斜面Ⅱ・Ⅲ層	E	胴部：沈線・撚糸文(?)、胎土：繊維含まず	Ⅲ－２	65	55
E385	C区空堀南端	C	胴部：沈線のみ、胎土：繊維含まず	Ⅲ－３	66	56
E386	SD66	E	胴部：沈線のみ、胎土：繊維含まず・粗砂多い	Ⅲ－３	66	56
E387	C区空堀南西端	C	胴部：沈線のみ、胎土：繊維含まず	Ⅲ－３	66	56
E388	C区空堀南西端	C	胴部：沈線のみ、胎土：繊維含まず・粗砂多い	Ⅲ－３	66	56
E389	E区１トレ斜面Ⅰ層	E	胴部：沈線のみ、胎土：繊維含まず	Ⅲ－３	66	56
E390	LR49Ⅲ層	E	胴部：沈線のみ、胎土：繊維含まず	Ⅲ－３	66	56
E391	E区１トレ斜面Ⅱ・Ⅲ層	E	胴部：沈線のみ、胎土：繊維含まず	Ⅲ－３	66	56
E392	SD66	E	胴部：沈線のみ、胎土：繊維含まず	Ⅲ－３	66	56
E393	SD49	A	胴部：沈線のみ、胎土：繊維含まず	Ⅲ－３	66	56
E394	E区１トレⅢ層	E	胴部：沈線のみ、胎土：繊維含まず	Ⅲ－３	66	56
E395	E区１トレ斜面Ⅱ・Ⅲ層	E	胴部：沈線のみ、胎土：繊維含まず	Ⅲ－３	66	56
E396	E区２トレⅠ層	E	胴部：沈線のみ、胎土：繊維含まず	Ⅲ－３	66	56
E397	E区１トレⅠ層	E	胴部：沈線のみ、胎土：繊維含まず	Ⅲ－３	66	56
E398	E区１・２トレⅢ層	E	胴部：沈線のみ、胎土：繊維含まず	Ⅲ－３	66	56
E399	E区１トレⅡ層	E	胴部：沈線のみ、胎土：繊維含まず	Ⅲ－３	66	56
E400	LS52、確認２トレⅠ層	C・D	胴部：沈線のみ、胎土：繊維含まず	Ⅲ－３	66	56
E401	C区空堀南西端	C	胴部：櫛形文、胎土：繊維含まず・細砂含む	Ⅲ－４	66	56
E402	SD49	A	胴部：沈線のみ、胎土：繊維含まず	Ⅲ－３	66	56
E403	LR50Ⅲ層	E	撚糸文(Ｌｒ)、胎土：繊維含む	円盤状土製品	66	56
E404	確認２トレ	E	撚糸文(Ｌｒ)、胎土：繊維含む	円盤状土製品	66	56
E405	E区１トレ	E	撚糸文(Ｒℓ)、胎土：繊維含む	円盤状土製品	66	56
E406	LP53Ⅲ層、LQ53Ⅲ層	D	撚糸文(Ｌｒ)横位に施文、内面ナデ痕、緻密、胎土：繊維含まず	弥生	66	56

第17表　土器観察表（15）

№.	器　　形	出　土　地　点	石　　質	L(cm)	B(cm)	T(cm)	W(g)	挿図	図版
S 1	石　鏃	E区１トレⅡ層	泥岩	(3.7)	1.8	0.6	3	67	57
S 2	石　鏃	ＬＱ53	頁岩	3.1	1.4	0.45	2	67	57
S 3	石　鏃	ＳＤ66	玉髄	3.7	1.4	0.5	2	67	57
S 4	石　鏃	ＬＱ52Ⅲ層	硬質頁岩	3.2	1.5	0.35	1	67	57
S 5	石　鏃	LT50Ⅰ層１トレ	硬質頁岩	2.4	1.6	0.4	1	67	57
S 6	石　鏃	LQ53Ⅲ層	頁岩	2.5	1.6	0.35	1	67	57
S 7	石　鏃	ＬＲ50Ⅳ層	頁岩	(4.3)	1.15	0.6	3	67	57
S 8	石　錐	ＬＲ50Ⅲ層	硬質頁岩	3.8	1.9	0.7	2	67	57
S 9	石　錐	C区中央南端	頁岩	(8.0)	2.5	1.1	18	67	57
S10	石　槍	C区空堀南西端斜面	硬質頁岩	10.7	2.2	1.0	20	67	57
S11	石　槍	ＳＤ72	頁岩	(8.9)	4.3	1.8	52	67	57
S12	石　槍	C区空堀南西端	頁岩	10.5	2.5	1.7	38	67	57
S13	石　槍	ＬＩ60	頁岩	9.7	2.8	1.3	32	68	57
S14	石　槍	ＳＤ66	頁岩	(2.8)	2.25	0.8	6	68	57
S15	石　匙	ＬＱ53Ⅲ層	硬質頁岩	9.0	3.55	1.0	28	68	57
S16	石　匙	ＬＱ53Ⅲ層	硬質頁岩	7.4	3.0	1.0	17	68	57
S17	石　匙	ＬＱ53Ⅲ層	頁岩	6.8	2.3	1.3	13	68	57
S18	石　匙	ＬＰ53Ⅲ層	頁岩	7.6	3.2	1.0	12	68	57
S19	石　匙	ＬＬ62	頁岩	5.8	2.6	0.7	9	68	57
S20	石　匙	ＬＱ53Ⅱ層	硬質頁岩	7.4	3.3	1.0	21	69	57
S21	石　匙	ＬＱ52Ⅲ層	頁岩	(4.6)	2.25	0.5	6	69	57
S22	石　匙	C区トレンチ	硬質頁岩	4.9	2.0	1.1	6	69	57
S23	石　匙	C区中央南端	硬質頁岩	7.1	3.9	1.1	23	69	57
S24	石　匙	ＬＰ53表採	頁岩	(7.0)	3.3	1.1	22	69	58
S25	石　匙	ＬＰ52Ⅲ層	頁岩	7.0	5.2	1.1	25	69	58
S26	石　匙	C区中央南端	硬質頁岩	6.8	2.6	1.3	14	69	58
S27	石　匙	C区空堀南端壁際	頁岩	4.5	2.65	0.8	6	69	58
S28	石　匙	E区１・２トレⅡ層	硬質頁岩	5.5	2.9	1.5	16	69	58
S29	石　匙	ＳＤ66	頁岩	8.0	3.2	0.9	18	70	58
S30	石　匙	ＬＱ52Ⅲ層	硬質頁岩	5.5	2.25	0.8	7	70	58
S31	石　匙	ＬＱ53Ⅲ層	硬質頁岩	5.9	3.6	0.8	11	70	58
S32	石　匙	ＳＤ66	頁岩	5.25	4.9	1.2	18	70	58
S33	石　匙	ＬＱ52Ⅲ層	頁岩	(13.8)	4.6	0.6	9	70	58
S34	石　匙	ＳＤ72	硬質頁岩	6.75	4.7	1.0	18	70	58
S35	石　匙	C区空堀南端	頁岩	(4.9)	2.6	0.5	5	70	58
S36	石　匙	ＬＱ52Ⅲ層	硬質頁岩	6.8	3.2	0.8	7	70	58
S37	石　匙	ＳＤ66	硬質頁岩	4.9	3.6	0.9	10	71	58
S38	石　匙	E区１トレ斜面	硬質頁岩	5.2	4.65	0.9	18	71	58
S39	石　匙	ＳＤ66	頁岩	4.9	3.75	1.3	19	71	58
S40	石　匙	ＬＬ64Ⅲ層	硬質頁岩	3.6	(4.5)	1.1	16	71	58
S41	石　匙	ＬＲ49Ⅳ層	硬質頁岩	4.7	7.6	1.2	26	71	58
S42	削　器	ＬＲ50Ⅲ層	頁岩	7.5	3.0	1.4	28	71	59
S43	削　器	ＬＱ52Ⅲ層	頁岩	7.1	4.55	1.2	35	71	59
S44	削　器	C区空堀南端壁際	頁岩	(8.5)	5.3	2.5	103	72	59
S45	削　器	ＳＤ66	頁岩	4.1	2.7	0.9	7	72	59
S46	削　器	C区中央南端	硬質頁岩	6.4	5.7	1.4	44	72	59

表18表　石器観察表（１）

№.	器　　形	出　土　地　点	石　　質	L(cm)	B(cm)	T(cm)	W(g)	挿図	図版
S47	削　　器	ＬＱ53Ⅱ層	頁岩	8.0	2.5	1.7	29	72	59
S48	削　　器	ＳＦ70西端表採	頁岩	4.9	3.8	0.9	6	72	59
S49	削　　器	Ｃ区空堀西側	硬質頁岩	6.9	3.8	1.3	18	72	59
S50	削　　器	ＬＱ53Ⅲ層	頁岩	7.2	4.25	1.2	21	72	59
S51	削　　器	Ｃ区空堀南端壁際	頁岩	7.7	4.6	2.3	23	73	59
S52	削　　器	ＬＱ53Ⅲ層	硬質頁岩	8.7	2.9	1.5	24	73	59
S53	削　　器	ＬＱ54Ⅲ層	頁岩	6.5	4.45	0.7	15	73	59
S54	削　　器	ＬＱ53Ⅲ層	頁岩	(3.8)	3.0	0.8	6	73	59
S55	掻　　器	ＬＱ52Ⅲ層	頁岩	5.8	3.65	1.9	36	73	59
S56	掻　　器	Ｃ区中央南端	頁岩	8.1	4.2	2.5	60	73	59
S57	掻　　器	ＬＱ52Ⅲ層	頁岩	(6.2)	2.4	1.3	19	73	59
S58	掻　　器	ＬＰ53Ⅲ層	頁岩	(5.3)	3.0	1.2	14	73	59
S59	掻　　器	ＳＤ66	頁岩	(4.2)	4.0	1.5	33	74	60
S60	掻　　器	ＳＤ66	頁岩	5.0	4.5	1.0	9	74	60
S61	掻　　器	ＳＦ70Ⅰ層	頁岩	2.7	5.1	0.9	11	74	60
S62	掻　　器	ＬＱ54Ⅲ層	頁岩	3.0	3.7	1.0	6	74	60
S63	掻　　器	ＳＤ66	頁岩	(3.45)	(5.7)	(1.8)	37	74	60
S64	掻　　器	ＳＤ72	頁岩	(9.1)	4.75	1.8	78	74	60
S65	石　　箆	ＳＤ72	頁岩	7.85	3.1	1.7	38	74	60
S66	石　　箆	Ｃ区空堀南端壁際	珪質頁岩	10.2	3.35	2.8	95	75	60
S67	石　　箆	Ｅ区１トレ斜上Ⅱ層	頁岩	9.7	3.7	1.8	64	75	60
S68	石　　箆	ＳＤ72	硬質頁岩	8.7	4.0	2.0	57	75	60
S69	石　　箆	ＬＰ52Ⅲ層	頁岩	9.15	3.05	1.4	34	75	60
S70	石　　箆	ＬＱ53Ⅲ層	頁岩	7.3	3.05	1.35	31	75	60
S71	石　　箆	ＬＱ53	頁岩	3.3	6.6	1.55	29	75	60
S72	石　　箆	Ｃ区空堀南西端	硬質頁岩	9.5	4.0	2.5	81	76	60
S73	石　　箆	ＬＱ53	頁岩	(6.2)	3.25	1.2	26	76	60
S74	石　　箆	Ｅ区１トレ斜上	頁岩	7.4	3.8	1.5	37	76	61
S75	石　　箆	Ｃ区空堀南西端	頁岩	6.6	3.05	1.3	25	76	61
S76	石　　箆	Ｃ区トレンチ	頁岩	(5.9)	3.7	2.0	42	76	61
S77	石　　箆	ＬＱ53Ⅱ層	硬質頁岩	6.4	3.8	1.7	35	76	61
S78	石　　箆	Ｃ区中央南端	頁岩	(3.4)	4.2	1.0	18	76	61
S79	岩　　偶	ＬＱ52Ⅲ層	ｼﾙﾄ質凝灰岩	18.1	10.0	1.8	286	77	61
S80	三日月形石器	ＬＱ52Ⅲ層	頁岩	13.8	3.1	2.7	76	78	61
S81	石　　核	ＳＤ66	頁岩	8.6	7.7	3.5	228	78	61
S82	磨製石斧	ＳＤ66	緑色細粒凝灰岩	9.6	4.6	2.6	165	78	61
S83	磨製石斧	ＬＱ52Ⅲ層	緑色細粒凝灰岩	(5.05)	2.0	1.3	17	78	61
S84	磨製石斧	ＬＴ50１トレ	緑色細粒凝灰岩	(6.8)	3.1	0.9	34	78	61
S85	半円状扁平打製石器	ＬＳ52Ⅰ層	凝灰岩	12.2	17.1	3.3	902	78	62
S86	半円状扁平打製石器	Ｃ区空堀南西端	凝灰岩	9.7	15.2	3.2	595	79	62
S87	半円状扁平打製石器	Ｅ区１トレ平坦Ⅱ層	緑色凝灰岩	7.9	15.5	2.5	378	79	62
S88	半円状扁平打製石器	ＳＦ70西端表採	安山岩	8.8	17.5	1.9	383	79	62
S89	半円状扁平打製石器	Ｅ区ＬＳ52Ⅰ層	緑色凝灰岩	9.7	14.4	2.8	550	79	63
S90	半円状扁平磨製石器	Ａ区表採	凝灰岩	6.4	12.6	3.1	365	80	63
S91	半円状扁平磨製石器	ＳＤ66	砂岩	(8.2)	(11.1)	(3.1)	419	80	63
S92	円盤状石製品	ＬＪ59表採	凝灰岩	(5.6)	(3.0)	1.1	22	80	63

表19表　石器観察表（２）

No.	器　　形	出　土　地　点	石　　質	L(cm)	B(cm)	T(cm)	W(g)	挿図	図版
S 93	石　皿	ＳＤ72	凝灰岩	23.5	18.2	7.4	3,660	80	63
S 94	石　錘	LQ52Ⅲ層	凝灰質砂岩	5.8	6.3	1.1	65	80	63
S 95	凹　石	Ｃ区中央南端	凝灰岩	19.0	6.0	3.7	507	81	64
S 96	凹　石	Ｃ区中央南端	凝灰岩	9.3	8.3	3.4	381	81	64
S 97	凹　石	Ｃ区中央南端	凝灰岩	12.3	5.4	3.8	299	81	64
S 98	凹　石	ＳＦ70表採	凝灰岩	12.0	10.0	5.0	672	81	64
S 99	凹　石	ＬＱ54Ⅲ層	凝灰岩	14.9	6.2	3.4	356	81	64
S 100	凹　石	ＳＤ72	凝灰岩	8.7	8.0	3.5	314	81	64
S 101	凹　石	ＬＱ53Ⅲ層	緑色凝灰岩	16.4	5.5	3.0	324	82	64
S 102	凹　石	Ｃ区中央南端	砂岩	13.8	5.7	2.1	253	82	64
S 103	凹　石	ＳＤ66	緑色凝灰岩	12.7	6.6	3.4	306	82	65
S 104	凹　石	ＳＤ72	凝灰岩	10.4	7.9	4.6	531	82	65
S 105	凹　石	Ｃ区中央南端	凝灰岩	(13.1)	5.7	3.6	317	82	65
S 106	凹　石	ＳＤ72	凝灰岩	7.6	8.3	4.1	467	82	65
S 107	敲　石	Ｃ区表採	泥岩	17.5	4.9	3.8	389	83	65
S 108	敲　石	ＬＰ53Ⅲ層	砂岩	13.1	5.3	1.7	165	83	65
S 109	敲　石	Ｃ区空堀南端壁際	凝灰岩	8.3	8.0	4.4	374	83	65
S 110	敲　石	ＳＤ72	凝灰岩	9.1	7.9	4.8	447	83	65
S 111	敲　石	ＬＱ53Ⅲ層	泥岩	14.4	8.3	2.5	311	83	66
S 112	敲　石	ＳＤ72	凝灰岩	10.9	7.8	4.6	572	83	66
S 113	磨　石	ＬＱ53Ⅲ層	凝灰岩	10.9	9.8	7.2	1,050	84	66
S 114	磨　石	ＳＤ66	凝灰岩	10.5	9.8	5.5	850	84	66
S 115	磨　石	Ｃ区中央南端	凝灰岩	12.5	6.2	3.6	340	84	66
S 116	その他	ＬＱ53Ⅲ層	頁岩	5.6	1.7	1.2	9	84	66

（　）は現存長

表20表　石器観察表（３）

第５章　自然科学分析

１　はじめに

今回の発掘において、空堀をはじめ掘立柱建物跡・竪穴状遺構・土坑などの遺構が検出され、縄文土器・石器・陶磁器等の遺物が出土しているが、具体的な年代を知るための遺構・遺物は極めて少ない。

今回の分析調査では、出土した炭化物の放射性炭素年代測定（ＡＭＳ法）と樹種同定及び植物遺体同定を実施し、年代等に関する情報を得る。

２　試　料（図版67・68）

試料は４基の遺構（ＳＤ77・ＳＤ49・ＳＮ55・ＳＫＰ16）から出土した炭化物である。この中から、計６点の試料を選択した（試料番号１～６）。これら６点を分割して、加速器による放射性炭素年代測定法（ＡＭＳ法）と、樹種同定または植物遺体同定をその種別に応じて実施する。

３　分析方法

（１）放射性炭素年代測定

測定は株式会社加速器分析研究所においてＡＭＳ法により行った。なお、放射性炭素14Ｃの半減期はLIBBYの半減期5,568年を使用する。また、測定年代は1950年を基点とした年代（ＢＰ）であり、誤差は複数回の測定値においてχ２検定を行い、測定値の統計誤差からその値を求めた。暦年較正はOxCal Ver3.10を用いて算出した。

（２）樹種同定

炭化材の数㎜³の試料をエポキシ樹脂に包埋し研磨して、木口（横断面）、柾目（放射断面）、板目（接線断面）面の薄片プレパラートを作成した。このプレパラートを顕微鏡で観察して同定した。

（３）植物遺体同定

試料番号４については炭化した茎をエポキシ樹脂に包埋して、茎の横断面の薄片を作製した。さらに葉を灰化してプラントオパールの有無を確認した。試料番号５は実体顕微鏡下で観察を行った。

４　結　果

（１）放射性炭素年代分析法

結果を第21表に示す。試料の測定年代（補正年代）は、ＳＤ77空堀出土炭化材（試料番号１・２）が約13,000～14,000年前、ＳＤ49空堀出土炭化材（試料番号３）が約190～280年前の18世紀、ＳＮ55焼土遺構出土炭化物（試料番号４・５）が約250～370年前の18世紀、ＳＫＰ16柱穴様ピット出土炭化材（試料番号６）が約280年前の18世紀という数値が得られた。ＳＤ77で出土した炭化材２点（試料番号１・２）に関しては、十和田八戸火砕流堆積物（Ｔｏ-Ｈ）に含有される炭化材においてこれまで得られた放射性炭素年代（未較正年代）が12,200～14,000 yrＢＰとする値であり（町田・新井、2001）、これと合致する値であることから、火砕流台地を形成する際に取り込まれた材であるものと

考えられる。他の４点はいずれも近世、江戸時代の数値であり、空堀埋め戻しの後の生業に伴って形成されたと考えられる。

（２）樹種同定

樹種同定結果（針葉樹３種）の顕微鏡写真を示し、以下に各種の主な解剖学的特徴を記す。

１）ヒノキ科クロベ属クロベ（Thuja standishii Carriere）（試料番号１）

木口では仮道管をもち、早材から晩材への移行はやや急であった。樹脂細胞は晩材部に偏って接線状に存在する。柾目では放射組織の分野壁孔はスギ型で１分野に２～６個ある。放射柔細胞の水平壁が接線壁と接する際に水平壁は山形に厚くなり、接線壁との間に溝のような構造（インデンチャー）ができ、よく発達しているのが認められる。板目では放射組織はすべて単列であった。数珠状末端壁をもつ樹脂細胞がある。クロベは本州、四国に分布する。

２）ヒノキ科アスナロ属（Thujopsis sp.）（試料番号２・６）

木口では仮道管をもち、早材から晩材への移行は緩やかであった。樹脂細胞は晩材部に散在または接線配列である。柾目では放射組織の分野壁孔はヒノキ型からややスギ型で１分野に２～４個ある。板目では放射組織はすべて単列であった。数珠状末端壁をもつ樹脂細胞がある。アスナロ属にはアスナロ（ヒバ、アテ）とヒノキアスナロ（ヒバ）があるが顕微鏡下では識別困難である。アスナロ属は本州、四国、九州に分布する。

３）スギ科スギ属スギ（Cryptomeria japonica D.Don）（試料番号３）

木口では仮道管をもち、早材から晩材への移行はやや急であった。樹脂細胞は晩材部で接線方向に並んでいた。柾目では放射組織の分野壁孔は典型的なスギ型で１分野に１～２個ある。板目では放射組織はすべて単列であった。樹脂細胞の末端壁はおおむね扁平である。スギは本州、四国、九州の主として太平洋側に分布する。

（３）植物遺体同定

１）試料番号４

炭化した薄片下では横断面に維管束が認められた。灰像法ではイネ科に特徴的なプラントオパールが認められた。以上の結果をもとに現生標本と比較したところイネ科のヨシ属が近似した。

２）試料番号５

シダ類である。小羽片の形状及び葉裏の分離葉脈からワラビに近似する。

参考文献

Stuiver,M.and Polash,H.A.(1977)Discussion:Reporting of 14C data.Radiocarbon,19:355-363

猪野俊平　『植物組織学』　内田老鶴圃（1954）

北村四郎・村田　源　『原色日本植物図鑑草本編 下』　保育社（1964）

北村四郎・村田　源　『原色日本植物図鑑木本編Ⅰ・Ⅱ』　保育社（1979）

島地　謙・伊東隆夫　『図説木材組織』　地球社（1982）

奈良国立文化財研究所　『奈良国立文化財研究所　史料第27冊　木器集成図録　近畿古代篇』(1985)

島地　謙・伊東隆夫　『日本の遺跡出土木製品総覧』　雄山閣出版（1988）

奈良国立文化財研究所　『奈良国立文化財研究所　史料第36冊　木器集成図録　近畿原始篇』(1993)

深澤和三　『樹体の解剖』　海青社（1997）

牧野富太郎　『原色牧野日本植物図鑑』　北隆館（1998）

伊東隆夫　『日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ～Ⅴ』　京都大学木質科学研究所（1999）

町田　洋・新井房夫　『新編　火山灰アトラス　日本列島とその周辺』　東京大学出版会（2003）

試料番号	遺　構	試料名	暦年較正値		補正年代	δ13C	Code.No.
			1δ暦年較正範囲	2δ暦年較正範囲	ＢＰ	(‰)	
1	ＳＤ77	炭化材	13,560BC(68.2%)13,240BC	13,800BC(95.4%)13,100BC	13,010±60	-23.58±0.78	IAAA-51791
2	ＳＤ77	炭化材	13,730BC(68.2%)13,380BC	13,950BC(95.4%)13,200BC	13,120±60	-25.09±0.79	IAAA-51792
3	ＳＤ49	炭化物	1,660AD(13.6%)1,690AD	1,640AD(78.0%)1,890AD	180±40	-26.87±0.88	IAAA-51793
			1,720AD(41.1%)1,810AD	1,910AD(17.4%)1,960AD			
			1,920AD(13.5%)1,960AD				
4	ＳＮ55	萱状炭化物	1,520AD(3.9%)1,540AD	1,520AD(16.5%)1,600AD	250±40	- 9.84±0.84	IAAA-51794
			1,630AD(43.0%)1,670AD	1,620AD(48.4%)1,690AD			
			1,780AD(17.9%)1,800AD	1,730AD(24.2%)1,810AD			
			1,940AD(3.3%)1,960AD	1,930AD(6.3%)1,960AD			
5	ＳＮ55	シダ状炭化物	1,520AD(33.7%)1,580AD	1,480AD(88.2%)1,670AD	270±40	-23.28±0.92	IAAA-51795
			1,620AD(31.9%)1,670AD	1,780AD(6.2%)1,800AD			
			1,780AD(2.5%)1,800AD	1,940AD(1.0%)1,960AD			
6	ＳＫＰ16	炭化物	1,660AD(14.9%)1,690AD	1,640AD(23.2%)1,700AD	190±30	-25.06±0.91	IAAA-51796
			1,730AD(41.2%)1,810AD	1,720AD(51.7%)1,820AD			
			1,930AD(12.1%)1,960AD	1,830AD(1.5%)1,880AD			
				1,910AD(18.9%)1,960AD			

注：補正年代の単位 BP は、1950 年から遡る年数を指す

第 21 表　分析数値表

第6章　ま　と　め

三ヶ田館跡は、南から延びる舌状台地の先端部、東西400m、南北200mの広さをもつ中世城館を中心とする遺跡であるが、今回の調査は県道191号根瀬尾去沢線建設に伴った遺跡北西端部のみ行った。調査の結果、縄文時代の捨て場、中世の空堀や切岸、土塁といった城館に付随する遺構群、中～近世と考えられる掘立柱建物跡や柱列、竪穴状遺構、土坑、焼土遺構を検出し、さらに捨て場を中心に縄文時代早・前・中期末の土器や石器、弥生時代の土器などが出土した。

遺構について

遺跡はＢ区の東側に郭が広がり（主郭）、その下位の南北に腰郭が巡っていると考えられ当初、主郭とそれに伴う腰郭及び土塁（Ａ区）の調査と考えられていた。しかし、調査の結果腰郭と考えられた平坦部は、近世に入った後の構築であり、以前は複数の空堀が掘り込まれていたことが判明した。Ａ区では北側から空堀が順次造られ、その機能が失われるとともに元の空堀が埋め戻され、その南側に切岸を築きながら新たに空堀を掘り込むといった作業が繰り返され、ＳＤ58→50→62→49→48と形成された。Ｃ区に造成された空堀は、安全面を考え地山まで掘り下げることを断念したため全体像を把握することができなかったが、土塁に隣接するＳＤ78、77、79の順で空堀が構築された後、時期を経て全体が埋め戻された後にＣ区中央から北端にかけてＳＤ60－ａ、ｂ、ｃが掘り込まれている。しかし、主郭Ｂ区に接する切岸ＳＶ81はＳＤ60－ｃのさらに下位に延びており、別の空堀の存在をうかがわせる。史料にはほとんど登場しない三ヶ田館ではあるが、その防衛の備えはかなり厚かったものと推測できる。三ヶ田館跡がある舌状台地は、樫内層及び鳥越火砕流堆積物層が熊沢川・夜明島川によって周囲が浸食された場所であり、周囲の現地形から台地周縁部も段丘地形を成していたことが充分考えられる。縄文時代はこの台地を生活の場とし、中世では地山を掘り下げて空堀を構築し、南側段丘崖を土塁として利用したと思われる。

遺物について

遺物はＤ区平坦部及びＥ区に向かう斜面上に広がる捨て場を中心として、縄文時代前期を主とする土器・石器・石製品を多数出土した。この捨て場周辺の発掘に着手したのは調査期間もかなり押し詰まってからであり、詳細な層位と出土土器との関係等、より精密な調査ができなかったのが悔やまれるが、各種の良好な資料を得ることができた。Ⅱ群１類は異なる撚りの原体の回転施文による羽状縄文を施しており、長七谷地Ⅲ群への移行期にあたる土器群と考えられる。同２類は押し引き沈線文が波状口縁に施されており、早稲田６式に比定できる。いずれもＣ区空堀南端部から出土しており異地性の可能性が高いが、本調査区周辺において該当時期の遺構・遺物が確認され得ると考える。捨て場（遺物包含層）出土で、現地性の遺物と考え得る土器はⅡ群３類以降の土器群であり、円筒下層ａ～ｄ式のほか、深郷田式と思われる土器が確認されており、Ⅱ群４類Ａ種・Ｂ種・Ｃ種ａの土器群がそれにあたると考える。深郷田式の型式として、平底であり底部に若干の張り出しを伴うものが見られるが、口径に比べ底径が非常に小さくなる傾向にある。Ⅱ群12類底部資料の多くに、これらの条件を

満たす資料が現れている。これら底部の外面に、縄文や撚糸文、網代痕が残された資料が数多く確認されている。さらに、底部内面に施文された例も確認された。これらの資料の解釈が、今後の課題の１つであろう。

１点のみ出土した岩偶は板状で頭部が短い菱形を呈し、第４章第３節でも述べたとおり、肩パット形岩偶と類似した形態である。肩パット形岩偶は青森県津軽地方から秋田県米代川流域を中心として出土しており、縄文前期中葉（円筒下層ｂ式相当）から中期末（円筒上層ｄ式相当）にかけて確認されている。本遺跡出土の岩偶はこれら肩パット形岩偶に類似するものの、その表現方法が他の岩偶と比べ平面的であることなどから比較的早い時期の岩偶であると考え、肩パット形岩偶へのプロトタイプである可能性も視野に入れるべきであろう。

三ヶ田館跡に隣接する形で縄文時代前期～後期の遺物包含層である三ヶ田遺跡（第２図　地図番号２）が立地するが、この三ヶ田遺跡はかつて発掘調査が行われ、1962（昭和37）年、『八幡平村遺跡調査報告』として報告がなされた。これをうけて、1967（昭和42）年発行の『秋田の考古学』において「道路敷設に四手台地の先端部が切断されたために発見された遺跡」であり、「切断面に土器片が押圧されて帯状に露出」する遺跡として三ヶ田遺跡が掲載されている。本報告においてＳＴ83捨て場（遺物包含層）とした箇所がこの三ヶ田遺跡にあたると思われる。鹿角市周辺の中世城館には内包するように縄文遺跡が立地する例が多く、これまでの発掘調査においても中世の遺物とともに縄文期の遺物が出土するケースが多い。三ヶ田館跡も、そのような長い歴史を示す１つの例ということができよう。

引用・参考文献

青森県教育委員会　『鷹架遺跡発掘調査報告書』　青森県埋蔵文化財調査報告書第63集　1980（昭和55）年

階上町教育委員会　『白座遺跡・野場遺跡（３）発掘調査報告書』　1989（平成元）年

鹿角市教育委員会　『鹿角の館　館跡航空写真測量調査報告書（４）　長嶺館・谷内館・夏井館・三ヶ田館・長内館・尾去館・上山館・茶臼館』　鹿角市文化財調査資料28　1985（昭和60）年

秋田県教育委員会　『秋田県遺跡地図（鹿角地区版）』　2000（平成12）年

稲野裕介　「円筒土器に伴う岩偶（１）－形態と大きさについて－」　『考古学ジャーナル』第362巻　ニューサイエンス社　1993（平成５）年

稲野裕介　「円筒土器に伴う岩偶（２）」　『土偶研究の地平 「土偶とその情報」研究論集（１）』　「土偶とその情報」研究会　勉誠社　1997（平成９）年

武藤康弘　「東北地方北部の縄文前期土器群の編年学的研究－表館式・早稲田６式をめぐって－」　『考古学雑誌』第74巻２　日本考古學會　1990（平成２）年

原田昌幸　「発生・出現期の土偶総論」　『土偶研究の地平 「土偶とその情報」研究論集（１）』　「土偶とその情報」研究会　勉誠社　1997（平成９）年

武藤康弘　「東北地方北部の縄文前期土器群の編年学的研究Ⅱ－円筒下層ａ式直前の土器群をめぐって－」　『考古学雑誌』第76巻３　日本考古學會　1991（平成３）年

奈良修介・豊島昂　『秋田県の考古学』　吉川弘文館　1967（昭和42）年

1　A区平場と段状部分（北西→）

2　空堀群確認断面（北西→）

図版2　A区の調査(2)

1　ＳＤ48確認状況（北東→）

2　ＳＤ48・49・50、ＳＮ55確認状況（東→）

1　ＳＤ48・49・50発掘状況（南西→）

2　ＳＤ50・68完掘状況（南東→）

図版4　A区の調査(4)

1　ＳＤ50完掘状況（東→）

2　ＳＤ50・68西端断面（東→）

1　ＳＤ58東端断面（西→）

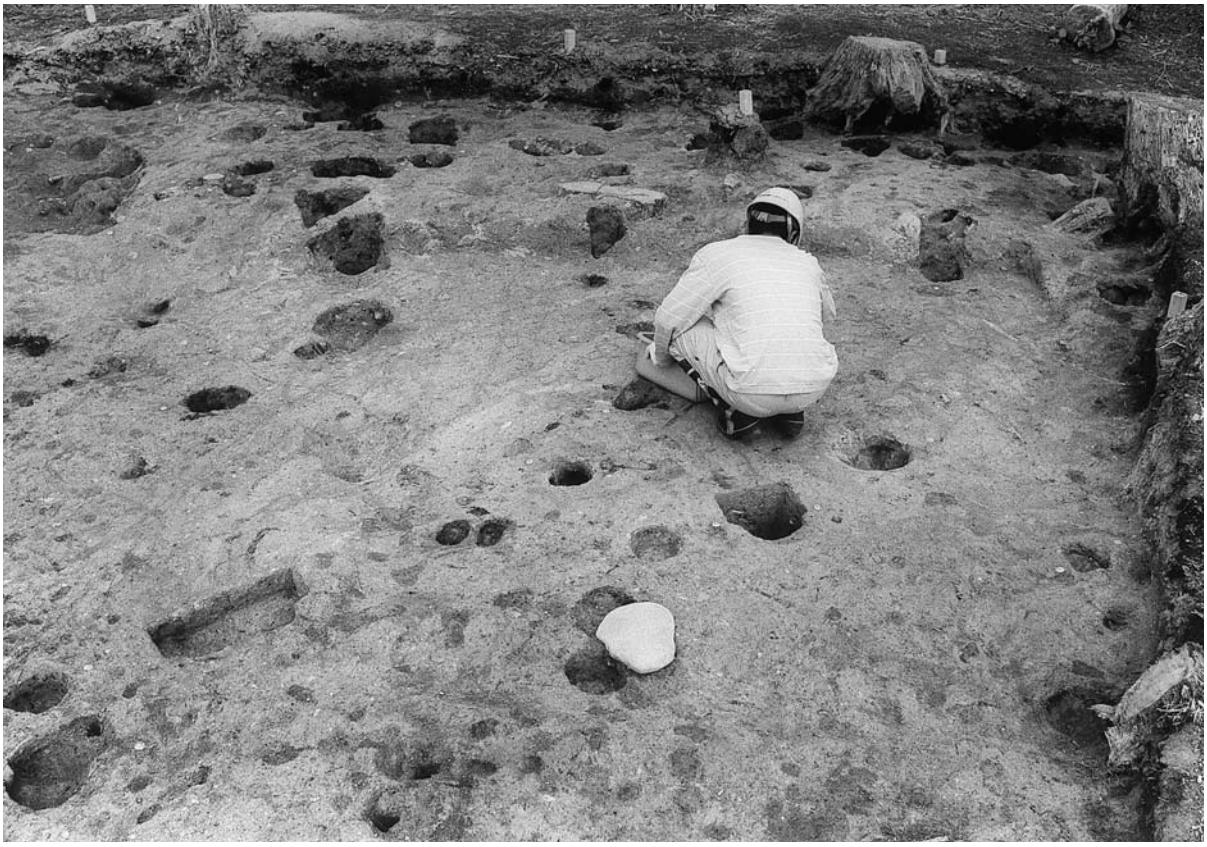
2　ＳＤ58西端断面（東→）

図版6　A区の調査(6)

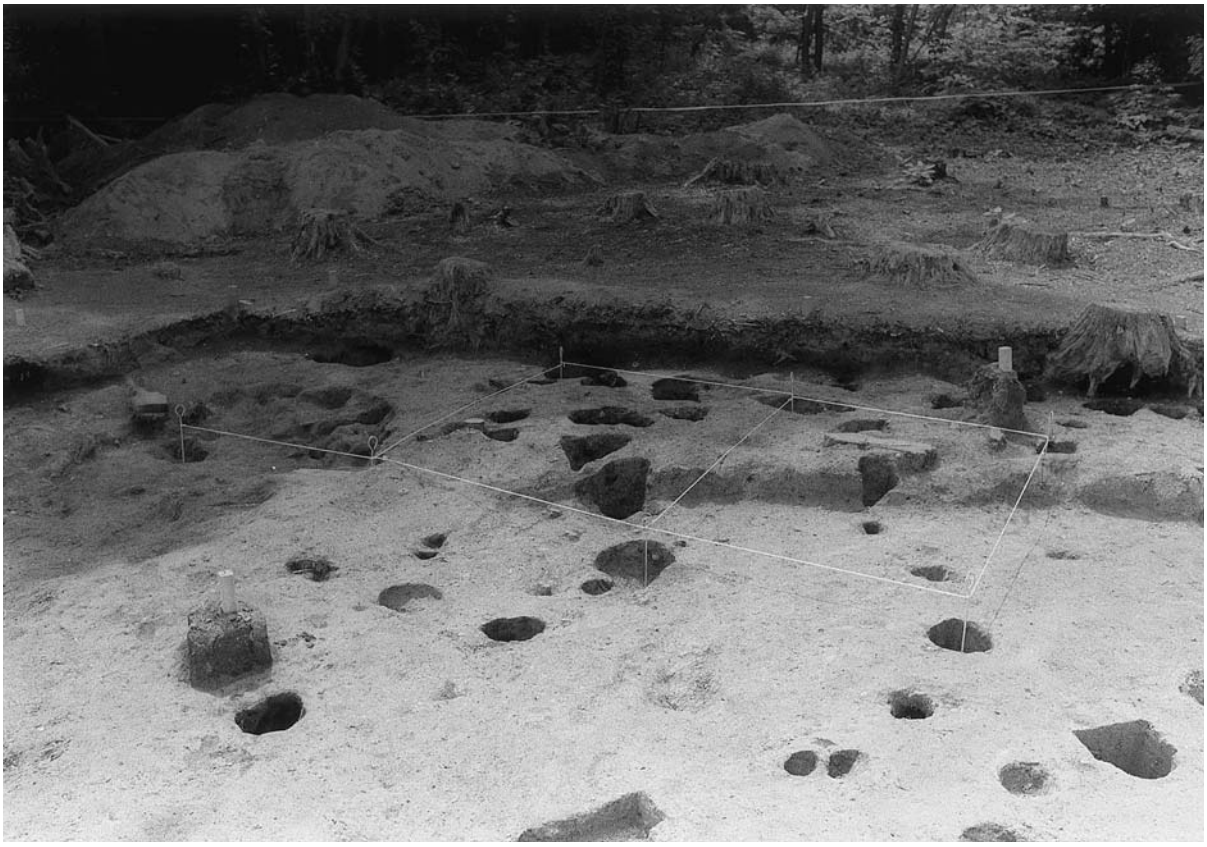
1　ＳＮ55検出状況
（北→）

2　ＳＮ55土層断面
（南西→）

3　ＳＮ55土層断面
（北東→）



1　ＳＫＩ19確認状況（北西→）



2　ＳＢ31完掘状況（北西→）

図版8　B区の調査(2)

1　ＳＫ１調査状況（西→）

2　ＳＫＰ16完掘状況（北西→）

3　ＳＫＰ９・38土層断面（南西→）

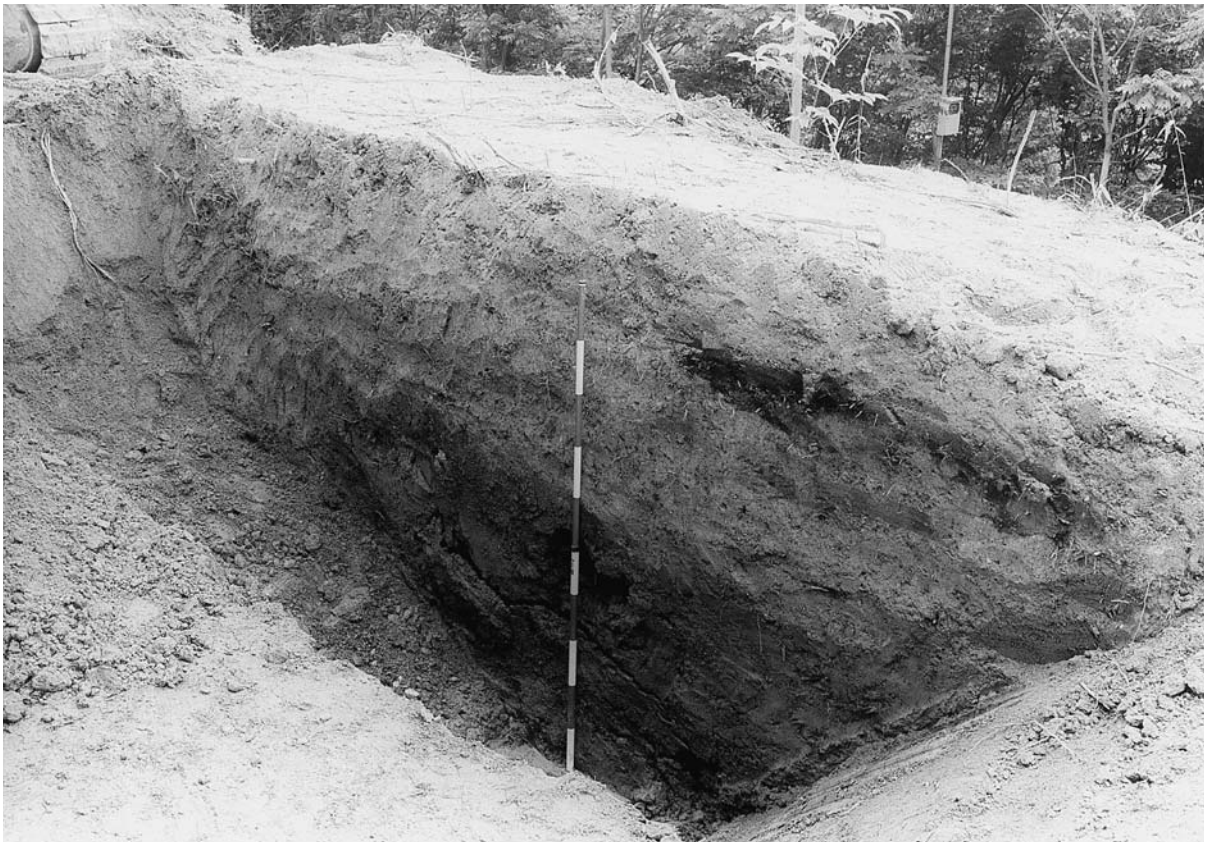
1　C区全景（北→）

2　ＳＤ60土層断面（南→）

1　ＳＤ60北端土層断面（西→）

2　ＳＤ60北端最下部土層断面（西→）

1　ＳＤ60東西断面確認状況（南→）



2　ＳＤ60ベルト西側断面（北東→）

1　C区南側土層断面（北西→）

2　SK71完掘（東→）

1　ＳＤ77・78炭化物出土状況（北東→）

2　ＳＤ77・78炭化物出土状況（北東→）

1　ＳＦ70土層断面（西→）

2　ＳＦ70頂部土層断面（南西→）

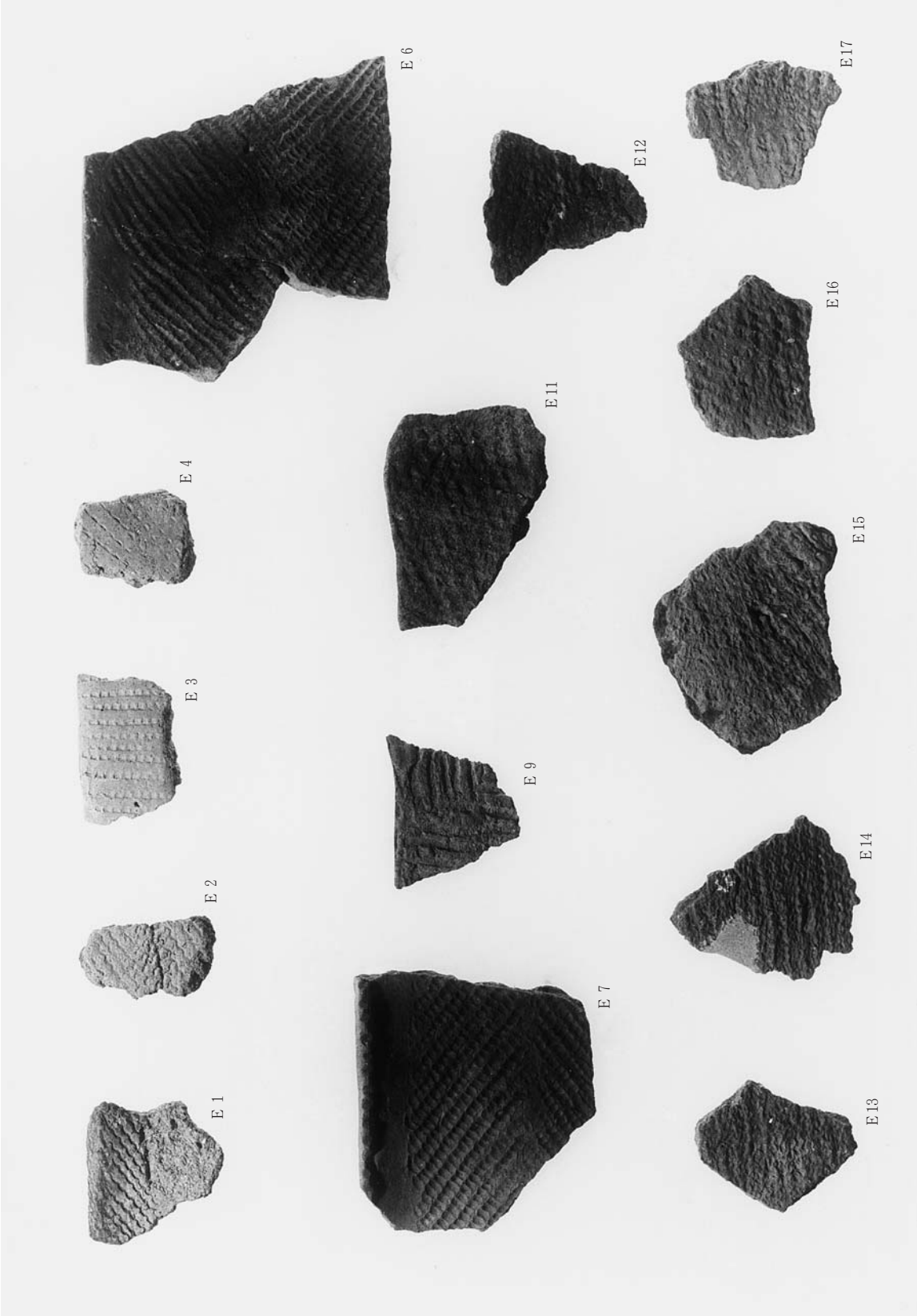
1　ＳＴ83土器出土状況（北→）

2　ＳＴ83土器出土状況（東→）

1　ＳＤ66完掘状況（東→）

2　ＳＤ66土層断面（北西→）

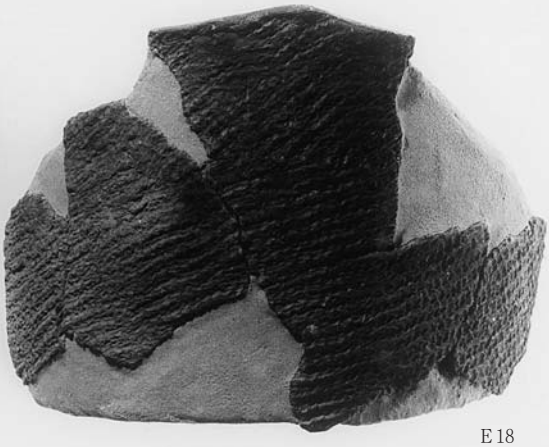
図版17　捨て場出土土器(1)



図版18　捨て場出土土器(2)

E 5

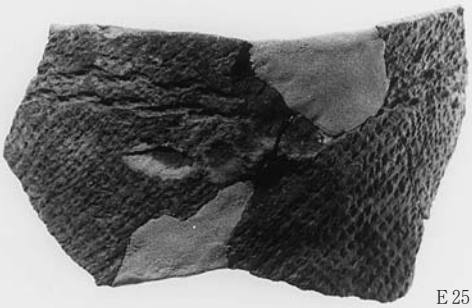
E 8



E18

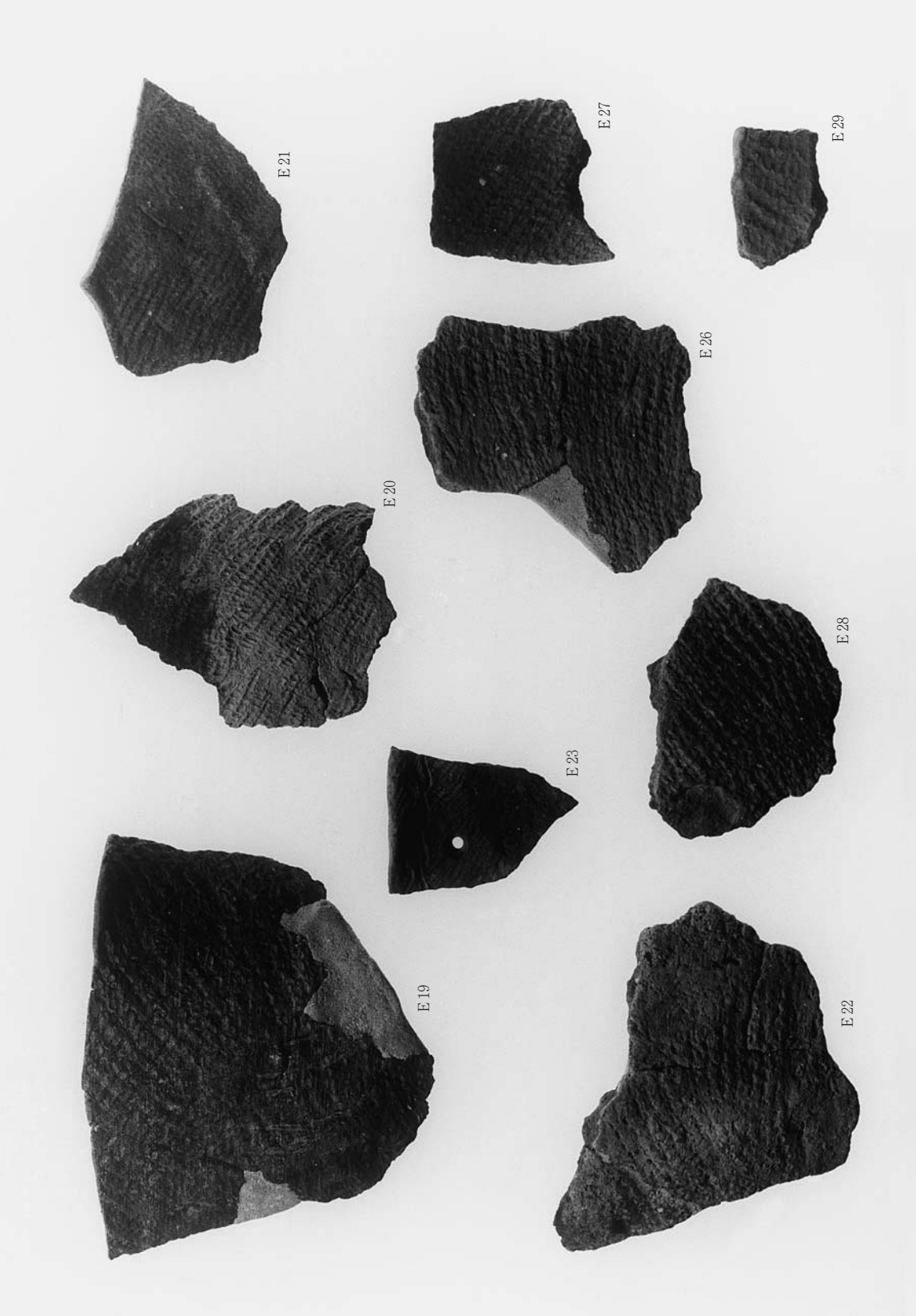
E 10

E 24

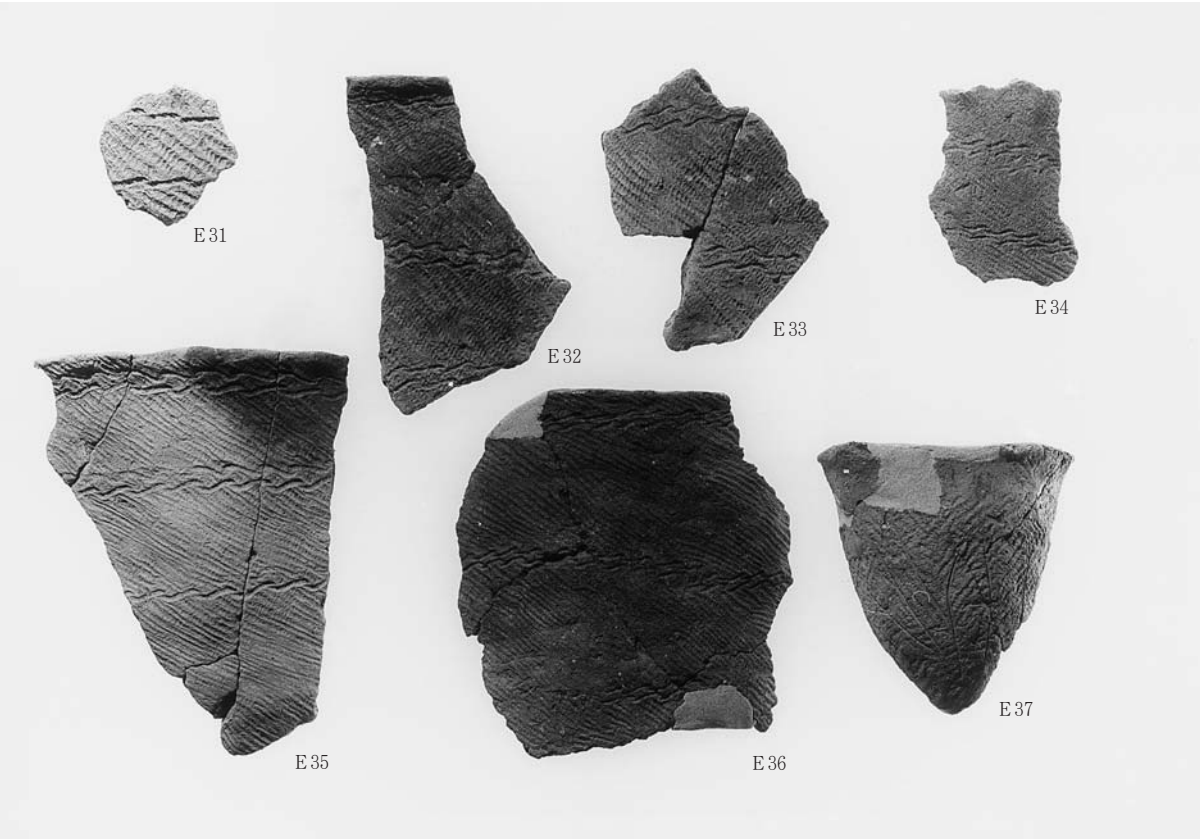


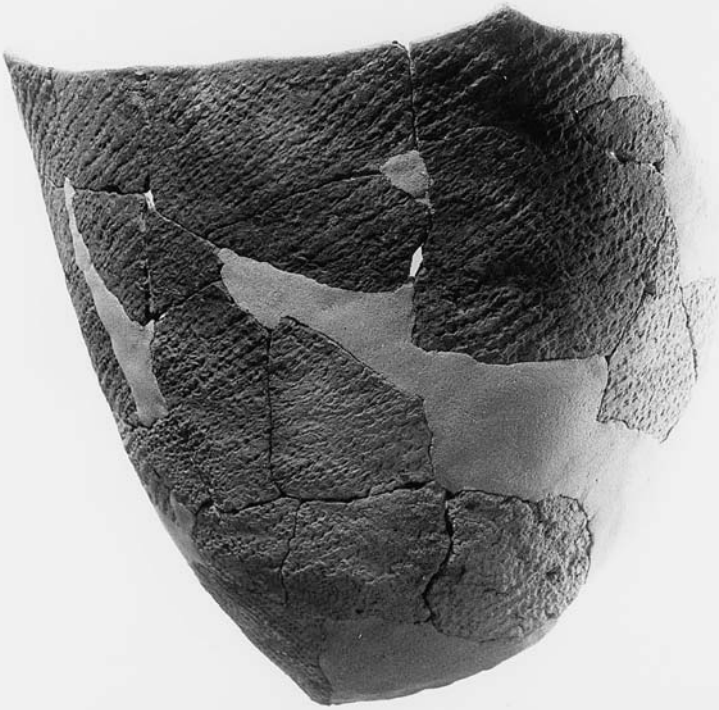
E 25

図版20　捨て場出土土器(4)



E30


E31
E32
E33
E34
E35
E36
E37

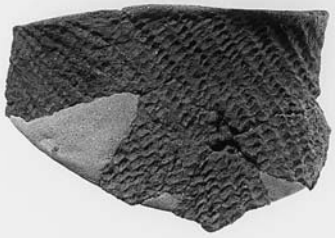


E38

E39

E41

E42



E40

E 43

E 44

E 45

E 46

E 47

E 52

E 53

E 49

図版24　捨て場出土土器(8)

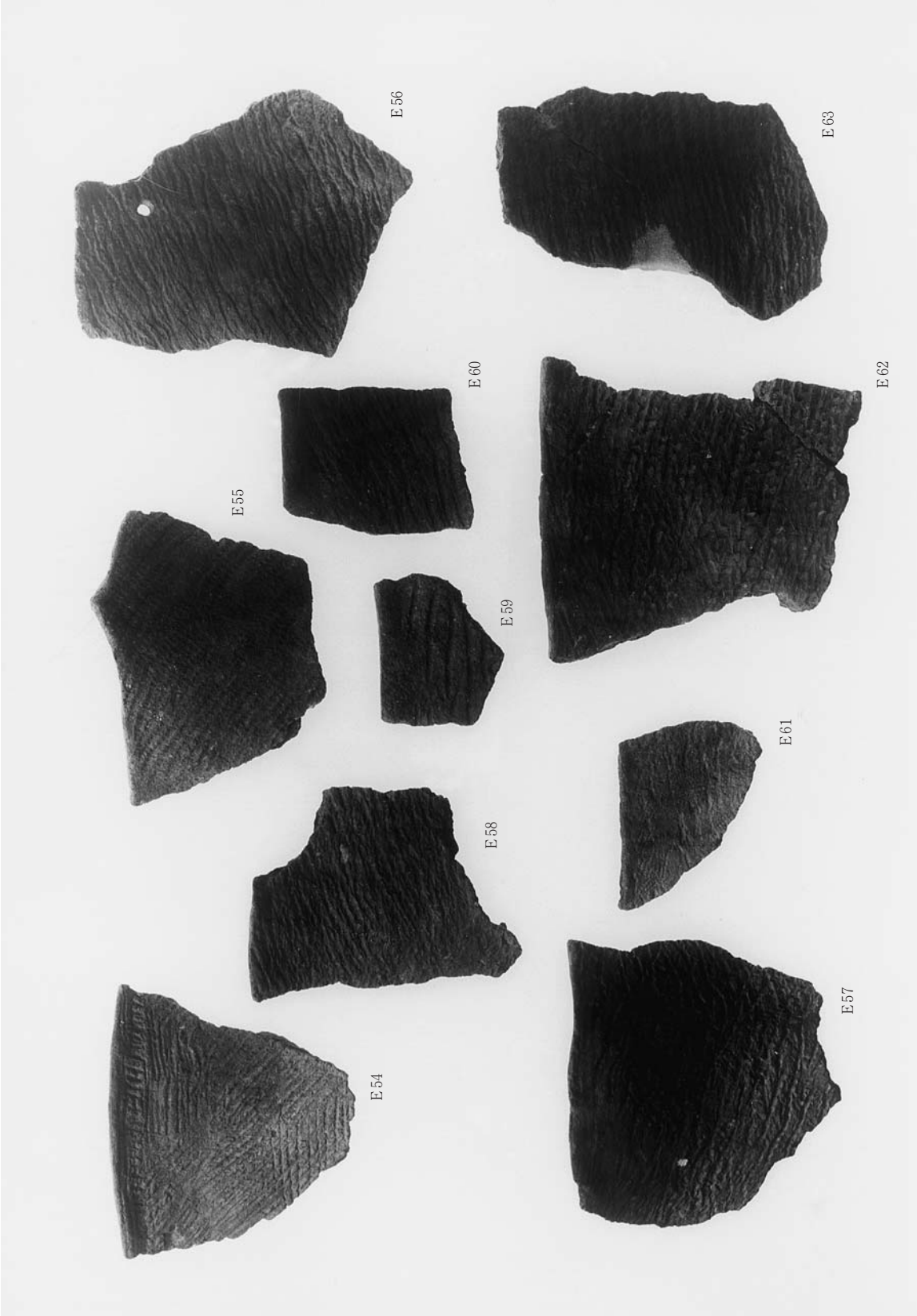
E 48

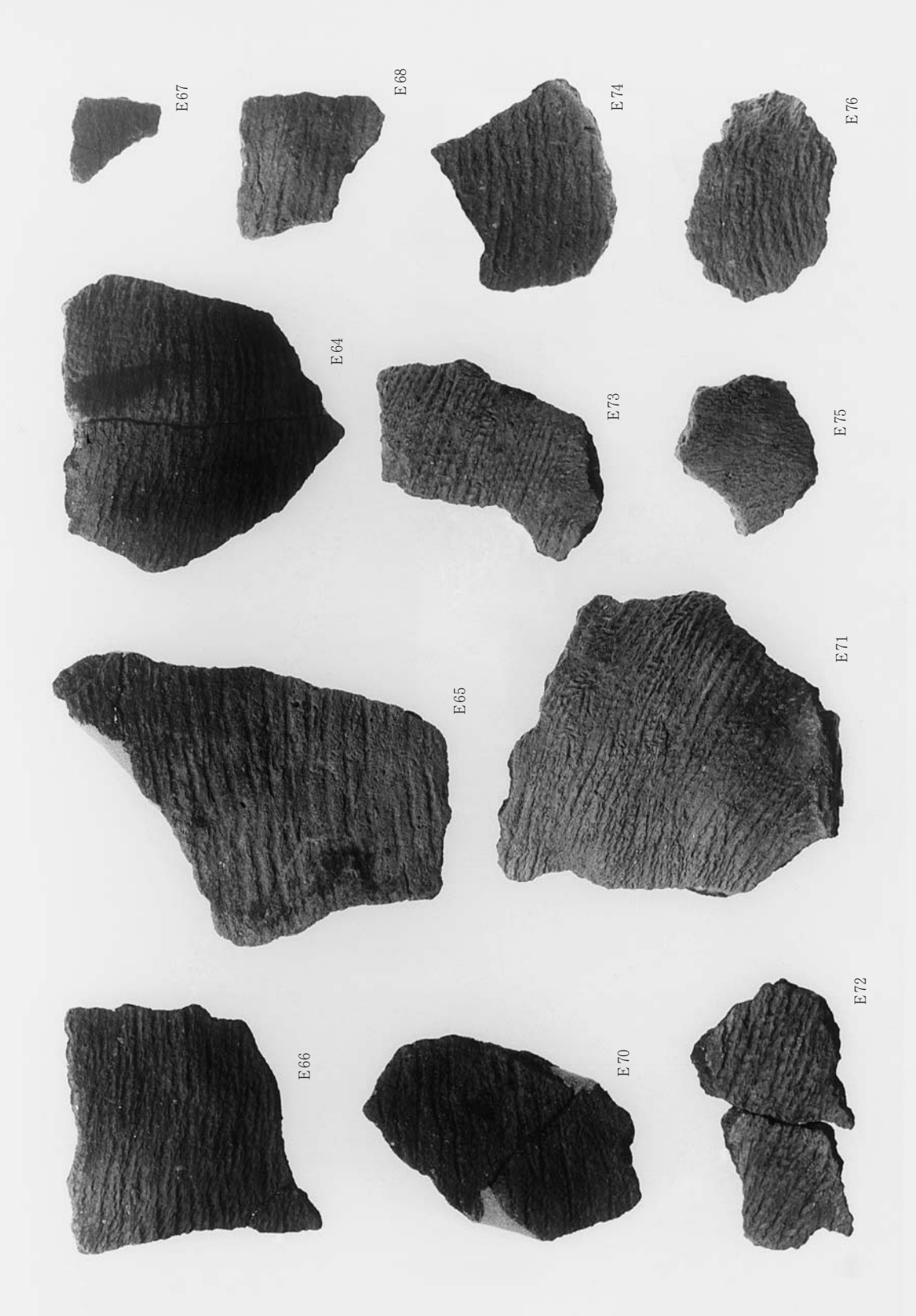
E 50

E51

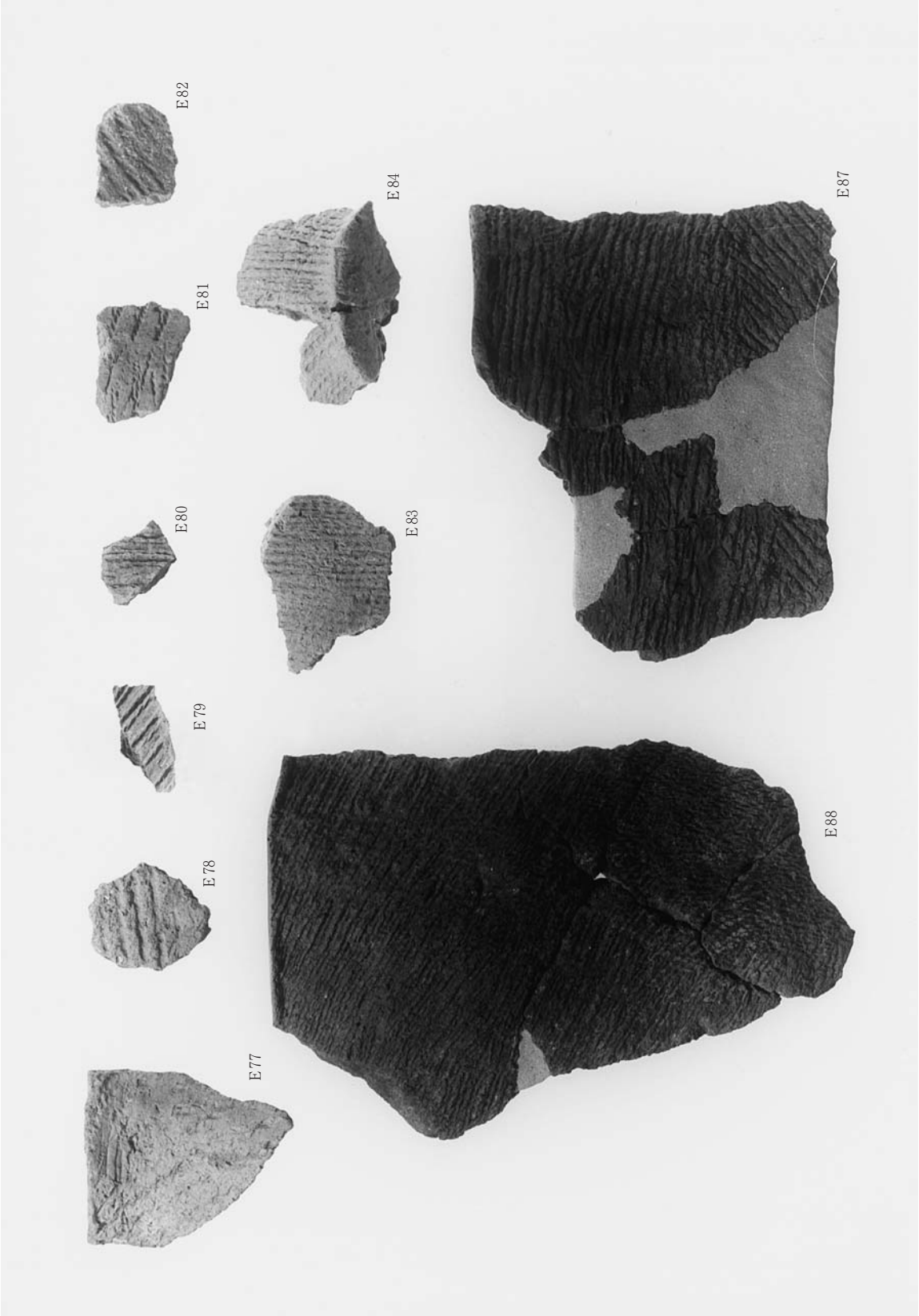
E69

図版26　捨て場出土土器(10)




E67
E68
E74
E76
E64
E73
E75
E65
E71
E66
E70
E72

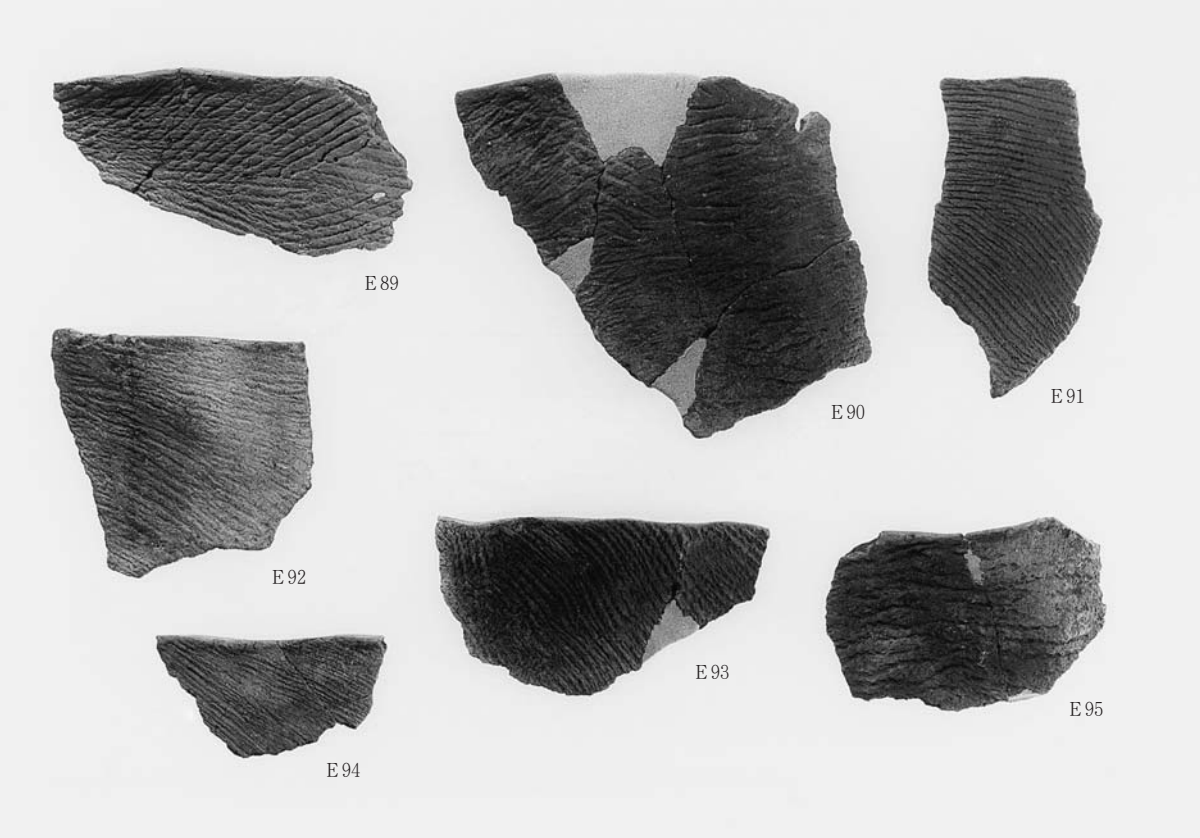
図版28　捨て場出土土器(12)

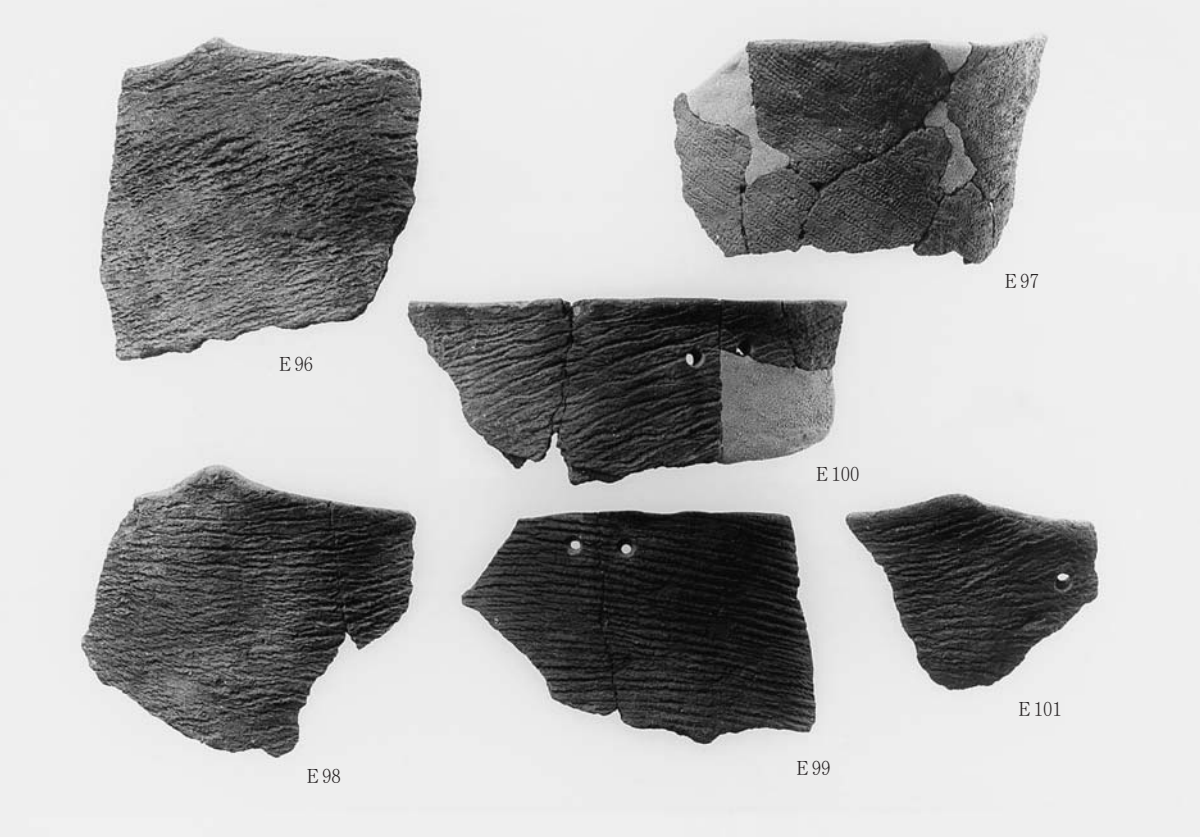


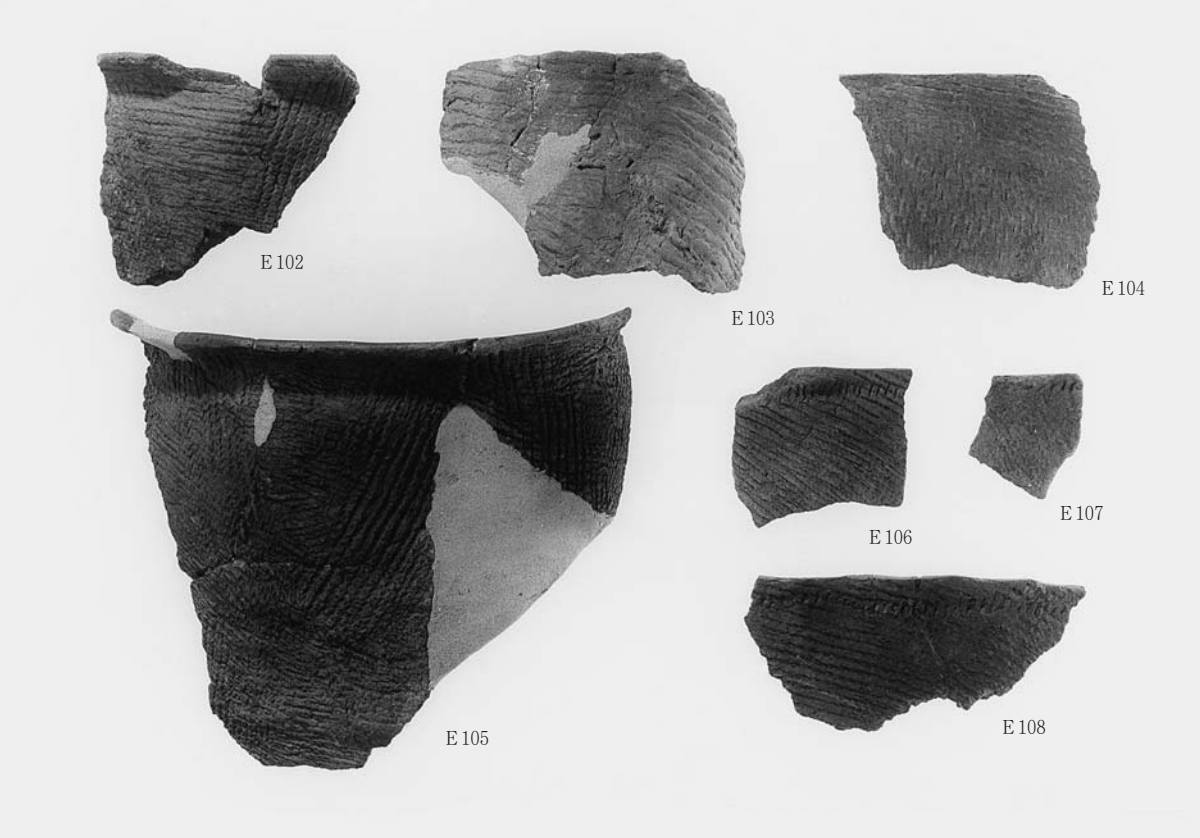
E 85

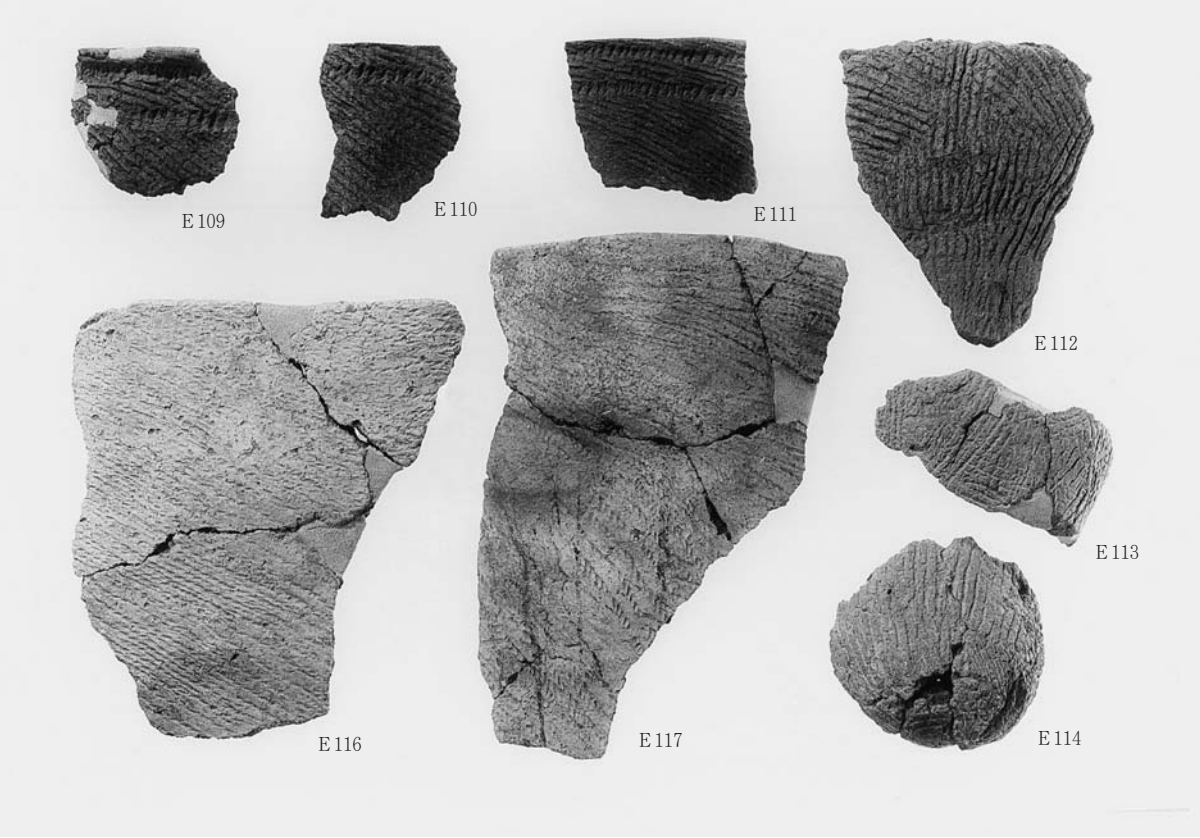
E 86

図版30　捨て場出土土器(14)






E 102
E 103
E 104
E 105
E 106
E 107
E 108

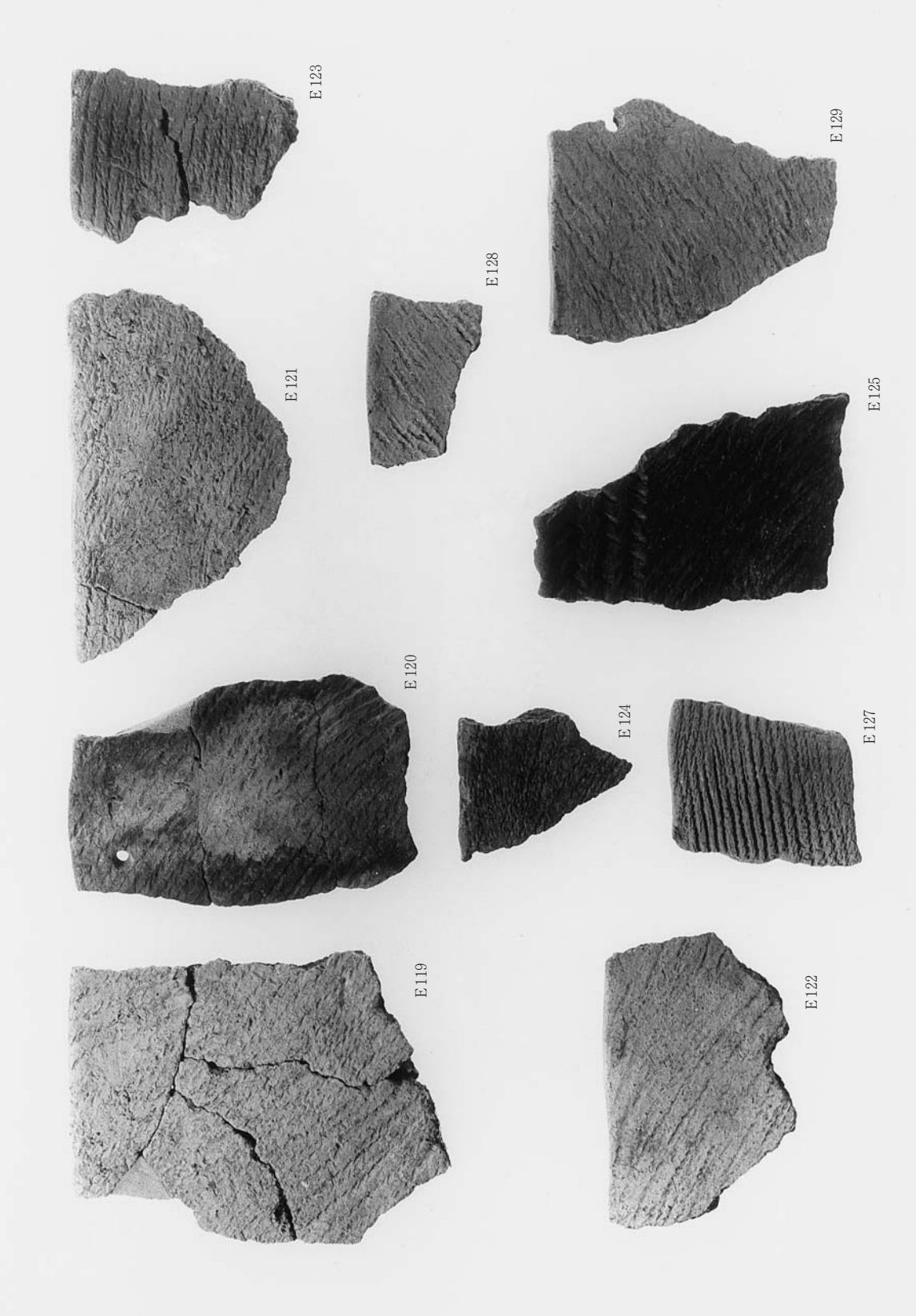

E 109
E 110
E 111
E 112
E 113
E 114
E 116
E 117

図版32　捨て場出土土器(16)

E 115

E 118

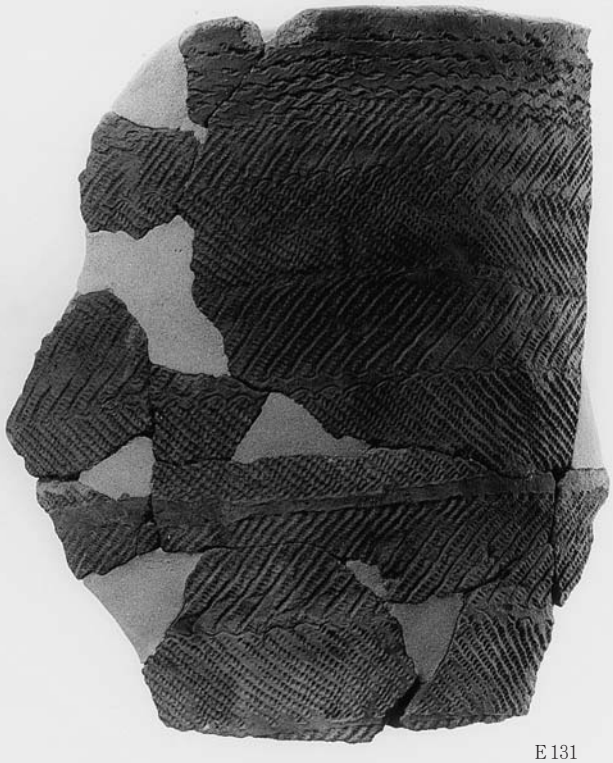
図版33　捨て場出土土器(17)



図版34　捨て場出土土器(18)

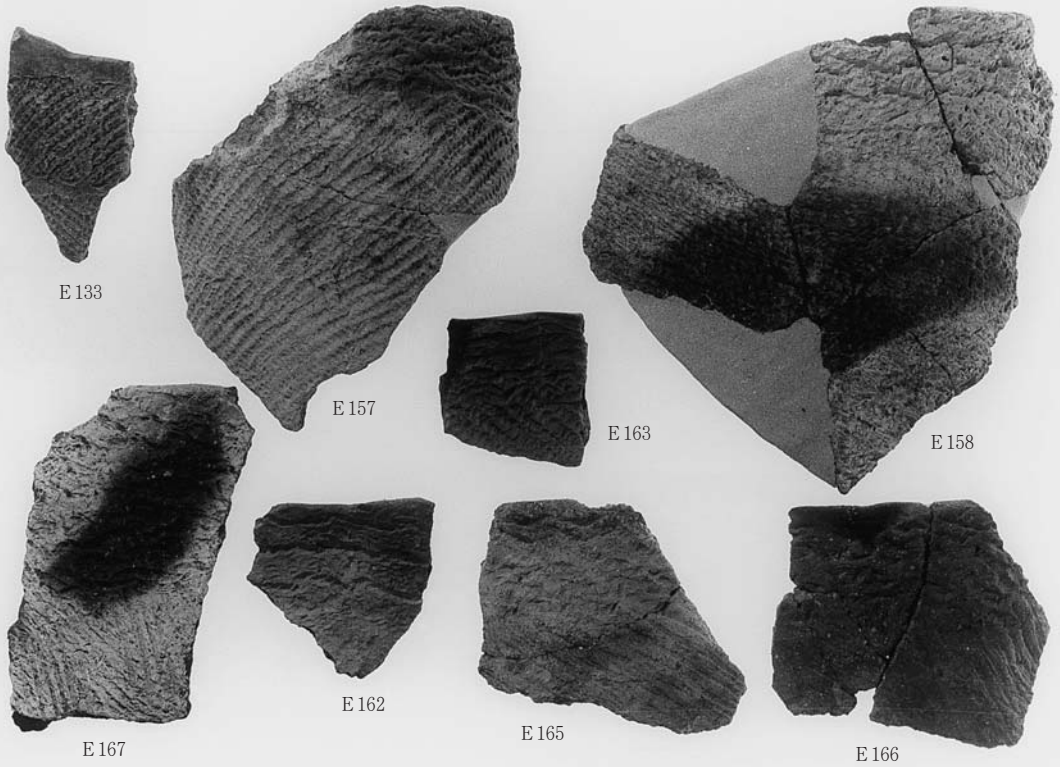
E 130

E 126



E 131

E 132



E 133

E 157

E 163

E 158

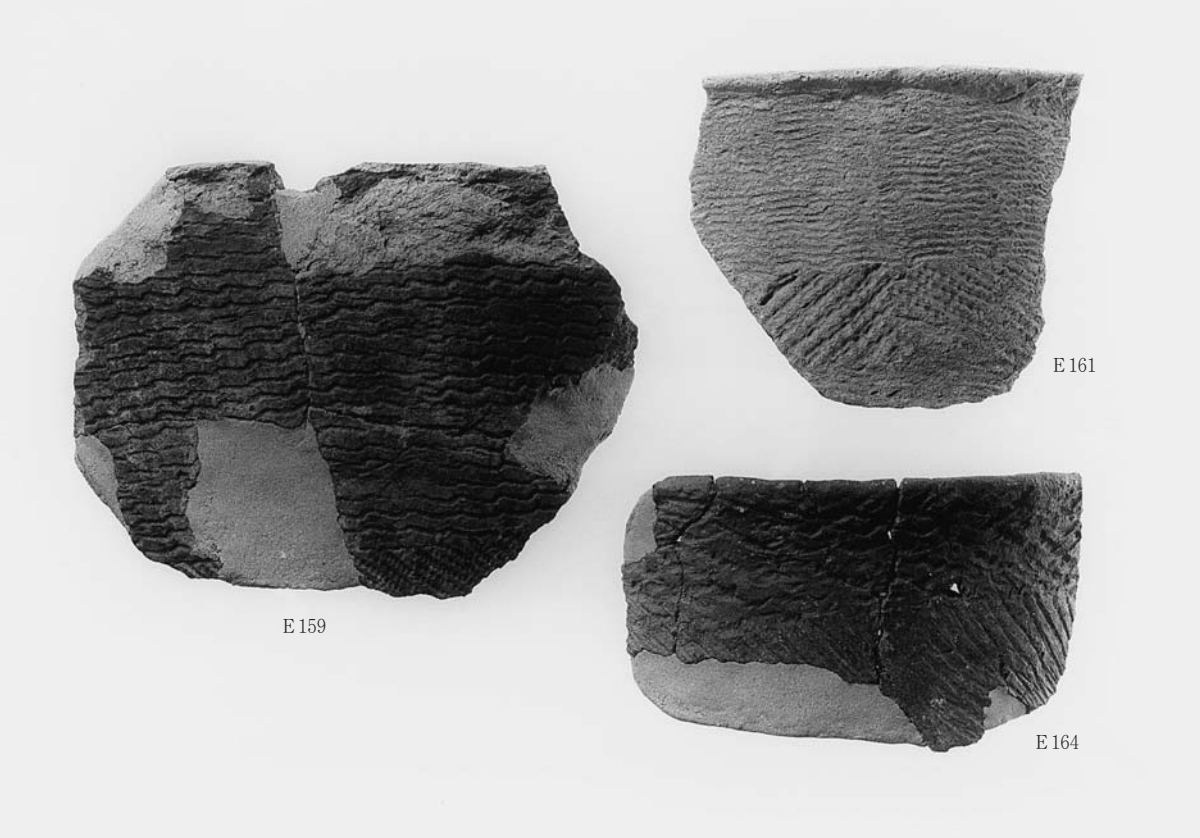
E 167

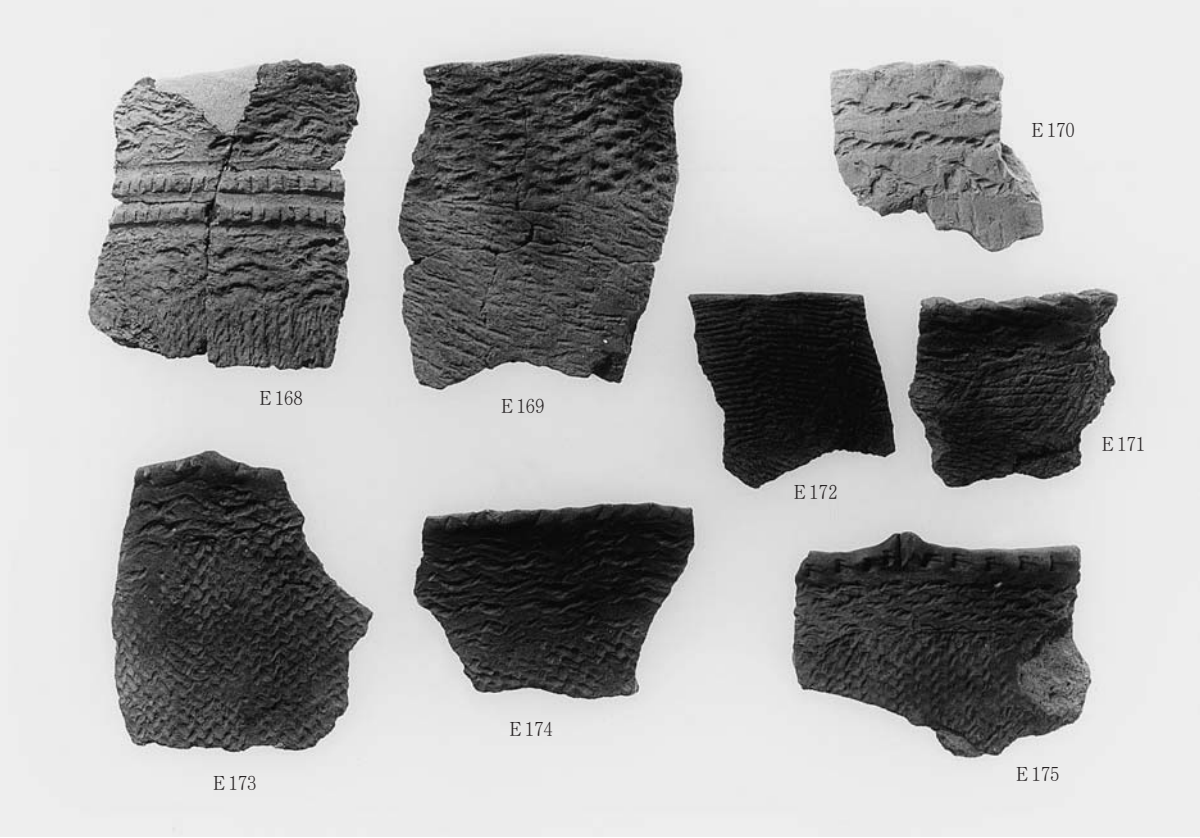
E 162

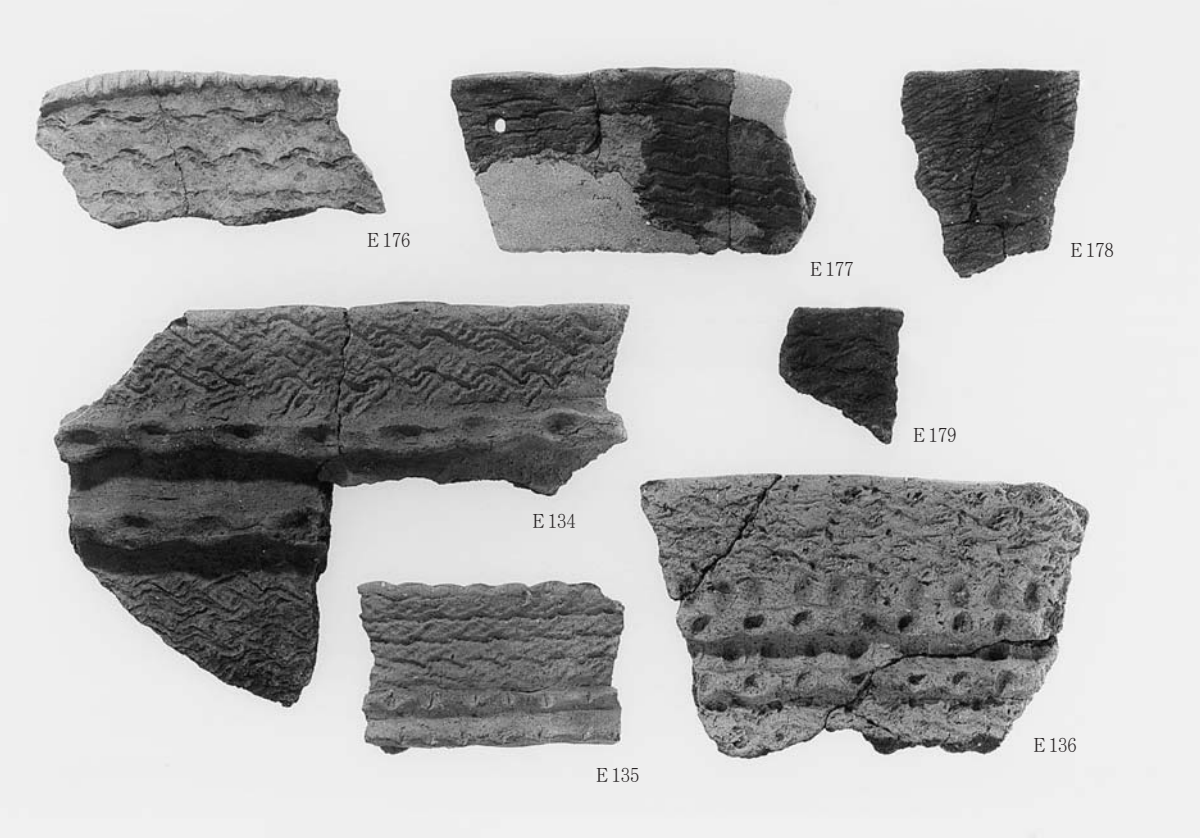
E 165

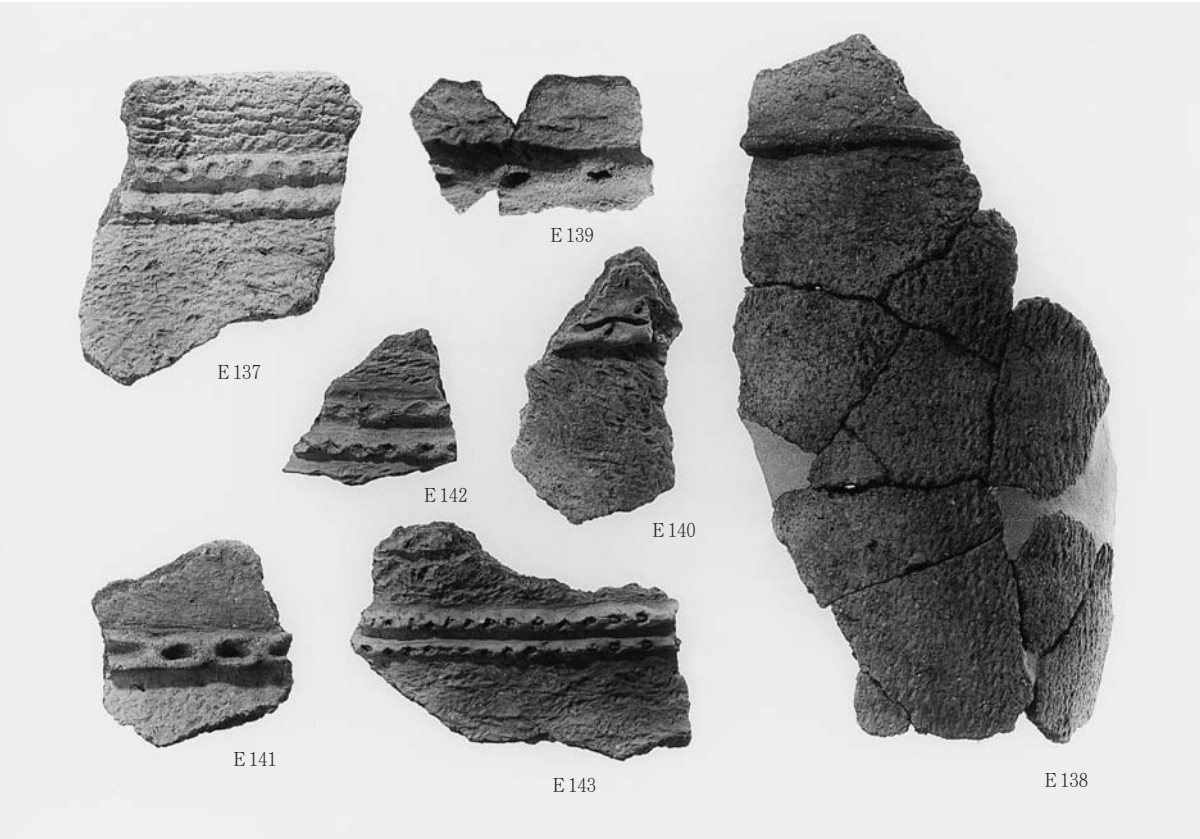
E 166

図版36　捨て場出土土器(20)

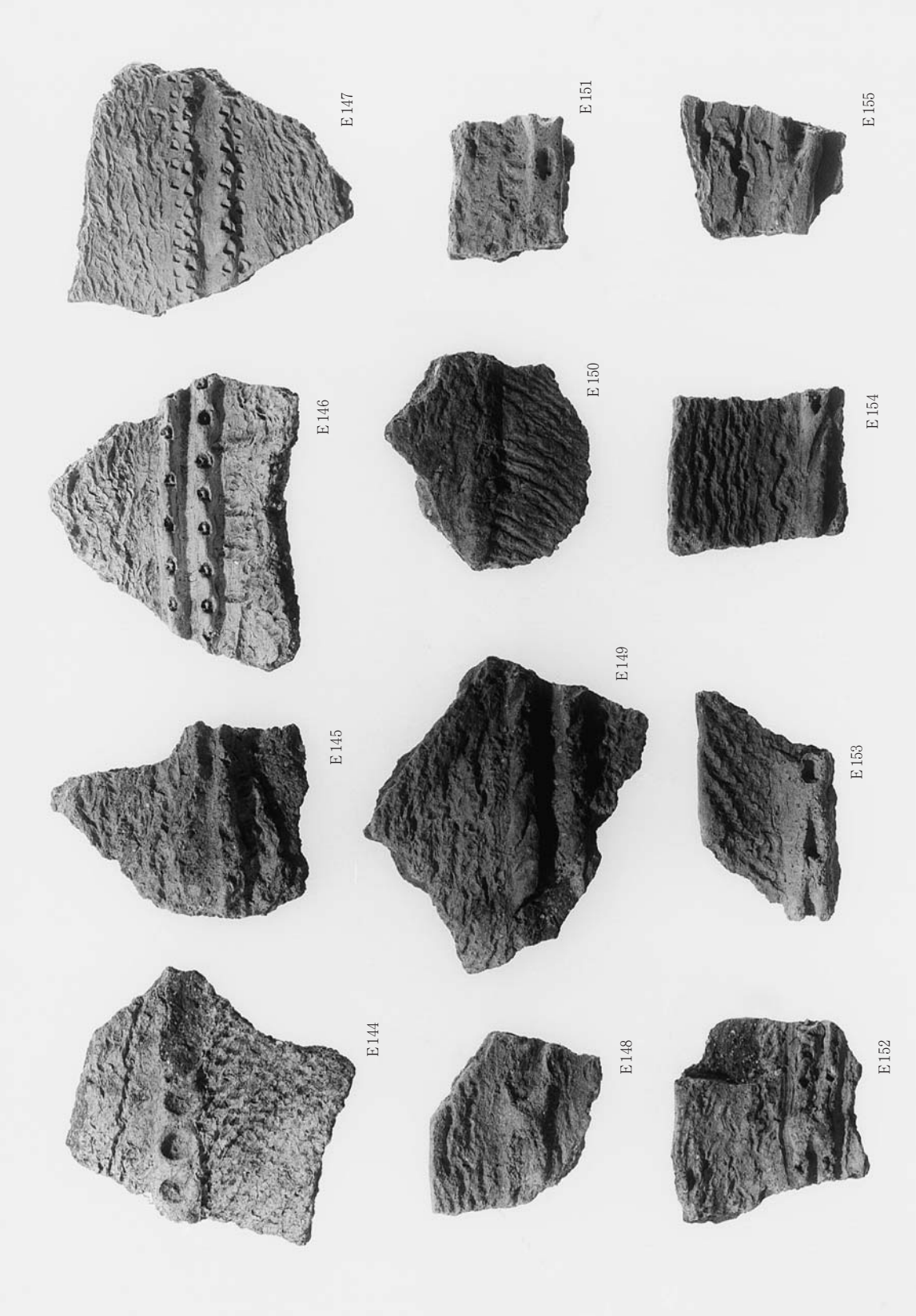


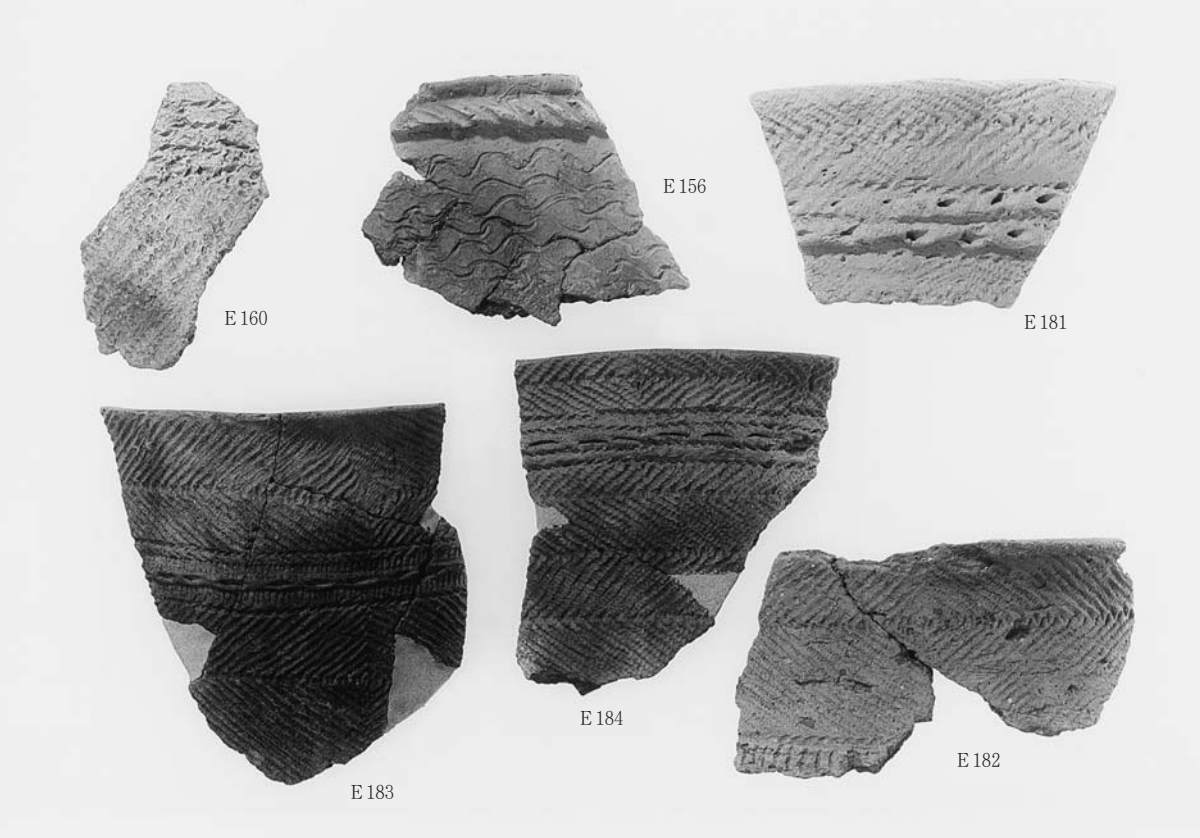


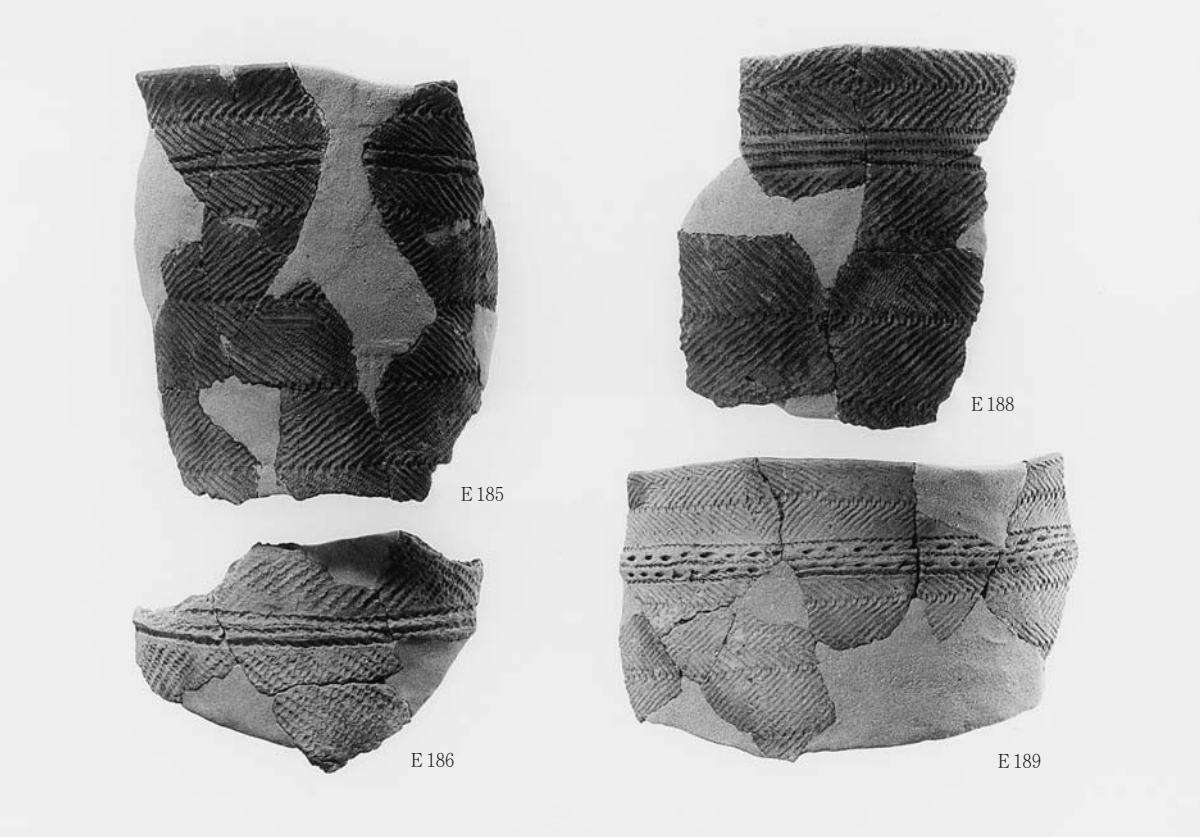

E 176
E 177
E 178
E 179
E 134
E 135
E 136


E 137
E 139
E 142
E 140
E 141
E 143
E 138

図版38　捨て場出土土器(22)



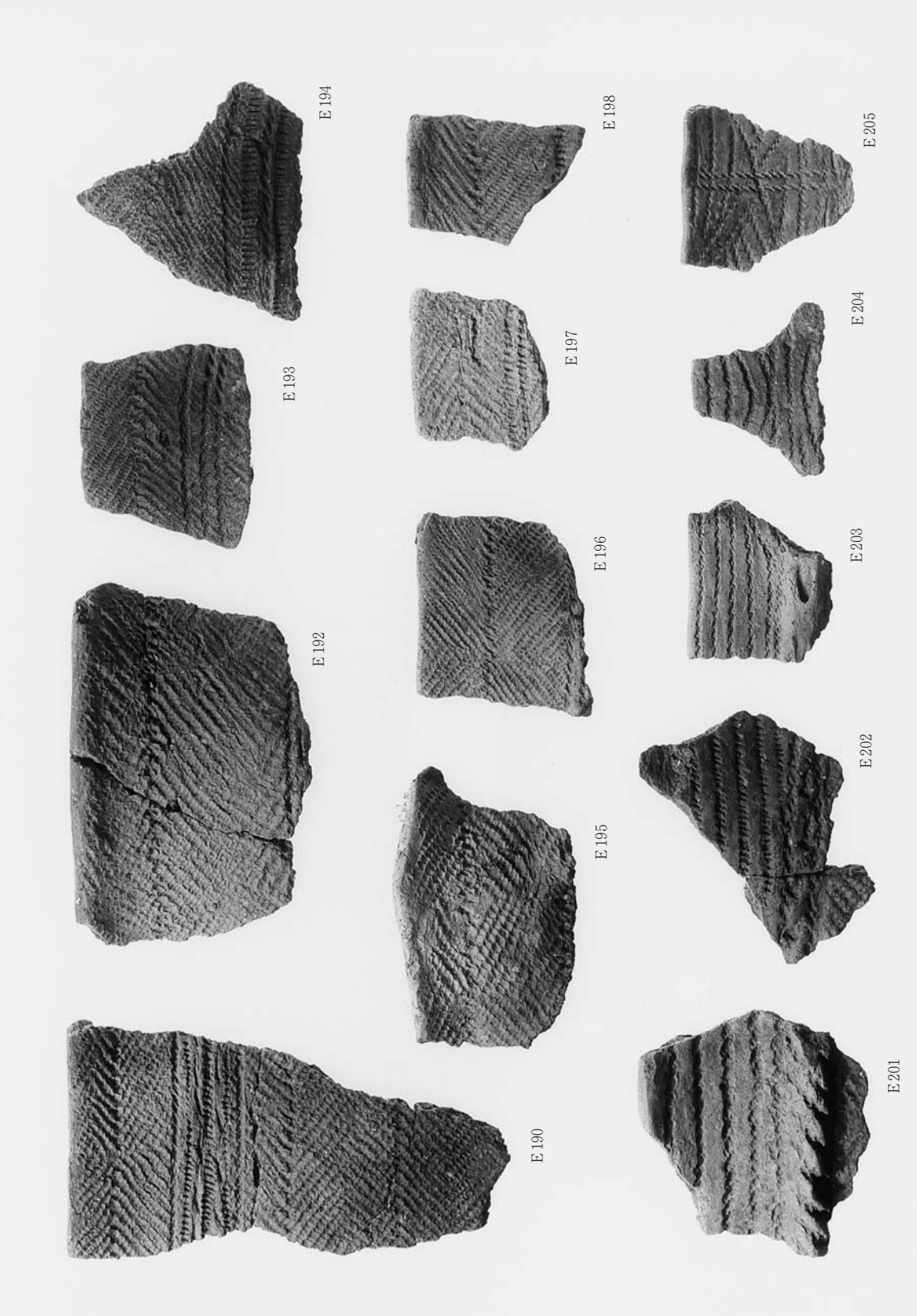

E 160
E 156
E 181
E 183
E 184
E 182


E 185
E 188
E 186
E 189

E 180

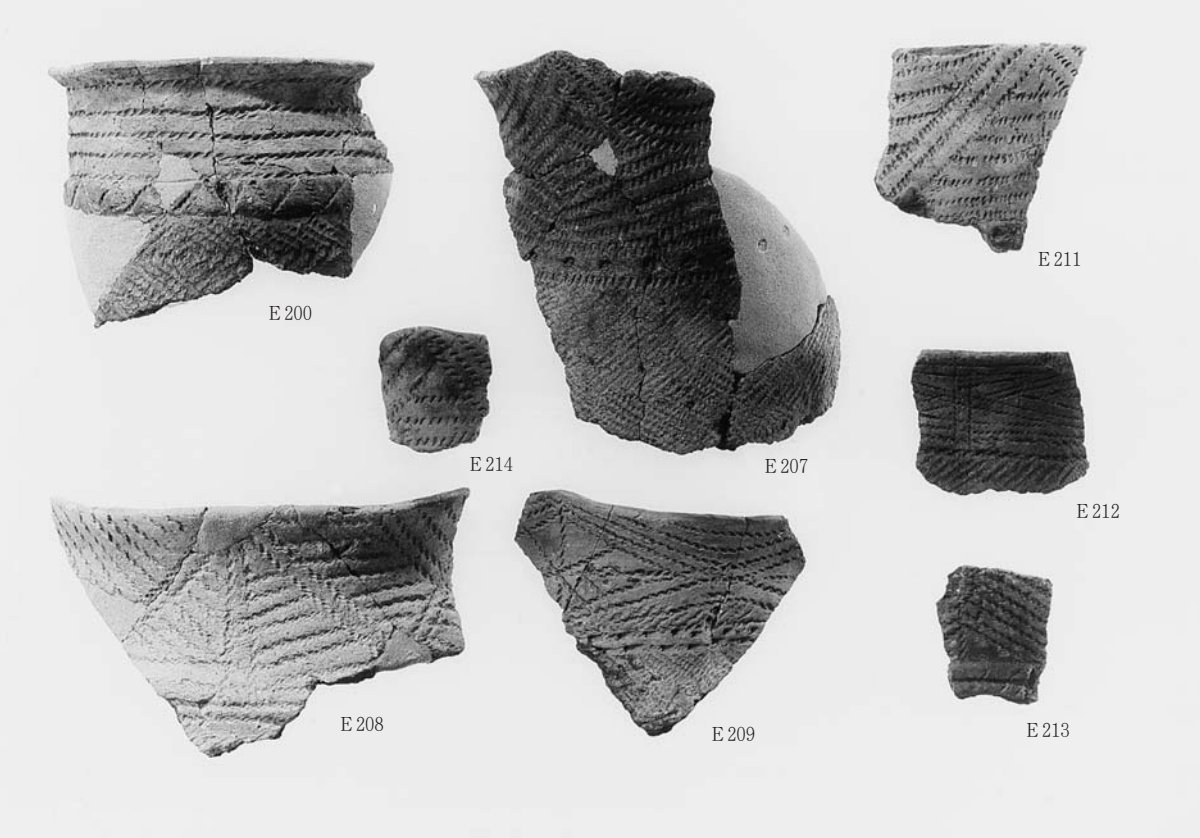
E 187

E 191


E 190
E 192
E 193
E 194
E 195
E 196
E 197
E 198
E 201
E 202
E 203
E 204
E 205

E 199

E 206

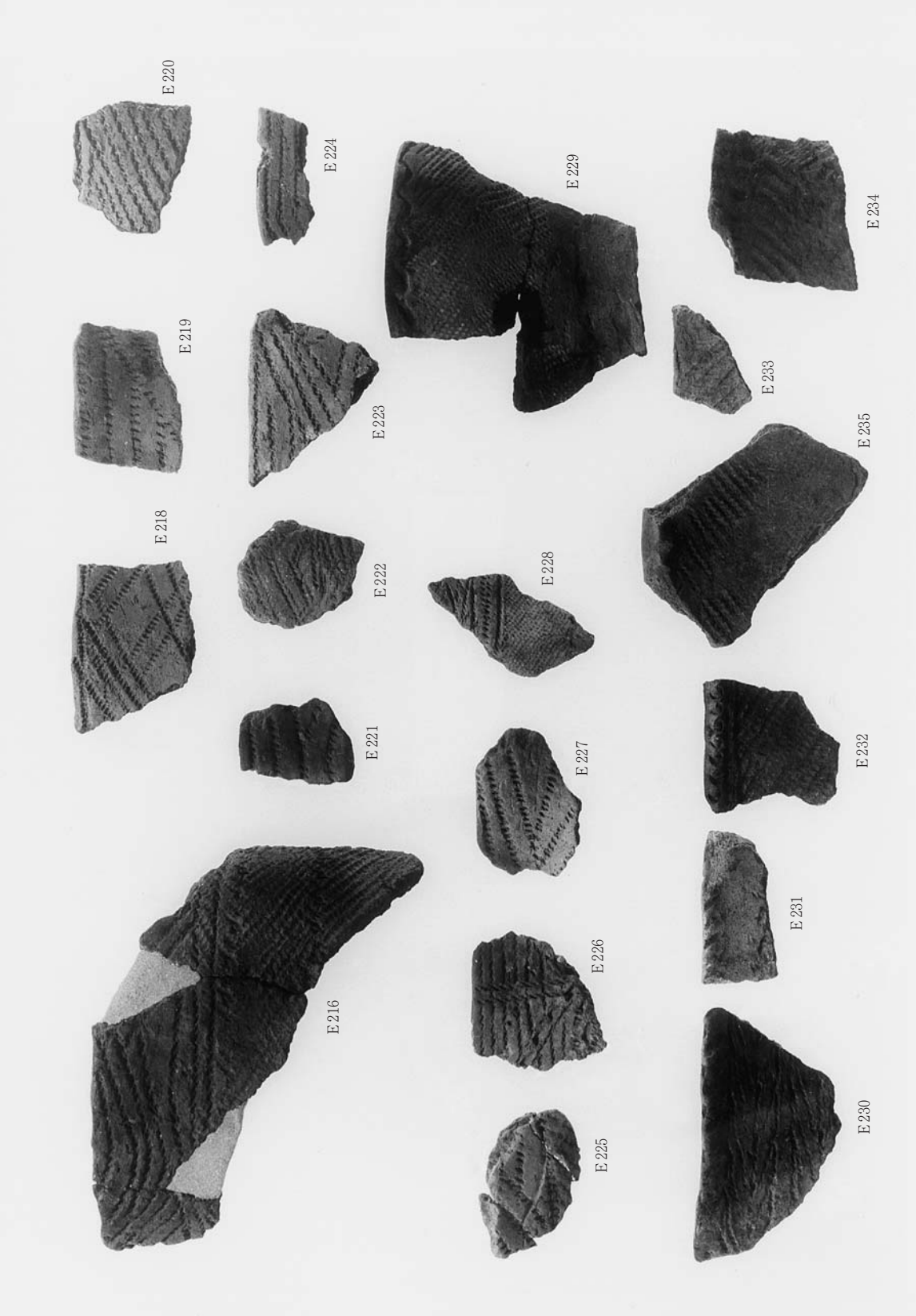

E 200
E 211
E 214
E 207
E 212
E 208
E 209
E 213

E 210

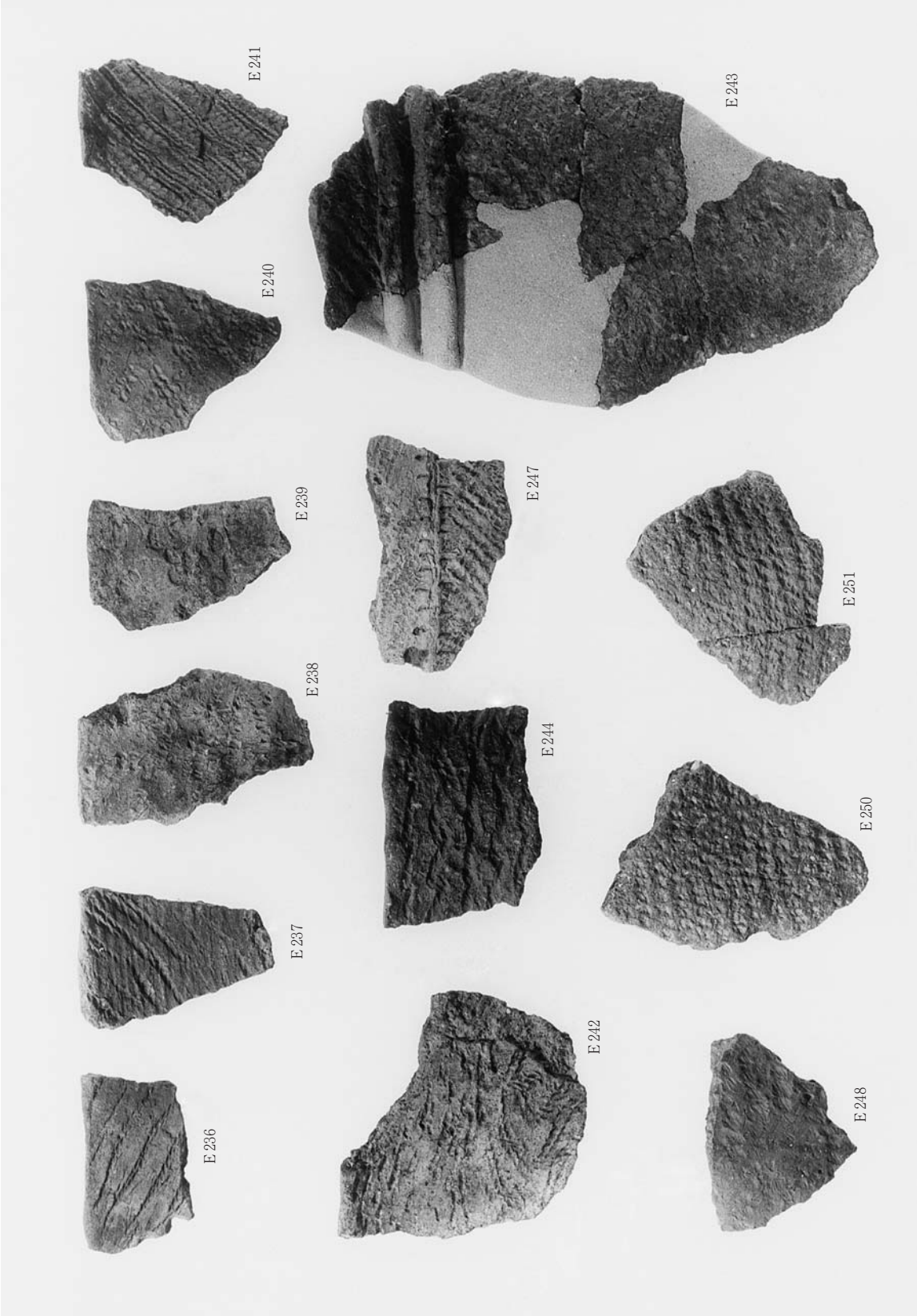
E 215

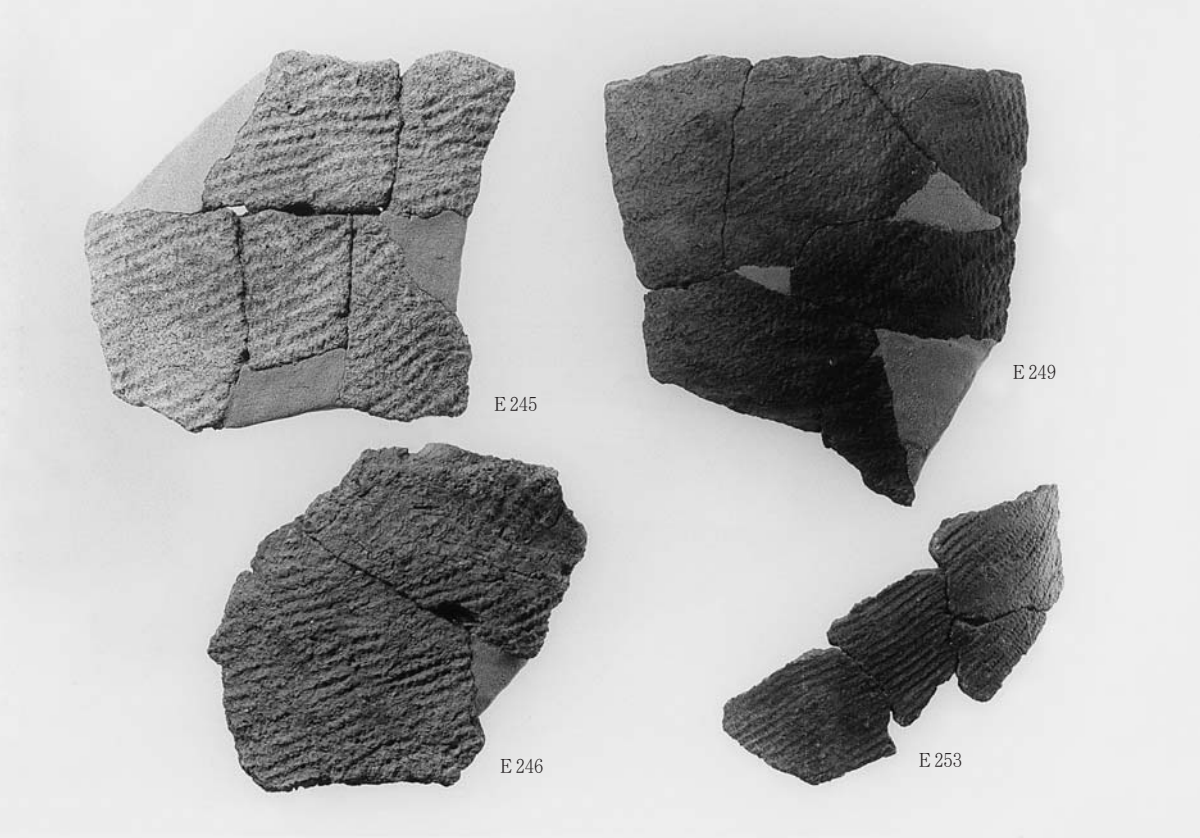
E 217

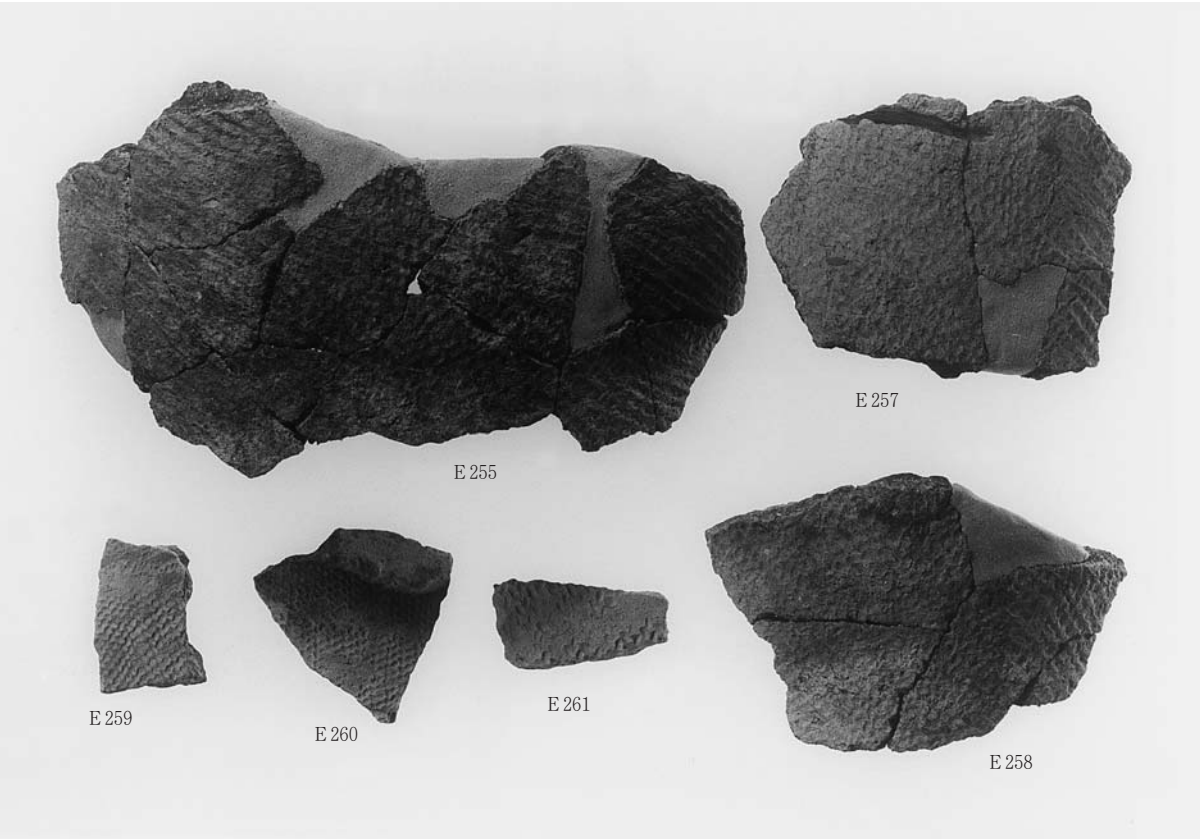
図版45　捨て場出土土器(29)



図版46　捨て場出土土器(30)




E 245
E 249
E 246
E 253


E 255
E 257
E 259
E 260
E 261
E 258

図版48　捨て場出土土器(32)

E 263

E 266

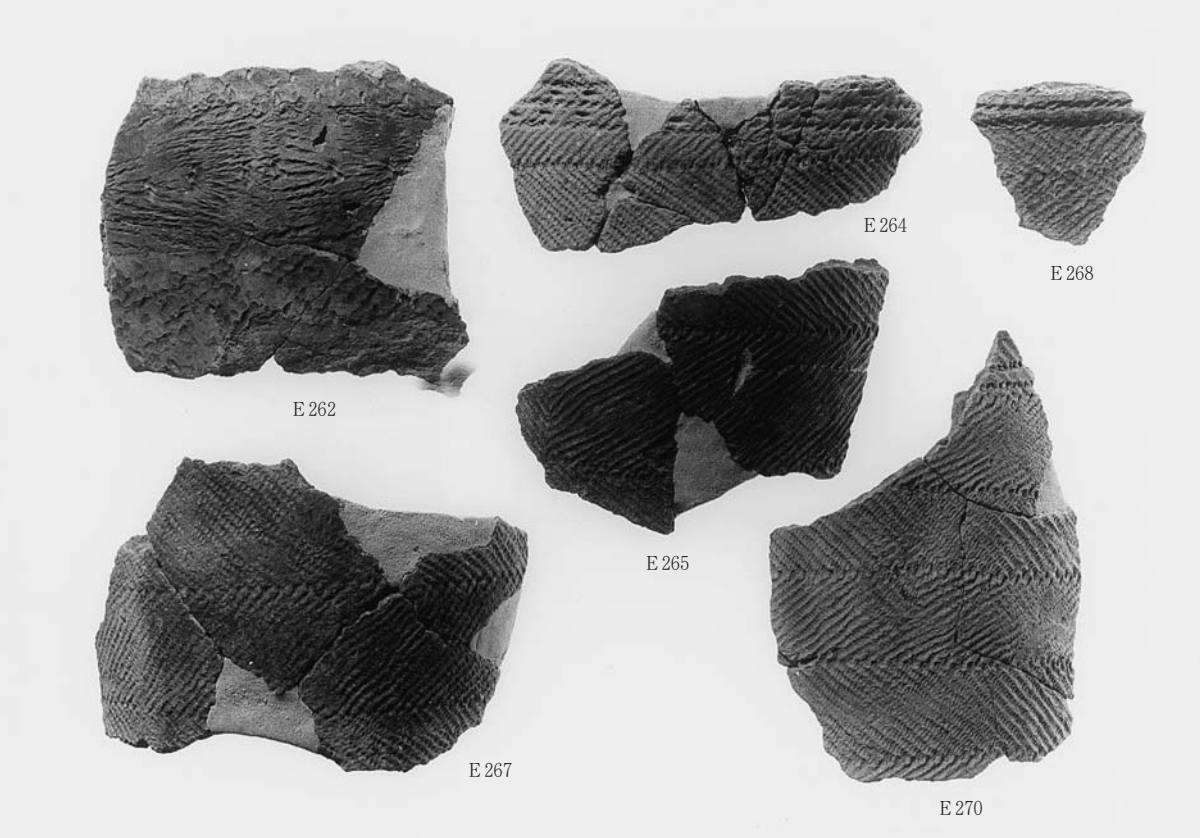
E 273

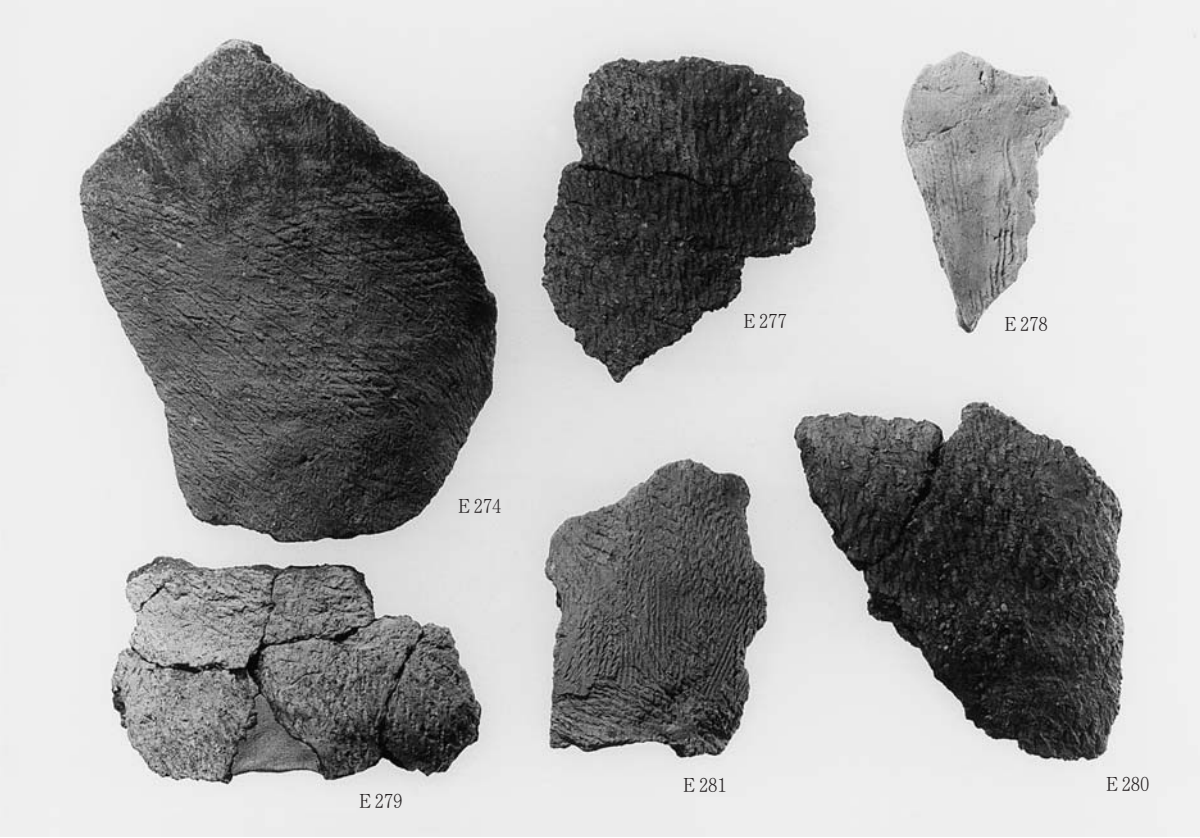
図版50　捨て場出土土器(34)

E 271

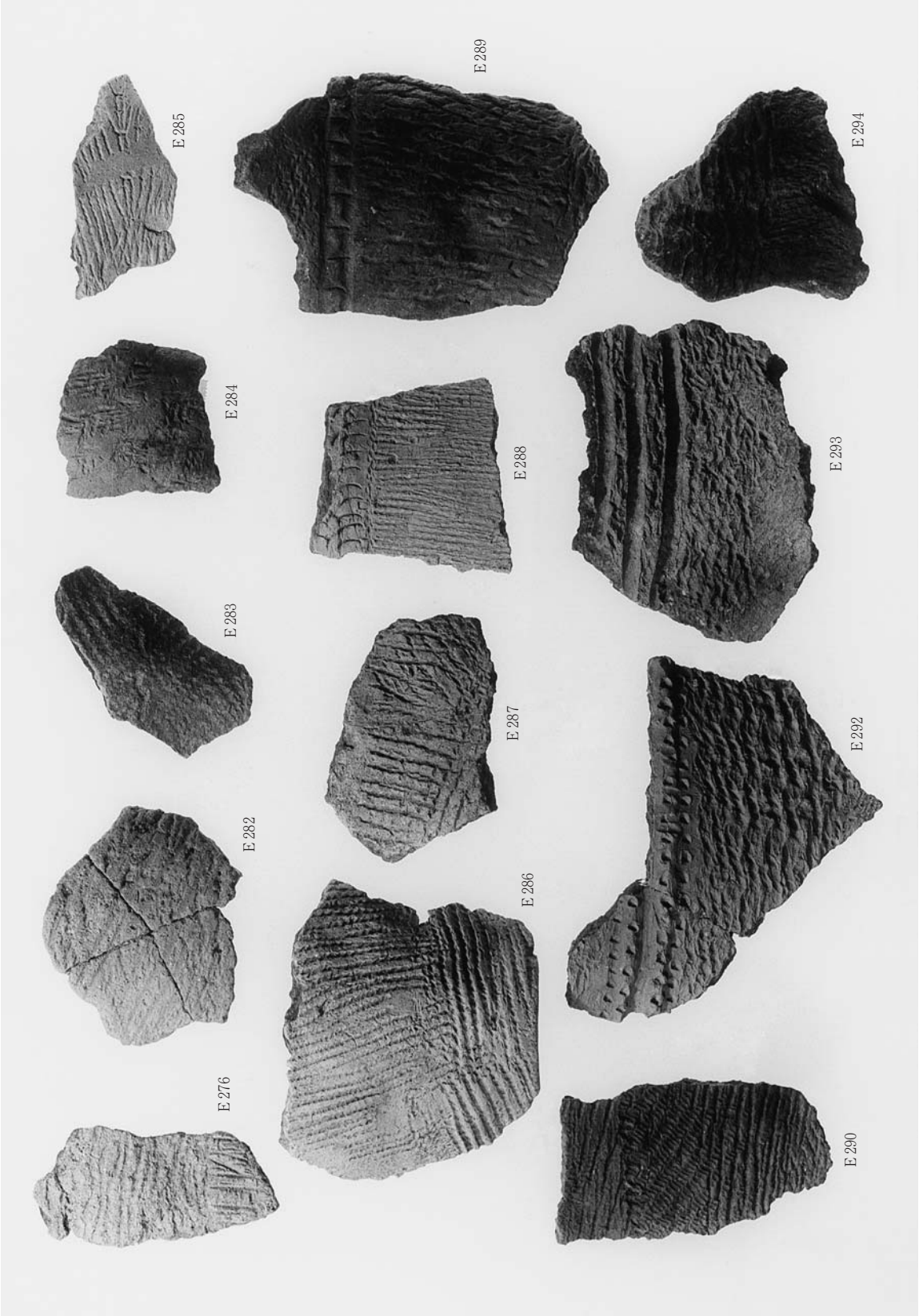
E 275

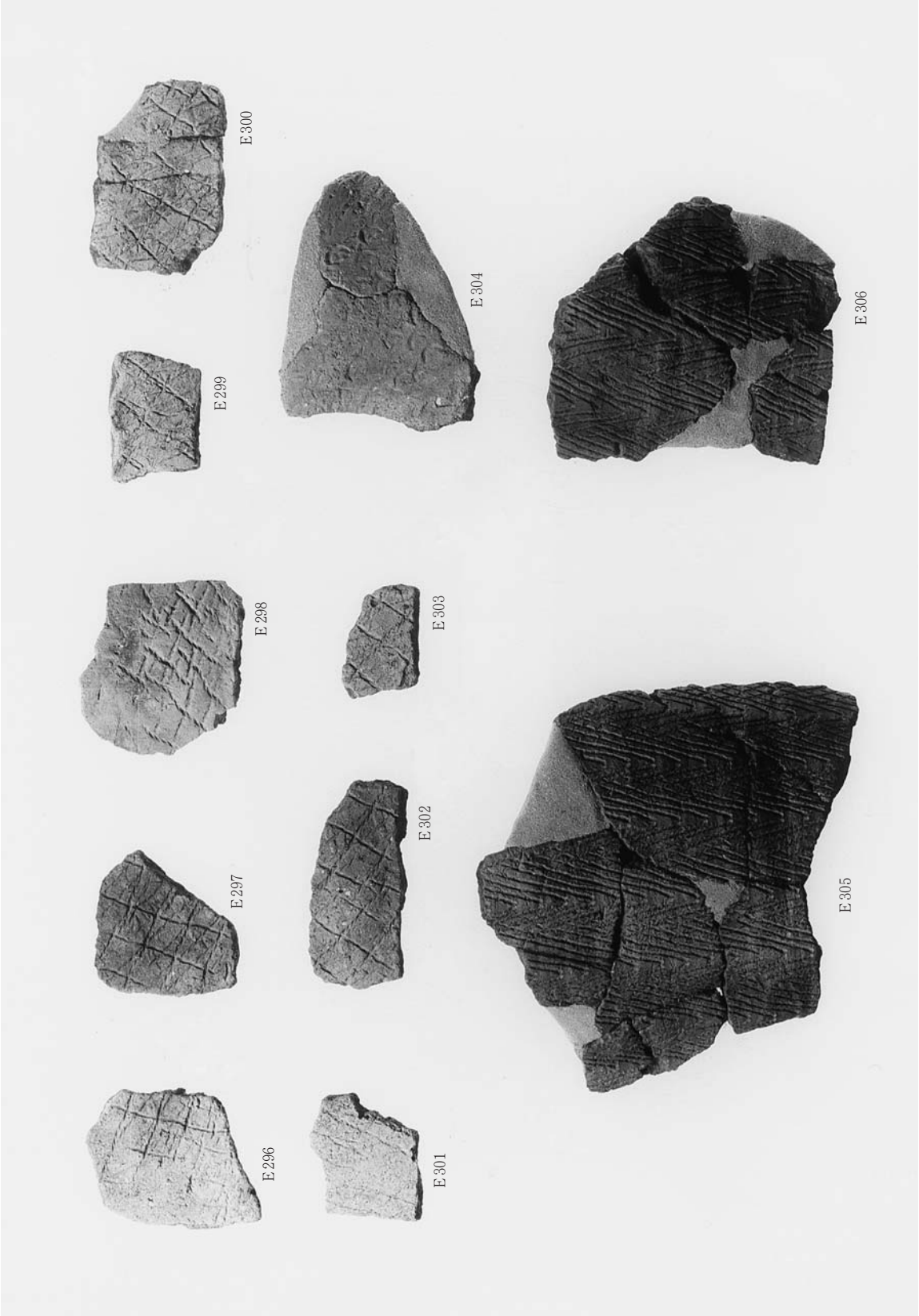
E 291


E 262
E 264
E 268
E 265
E 267
E 270

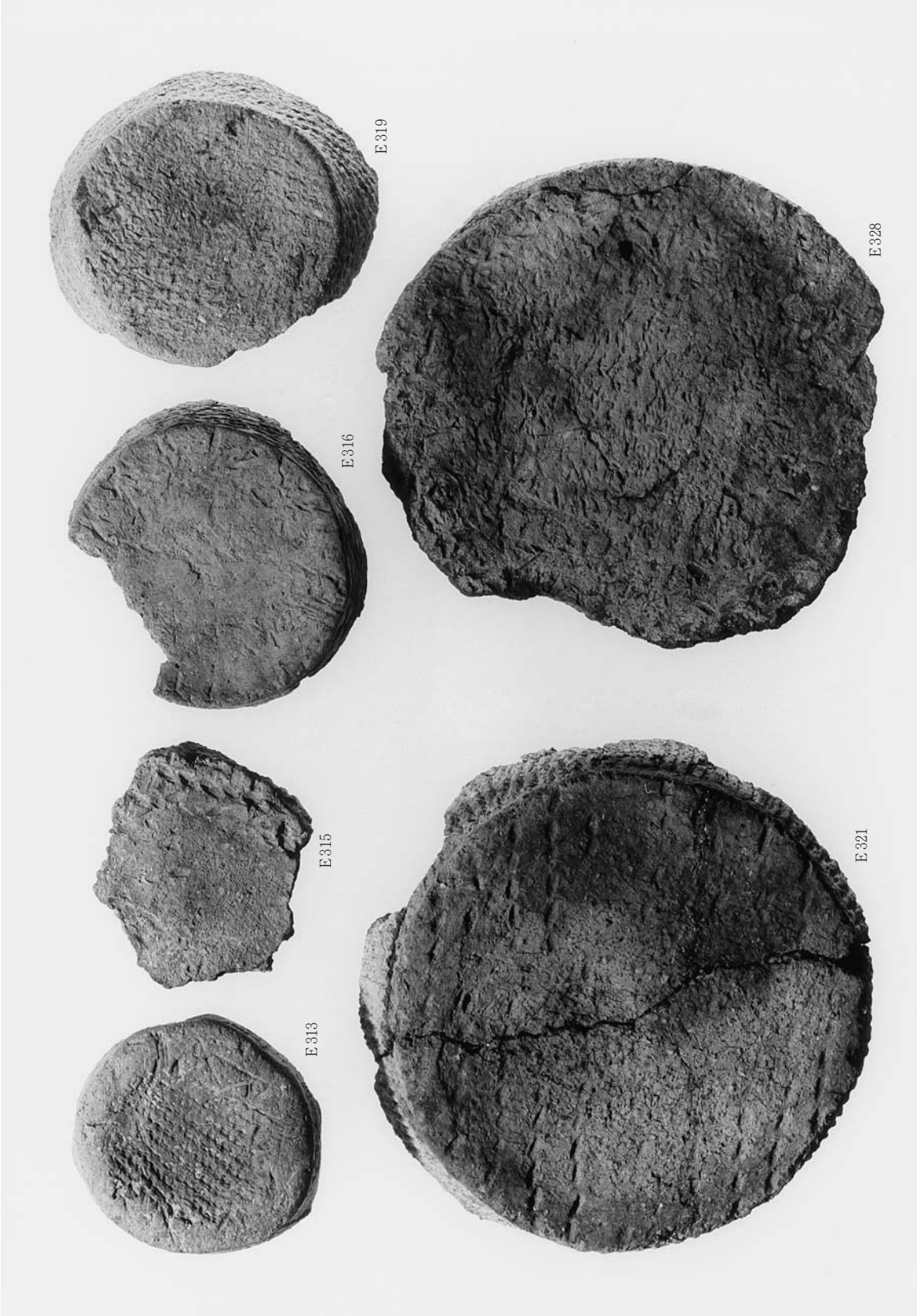

E 274
E 277
E 278
E 279
E 281
E 280

図版52　捨て場出土土器(36)

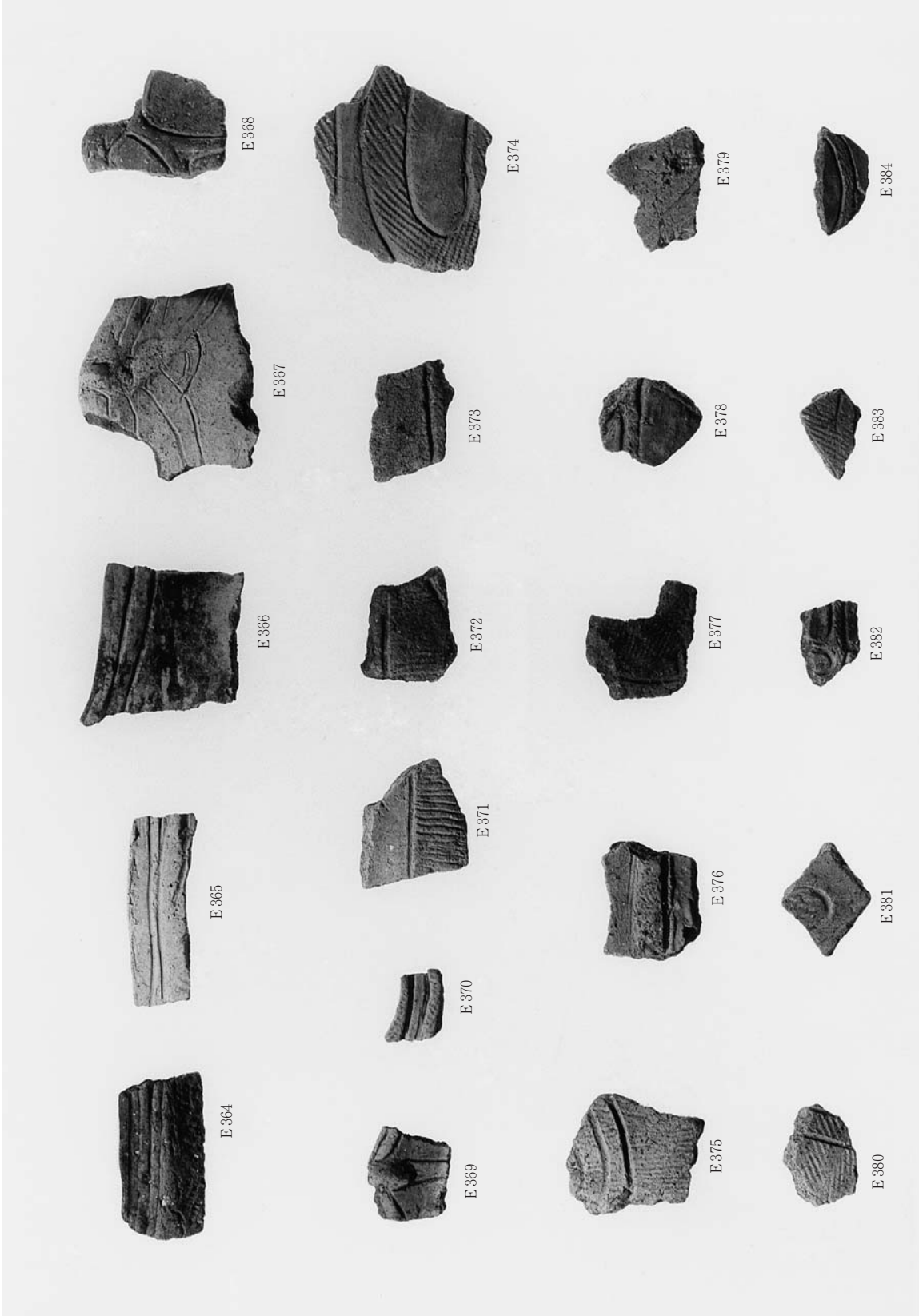



E 296
E 297
E 298
E 299
E 300
E 301
E 302
E 303
E 304
E 305
E 306

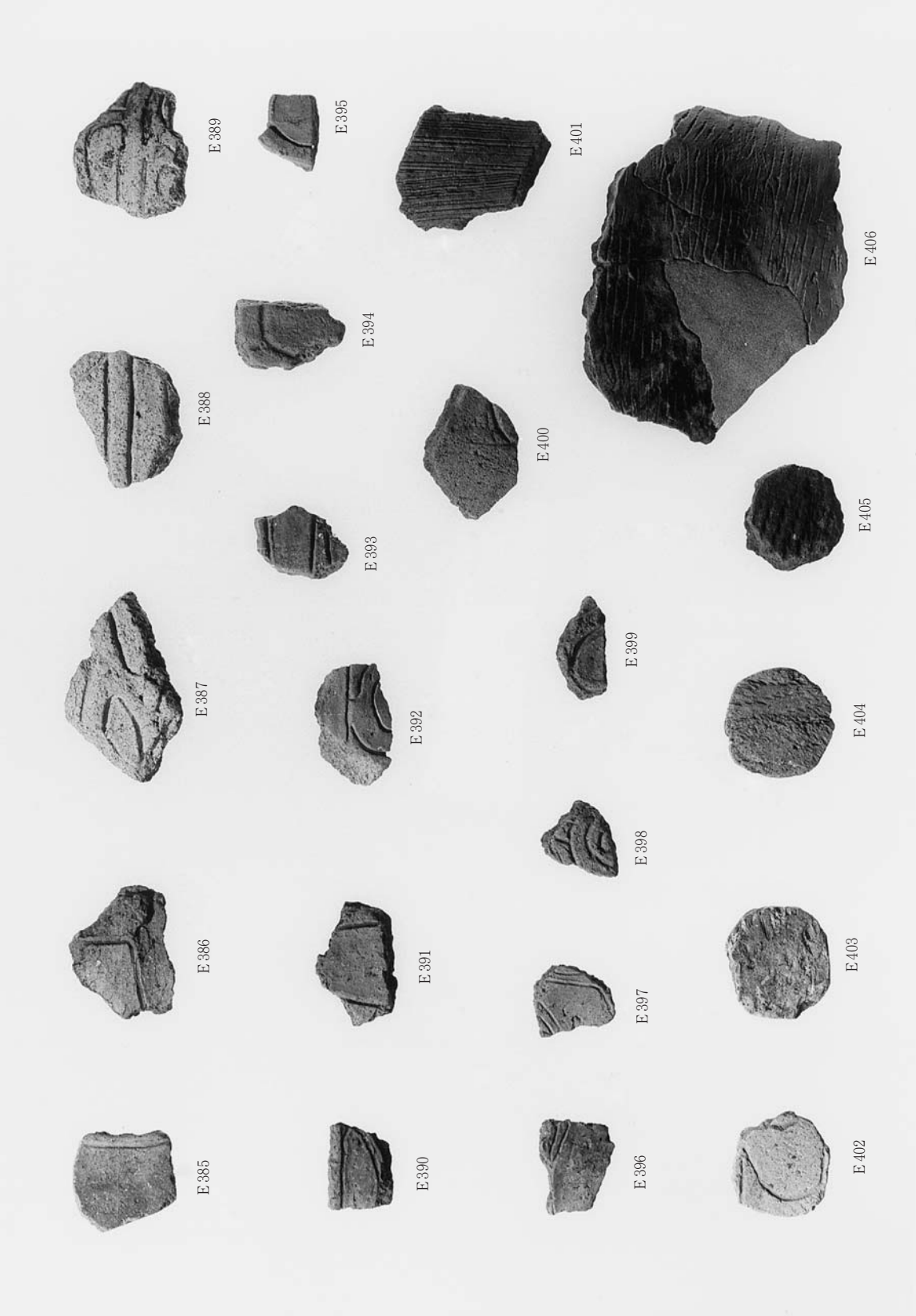
図版54　捨て場出土土器(38)



図版55　捨て場出土土器(39)



図版56　捨て場出土土器(40)



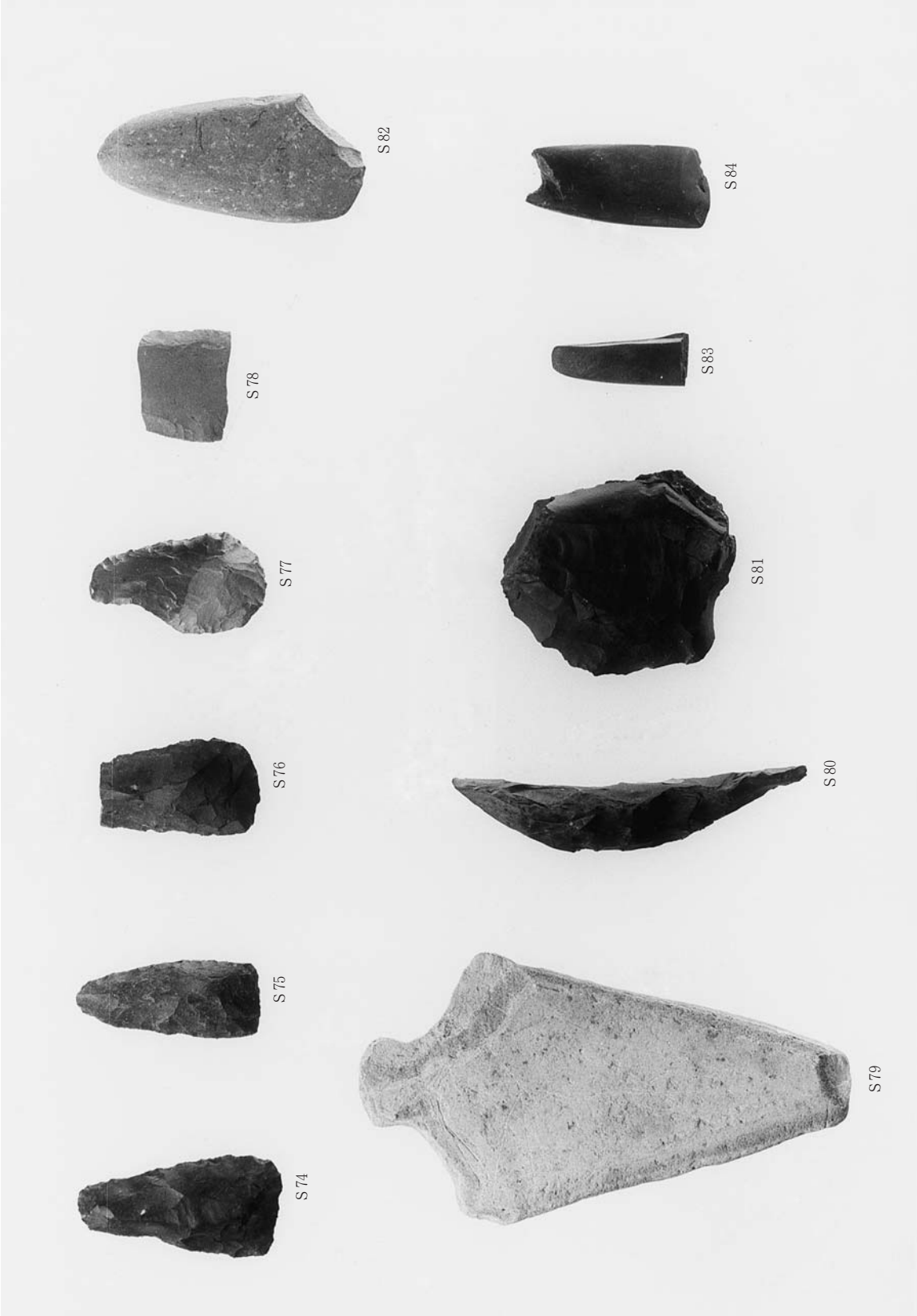
図版57　捨て場出土石器(1)

図版58　捨て場出土石器(2)

図版59　捨て場出土石器(3)

図版60　捨て場出土石器(4)

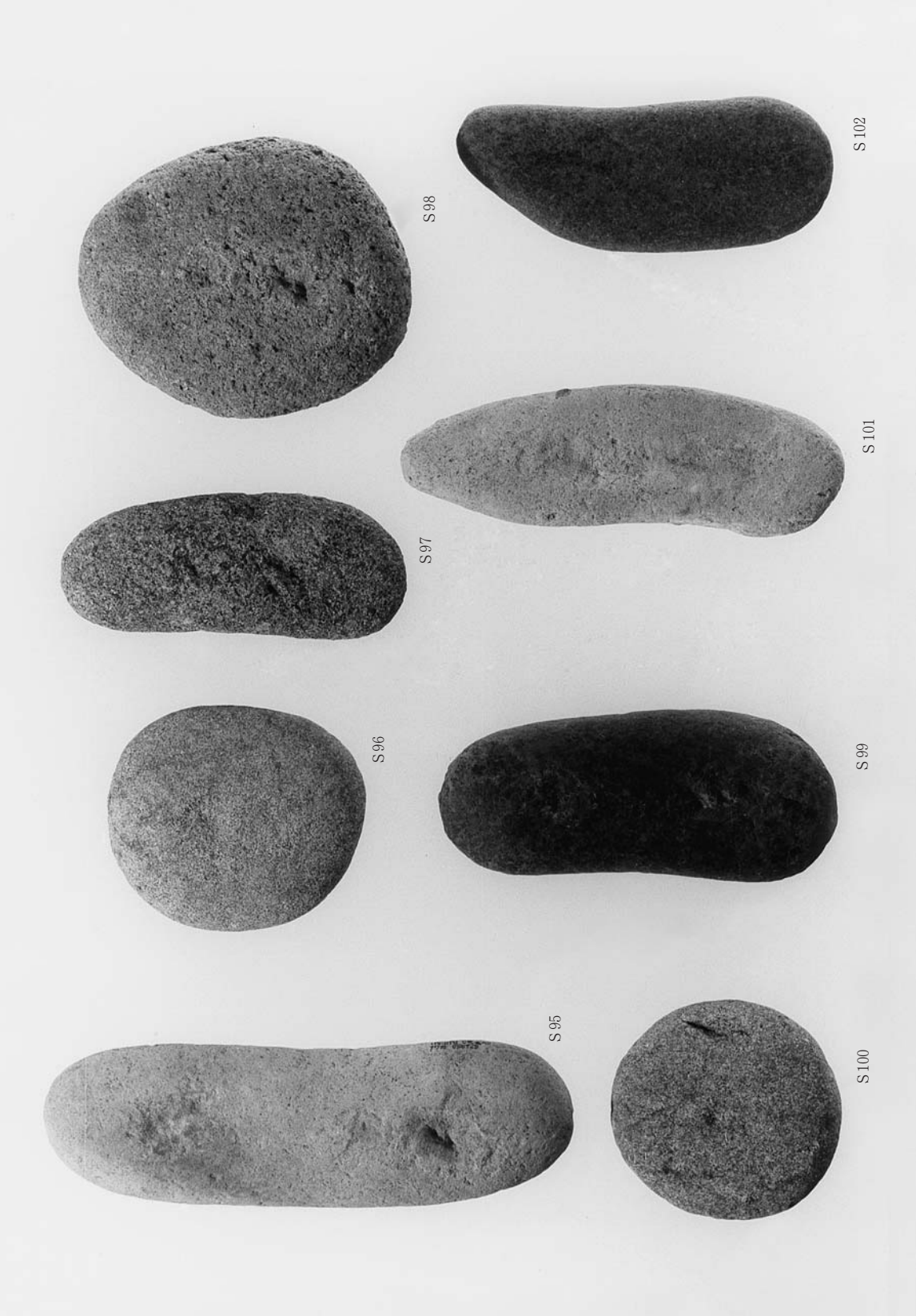
図版61　捨て場出土石器(5)



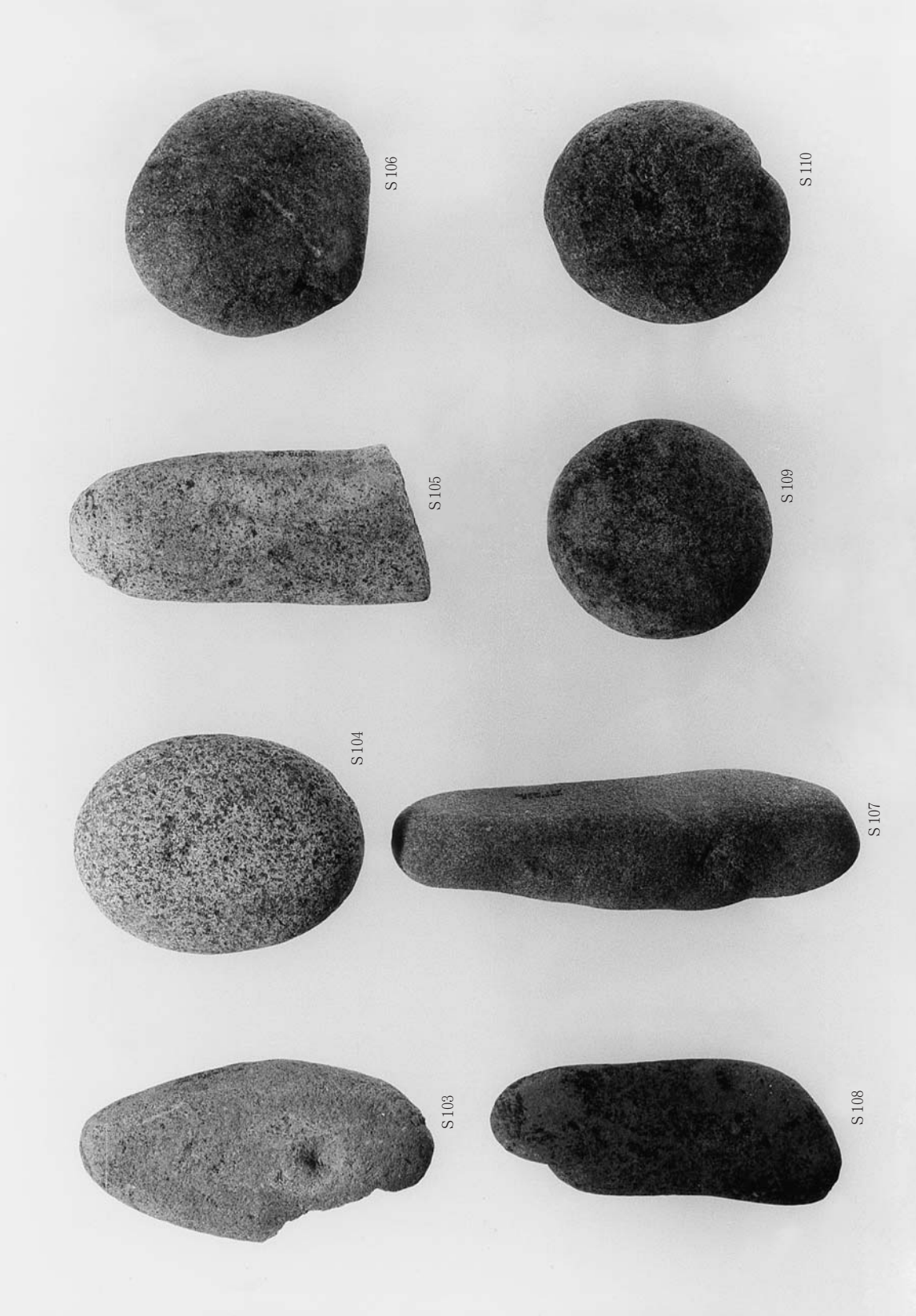
図版62　捨て場出土石器(6)

図版63　捨て場出土石器(7)

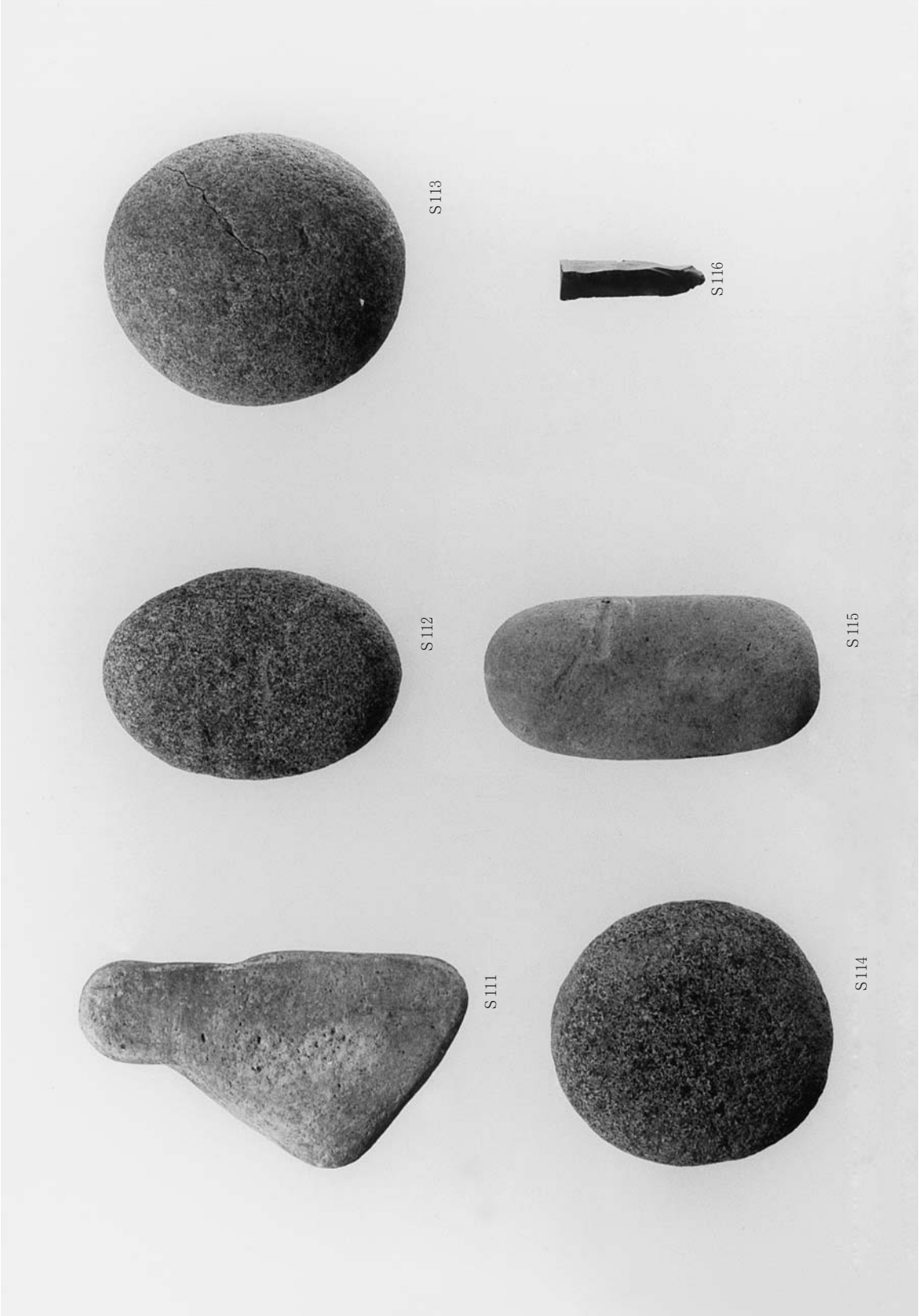
図版64　捨て場出土石器(8)

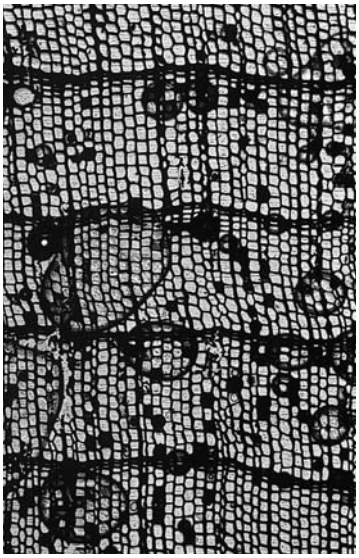


図版65　捨て場出土石器(9)



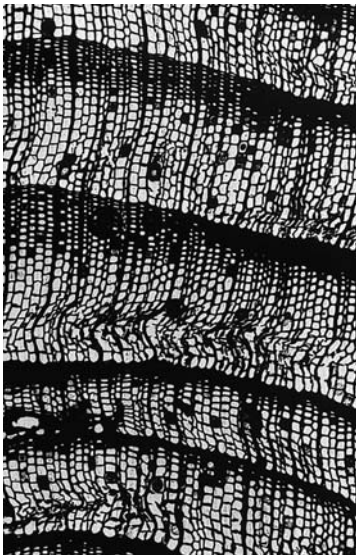
図版66　捨て場出土石器(10)





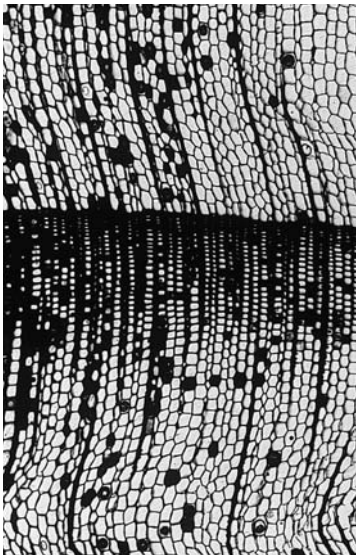
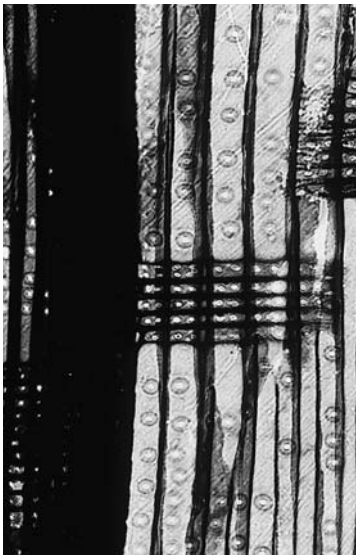
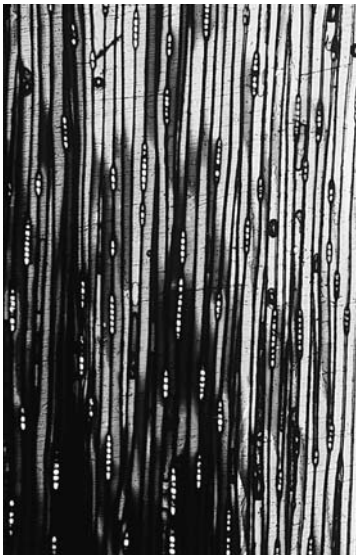
木口×40　　柾目×100　　板目×40

No.－1　ヒノキ科クロベ属クロベ



木口×40　　柾目×100　　板目×40

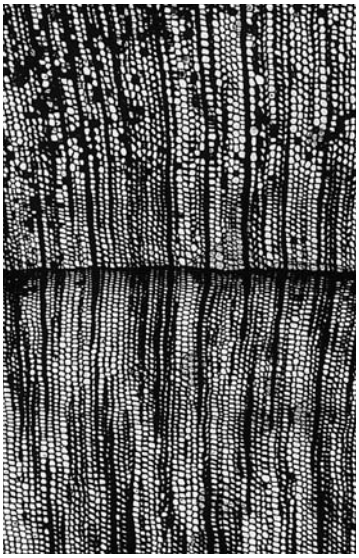
No.－2　ヒノキ科アスナロ属

木口×40　　柾目×100　　板目×40

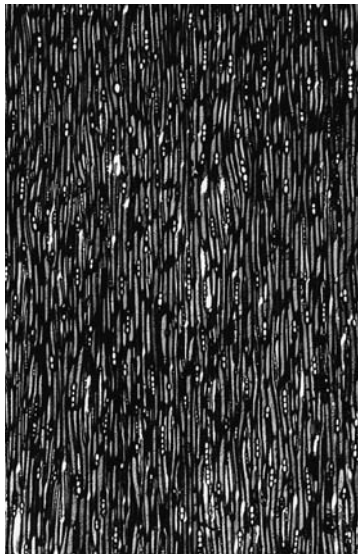
No.－3　スギ科スギ属スギ

図版68　分析写真(2)



木口×40

柾目×100



板目×40

No.－6　ヒノキ科アスナロ属

報　告　書　抄　録

ふりがな	みかだたてあと
書名	三ヶ田館跡
副書名	地方道路交付金事業根瀬尾去沢線
巻次	
シリーズ名	秋田県文化財調査報告書
シリーズ番号	第417集
編著者名	利部　修・伊藤　誠
編集機関	秋田県埋蔵文化財センター
所在地	〒014-0802 秋田県大仙市払田字牛嶋20番地　電話（0187）69－3331
発行年月日	西暦2007年３月

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
三ヶ田館跡（みかだたてあと）	秋田県（あきたけん） 鹿角市（かづのし） 八幡平字（はちまんたいあざ） 浦田（うらた）43－１ 外（ほか）	05209	－	40° 07′ 44″	140° 46′ 41″	20050524 ～ 20050803	800㎡	地方道路交付金事業根瀬尾去沢線

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
三ヶ田館跡	捨て場	縄文時代		縄文土器 石器 石製品 岩偶	縄文時代の捨て場が、館跡の土塁として残存していた。また、館跡の空堀が、丘陵の外側から内側にかけて、順次造り替えられていた。
	館跡	中世	空堀　12条 土塁　１条 切岸　３か所		
		中世以降	柱列　１条 掘立柱建物跡　１棟 竪穴状遺構　１基 柱穴様ピット　46基 土坑　４基 焼土遺構　１基 性格不明遺構　１基	陶器・磁器 銭貨	

秋田県文化財調査報告書第417集

三 ヶ 田 館 跡

－ 地方道路交付金事業根瀬尾去沢線 －

印刷・発行　平成19年３月
編　　集　秋田県埋蔵文化財センター
〒014－0802 大仙市払田字牛嶋20番地
電話（0187）69－3331
FAX（0187）69－3330
発　　行　秋田県教育委員会
〒010－8580　秋田市山王３丁目１番１号
電話（018）860－5193
印　　刷　株式会社三戸印刷所